

一 一九三九
一九四〇

2 借地

パプアの土地法では、如何なる土地も永代借地として、譲渡することは許されぬが、農作地として賃借する契約条件は定住者に對して極めて容易である。即ち定住者は申込書作成に際して一定の極く少額の保證金と借地契約料三〇志きへ拂込めば九九年を期限として最上の土地を借入れることが出来る。借地料は未開墾地價の年五分と確定されてゐるが、三〇箇年以上の借地権を有する農作地は、最初の一〇年間は無料で作れるのである。

私有地である農作地の未開墾地々價は、總て一エーカー當り五志の割に評價され、その借地料は一エーカーに付三片である。

3 現況

官場農場としてはリゴとダウゴウ鳥の一部に椰子を植付けたのであるが、一九一〇年まで其の成績はあまり良くなかつたが、濠洲政府は之を遺憾とし發展を促進するため、累計三萬磅の無利子貸付を執行し、二つの農場經營に乗り出した。この官營農場は中央區ケンブ河畔と、東區オランゲリー灣にあるのであるが、最近に於ては相當なる成績を擧げてゐる。

是等の官營農場の外にも椰子とゴムとの農園が各地方官廳によつて開設されてゐるが、之には刑務所の囚人がこの耕作に當てられてゐる。

私立會社がパプアに農企業を試みるに至つたのは一九二八年以來で、その年にコイタキ會社と英系ニューギニア開發會社が之に當ることになり、政府の補助金を得て、開發會社は其の經營事業地のイチキナムからコイタナム(ルナ瀨より三哩を距てた場所)に電力設備の爲に道路を開いたのである。之はソグレイに達することになるので、ポートモレスビーまでは二哩で、將來は汽車を架設することにしてゐる。

ルシアード(同名群島)

ヨダ、ギラ(北區)

ケベリ(トラウディ灣の奥地)

アストロラベ(ポートモレスビー附近)

中央區以東の本土及東南諸島の河川では砂金が多い。

一九三〇年、東北境にあるモロベ金山の開發は一時終熄した。探金熱は又もや煽ることとなり、政廳でも試掘者に支持を與へて金の探査を奨励したが、その結果埋藏量の最も豊富な地方としてラケカムヨダ、ルシアード、ウツドラークが有望なる土地と目され、金山會社が續々と設立されることとなつた。夫等の金山會社の中には水上飛行機を置いて探査に従ふてゐるものもあるのである。

2 石油

パプア領に於て石油は有望なりとせられ、濠洲政府及私設會社が試掘に費した金額は既に百五十萬磅を超え並ならぬ努力を拂つてゐるのであるが、現在までの所では十分なる成功を見てゐるものはない。現在石油の探査に従つてゐる會社は次の如くである。

ガルフ區—ニューギニア石油會社、東北區—ボーヘル石油會社、西區—オリオモ石油會社、パプア石油開發—ローヤル・ダッチ・シェル會社で、就中ガルフ區のバイラ河口上流七五哩にある試探地は最も有望なりとせられ、全機械は總て現地に備付が終り、熱帯密林中に一都市が出現してゐる。科學的調査の結果は申分なしとせられるものゝ、如何に好望とはいへ、試錐が最後の斷定を下す迄は決定し得ないのである。パプア領内では二、三十年以前からガス噴出と油供が傳へられ、石油の處女地として内外の注目を惹きつゝあるのである。

第五章 貿易

一 概要

ニューギニア(パプア)……産業・貿易

一九三六年七月には、パプア議會は濠洲聯邦政府に一五、〇〇〇磅の補助を申請し、ルナ瀨からの道路を擴張補強し、ラロキ河の橋梁を宏壯なものに改装しやうとした。それで取敢へず五、〇〇〇磅が補助されたのであるが、これが完成すると奥地ソグリー地方の開發を促進して、ゴム、コーヒー、茶等の耕地が激増するであらうと云はれてゐる。

領内所の原住民農園で栽培されてゐるものに甘蔗があるが、之はその種類が非常に多い。サゴ椰子は低地の河域及濕地に産し、三角洲及西區の廣漠の平原には到る所に繁茂してゐて、その澱粉は原住民の主要食物である。

カボックは適地が多いとせられ、近時この栽培地が多くなつたが、將來は非常に有望とされてゐる。

4 畜産

現在まであまり振つてはゐないが、パプアは有望な畜産地と囑目されてゐる。牛七、〇〇〇頭、山羊二、五〇〇頭、豚九〇〇頭、馬六〇〇頭、家禽八、〇〇〇羽といはれてゐるが、此處には牧草のよく成育した土地が多く、氣候も至極之に適するものであるから、將來は之に大きな期待がかけられる。

二 鑛業

パプア領に於て鑛物は廣汎な地域に亘つて存在し、今日までに發見されたものは、金・銀・錫・鉛・亜鉛・朱・砂鐵・オスミリウム(イリヂウム四〇%)、オスミウム二〇%)、白金・ルテニウム・ロヂウム等の天然合金・石膏・マンガン・硫黄・石墨・クロム鐵鐵・褐炭・亜炭・黃玉・綠柱玉等である。

1 金

一八八九年、ルイジアデ諸島のミシマ島に金鑛が發見されてから金採掘熱を煽り各地に續く金鑛が發見されるに至り、今日迄の採掘高は約二百萬磅に達してゐる。現在よく知られてゐる金山は次の如くである。

パプア領に於る貿易は、大部分が濠洲大商社の手操られ、夫等の商社は、本據をポートモレスビー、サマライに置き、ミシマ島には支店を設けて活躍してゐる。

今之を概観すると、一九一七—三九年の間に於て一九一七年から一九二六年迄は輸出入共に漸増の傾向で、少しく輸入超過の状態で推移して來たが、その後輸出が増し、一九三一年頃からは確實に輸出超過となつて堅實な發展振りを示し始めた。

二 輸出入

最近四箇年間の輸出入表を示せば左の通りである。輸出入額は濠洲通貨で示してあるが、輸入額中の磅は孰れの通貨か正確には判明しない。

品別輸出入額表

品名	一九三三	一九三六	一九三九	一九四一	單位
品名	一九三三	一九三六	一九三九	一九四一	單位
輸 入					
飲料	五九二七〇	一一三六二	一四四三三	一四八八	
葉煙草及加工煙草	二二〇七五	二五、六三七	二四、二三三	二七、四六六	
農産物・食料品	八四、三〇五	一四、六三二	一四、三九七	一三、八五二	
織物・繊維	三〇、九八五	四〇、九六七	四四、四三〇	三三、七三三	
毛皮・衣裳等	四九、三九八	九八、八七五	一一四、二七七	七六、〇六八	
金屬・機械類	一七、三三七	二七、五二九	三三、三三三	三三、三三三	
油脂・ペンキ・ワニス	二、六八七	五、〇七八	六、九八九	五、五八五	
陶器・セメント・ガラス等	七、四四四	九、五九六	一一、九〇四	一一、八二八	
藥劑・化學藥品	四、七二九	七、六三〇	一四、九一八	一三、〇七六	
木材・柳條細工	七、七三三	九、一七一	九、四九五	七、七五六	
籐製品	五、二〇四	六、二八八	六、七四八	八、〇七六	
寶石・裝飾品					
皮革及ゴム					
輸 出					
金					
銀					
錫					
鉛					
亞鉛					
朱					
砂鐵					
オスミリウム					
白金					
ルテニウム					
ロヂウム					
石膏					
マンガン					
硫黄					
石墨					
クロム鐵鐵					
褐炭					
亜炭					
黃玉					
綠柱玉					
其他					
合計	九七一				

紙・文房具	五、一〇五	六三二七	八五六九	八五二一
雑政府用品	四九七四八	五八六三三	二六、九七九	九四二七三
計	三三、〇三五	二〇、三五二	五五、〇四四	三六、七四七
海産物	三二、七八五	四三、二〇五	六三、一四九七	五二、四八〇
海産物	一、〇二二	三、九三九	一、九三三	二、〇五八
海産物	五、二二七	七、五三六	六、六〇六	六、九一一
海産物	一、〇六八	一九、一八〇	九、一六六	五、七九九
海産物	四、四六七	四、七二七	五、二六八	五、七九九
海産物	八、〇三〇	八、七〇〇	一〇、八四一	一五、二一〇
海産物	二、三九五	一、九六六	二、〇〇〇	一、五
海産物	八、九四六	二、四一七	二、九四八	一、四九四
海産物	一、三〇九	一、二八八	八、五七八	九、二〇〇
海産物	一、八四八	四、七八七	三、五二六	九、八三三
計	三三、一五七	五、一〇〇	四三、五九三	四九、一五八

國別輸出入額表

國名	輸	入	輸	出
濠洲	一九三六元	一九三六元	一九三六元	一九三六元
イギリス	三〇、五八四	三三、九一五	三三、九一五	四〇、九〇八
其他英領	八、七九〇	五、六九九	三、三二二	二、五八〇
日	三三、四三三	四、五三三	六、四七七	一、七六〇
歐	三、五八九	三、九六六	二、九一五	一、〇〇四
日本	一、七九九	一、四八八	五、五〇九	七、五八二
(日本を除く)	三、五七〇	三、八九六	一、六六三	二、四四五
東印度・比島	三、四三六	三、二一八	三、〇一七	二、一五九
アメリカ	八、八四七	七、四四四	五、五	五、七六
南北米諸國	一、四七四	一、一七五	三、七二二	四、一五四
モロツコ	—	—	—	—
計	六三、一四七	五、一四八	四三、五九三	四九、一五八

海外船舶は必ずサマライ、ポートモレスビー、ダルの何れかに入港を要すと規定されてをり、前二港は關稅倉庫と大小棧橋との設備がある上外來船舶が入國に際して検疫を受ける唯二つの港灣である。

第六章 交通

一 各種運輸

バブアの交通は、舊領部ニューギニアよりは格段に便れてはゐるが、夫でも道路の利用し得るものは極く少く、鋪裝した完成道路に至つては數箇所を數へる程しかない有様である。西部は廣漠たる低濕地であり、東南部から北部に亘つて山岳が重疊してゐるのであるから交通は海空かに頼る外はない。海には早くから定期航路が開けてゐるが、パインズ・フィルプ會社が命令航路として就航してゐた。即ち同社汽船は濠洲政府補助の下に三週に一回シドニーを發して濠洲沿岸各港を経てバブアのポートモレスビー及サマライに立寄り、北方濠洲の各港に廻航し、同じ航路を往復するのである。

一九三二年に開設したK.P.M.の連絡航路は佛領印度支那と新西蘭とを連絡することを目的として東印度各港を過ぎ、このバブア領のポートモレスビー及サマライに寄港し、ラバウル、ヴイラ、ヌメアを経て新西蘭に達するので、月一回の往復をなしてゐた。

沿岸航路の補助社外線は南岸に沿うて定期に航行する。之はバブア灣の西岸のダルを發して、キコリ、オロコロ、タキビ、ユレ島、オトマタアバウ、バイバラ島に順次寄港しサマライに至つて引返す。この外に北東岸のみ航行する小汽船もある。

航空路はポートモレスビーを基點として、北は山越えに濠洲委任領のモロベ金山に連結され、西はココダ、ラケカム等の金山を定期に空路連結し、首都としてシドニー、ラバウルとの間に定期航空が開けてゐる。

二 通信

普通郵便・小包郵便の制度も備はり、通信機關としては電話及ラジオがある。ラジオ放送局はポートモレスビーとサマライとにあり、バブア・濠洲間、バブア・委任領間の無線電信に便してゐる。

第七章 主要都市及群島

一 主要都市

ポートモレスビー バブア領の首都で、主要港の一つである。町は小岬の上であり、繪畫のやうなフェアアツクス港を擁してバブア灣に面してゐる。港の入口には珊瑚礁が散布し、水路はあまり廣くない。人口は三千に満たぬ小都市であるが、副總督の駐在する地であり、電燈・水道の設備もあり、自動車も相當數が數へられる。海岸には大小二つの棧橋があり、大は稅關棧橋で九〇米餘で五千噸級の船舶が樂々と横付になる。附近には飛行場其他軍事施設がある。

ポートモレスビーを距る二哩、標高二千呎のところにミギギの名勝がある。ラロキ河の峽谷に沿ひ、ルナ瀑布があり、大絶壁に懸る瀑布は壯觀である。

サマライ バブア領の東南端にある繪のやうな美しい島である。すく／＼と伸びた椰子の間に官廳や商店が並び、其の間々には巴豆の木や灌木が列を爲してゐる。島の周囲には美しい歩道があり、散策には快適とせられる。面積五九エーカーの小島であるが、東にディア島を控へてチヤイナ水道に面し、船舶の出入が多く輸入港として東部商業の中心地である。町には獨立の電力があり、近代的の百貨店一、近代のホテル二、教會二、銀行二、官衙として支廳・原住民労働局・稅關・郵便局等がある。病院は白人と黒人とを區別して各別に設備せられ、町は附近島嶼、殊にミシマ島行の坑夫や、試掘者の集散地として常に賑つてゐる。

ニューギニア(バブア)……主要都市及群島

ミルン 薩マライの北方の小彎曲で幅一二・三呎、深さ四五米程度で東京灣よりも小さい灣である。

ダル 西區の貿易の中心地であり、此處からは濠洲の木曜島に航行する船舶が出るので、高瀬貝の取引で貿易業者の出入が多い。島はマンダロープに圍繞され原住民の水上生活は著名である。

二 主要群島

デントカストオ群島

群島はグッドイナフ、フェルグソン、ノルマンビーの三主島からなり、人口は約四萬である。フェルグソン島は群島の中心で面積も最も大きく人口も多い。島には三つの群山が聳え、何れも高さは五、六千呎で、河川は廣い地域を灌溉してゐる。南海岸には險しい山麓に原住民の農園が拓かれ、タロ芋・甘藷・甘蔗が豊に成育してゐる。數多の湖沼がイアマレ火山の周囲にあり、温泉・間歇泉・硫黄孔・噴氣孔・又巨大なる硫黄の堆積を見る。北部にヒョグス灣、西部にセイムア灣、東部にヒゲイア灣があり、このヒゲイア灣は好適なる船舶の碇泊地なりとせられる。

ノルマンビー島

フェルグソン島の南にあり、深海に圍繞され、その海岸は安全な投錨地である。こゝには隠れた港があつて、政廳とある要路の者、少數の貿易業者に知られてゐる以外には嚴秘に付せられて居り、第一次歐洲大戰中、英帝國海軍の燃料・食糧の補給地、水雷艇・潜水艇及軍需品輸送船の根據地であつたことと知られてゐる。

グッドイナフ島

モレスビー海峽を隔て、フェルグソン島の西端に對してゐる。島には七千呎に達する高峯が聳え、山腹は階段式に開拓されて薯類が栽培されてゐるのは奇觀である。山には石灰洞穴が多く、小川には金鑛床が散見される。

トロブリアント群島

デントレカストオ群島の北部に位する群島

で、之は悉くが珊瑚礁から成り、キリウイナ島と、バクタ島、カイレウナ島を主島とする。この島民は外見的にも氣質的にもメラネシア人といふよりも寧ろポリネシア人に近く、友情に極めて厚く、殺伐の風がないといはれる。

島には農學校が教會の手で經營され、優良農場とせられるものもあり、一般に農事の知識は發達してゐる。島民の主食はタロ芋・魚類で、貝類の採集も多く、海外へ輸出する貝類も相當量に達してゐる。原住民病院の設備もあり、疾病も著しく減少し來つたといはれてゐる。

ウツドラーク群島 主としてムルア島とブモク島からなり、曾てはバブアに於る著名な産金地であつたのであるが、現在は減産となつてゐる。群島は、ルイジアデ諸島のミシマ島の北部にあり、丘陵や峽谷が多くジャングルが之を蔽うてゐる。島民はメラネシア系で、バブア東岸の原住民と類を同じうし、バブア人との混血が多い。

本群島は豊富な鐵脈が發見されてから既に七〇餘萬磅の金鐵が産出されてゐる。

このウツドラーク群島の東方四〇哩に、七島から成るラングーデン群島がある。この七島が環状を成し、珊瑚と砂で構成され、ウツドラーク島からサゴと薯とを送つて食糧不足を補つてゐるが、新鮮な水が湧出するので知られてゐる。

ルイジアデ諸島 タグラ島、ロツセル島、バナウイナ島、バナチナ島、ミシマ島等より成り、孰れの島嶼も金が豊富で、その産出額は年一五萬オンスに達するといはれる。

タグラ島―本島は群島中最大のもので、島内には不規則な丘陵と山脈とが連り、最高峯は三千呎に達してゐる。海岸は殆ど何處にでも砂金が發見されるのである。

ロツセル島―タグラ島の東方一六哩の地點に横たはり、島の東端スピットは難破船や海難の物語りの多い所である。
ミシマ島―群島の西端にあり、山地が多く、西部に三、四〇〇呎の高

峯があり、島内は到る所に産金を見る。主要金山はブワゴイアから四哩奥地のシサ山にあり、其の間は電氣鐵道で連絡されてゐる。

〔バブア 終〕

バブア統計概要 (各年六月末日終了年度)

摘要	一九〇七	一九三七	一九三八	一九三九
白人 數	六九〇	一、三三三	一、四八八	一、六〇八
雇傭原住民勞働者	二、〇〇〇	一、五九四	一、八四七	一、九七三
歳入 (磅)	二、八二二	一、三三〇	一、四〇八	一、三三三
歳出 (磅)	四、三三五	一、六四〇	一、八三二	一、六七一
輸入額 (磅)	八、七七六	四、五三〇	六、二四九	五、四八〇
輸出額 (磅)	六、七五八	五、四〇一	四、三三三	四、〇一五
農園面積 (エーカー)	一、四六七	五、九四五	五、六三六	五、九三三
觀測所	三	一〇	一一	一一
金産出高 (噸オンス)	二、四三九	二、六〇五	二、五八五	三、五八〇

〔ニューギニア 終〕

濠洲

濠洲目次

第一章 地理

第一節 位置・面積	九五
第二節 地勢	九五
第三節 氣象	九七
第四節 植物	九七
第五節 動物	九七

第二章 歴史

第一節 年代記摘要	九八
第二節 濠洲の發見	九八
第三節 囚人植民・初代の植民地	九九
第四節 政治の難澁と探檢及移住	九九
第五節 政治上の動亂	九九
第六節 金礦の發見及其の影響	九九
第七節 憲法政治	九九
第八節 各植民地の建設史	九九

第三章 人口・住民(習俗)

第一節 人口	一〇〇
第二節 住民(習俗)	一〇三

第四章 宗教・教育・文化・社會及衛生

濠洲……目次

第一節 宗教	一〇五
第二節 教育	一〇六
第三節 文化	一〇七
第四節 社會	一〇七
第五節 衛生	一〇九

第五章 政治

第一節 總說	一〇九
第二節 統治機構	一〇九
第三節 政黨	一〇九
第四節 外交	一〇七
第五節 政局と動向	一〇七
第六節 國防	一〇九

第六章 財政・金融及經濟

第一節 財政	一〇四
第二節 金融	一〇四
第三節 經濟	一〇五

第七章 農業

第一節 總說	一〇五
第二節 栽培面積	一〇八
第三節 主要農作物	一〇八

第八章 畜産(酪農)業

第一節 總說	一〇九
--------	-----

第一節 羊	1060
第二節 牛	1065
第三節 馬	1093
第四章 林業	
第一節 總説	1096
第二節 樹木の種類	1097
第十章 水産業	
第一節 總説	1107
第二節 統計	1107
第三節 魚類	1109
第十一章 鑛業	
第一節 總説	1113
第二節 金	1113
第三節 石炭	1113
第四節 石油	1114
第五節 諸統計	1115
第十二章 工業	
第一節 總説	1134
第二節 代用資源工業	1137
第三節 諸統計	1139
第十三章 貿易	
第一節 總説	1152

第二節 對佛貿易	1184
第三節 對獨貿易	1184
第四節 對東印度貿易	1184
第五節 對日本貿易	1184
第六節 對支貿易	1184
第七節 對比律賓貿易	1184
第八節 對米貿易	1184
第九節 對主要國貿易	1184
第十四章 交通	
第一節 總説	1187
第二節 陸運	1187
第三節 海運	1187
第四節 空運	1187
第五節 通信	1187
第十五章 其他	
第一節 地方概説	1172
第二節 文獻目錄	1174
附 錄 既往の日濠關係	
第一節 日濠貿易關係	1182
第二節 海運問題	1183
第三節 眞珠業問題	1183
第四節 鐵礦問題	1183
第五節 日本移民事情	1185

濠洲

第一章 地理

位置・面積・地勢・氣候・植物・動物

第一節 位置・面積

オーストラリア大陸、タスマニア島、ニュージーランド（新西蘭）の外に、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアを加へて、オセアニア洲（大洋洲）と稱せらるゝのであるが、この大洋洲中の西方に位置してゐる大陸が、オーストラリア即ち濠洲（以下濠洲と記載す）である。

この濠洲に新西蘭及其の屬島、濠領パプア及委任統治領の東北ニューギニア（前獨領）、舊領ニューギニア其の他を合せると、其の總面積は八、九六四、八三〇平方軒（三、四六一、七四三平方哩）となるが、就中濠洲本土の面積は七、七〇四、一六五平方軒（二、九七四、五八一平方哩）で、之は我國の約一倍餘に當り、アメリカ合衆國と略々等しい程である。

濠洲は北は南緯一〇度四七分より三九度一分に亘り、東西は東經一三度九分より一五三度三〇分に位して居り、東は太平洋、西及南は印度洋、北はアラフラ海に面してゐる。東西の最も長いところは三、八四〇軒、南北は三、二〇〇軒に及び、北端はヨーク岬、南端はウイイルソン岬、東端はバロン岬、西端はインストラップシヨン岬である。

濠洲大陸は南緯二三度半の緯度線（即ち南回歸線）が大陸の略中央を通

濠洲全域面積表

過してゐるので、その半は熱帯に横はり、半は温帯に延びてゐる。而して濠洲に於る政治・經濟の中心をなすニューサウスウヰールズ州及ウイクトリア州は南緯三〇度以南に在るのである。

この大陸は歐洲文化の中心に對して對蹠的位置にある上に、西には印度洋、東は太平洋を控へ、南方に陸氷雪深き南極の海と南極の大陸がある計りで人文の交通はなく、僅にアジアの多島海たるマライ群島を隔て、曾ての東洋文化の中心地であつた印度や支那と連絡し得ることゝなつてゐるのに過ぎなかつた。爲に人文の聯絡を缺いて居り、極く近代までは全く文化の圏外に置かれたのである。

濠洲大陸の海岸線は、一般に非常に貧弱であり且つ單調であつて複雑な出入を見ることが出来ない。稍大きな入海は東南端のメルボルンのあるポート・フィリップ灣、南端中央部のアデレード市のあるスペンサー灣位のものである。唯東海岸は一體に沈降性の土質であるので沈降が多量の河川となり、何れも河口に海水を入れて都合のよい小港を多數形成してゐる。この沈降のあつたが爲に東海岸北部には海上數十軒、百數十軒に及ぶ大規模の珊瑚礁が發達し、その全長は實に千數百軒に達してゐる。之は所謂大保礁といはれるものである。北岸のアーネムランド附近一帯の海岸も沈降性で、山脈を横切つて河流を爲し得るのであるが、後方に水の無い沙漠があるため河口を造り得ないのは惜しむべきである。

今濠洲全域並に各州別面積を示せば次の如くである。

地 域 別	面積	
	平方 呎	平方 哩
濠洲	七、七〇四、六四七九	二、九四四、五六一
舊蘭領	四、九〇九、〇〇〇	一、九一〇、〇〇〇
新西蘭及其屬島	二、八〇三、九八八	一、〇三三、七三三
東北	二、四〇八、七〇〇	九三三、〇〇〇
其 他	二、四四四、四八六	九〇五、四〇〇
全 濠洲	九、九七一、五〇〇	三、八五〇、〇〇〇
各州別面積表	九、九四四、八二九六三	三、四六二、七四三

州 別	面積	
	平方 呎	平方 哩
ニューサウスウェールズ	八〇一、四二八、八八	三〇九、四三三
クイーンズランド	二、七六一、九五六	八七、八八四
タインスマランド	一、七三六、五九五	六七〇、五〇〇
南オーストラリア	九八四、三八一、三二	三八〇、〇七〇
西オーストラリア	二、五二六、六三二、八	九七五、九二〇
ダースマニア	六七、九八六、八五	二六、二二五
北方直轄	一、三五六、七五八〇	五三三、六二〇
聯邦直轄	二、四三四、六〇	九四〇
全 濠洲	七、七〇四、六四七九	二、九四四、五六一

第二節 地勢

一 概 要

濠洲大陸は地質學的には最も古い大陸で、土地の隆起や火山活動は濠洲

洲に於ては遠い昔に消え、その廣大な地表は幾千萬年といふ長期間に亘る風力・水力の侵蝕作用を蒙つて高山はなく、高地帯といつても、海抜六〇〇呎乃至一、二〇〇呎の低い高原に過ぎないのである。濠洲大陸は、ヨーロッパ、アジア、アメリカ等の大陸塊と異なり、新しい造山運動はなく、世界に於て最も地形の變化に乏しい地域となつてゐる。世界の二大造山帯をなすヒマラヤ山造山帯と環太平洋造山帯とは東印度諸島、ニューギニアに於て複雑な地形を構成するのであるが、そのいづれも濠洲を通過して居らない爲に濠洲の地形はアフリカの夫と同じく極く單調であつて複雑な變化をした跡がない。濠洲大陸の大部分は太古代及古生代の結晶片岩・變質火山岩・礫石・粘板岩等と、夫に地殻の内帯から奔出して窪みに進入した火成岩とから成り立つてゐる。恐らくは古生代の前期頃に烈しい褶曲によつて、陸土を形成したものと推定されるのである。

東部山岳地帯中に産する石炭はこの古生代末に繁茂した植物群の遺體が淺海に堆積して出来たものと想像せられる。然し乍ら是等の古い隆起帯は其の後長期の風化と侵蝕とに遭會し、その大部分は削磨し盡され、中生代乃至第三紀の若い砂礫や石灰岩で平に覆はれ、僅に岩質の硬い部分やその後再び隆起に會した東部山系地方等のみがその面上から頭を挺んでゐる丈で、その何處にも新興山地の隆々たるものは無く、近代的地形も亦甚だ稀である。地形は概ね單調であつて、全體として東西に隆く中央南寄りに下り、輕い斜面高原をなしてゐる。海抜二〇〇米以下の低地もあり、海抜三〇〇米以上の部分は全大陸の五％に過ぎぬ有様である。その最高所は南東端に近いコシニスコ連山中のタウンゼント山であり、之は二、二四〇米で、獨り群を擡んでて偉觀を呈してゐる。

二 東部隆起帯

地は肥沃な平野で灌漑に使してゐるが、西行するに従つてその沿岸は降雨量の少い所となり、農耕・放牧地も極く僅少な區域となり航行の便も乏しくなり、南側の一部には末無し川とさへなつてゐる。エーア湖に入る流れの中にも、クーパー河、デアマンテナ河等相當に長いものもあるが、その沿岸は砂原であつて、河流は時々干上つて、草藪の所在で流路のあることを示す有様である。夫等を入れてゐるエーアの大湖も、既にその表面は海面を下ること一二米以上と言はれてゐる。

四 西部高地帯

高原的地塊は中部が中級みとなつて緩く、大體としては東西兩側が隆起帯となり中軸は低地帯となつてゐる。その西部隆起帯は大陸の西半を占めて居り、周圍は太古代・古生代から成る山地を繞らしてゐるが、中部の低地帯は中世代・第三紀の地層に被はれ、表面は渺茫たる沙漠地と化してゐる。古い河川の跡は砂漠で水流を閉ざされ、大小無數の鹹湖となつてゐる。爲に河流は高原地の四周を繞つて貫流するのを見るのみである。

第三節 氣象

濠洲の大部分が沙漠或は半沙漠的であるのは一に地勢の然らしめるところであり、而して又氣象の影響によるものである。即ち大陸の大部分は熱帯並に亞熱帯にあるから、北部は全然熱帯的で一年を通じて熱氣が極めて高い。濠洲の緯度的位置は南緯二三度半の緯度線―南回帰線が大略の略中央を通過してゐるので、赤道に近い北部は一帯に曇く、温帯に屬する東南部は概して温暖である。而して雨量の點から濠洲の氣候を區分すると、東部海岸地方は海岸から暖流を越えて吹き寄せて來る南東貿易風によつて、一年を通じて良好なる降雨を見、且つ温暖である。北部は冬季乾燥し、夏季(二月)には季節風による豪雨を見る。之に反して

大陸の東側には全面積三、〇〇〇呎の隆起帯が海岸に近く延びて居り、外側は急に海に臨んでゐる。内側は西に緩かな傾斜となつて中部低地帯に續いてゐる。この東部の隆起帯は太古代乃至古生代の水成岩と花崗岩から成つて居り、北部では花崗岩帯が多く、南部は一帯に臺地を爲してゐる。全體としてアルプス式の險しい褶曲山地は無い。之は古い山地の殘痕が多數の斷層によつて傾動隆起して、結局高原狀の平盤なものとなつたもので、その上にニューイングランド山脈、プリュー山脈、濠洲アルプス山脈が少し高く走行してゐるが、山勢は大體に緩か何れの山も山頂まで馬で登り得られる。

この高原地帯は、濠洲大陸中では地味も豊饒で雨量も最も多く、地表は農耕・牧畜に適し、地下には石炭・金等を藏して重要な地域を爲してゐる。中にも南半は温帯地域で、氣候もよく、人口は最も稠密で、ヴィクトリア、ニューサウスウェールズの二州は産業・政治・學藝の中心を爲してゐる。

三 中部低地帯

東側山地帯の西は次第に地層が下り、中部の低地帯となつてゐる。この低地帯は北方のカムベタリア、灣岸の低地エーア湖盆地を中心として之に注ぎつゝその末を失ふところの河川の流域たる沙漠盆地と、東南部なるマレー河(Murray R.)本支流の流域を中心とするリベリナ盆地とが濠洲の中央部を北から南に連なつてゐる。北部と中部は東部山地の西方へ走行する一支系、セルウィン山脈で境せられ中部と東南部との間には東部山地から西南に走行してゐるグルー山脈、スタンレー山脈等が雁行狀に延びて、スペンサー灣の東で南端海岸にまで達してゐる。この中で最も重要なのはマレー河流域の低地であつて、此の河は東部山地、西側の水流を併せて西南に流れ大支流ダーリング河となり、本支流を合せ全長一、六六〇呎、その流域地區一〇八萬平方呎に達してゐるので、その廣さは濠洲のダニエール河にさへ優つてゐる。この河の上流

南西部は夏季乾燥し、冬季に降雨を見る。内陸の廣大なる地域は乾燥甚だしく、年一吋以下の雨量のところもある。之は畢竟海洋の濕氣が東部の山脈に遮られて内陸に及ばない爲である。

今、雨量分布の状態を検討すると、大陸の中央部即ちニューサウスウエールズのホワイトクリップスから西オーストラリアのシャークス灣、夫から熱帯の北オーストラリアからオーストラリア大灣に至る地域は雨量が年平均一〇吋以下の微量である。濠洲の北半分は大體に於て季節風地帯に屬し、降雨も殆ど夏季(一月、二月)に限られて居るのに、南半分では降雨は殆ど冬季(六月、七月、八月)に限られて居る。大陸の東海岸地方は全部一年を通じて雨は降るが、内陸の北半分は夏季に、南半分は冬季にと季節交代で降雨を見るのみである。

中央部は降雨が年平均一〇吋以下であつて、夫に蒸發度が高いので、沙漠地帯を形成する所が頗る多い。この沙漠地域は大陸全體で約二三%にも及ぶので、此處には遊牧の民しか住んでゐない。

熱・温帯地方別面積表

Table with 4 columns: 地域・州別 (Region/State), 熱帯地帯 (Tropical zone), 温帯地帯 (Temperate zone), 計 (Total). Includes entries for Queensland, Western Australia, Northern Territory, and South Australia.

年平均降雨量分布表

Table with 4 columns: 年平均降雨量・州名 (Annual rainfall/State name), ニューサウスウエールズ (New South Wales), ヴィクトリア (Victoria), クイーンズランド (Queensland), 南オーストラリア (South Australia), 北方直轄 (Northern Territory), 西オーストラリア (Western Australia), ニタスマ (Tasmania), 全濠洲 (Total Australia).

Table with 4 columns: 温帯地方 (Temperate zone), 熱帯地方 (Tropical zone), 濠洲 (Australia), 全州に對する割合 (Ratio to total state).

特別氣象觀測所別高度及位置表

Table with 5 columns: 觀測所名 (Observatory name), 海拔 (Altitude), 南緯 (South latitude), 東經 (East longitude), 位置 (Location).

各地降雨・蒸發量表

Table with 4 columns: 觀測地名 (Observation place name), 降雨量 (Rainfall), 蒸發量 (Evaporation), 單位日時 (Unit per day).

各地別年降雨量表

Table with 6 columns: 年 (Year), カンベラ (Canberra), パース (Perth), アデレード (Adelaide), プリスベーン (Perth), シドニー (Sydney), メルボルン (Melbourne), 水バート (Waterbury).

各地氣象觀測記錄表 (一九三九年)

カンパラ (海抜一、九二〇呎、南緯三五度二〇分、東經一四九度一五分)

(注意) 本表中括弧内数字は最大又は最低を記録せる年代を示せるもので、例へば(八四)とは一八八四年を、又(三三)とは一八三三年を夫々意味する。以下之と同然である。

Table of meteorological observations for Kanpara, 1939. Columns include months (January to February), and rows include various weather metrics like temperature, wind, and precipitation.

(西オーストラリア州) (海抜一九七呎、南緯三一度五七分、東經一一五度五〇分)

濠洲...

各地氣象觀測記錄表 (一九三九年)

Table of meteorological observations for another location in Australia, 1939. Columns include months (January to February), and rows include various weather metrics like temperature, wind, and precipitation.

づきつゝあり、更生の望みのない古い陸地の様に見える。しかし不思議なことに、そこに棲む各種の動物は、動物學上からいへば原始的なものばかりで、見方によるとより、又新たに進化の途を辿るのではないかと見られる。土地が老齢に近づいてゐるのに、動物に原始的なものが多いといふことは生物進化の原因となる生存競争が行はれなかつたことを物語る。他の諸大陸では天地創造以來、激甚な生存競争が行はれ、優勝劣敗の結果、日に月に進化した形態を具へたものが現はれて現狀にまで到達したのであるのに、濠洲は古い昔から他と隔絶した島大陸であつたため、動物界を攪亂せしめるやうな強敵が侵入することなく、言はば總てが泰平の夢の裡に今日に及んだものと想像せられる。

白人が、この島大陸に足を踏み入れてから、輸入された兎が野に逸して無限に繁殖し、今では牧畜業の害敵として上下共に、頭を悩ましてゐるが如きは明に此の間の消息を語るもので、この島大陸には之を捕へて喰ふ猛獸が棲んでゐない爲に、他の大陸では寒息してゐる兎でも、此處では跋扈するやうになる。濠洲特産の動物として世に知られてゐるのは哺乳類中の單孔類と有袋類とであるが、唯袋鼠の類が南米の一角に現存してゐる以外、有袋類なるものは他の大陸には棲息してゐないのに、濠洲にはこの有袋類が多種類に亘つて存してゐる。中でもカンガルは人口に膾炙したものであり、又濠洲駝鳥といはれるエミウの如きは珍奇とするに足る。

カンガル 濠洲植民の先驅をなした白人が、初めてこの島大陸に到達した際、山野を駆けめぐる奇異な動物を見て、その名を黒人に訊くと黒人は即座に「カンガル」といつたので（それは「知らぬ」といふ意味の土語）、夫をそのままに其の名としたと云はれる。

カンガルは見たところは温順で極めて無力な動物であるが、夫等に攻撃されると岩や木立を背にして立ち上り、前肢を抱きかゝるやうにして敵に猛撃を加へ強大な爪で敵に重傷を被らせる。腹部に附着した育囊の中に四個の乳嘴があるが、一産一兒で仔は生れ落ちてから、六箇月

間、母の育囊中で哺育される、即ち仔は發育狀態が不完全のまま、で生れ出るのであるが、外界に出た幼兒は母の腹の毛に嘔りつき、徐々に進んで上つて遂に育囊に達する。

カンガルにはオホネズミカンガル、オホアカカンガルの様に丈が一米半を超え、體重二百ポンドに達する巨大なものもあり、俗にワラビーと稱へて丈が一米以下のものもある。このカンガルの皮革は靴の原料として良好であり、肉も亦味がよいので大いに濫獲せられた。夫で近年はその数が甚だしく減少した。

コアラ 一名を濠洲熊と云はれる。全身が鼠色の毛で覆はれ、耳が特に大きくて、尾が殆ど無い位、頗る愛嬌のある顔付をしてゐる。性は温順で人に馴れ易く、貴婦人が、飼犬同様に連れ歩いてゐる。ニューサウスウェールズ及ヴィクトリアの兩州がその主産地である。ユーカリ樹の葉を常食とするが、その活動をすることは晝よりも寧ろ夜間である。

ボツサム 濠洲に棲息してゐるボツサム即ち袋鼠には九種類がある。總て草食性で森林中に棲み、晝は眠つて夜間活動する。その毛皮は需要が多いので濫獲せられ、今では逐次減少する傾向がある。南米に産する袋鼠は肉食性で、形態その他は濠洲産のものとは全然選を異にする。

ウオンバット ウオンバットといふ怪獸は有袋類中の狸といはれる。土中に坑道を穿つて穴居し、夜間活躍して其の二三個の鋭い齒と脚肢に着生した鋭い鉤爪を用ひて各種の樹木の根を食食して大損害を與へる。現存してゐるものは僅に三種で、何れも體重六〇―七〇封度であるが、中古代の頃には現今の馬に匹敵し得る程の巨軀を有してゐたものであつた。體に比して四肢が極めて短く、眼が小さくて殆どその存在を認め兼ねるほど短尾を具へてゐる。その歩行振りは極めて迅速で、あつといふ間に鐵砲玉のやうに飛んで行く。巢の入口には掘出した土が、堆高く積み上げられてゐるのを目撃することがある。

タスマニア狼 原名をサイラシンといふのは一名をタスマニア狼といはれ、肉食性の有袋類である。鶏や羊を襲ふので大いに脅威されてゐる。

エミウ エミウといふのは、以前にはタスマニアにもゐたが、現今では濠洲内陸に限られてゐる。エミウには *Dromaeus noron-hollandiae* と *D. inornatus* の二種類があつて、食火鷄に極めて近い走禽であるが、頭には角冠はなく、短かい毛状の羽毛で覆はれ、體色は灰褐色を呈する。

常に灌木林の中に棲息してゐるが、野生の狀態に於るものは動物園で見るとは姿態を異にし、敵を見ると頸を高く上げて尾を垂れ、股を廣く擴げ土嚙をあげて疾驅する。常に群居する習性を持つてゐて、その大群が夕陽を浴びて人無き荒野に跳躍する有様は實に壯觀である。その巢は屢草原の間に見られるが、そこには緑色の大きな卵が十數個横はつてゐる。卵殻の表面に彫刻を施して裝飾品となす場合が多いので、可なり盛んに採集せられてゐる。この大卵から生れ出た雛は背面に褐色の縦條があつて親とは外觀を異にする。

パワーバード 鳥界の建築技術者として、其の名世に著聞するのは濠洲のパワーバードである。この名は草蘆鳥といふ意味であつて、林間の草叢に巢の外に非常に美事な集會所、即ち遊び場を造り、澤山の雌雄が、此處に集つて翅を擴げ脚をのばして踊り狂ふ。この鳥の種類は八種あつて北の方ヨーク州からオットウエー州に至る地域に棲息してゐるが、その中でウイクトリア州に最も多い。その内で全身瑠璃色のセーティン・パワーバードは代表的の種類である。最初先づ野に生えてゐる丈の高い草又は樹の小枝を折り曲げてアトチを造り、夫を元にして澤山の枯枝や雜草等一つの塔のやうなものを築き上げる。次に諸方面から介殼、ボタ・ン・ガラスの破片、絲屑、鸚鵡の羽等、鳥の眼に美しいと映する、ありと凡ゆるものを咬へて來て、之を飾り立てる。上記の瑠璃色の眼には青色のものも美しく映ずるものと見えて、青色の瓶や、青い布片等が裝飾の主たるものとなる。如何なる慣習によるのか、原住民は決してこの鳥の肉は食用しない。そしてパイプや洗濯してあつた布片などが紛失する時、直ちに附近にあるパワー・バードの集會所に捜しに行く。大變に愛嬌のある姿をしてゐて、蛇を食ひ食ふ性質をもつてゐる。

體の側背面に斑馬のやうな黒斑があり、吻は極めて長尾を備へて居り、外見、舊世界の狼に酷似してゐるが、常に獨行して群居しないから狼よりも始末がよい。

デインゴ デインゴは濠洲大陸に棲息してゐる野犬で舊大陸を代表する唯一の哺乳類であるが、他と昔から隔絶してゐた島大陸に、どうして舊大陸の動物が渡來して繁殖するに至つたかは大きい謎とせられる。若し太古の時代にアジア方面の動物が南下して來る機會があつたとしたならば、單に犬だけでなく他の多くの動物も亦移住し得た筈である、若し又デインゴが濠洲特産のものであるとするならば、有袋類や單孔類の中へ突然に食肉類の一種が生じた譯が判らなくなる。夫で學者の多くは吾人の知り得ない古い時代に、デインゴの祖先が人と共にアジア方面から輸入されたものに相異ないとしてゐる。デインゴといふのは白人の連れ來た犬を見て、黒人が命名した名で、黒人自身は野犬のことをワリガンと呼んでゐる。

鴨の嘴 濠洲に産する動物の中で最も奇異な哺乳類であつて、而も産卵する所謂單孔類の動物がある。プラティバスマ即ち鴨の嘴といふのがその代表的のものであつて、現時タスマニアと東部諸州に見られるのであるが、併しその姿に接することは極めて稀であるといふ、前肢の趾間には完全な蹼があり、家鴨のやうな扁平な嘴がある。水邊に穴居して巧く水を泳ぐが、後趾は後方に向ひ鋭い鉤爪を具へて地を掘る。水中の昆蟲類を嗜食するが、卵から生れ出る幼兒は母體の腹面に臨時的に現はれる乳嘴に吸ひつき乳を吸つて生育する。

エキドナ エキドナといふのも亦單孔類に屬するもので、本邦ではハリモグラといふ稱呼を與へてゐる。敵に遭ふと頭と四肢とも縮めて圓くなり、體面に密生してゐる棘を立て、對抗する。趾端には力強い鉤爪があり、巧に地を掘つて穴居する。頭部の前縁は突出して吻状をなし粘着性物質で覆はれた舌を出して蟻を捕食する、卵から孵化した仔は哺乳期に限つて母體の腹部に現はれる育囊の中で哺乳されて成長する。

藪七面鳥 濠洲に産する鳥類の中で雛を孵化させる習性が奇異であるために、世の視聽を集めてゐるものに藪七面鳥と藪鶏とがある。この二つは自ら雛を孵化させる能力がない代りに、巧妙な孵卵器を造つて立派に雛を孵化させる。即ち火喰鳥や駝鳥は卵を生み落して日光の力で孵化させるが、藪七面鳥と藪鶏とは種々な植物や腐蝕土等を強い脚でかき上げて、中心部の高さ三米、直径九米に近い大孵卵器を作り、植物質が腐蝕して醗酵する際の温度を利用して、その内部に生み込んだ卵を孵化させる。藪七面鳥の形は大體家禽の七面鳥に似てゐるが、背面は黒褐色で頭部は赤色の皮膚で覆はれ、胸部には黄金色の肉垂が垂れ下つてゐる。前記の孵卵場は、唯一家族に専用されることもあるし、藪鶏の雄がそれを共用することもある。藪七面鳥は孵卵場の中央部を掻き分けて、そこへ一二個内外の卵を不規則に押し込む。藪鶏は卵一個毎に夫々孔を穿つて埋め込んで置く。このやうな巢は主として高原地帯で営まれるが、産卵を終ると、是等の鳥は低地へ移動して行く。

鸚鵡 濠洲は有袋類の巢であると同時に色取々の鸚鵡のホームである。目醒めるばかりの色彩の鸚鵡が、カンガルーと共に野山を涉り歩く。政府は保護區域を劃して外國へ輸出することを禁止してゐるが、中には群衆して小麦其の他の農作物を啄み喰ふ大害鳥がある。俗に「ガラール」と呼ぶ胸の紅い鸚鵡はその一つで、鼻に毒餌をまいたり、民をかけたたりして、農民はこの害鳥の防禦には手を焼いてゐる。

ゴアンナ 野犬デインゴと共に濠洲の山野を徘徊して、多くの人に嫌はれてゐるものに醜惡な形相をした大蜥蜴「ゴアンナ」といふものがある。肉食性で幼時は白蟻の巢を襲うて白蟻を食としてゐるが、長ずるに従つて本来の性質を現はし、鳥の巢を襲うたり、兎を丸呑みしたりする。

テイヤバード テイヤバードは琴鳥科に屬し、亜鳴禽族として知られる。主としてニューサウスウェールズ州に棲息してゐるが、その體軀の大きさは鴉ほどもあり、一様に暗褐色をしてゐる。その雄鳥の尾は七絨琴に似た特別な形をしてゐるので有名である。尾羽の主體外縁は褐色と

白色との入交つてゐる屈曲した長毛から成つて居り、中央部に更に一對細長い褐色の羽毛がある他に繊細な白色毛が叢生してゐる。このやうな雄鳥の尾羽は裝飾品として以前は高價に賣買せられたので亂獲となつたから、現今では法令で捕獲を禁止してゐる。この鳥は形が人目を惹くばかりでなく、各種の鳥の聲、さては犬の鳴き聲に至るまで、物真似が巧である點が注目される。羊齒の茂つた場所に小高い土饅頭を作つて遊戯場となし雌の歡心を買ふべく、雄はその上に踞して身振り可笑しく、色々な鳴き真似をする。飛翔力は弱い人が人を恐れて近よらせないので、その現場を目撃することは、中々困難である。

クツカバラ クツカバラは笑ひ鳥とも云はれてゐる。日本のカワセミに類し森の隅々に響きわたるけたたましい聲で囀るが、その音調が人の笑ふ聲に彷彿たるものがある。

セラトダス 肺魚類は魚類と兩棲類との中間に位するものといつてもいゝので、他の魚類の浮袋に相當する器官が肺の作用をなし、乾燥期になると土中に潜んで、夫で呼吸する。目下この類で世界に産するものは僅に三種であるが、その中の一つのセラトダスと肺魚はクインズランドのバーネット、メリーの兩河に限つて棲息する。その齒の化石したものが、北米、南阿、印度及歐洲で發見されたのであるが、現に生存してゐる活魚が見られるのは、この濠洲のクインズランドのみであり、今では學界の珍とされる。

第二章 歴史

第一節 年代記摘要

年代記摘要 濠洲の發見—因入植民—初代の植民地—政治の確立と探検及移住—政治上の動亂—金銀の發見及其の影響—憲法政治—各植民地の建設史(ウイクトリア州—クインズランド州—南オーストラリア州—西オーストラリア州—タスマニア島)

- 一三七二 年 ボルトガル、イギリスと攻守同盟を結ぶ
- 一四八六 年 葡人バルトロメオ・ジヤス帝望峰に達す
- 一四九二 年 葡人ヴァスコ・ダ・ガマ、アフリカの南端を迂迴して印度洋に達した
- 一五二九 年 東經一四七度に一線を劃して東方を、スペインに西方をボルトガルに領有せしめるサラゴツサ條約締結される
- 一六〇六 年 デ・キロス(葡人にしてスペイン政府に仕ふ)「大陸を發見したり」として「聖靈の濠洲」なる名稱を以つて現在のニューヘブリデス諸島を指稱し、東航した。
- 時に副長トレスは、キロスと分袂し西航して、濠洲ヨーク岬を遠望しつゝ、之を大洋中の島嶼の一ならんと看過しつゝ西航した
- 一六四二 年 アベル、タスマン(オランダ人)タスマニア島を發見す
- 一七六九 年 英國海軍少佐クック、新西蘭を發見す
- 一七七〇 年 四月二〇日、同クック少佐濠洲を發見す
- 一七八三—一七八八 年 囚徒植民時代
- 一七八八—一八〇四 年 初代の純植民
- 一八〇四—一八〇九 年 一揆及背叛續く
- 一八〇九—一八一八 年 新制度の實施
- 一八三一—一八三七 年 政治不安續く

- 一八三七—一八五一 年 各州に自治制起る
- 一八五一—一八九九 年 聯邦制度の準備時代
- 一九〇〇 年 聯邦制度布かる
- 一九〇二 年 白濠主義の唱導

第二節 濠洲の發見

濠洲原住民がいつの時代に此の濠洲の大陸に渡り棲むに至つたかは、文献口碑の傳へるものがない。唯この原住民族こそは世界の最古の民族であつて、何時の時にこの大陸に安住するやうになり、何等他よりの襲來民に攪亂せられることなくして、一七七〇年に英人の渡來に及ぶまで、至極安穩に大陸の逸民として悠々自適してゐたものであることは想像される。

今より四、五百年前ヨーロッパに於ては西部地方に國民的大運動が開かれた。一體ローマ帝國の時代よりヨーロッパは印度及支那と盛んに通商交易をしてゐたのであるが、十五世紀の中頃に陸上の通路はトルコ人の爲に閉塞せられることゝなつて、商人は海上に通路を得なければならぬことゝなつた。かくて海上に活躍し始めた最初の國はボルトガルであつた。年々アフリカの西方を下航し、一四九二年に至つてヴァスコ・ダ・ガマがアフリカの南端を迂迴して印度洋に達するを得たのである。殆ど之と同時にコロンブスも大西洋を横切ることによつて印度に達し得るといふ自信をもつて西航し、アメリカ大陸發見の端緒を得たのである。

其の後、東方に向つたボルトガル人と西航を續けたスペイン人とは太平洋の新島嶼を次々に發見したことから争議を生ずることゝなつた。茲に一五二九年のサラゴツサの條約となつて、東經一四七度の線を劃して、

東方をスペイン人に西方をポルトガル人に、各々領有を許すこととなつた。當時濠洲に付ては殆ど知られてゐなかつたのであるが、何等かの大陸が存在するのではないかと漠然とながら推測せられてゐた様である。一六〇六年デ・キロスがタヒチ島を通過して進み、大陸を発見したとして、「聖靈の濠洲」なる名稱を付したのであるが、夫は濠洲ではなくニュー・プリデス諸島であつた。其の時の副長ルイス・デ・トーレスは分れて西へ航して、トーレス海峡を通り、ヨーク岬の南方に濠洲の海岸を認めたとあるが、多数の島嶼の一部であらうと看過して通り過ぎたのである。當時、同じ頃にもオランダ人が濠洲の西方海岸に漂着することが屢あり、カーペンタリア灣は、將軍カーペンタリアの名を採つて名付けた位であるから、よく知られるべき管であつたのに、一帯の海岸地帯が不毛であつたので、外見上嫌厭して十分の興味を有つに至らず、價値なしとし、又原住民が野性甚だしく、色は黒く野蠻にして慘酷、貧窮にして殘忍なりとして放擲し去つたのである。

其の後ジャワ島知事ファン・デーメンは、アベル・タスマンに命じて南方を探索せしめた。タスマンは印度洋を南方に横切り南緯四〇度の西風圏に入らんとし、圖らずも現今のタスマニアに漂着することを得た。彼は更に追航して間もなく、新西蘭と思はれる島嶼に着いたのであつたが、原住民が獷猛であつたので上陸することを得ずして歸航した。その報告によつてオランダは南方探索を断念したのである。

一七六八年英國海軍少佐ジェームス・クックは天文學上の觀察を爲す目的で、タヒチ島に至る學者の一行を護送する爲メンドヴァー號を率ゐて出發すべき命を受けた。

彼はホーン岬(南米南端)を廻つて近航した。やがて用務を終り、歸路は西航してタスマンの發見したといふ島嶼を訪はんとして新西蘭に到り次いで曩にタスマンの發見したタスマニアに直航した。然るに未だ目的地に進航せぬ内に北方に長く延亘した大陸を認めるに至つた。時に一七七〇年四月二〇日午前六時である。斯して探検地を求めて北方に海を

求めて、ボタニー灣に入ることを得たのは、一七七〇年四月二九日であつた。之が英人による濠洲發見である。

當時、英國は米國に於る英國植民の一部が從弟國である米國と戦つてゐた時であり、而も國內の一部の者は母國に反抗してこの争闘に援助をし、その結果其の黨與は國內に安穩の生活を営むことが出来ぬやうになつてゐた。その際に濠洲の發見は、その移住の適地を與へることとなつた。即ちその所謂勤王黨なるものは濠洲のニュー・サウスウエールズに植民地を建設する目的を立てたのである。

第三節 囚人植民・初代の植民地

其の頃、英國は百餘年間、囚徒の流謫地としてゐたアメリカを失つたことに當惑してゐた。獄舎は囚徒で充満して、これの收容地を新たに見出す必要があつた。夫で勤王黨はこの囚人を利用して、新天地の開拓を建議することとなつた。此の計畫は良好であつたが、政府が之を採用するに至るまでに長年月を要したので、その内に勤王黨は、之を待つに堪へずしてカナダに移住して仕舞つた。

夫で愈々濠洲へ囚人を送ることとなつたときは、一人の自由移民も無く、囚徒及彼等を監督する爲の水兵だけとなつた。

かくて勤王黨の計畫があつてから一六年を経た一七八六年に、一艦隊が編成されて夫に囚徒七五〇名を乗せ、二箇年の食物・衣類及移住後の建築用具を積んで、アーサー・フライリップ大佐をその隊長にして渡航することとなつた。この艦隊は八箇月間を渡洋に費し、一七八八年一月にボタニー灣に上陸した。

初代の植民地 新植民地は斯して、新建設の過程に入つたのであるが、幾許もなく、難關相踵いで起つてフライリップの心勞は容易ならぬものであつた。移入して来た羊は相次いで斃死し、牛は逃亡し、囚徒は懶惰で士卒は争闘を事とした。其後に英本國からの食糧運搬をして来た二隻の汽船の一隻は破船し、一隻には尙も二百人の囚人が送られて来た。

第四節 政治の難澁と探検及移住

マクオリー知事は全力を盡して植民地經營に當つたものではあるが統治は成功とはせられなかつた。その不評となつた一因には、囚徒移民の優遇が度を越え、その自由となつた者を法官にさへ採用したりしたからであつた。然しニュー・サウスウエールズが短時日の間に人口が三倍となり、田畠が四倍となり、家畜が十倍となり、銀行が設けられ、市場が出来、燈臺が建設されるに至つたのは、彼の大いなる功績である。

次いでプリズン知事となり、ダーリング將軍となつたが、將軍は規律家で、繁文縟禮を尊び職務を整然劃一たらしむる爲、繁瑣なる新制度を設けたことで人望を失つた。就中、新聞検閲を嚴にしたことは最も好ましくならぬとされた。その爲、新聞記者に對する幾多の誹毀の訴訟となり、凡ゆる事件に陪審制度が行はれることとなり、遂には本國に召還されることとなつたのであるが、政治上の争闘は實に激烈なるものを殘すこととなつた。

探検及移住 シドニーの政治機關が紛争に悩まされつゝある間、植民地の他の部分は徐々に膨脹繁榮を加へつゝあつた。多少の蓄財のある冒險的青年は使役者として要求した囚人の數に應じて土地を下附せられたのである(一囚人の使役に對し百エーカーを與へられてゐた)。

囚徒は初は一集團として道路又は公共建築物の工事に使役せられたのであるが、優遇すべしとする輿論に動かされて、將來善良なる市民に更生し得る者と、極惡の罪人とに區別することとなり、極惡の者はタスマニア島及ノーフォーク島に送られ、善良なる者は開墾者に從つて、使役に就かされることとなつた。

その餘りの集團を收容する所としては、ポート・マクオリーが適當でないとして、適地の探検に多くの測量師・冒險家の探検隊が各所に送られることとなり、是等の探検隊が奥地の探検を試みて爲された報告

次いで又一千人の囚徒が送られて来た。原住民の放火、狼藉に遭ひ、フライリップは絶對絶命の地位に陥つた。農夫もなく、大工もなく、食糧も絶々で病人が續出して、その困苦は言語に絶した。

一七九二年に至つて、少しく不幸に遠ざかるやうになり自作農夫も少しは出来るやうになつて辛うじて秩序を保ち得るやうになつた。

此の時、フライリップは知事の役を新編隊長グロース少佐に譲り、今迄の水兵の守備を、陸軍兵に代へて軍隊政治が行はれることとなつた。この變革は濠洲にとつては不幸であつた。軍隊に入つて来たものは一攫千金の土地成金を目ざす者ばかりとなり、土地を獲得して資産家となり次いで商人となつて酒を賣つて富豪とならんと志す者が多くなつた。

其の後、海軍大佐ハンター、同キングと二代の知事が續き、植民地は膨脹發達したものの、大洪水の瀕發で食料は常に缺乏し自由移民の渡來は少なく、夫も資産のある者は来らず、一方士官等は徒黨を爲して勢力争を爲し、知事の命に服せず、ラム酒の醸造販賣は囚徒・看守兵を墮落させて、紀律は小区域内でさへ保つことが出来ぬ有様であつた。次いでフライ知事の來任となり、フライは綱紀肅正を計らんとしたのであつたが、峻酷に過ぎた爲土地の有力者と衝突し、その朋輩たる部下の士官の爲逮捕され、一年の拘留を行はれる等紊亂は極に達した。

植民地の新制度 今や英國政府に於ても斷然たる決心を示すこととなつて、陸軍大佐ラクラン・マクオリーを新知事として送つて政府の意思を宣言し實行させた。

之まで知事は海軍士官であつて、権力の維持は陸軍の力によつてゐた。然るに當時、陸海軍の反目は甚しく、而も陸軍士官は永久の住民であつて土地所有者であつたから、常に知事に反抗を試みた。

新知事は陸軍將校であつた爲に、着々として悪弊が改善されることになつた。彼が在任中の行績の賞すべきものは植民地域の探検と擴張とであつた。夫で着任時代には約二千平方哩に過ぎなかつた植民地も、其の退任時代には奥地に四百哩を延長して進出し南北には三百哩を開拓發展

が囚徒の收容地を選び、其の後の植民地擴張に貢献したことは異常なものである。其の後に續々と植民が行はれた。即ち一八一一年にはエバンズは東岸の牆壁ブリューマウンテンの險を越えてマクオリーの上流に理想的の牧場を発見し、續いてスタートはダーリング河及マレー河を發見して大陸の産業を、新方面に發展せしむるの曙光を見出した。スタートの探検に續いてミッチェルは一八三一年から一五年間に亘り四回の大旅行を企て、ダーリング河とマレー河の奥地を探索した。

エリアは、アデレードから進んでフリランダス諸山を越え、中部湖沼地方を調査してエイア湖に不朽の名を留め、次いでオーストラリア灣の岸を西進してアルバニーに達した。更にグレゴリーは十四箇年を費して大陸の西部及西北部を探検した。何れも食料の缺乏はもとより、沙漠地方に於ては水の缺乏に苦しみ、焼くが如き暑熱に堪へ、千辛萬苦を重ねた。

イラウアラ地方は過去幾年間、杉樹伐採者の好んで出入してゐた所であつたが、一八二六年には公然ウオランゴングに於る軍事上の屯營所に充てられ、一八二四年ウエリントンも亦既に此の目的に供せられたのである。又一八二五年にはポート・ステイブンス附近の大地域及ニュー・カッスルの石炭鑛坑は濠洲農事會社に下附せられるやうになつた。

當時、又佛國植民侵入の企圖に就き、種々なる風説があつたので、佛國民の到來に先だち、此等の地方を獲得する手段が採用された。

一八二六年、三隻の船舶に囚徒及看守隊を乗せキング・ジョージ・サウンドに上陸させたのであるが、夫は、この佛人侵入に備へたのであつて、その上陸した所は、後にアルバニー市の建設となつたのである。

第五節 政治上の動亂

政治上の動亂ダーリング將軍の後任者は、サー・リチャード・パークであつた。彼は非凡の手腕と公平の處置によつて六箇年に亘り、内治に

た。一八三九年マイアル・クリックでは一種族全部が牧羊者・飼畜者に捕へられて殘忍な殺戮に遭つた。此の虐殺事件と同様な行爲は奥地各種族を極度に昂奮・憤激させ、一八四二年には實際に黑人戦争なるものが發生し、襲撃・復讐等絶える暇は無かつた。其の後種族の勢は日に月に衰頽し現在では見る影もない哀れなものとなつて仕舞つた。然し、尙現存でも中央クイーンズランドから西オーストラリア海岸に至るまでの地方では、白人に危害を加へたり、白人から殘忍なる殺害を蒙つたり、紛争が絶えない。

自治制度の設立、パークに代つた新知事はギッブスであつた。彼は本國政府の植民地管轄権有無に關して論争極めて激烈な時代に赴任して、本國政府を代表する地位に就いたのである。土地の賣價及賣却條件、牧畜地借用人に對する土地租借條件、囚徒の制度及其の經費、移住、夫に一般の警察・教育其他の重要問題が未解決で山積してゐた。然るに一方植民地の政治家達は是等の問題の管理を地方議會をして司しむべしと要求しつゝあつたのである。

囚徒輸送、自治制度、土地法の三大問題は、其の解決を爲すべき時となつた。囚徒輸送はやがて英政府が解決した。又自治制度は英政府が代議政治を許すといふ讓歩となつた。此の代議政治なるものは一種の過渡状態にあるもので、知事は任意に其の内閣員を任命し、施政方針を指示しつゝ法律制定即ち立法権は無いのであつた。地方議會に關する規定は設けられたが、該規定は警察に關する全管轄権を知事に留保して置き乍ら、夫に要する費用の半を地方議會に負擔せしめるといふ條項があつた爲に、その點で大紛糾を起した。

ギッブスの在職中、最も煩累を爲したものは土地賣却法であつた。一エーカー當り一磅の土地賣却價を定めたのに對し、餘りに高價に過ぎるとして非難が囂々として沸き立つた。是に先だつ二、三年、土地に關する投機が大に行はれ、價格が頓に騰貴した。此の「土地の大景氣」は一八四〇年に大下落を來し、その結果一八四三年濠洲銀行は支拂を停止し

盡す所が頗る多かつた。彼は在任中に三箇の重要問題に解決の途をつけた。第一は舊陪審制度を廢して英國法に従ふ陪審制度を實行せんとしたことであり、第二は立法會議を議定する議員を投票選舉によつて定めんとすることであり、此の運動の支持はパークの功績とせねばならぬ。第三は囚徒輸送の廢止であつてこの問題は三者の中で最も緊要なものであつた。

一八三〇年、バザースト附近に囚徒の騷擾があり、一八三四年、ノーフォーク島に又復大反亂が起るに至つて囚徒の全制度に關して嚴密な研究が行はれることとなり、遂に一八三七年英本國衆議院は精細調査の爲特別委員を選出することとなつた。その委員等は囚徒輸送は英國に大なる利益なく植民地に取つて極めて悪影響を及ぼしつゝありと報告した。

バザーストの暴動の起因は、移民が囚徒の使役者として、これを使役するに酷薄を極め、半ば餓死に至らしむるまでの虐待をしたのになつた。彼等暴徒となつた囚徒は其の後、叢林匪徒となつて出沒を爲すに至り、植民地内の道路百里を無事に旅行することは極めて困難なる有様であつた。當時叢林匪徒令が發布されたのであるが、その内には自由移民たるも免囚なるも、現在囚徒たるも問はず、官吏・司法官に於て嫌疑ありと認むるときは、之を牢獄に投ずることを得、又正當の方法で生活してゐることを證明し得ざれば、捕縛の儘數百里を引立て得るといふ法條があり、酷薄を極めたものであつた。

黒人と白人間の關係は多年同等の地位を保つてゐたのであるが、植民が原住民の權利を顧慮することなくして國土を獲得するに至り、各種族は次第々々に衰へるやうになつた。放牧地借用人が東部地方を占領したので、一層確かな奥地に逐はれるやうになつた。牧場に使用せられた者は別とし、獨立生活を營んでゐた者は、白人より獵場を蠶食せらるゝに従ひ次第に敵對するやうになり、パーク知事の時代には白人慘殺と其の群羊襲撃の懸念は各地方より傳へらるゝに至つた。又同時に白人は法律の規定によることなくして自ら黒人犯人を處罰することも頻繁になつ

解散の運命を見るに至り、羊の値も大暴落して一頭六片で賣却せらるゝといふ慘落で、放牧地借用人は其の羊を煮て一頭毎に六志の羊脂を得ることを案出して、辛うじて危機を切り抜ける様な有様であつた。

又放牧地占有免許に關する規定も論争的となつた。從來各放牧地借用人は一通の免許狀で、その使用せんと欲する幾多の放牧地を有し得たのに、今後は各放牧地は一〇磅の手續料を要し、各別に免許狀を交付することを規定した。

この土地制限に關する紛議からギッブス知事はフィッロイ知事と代ることとなり、其の爲に係争問題は多少緩和せられたのであつたが、續いて又も本國政府から難問題を持ちかけられた。夫は本國の假出獄人を濠洲に移送することであつた。この報に接したシドニー、メルボルンの人士は沸然として憤激し、二百の假出獄人を搭載した「ハツシエン號」がポートジャクソンに到着するや、植民大會はサー・キニラーの埠頭で催され、アメリカ革命にも擬する論議を戦はした。知事は取敢ず是等の假出獄人を最も勞働者の必要を感じてゐるモートン灣附近の人口稀薄なる植民地に送ることとした。強硬なる囚徒輸送反對同盟會は組織せられ、植民地各地方より續々と提出され來つた請願書は山積された。又一八五〇年に於る立法會議は如何なる状態に於ても如何なる種類の囚徒であつても收容することを得ざる旨の絕對拒絶狀を本國政府に送付した。

一般自治制度の要望に就ては之を各州議會の手に委せ、夫等の議會は、その植民地に最も適當なりと思惟する憲法を起草して、之を本國政府に提出することとなつた。然し本國の通商局は二箇の點に強硬な反對意見を示した。即ち地方議會は必ず復活せらるべきこと、土地賣却收入金の大部分は地方道路及橋梁費に使用すべきことであつた。尙全濠洲は或る點に於て同一の法律の下に立つの要があり、之が爲にはニュー・サウス・ウェールズ(本植民地)の知事は總督となし且つ關稅・郵便・海運・其他の一般利益に關する二、三事項に付権限を有する「濠洲議會」を召集する權を持たねばならぬとした。夫等の意見は逐次ニュー・サウス・ウェールズ

立法會議に採り入れられ、州議會はその構成を新にした。その結果、シドニー議會は五四人の議員を有し、メルボルン議會は三〇人の議員を有し何れの場合に於ても其の三分の二の議員は公選せられ、殘餘の三分の一のみが政府の指名によることとなつた。之が後年の自治制度を發生せしめるに至つた搖籃である。

第六節 金鑛の發見及其の影響

一八三九年ストルツエルクはブルー山脈ハートリ附近で鐵鑛中に黃金を發見したのであるが、産出が少量であつたのと金發見の噂が囚徒植民を興奮することを慮つて、知事ギツプスは之を公言することなからしめた。其後二年を経て、牧師クラークがバザースと附近の小河で金の粒を發見し、一八五一年二月グレイプスなる牧畜業者はカリフォルニア金山に在りし時の經驗によつてパーランドング附近に到る所に金鑛の徴候のあることを證言した。

政府は地質學者を派遣して愈々その事實の確實性を裏書した。すると五月中旬頃には四百人以上の探掘者が此の地方に野營して探金に従ふほどの盛況となつた。此の噂が擴がると、附近の町村民達は其の業務を放棄し、商人、専門家と總ゆる階級の者が、幾哩に亘る河床に蝟集した。又各地方廳はその州内の金鑛發見を懸賞で獎勵した。斯して幾多の鑛山が發見されるに至つたのであるが、その中でもバララットの探掘地が最も有望なものとして金探掘の一大中心地となるに至つた。此處では一箇月内に二千五百の人々が幾週間に亘り各人一日に三、四十封度の黃金を發掘したと云はれてゐる。

この黃金熱は各州に色々様々の大波瀾・騷擾を惹起した。即ちフォレスト河附近では四平方哩に一萬二千人の人々が居住し、附近の警察官は職務を放棄し、タスマニアよりは最も粗暴なる免囚が渡來し、一揆・騷擾は絶え間なく又食物供給も至難な問題となつた。此の食料問題は月を経るに従ひ解決を困難にした。夫は夏期の炎熱は水流を涸渇させて、橋

汰洗滌を不可能ならしめると共に、給水の不能は生命の維持さへも困難にしたのである。又英本國・米國からも金鑛狂奔者が陸續として毎船滿載で送られて來た。物價は騰貴し、商人は黃金探掘と同様の利益を得ることを喜んだ。

然し附近地方の犯罪は非常に多くなつた。只探掘地帯では探掘業者達が一一致して強硬なる防禦手段を執つてゐたから、強盜事件は比較的になつた。附近のアレキサンダー山の山道は叢林匪徒が出没して危険極まりなき所となり、メルボルン市も秩序の極度に紊亂した。

探掘免許料に就て相争ひ、地主の横暴、解放囚徒の粗暴、裁判官の腐敗はバララットに大騷擾を起したが、その擧の效を奏したのを見て争鬪を構へ騷擾を事とする徒輩は、此の地に集り來るやうになり、又も燒打暴動の争亂となつた。この争亂は全鑛地に擴がり探掘者は争鬪の準備を始め、官吏は兵士を要請し、既に完全なる政治的革命にも及ばんとしたのである。

グイクリトア金鑛地に對するこの一大突進は他の植民地に多少の恐慌を惹起した。ニューサウスウヰールスでは人口の四分の一を失ひ、タスマニアでは三分の一を、南オーストラリアでは毎日百人以上を失つた。この人口の減少は食物供給に多額の探掘黃金を支拂れること、又タスマニアでは強暴の徒の減少したことで償はれた。斯ていつとはなしに平穩に復することになつた。

他の方面でも濠洲は徐々に進歩しつゝあつた。即ちシドニーに大學が開校されたのは一八五二年であり、博物館はその翌年開設せられ、小學校も設けられた。メルボルンにも大學が設けられ、鐵道も一八五八年からシドニーよりバララマ・カンベルタウン、ニューカッスルよりリトランドにと敷設された。

然し當時に於る大事業は植民地憲法の制定であつた。一八五〇年の帝國法律は各植民地をして、其の好む所の政體を具申せしめたのであるが、夫は各地ともに略同様なものであつた。

一八五五年、その其由に二、三の變更を加へて四つの東方植民地に憲法が附與せられた。之によると各植民地は國會に兩院を有することとなり一つは參議院で、他の一つは衆議院である。衆議院は悉く人民より公選せられた議員を以て組織せられることになつた。尤も選舉の方法は各植民地によつて多少の差異はあつた。

第七節 憲法政治

憲法認可せられて以後二〇年以上に亘り、濠洲植民地は主として其の新權力の運用如何に就き研究されつゝあつたものではあるが、然し實際は爲すが儘に放任されてゐた譯である。英本國は之等の事項に殆ど關係することなく、金鑛熱で來住した人民の突進時代は既に去り、又共同事業及共同政治の觀念は殆ど忘却されてゐたのである。かくて各植民地はそれの隣接せる植民地に關係なく、各自の問題を解決に努めたが、而して相互間には常に嫉妬で影響し合つてゐた。

幾多政治家が濠洲諸植民地として自治制度を確立しようとする種々の計畫をなしてゐる秋、植民地以外のイギリス人の小國家が何等の政治的聯絡を保たずに併存してゐる事實は不條理の甚しいものであつた。同時に又大洋洲諸島にも所屬未定で、各國が其の占據を争ふ島嶼が非常に多く、事々に争鬪の因となつてゐた。かくて統一國家の必要が切實に感ぜられるに至つた。英本國は各植民地自ら合同計畫を樹てるべきことを從違し、ニューサウスウヰールス知事を濠洲總督に任命して植民地間の連鎖を堅固ならしめ、大洋洲の島嶼をも濠洲に歸屬させることを計つたのであつたが、當時地方的偏見が餘りに強く、各州は合同を欲せず、聯邦議會が干渉することは無用の煩累を増すものとして拒絶した。然し經世の才ある政治家連は百方奔走して輿論を導き、次第に地方的反目を脱却して聯邦思想の喚起に努め、實現に盡した。即ち一八五三年、ニューサウスウヰールス及ウイクトリアに於て任命せられた新憲法起草委員會の報告は、或る種の聯邦制度を是認した。又一八五五年メルボルンをして聯

邦の首府たらしめんことを英國女王に請願したのである。其の後、聯邦問題はマレー河沿岸の海關稅賦課に關して屢論争せらるゝ所となり、一八七一年には濠洲關稅同盟に關する提議が唱へられ、一八八三年にはポリネシア事件に關する決議通過に際して單一の議會名を稱へて、全濠洲を代表するものを作るのを適當として聯邦參議院法案に改正を試みた。其の後、幾多の經緯を経て一九〇一年に至り聯邦議會は確立するに至つた。その主なる動機は、一つには有力なる國防の必要と、二つには附近太平洋に於る諸島嶼の外國併吞の危險、第三には濠洲自身が他の列強より侵犯せらるゝことなきやの三點に係るのである。

濠洲聯邦は斯して樹立されるに至つたのであるが、統一國家の形を繼へてから僅々四〇年に過ぎない。從て濠洲は社會的にも經濟的にも尙生成の過程にありと見られる。而も各州は各々獨自の歴史を有し、社會經濟的發展を異にした過程を経て來たので、その對立感情は想像以上に根強く、機會ある毎に反目嫉視を見るのである。かの聯邦首府の所在地を決定するに當つてもニューサウスウヰールス州とウイクトリア州との間に、シドニーにすべきか、メルボルンにすべきかに付意見合はず、結局兩都の中間距離の所に新たに聯邦政府直轄領カンペラ市を新設した如き始末である。現に實際問題として聯邦成立後に於て西オーストラリア州とタスマニア州とは分離運動を行つてゐる。即ち聯邦政府の施政が東部と先進諸州を標準として行はれ、保護關稅政策を採用する結果、農具其の他の諸物價が騰貴し、農牧・畜業の如き原始産業に依存する西オーストラリア州は尠からず不利益を蒙つた。殊に第一次大戰後の不況に際し、聯邦政府が東部諸州の新興工業保護、財政難切抜の對策として關稅引上げを斷行するや、西オーストラリア州は民間産業團體のみならず州政府當局も分離運動に賛意を表した。

タスマニア州も亦一九二九年の恐慌前後、財政經濟的不利を免れんとして財界及政界の有力者を網羅する團體を組織して分離運動を行つたの

である。
 第一次世界大戦には聯邦政府は全力を挙げて英本國を支持し、戦後大洋洲の獨逸領を獲得したのであるが、此の濠洲の位置が米國及日本に近いことは、何かにつけて此の國の對内對外政策に影響を與へ刺戟すること甚だしいのである。かの白濠主義を堅持するものも、成るべく他の折衝を避けたい爲であつて、夫で有色労働者の移住を徹底的に排撃するのである。

第八節 各植民地の建設史

一 ヴィクトリア州

ヴィクトリア州は其の面積比較的狭く土地問題に付ての紛糾は隣州のニューサウスウェールズ州程に緊急切實なものではなかつたが、財政問題に付ては衆議院・參議院間に久しい葛藤を惹起した。

一體ヴィクトリアの鐵夫はニューサウスウェールズに於るものよりも大部分はヨーロッパ及アメリカより來れる移民であり、農業の何たるを解せざる商人又は工場労働者であつた。

從て金鐵熱に浮されて當州に渡來し、金鐵區バララットに於て失望するに至つた者達は植民地内に何等の親戚縁者も無く、又土地に定住せんとする念慮もなく、手に技術の誇るものも持つてゐない。職工が其の伎倆の拙劣を蓋ふて生活の資を得る爲には海外輸入品に關稅を賦課して、之を高價ならしめるの外なしとして、茲に保護關稅政策の問題が起つて來た。

此の方法により海關稅は實に收入を得るの手段である許りでなく、歳入と何等の關係を有せざる特殊の政策を實行する手段となつた。此の政策には多數の人民が激烈に反對した。延ては衆議院と參議院の對立となつた。

保護關稅に端を發して、黨派の對立、官吏の總被免、參議院の協賛を

經ずしての豫算執行、不良なる附帶條項付の豫算の強行となり、抗爭に抗爭を重ねられ、知事の本國召喚も相繼ぎ、收拾し難い状態に陥つた。終には人民も政爭に倦むに至り、果ては聯立内閣の下に比較的穩和に歸して年々進歩の域に向ふことゝなつた。

ヴィクトリアは幾多の政爭を経た後、其の人口及富も増加したが隣州ニューサウスウェールズ州の如くには確實でなかつた。

金鐵熱時代に於ては人口が非常に流入したのでヴィクトリア州は遙に濠洲の他の諸植民地より優越の地位を占めて居たが、其の熱が衰へると面積狭小なヴィクトリアの地は、餘り自然的發展の餘地が無いのでニューサウスウェールズ州には一籌を輸するに至つた。面積の狭小な上に西北地方の大部分はマリー樹より成る叢林で掩はれ、之を跋渉し又伐採するに非常に困難があつた。又ギツプスランドの東方地方は他の濠洲植民地よりも一層山岳重疊し、其の山脈内に大木巨材の繁茂せる峽谷錯綜して居て開拓は難事であつた。

さればヴィクトリアの牧畜業者はギーロングの西方に於る豊富な牧場以外には發展の餘地なしとして、他州の平原に進出を試みたのである。

一八六四年、ヴィクトリアはメルボルンよりマリー河畔に於るエチユーカーまで鐵道を敷設し、汽船は一八五三年以來、同河上を通航することゝなり、斯くて通商は獨りマリー河に於るもののみならずダーリングの大支流に至るまで、即ちエチユーカー埠頭より南方メルボルンまで通じ得るに至つた。

又マリー河のヴィクトリア領域内を流るゝ支流は其の流域地方を横ぎる灌溉用堰及運河の開鑿により利用せられ四通八達の便を得てゐる。

二 クイーンズランド州

本州は其の國庫に七片半の公金を有するのみで、獨立植民地たる經歷を開始したのであるが、其の財政事情が大いに良好となるに至つたのは七年の後であつた。

其の初めには新政府は公共事業に費す爲盛んに資金を借り入れ、以て移住者の便益を計つた。一八六〇年には其の負債は人口に對し他の濠洲植民地よりは少ないのであつたが、一八七〇年には之に比して其の割合は遙に多くなつた。而し根幹をなす山脈の西方地域は概して畜産業者の使用に委され、灌溉の便もあり地味の豐饒な河口地方には移民が到る所海岸に沿うて定住した。

一八六一年北米合衆國に南北戰爭が起るや、棉價が高騰し、移民達は圖らずも巨利を擧げ得る機會を得たのであつたが、米國の内亂が鎮定し、其の價格が再び下落することゝなるとクイーンズランドは眞に危急の地位に陥つた。

當時、大なる負債を負ひ、通商は閉止し多數の企業家は破産に瀕し、其の使役の労働者達は徒黨を組んでプリンスエドワードの諸銀行を掠奪せんと企んだのである。

事態甚だ不穩を呈せる時に當り、ナツシユなる者がジンビーに於て豐富なる金鐵を發見したと傳へられ、それが眞に價値のあるものであつた爲に危機は救はれ、業を失へる者の大部分は之に吸収せられた。

最大なる發見即ち濠洲中、最も重要な金鐵の發見せられたのは實に一八八六年であつて、當時の發見者はフィッツロイ河の流域に於る大なる鐵礦山が其の山頂より山麓に至るまで金鐵を以て飽充せらるゝ事實を確めた。發見者は六百四十磅の價格即ち普通の「エーカー」一磅の割合で此の山を買収し、十箇年以内に此の鐵山は配當として四百五十萬磅の巨額を支拂つたのである。

クイーンズランドをして財政困難の難關を脱するを得しめたものは獨り金鐵のみでなかつた。棉花の下落に苦んだ栽培業者中に甘蕉の試作を試みる者が生じた。而して賃金の點よりして印度及支那より人夫を輸入せんと試みたが、この計畫は容れられなかつた。然る所、一栽培業者がカナカ原住民の南洋諸島からの輸入を試みると、賃金の極めて低廉なことからして多數の者が、之に倣ふ様になつた。この風は黒奴誘拐を生み、

遂にはソロモン島の勇猛なる種族は誘拐の爲に來島した白人を殺戮する様な悲劇を生むに至り、政治上の一黨派に白人の植民地に勞働せしむる爲黒人又は黄色人を輸入することを禁止せんと強硬な意見を表する者を生ずるに至つた。この意見が後に如何なる場合に於ても濠洲は白人の天下たらざるべからざるの主張の濫觴をなしたのである。

主幹山脈の西方には大平原が存し、牛の牧場相連りて遙に南オーストラリア境界に及んでゐる。從て濠洲の牛の大半はクイーンズランドに於て飼養せらるゝもので、濠洲の羊の約五分の一も、此處で養はれてゐる。カーペンタリア灣に流るゝ河流の流域中には金を包含し、クロンカリー河も亦銅を産する。

ケアンズ山の西方山脈に亘り錫・銅及銀・鉛の大鐵山があり而して鐵道はクイーンズランドの特別なる地形の爲、多數の線路に岐れるが、其の間に聯絡はない、即ちプリンスエドワードよりヴァレゴ河に亘り及ロックハンプトンよりパーカー河に亘り、二條の長き線路延長し牧場地に達し、他の線路はニューサウスウェールズ境界より北の方ポートカーティスまで海岸を傳うて延長し、又他の線路はシドニーより來れる大幹線に會せんが爲、本山脈に沿うて北上してゐる。

其の他マカイ、ボーエン、ケアンズ及クックタウン等各々内地に向つて短き線路を有し、又タウンズビルはチャーターズ、タウンズを越え、フリンダース河の上流に至る一層長き線路を有するを誇りとし、又カーペンタリア灣地方にて一條の短い線路も存在してゐる。然しヴァレゴ河を越えてカーペンタリア灣に達し、恐らくは更に進んで北部地方を通過してローバー河及ポートダーウインにまでも達せんとする長き中斜線狀の鐵道を敷設し、斯くて其の中途に於て重要な東西の線路を聯絡せしめ、クイーンズランド州をして將來は東西の聯絡相通する一體の鐵道の中心點たらしめんと計畫をしてゐる。

三 南オーストラリア州

南オーストラリアは模範的植民地を樹立せんとする趣旨を以て、西オーストラリアとニューサウスウェールズ州との間の南方地域一帯を區域とし、英本國が法律によつて、之が建設を圖つたものである。

その法律は大要に曰く「南オーストラリアには一人の囚徒をも移送せられぬこと、土地は一エーカー一二志以下で賣却せられぬこと、土地賣却代金は移民基金に積立てること、全家族擧つて移住すべきこと、男女は事情の許す限り同族にて移住すること、此種の事務は八人の委員より成れる委員会に委託せられ、他の公共事務の執行は他の植民地に於るが如く知事の手に委せらるべし、英國政府は此の種の事項に關し何等の費用をも負擔せず、若し二〇年以内に植民地に二萬の人口を有せざるときは植民地は全然政府の管理に歸すべし」と。

カンガルー島の上陸が不成功に終つた後、一八三六年七月、最初の移民は多少の困難を嘗めて海上より約六哩を隔たるトレンス河堤防附近の地に上陸した。之が後のアデレード市である。知事ヒンドマーシユは着任したが、彼は事毎に委員・移民總代と抗争し本國政府は、兩者の懇訴に堪えずゴラー大佐を送つて之に代へて知事とした。

ゴラー知事が着任したときは事々物々混亂の状態に在つた。理論上、其の土地にて生活し且つ貧者たる移民を耕耘に使役すべき富裕なる土地所有者はアデレードに群集し、主として市街地投機に従事してゐた。委員會の委員等も亦此の土地の投機を獎勵し、何等特別の理由もなくして土地の價格を高下せしむるに至つた。即ち彼等は先づ一エーカー當り一磅と定め置き、一片の告示を楯にとつて之を廢棄し、十二志以下落せしめた。又移住労働者は其の地位を誇り、法外の給料を得んとし、法外の給料を要求するに拘らず、其の勞働力は極めて低劣であつた。之は一は彼等が植民的經驗を缺けるに由るので、實際主なる労働はタスマニアより來た解放囚徒に委任せられてゐたのである。

而して是等移住労働者は此の地に於て獨立し得たにも拘らず、土地の價格の高いのを厭ひ、多くはタスマニア、ニューサウスウェールズ州の如き價格の一層低廉な地方に去ることになつた。而して濠洲植民地に於る金錢の收入は極めて少く、又外より入り來る貨幣の大部分は他の植民地より輸入し來る食料品に支拂はねばならなかつた。茲に於てゴラー知事は大いに惑ひ、救助事業による外、打開の策の無いと信じたのである。彼の着任の當時に於ては、財政状態は殆ど紊亂の極に達し、一箇年の計上支出は最初の三箇月で蕩盡せられる様な有様であつた。彼は全財産を以て政府雇傭の労働者に支拂を爲し尙約四〇萬磅を、英本國より支拂はるべきものとして保證を爲す程であつた。

このゴラーの保證額に對して英本國は十五萬五千磅を送金し、之に打切と爲すべしとなし、其の旨を植民に布告してゴラーを召還した。彼の出發當時に於て南オーストラリアは殆ど破産の状態に陥り、其の政府の支出は收入の六倍以上となり、其の人民は輸入品に對し其の生産物價格の約十倍を支拂ふ程の窮況に陥つた。

ゴラー知事の財政上に於る任侠的而も無分別な齟齬は多大の借款を殘し、一八四〇年には植民等は背叛をさへ示すに至つた。茲に於て英植民省は強硬果斷なるジョージ・グレイ大佐を知事として赴任せしめた。彼は早速救済事業の大部分を廢止した。之にて一箇年の歳出は六割以上削減せられたが、其の結果各所に騷擾が惹起するに至つた。

この騷擾は大なる不安に導びかれることなくしてやがて鎮靜した。その一因は富豪が土地を賣却し始め、而も一エーカーに付二〇志の定價を遂に下落し、夫で貧民は土地を獲得し得るに至つたのと、他の一因は家畜を賣らんとして陸路遙に牛・羊を率ゐ來つたシドニーの牧畜業者達が、偶然に海岸に沿へる山脈とマレー河との間に新たに夥多の牧場を見出すに懸つたことである。労働者は分散し得、牧畜業者及小農等に十分な労働者を供給し得ることとなつた。

かくて一八四一年五月には南オーストラリアの人口の七分の四はアデ

レードに居住してゐたのに、一八四三年には其の人口は三分の一以下に減じた。

其の後幾干もなくして、南オーストラリアの其の需要以上に食料品を産出し、小麦及乳産物類は他の植民地に輸出された。鐵山も亦發見された。之はカバンダ、ブラブラの銅鑛である。

南オーストラリア植民地は俄然繁榮の巨歩を履み出した。グレイ知事ロープ知事を経てヤング知事に至り土地制度も確立し、一般の形勢は自治制度に對し熱心なる希望を起さしむるに至つた。嘗て南オーストラリアの建設當時、人口五萬に達したとき公選議員より成る議會の設置を公約してゐたのであるが、其の後に之に加へるに植民地が其の經費を支拂ふべき條件を以てした。而して一八四六年に至つては、以上の二條件が充されたので、一八五〇年法律によつて東方植民地と同様の地位を與へられるに至つた。かくて一八五一年、新なる地方議會は設けられ其の議員数は二四名で、其の中一六名は公選せられることとなつた。

四 西オーストラリア州

一八二七年英國政府は西オーストラリアのスワン河植民移住許可に關する條件を規定せる一布告を公にした。之に據れば移民は團體を作るを要し一人毎に其の中の五人は女なること、彼等は自費を以て植民地に赴き、到着後は自活すること、而して其の所持する貨幣又は貨物三磅毎に對し、四〇エーカーの土地を附與せらる。勿論土地は一切の支拂の用に供せられてよく、知事と雖も俸給を受けずして土地十萬エーカーを附與せらるゝのであり、この事は其の部下の官吏も同じ條件であつた。

三磅に對し四〇エーカーを得るとせば一エーカーは一八片の割合である。從て其の價格の低廉は多數の注目する所となつた。最初の知事スターリング大佐はバースを以て其の首都と定め、スワン河口に在るフリーマントルを以て當座の港とした。海上より望み見て良地と見えた此の地方は砂丘叢林の混交地であつた。失望した植民等は此の河口の砂濱に貴

重なる貨物を揚陸したのであるが、夫は英國で價格を表示する目的で選擇されたもので、新開地に於て其の生活を開始するに當つての有用なものと選擇せられたものでなかつた。故に七〇ギニーのピアノは、之を以て九百八十一エーカーの土地附與狀を得た上は、フリーマントルの砂濱に遺棄して朽腐に委せたのである。知事は命令を發して最も廣闊なる土地を要求する者は、第一に土地選擇權を有すべしといつた。茲に於てバース附近一帯の地方は忽ち五萬エーカー又は十萬エーカーづゝ取得せられ、小區域の土地を取得開墾せんとして來た移民は、市場を去ること甚だ遠き地方を選択せざるを得ざることとなつた。

多少の金錢を所持せし移民は東方植民地に移轉を始め、金錢を所持せざる者は留まつて悪運と戦つた。黒人との紛擾は隨所に起つた。西部地方の種族は南方海岸のものより粗暴で扱ひ難いものであつた。

西オーストラリアは乾燥せる一帯の沙漠とオーストラリア大灣の怒濤によつて東方諸植民地より遮斷せられ、其の植民は總て農夫又は牧畜業者に屬し、大いに労働者を必要とするのであるが、その來住を補助すべき資金は此の地には存しないのである。言ひ換へると、東方諸植民地に於ては移民事業は政府の土地賣却よりして得た資金を以て保護せられたのであるが、バース市に於ては二箇年間の賣却収入は僅に六五磅に過ぎずして、移民保護に充て得る資金の如きは殆ど得る途が無かつた。

自由移民を招致することが出来なかつたので囚徒の使傭を思ひたち、經驗の爲にパークハースト懲治監より少年を誘ひ、之を農僕として使用したる所甚だ有用なことが明かになつた。茲に於て植民等は英本國に囚徒移送を請願した。當時英國に於てはシドニー、メルボルンに囚徒移入拒絶の聲の高い時であつたので、之を好期として續々として囚徒移送を圖つた。

然し乍ら、此の囚徒輸送主義にも幾多の點で缺點があつた。彼等が居らなかつたなれば南オーストラリアは自由移民を招致することが不能であつたのに、又彼等が存在するが爲に自由移民を駭走せしめた。夫でバ

の政治上の騷擾が影響するのは少なかった。此の島は面積が甚だ狭小なる上、又ウイクトリアに接近してゐるので、着實・勤勉の農夫が漸次に数を増した。而してランストンとホバートとの間に於る比較的廣潤なる中央の土地は群羊放牧地として最初の移民の占有する所となり、該牧場は一層荒涼たる地方を経て東方海岸に向ひ次第に延長するに至つた。

又此の島の西北には蒼蒼たる森が繁茂し、其の地味は豊饒ではあつたが伐採除去は遅々たるものであつた。一條の鐵道線路は一八六八年、西北に於る小麥畑中に敷設せられ、他の一條は一八七二年に起工し、ランストン及ホバート間に於る低き山岳を縦断するのに四箇年の星霜を費した。然れども一八七一年に至り、ビショップ山附近に於て一大錫鑛が発見せらるゝや、試掘者が多く顯はれて、他の鑛物穿鑿に熱狂するに至り金・銀・銅及石炭は各地方に於て發見せらるゝに至り、嘗て全然跋涉し難き叢林なりと思惟せられた全西方海岸は横断せられて、其の一部分は開放せられるに至つた。又鐵道は本線よりダーウメント河の流域に上り、更に東方海岸に向つて分岐した。現在のタスマニア島は平穩なる果樹園地、ホップの花園、種羊農場があり、歐洲人の娛樂に供せらるゝ國民的公園とも看做さるゝまでとなつた。

(附) 歴代總督・内閣

Table of Governors and Cabinets with columns for Name (氏名), Term (就任年), and Position (歴代總督).

歴代内閣

Table of Cabinets with columns for Name (氏名), Term (成立年月日), and Position (歴代内閣).

第三章 人口・住民 (習俗)

人口・住民(習俗)

第一節 人口

一 概要

濠洲の人口は各州に於て極めて不均等である。之は氣候のために制約され、夫が經濟發達に反映して密度の著しい高低を示すことになつてゐる。

一九三三年の國勢調査によれば、濠洲の總人口は六、六二九、八二九人であつて、各州及聯邦領土の人口及其の比率は次の如くである。尙一九四一年末の推定人口は七百三萬餘人と報せられてゐる。

地方別人口表 (一九三三年國勢調査)

Table of population by region for 1933, including columns for Region (地方別), Population (人口), and Ratio (比率).

總人口の三七・七七%に當る二五〇、三〇六人は熱帯地方に居住し、次の如く分布してゐる。

クインズランド 二四〇、七九六

濠洲...人口・住民

北 五、三二六
西 四、一八二
オーストラリア 二五〇、三〇四

1 人口の構成

人口の構成を一瞥すると、生粋の濠洲の住民は濠洲人口の九五%を占めて居り、夫に英國其他より渡來せるものを合すれば、その九九%が英人となつてゐる。即ち次の通りとなる。

國籍別人口表 (一九三三年國勢調査)

Table of population by nationality, including columns for Nationality (國籍), Population (人口), and Ratio (比率).

濠洲原住民は五萬五千人と推定せられ、それは一般人口統計からは除外されてゐる。

一九三八年一月末現在の推定人口は、六、八六六、五九〇人(原住民を含まず)であり、其の内の英國人(全人口の九割九分なることは前記と同じ)の内露出生別は次の如くである。

100F

濠洲 人口・住民

イギリス人	六〇%
アイルランド人	二〇%
スコットランド人	一六%
ウェールズ人	四〇%

濠洲及英國年別比較表

年齢別	濠洲 (一九三三年)	英國 (一九三二年)
〇—一	二七・六	二四・二
一—二	二七・六	二四・二
二—三	二七・六	二四・二
三—四	二七・六	二四・二
四—五	二七・六	二四・二
五—六	二七・六	二四・二
六—七	二七・六	二四・二
七—八	二七・六	二四・二
八—九	二七・六	二四・二
九—十	二七・六	二四・二
十以上	二七・六	二四・二

2 體性別人口
一八〇〇年に於ては、男子二六三人に對し女子一〇〇人であつたが、一八六〇年の男子對女子の比率は一四〇對一〇〇となり、一九〇〇年には、一一〇對一〇〇、一九三五年には、一〇二對一〇〇となつてゐる。此の男女の比率は人口の最も稠密なる文化度の高いウイクトリア州では女子が多く、開拓地帯なる北方直轄州、クインズランド州等では男子が遙に多いのである。

3 其他
濠洲の人口は都市に人口集中の傾向があり、極めて高度に都會に偏在してゐる。之は都鄙の文化度が懸絶してゐることに原因する。

人口に對する比率

ウイクトリア	五三・八一
ニューサウスウェールズ	四七・五〇
西オーストラリア	四七・二七
クインズランド	三一・六五
タスマニア	二六・五四

が夫々首都に居住してゐる。之を濠洲全體に見ると、人口の四六・八七%が州の首都に、一六・九七%が地方都市に偏在して居て、廣大なる農村地帯には三六・一六%しか残つてゐないのである。

濠洲生れの人口は一九二一—三三年間に、二五%の増加に對し、移民は七%の増加である。之は濠洲が移民吸收地ではなく自己の人口でその天地を充して行くことを顯示する。而して更に重要なことは濠洲生れも濠洲以外の出生のものも、その大部分の九九%迄が英國系であることである。

移民は一九一〇—二二年に最大で、大戦中には二三萬が從軍の爲出發し、恐慌前には一箇年五—六萬の移入であつたが、その後一九三〇、三二及三五の各年では來濠するものよりも歸國する者の方が多かつた。而もその移入民もその八三%がイギリス人であることは前述の人口増加率と共に愈自濠主義の完全さを思はせる。

出生数は今世紀初より略一定してゐて一〇—一二萬である。故に出生率は千人に付今世紀の初は二七人、以後は總人口の増加に伴ひ漸減して一七人前後である。

死亡率は夫に對して死亡数は今世紀初の四萬六千人より漸増して最近六萬四千人位になつた。然し死亡率からすると千人に付一二人から九人に低下してゐる。幼児死亡率の低下は更に顯著で一〇三人から四〇人前後になつてゐるのは、衛生設備が充實して來たのと一般生活の向上振を示すものである。

生命表の平均壽命を見ると男五九・一五歳で日本の四六・九二歳、英本土の五八・七四歳よりも高く、衛生・生活相共に相當の高度に達してゐる。

二 諸統計

1 人口密度

體性別人口比率及密度表 (一九三八年)

州別	全洲平均	二月末の比率	女性一人に對する男性の密度
ニューサウスウェールズ	一〇四・〇	三九・八	一〇一・七
クインズランド	三九・八	三九・八	一〇一・七
西オーストラリア	一〇四・〇	三九・八	一〇一・七
タスマニア	一〇四・〇	三九・八	一〇一・七
北方直轄	一〇四・〇	三九・八	一〇一・七
聯邦直轄	一〇四・〇	三九・八	一〇一・七
全濠洲	一〇四・〇	三九・八	一〇一・七

一、地方別人口自然増加數連年比較表

年次	ニューサウスウェールズ	クインズランド	西オーストラリア	タスマニア	北方直轄	聯邦直轄	全濠洲
一九〇一—五	一〇三・四	七四・一	二四・八	一五・九	一五・九	一五・九	二八・四
一九〇六—一〇	一三五・四	八一・五	二九・二	一七・一	一七・一	一七・一	三三・四
一九一一—一五	一四四・四	九六・四	三三・九	一八・九	一八・九	一八・九	四〇・七
一九一六—二〇	一五三・九	一〇四・七	三三・三	一九・七	一九・七	一九・七	四七・一
一九二一—二五	一七〇・二	一一三・九	三三・一	二〇・九	二〇・九	二〇・九	五三・一
一九二六—三〇	一八二・六	一二三・三	三三・一	二二・九	二二・九	二二・九	五九・一
一九三一—三五	一九一・八	一三三・〇	三三・一	二四・九	二四・九	二四・九	六五・一
一九三六—四〇	二〇一・七	一四三・七	三三・一	二六・九	二六・九	二六・九	七一・一
一九四一—四五	二一八・七	一五三・〇	三三・一	二八・九	二八・九	二八・九	七八・一
一九四六—五〇	二三三・二	一六三・七	三三・一	三〇・九	三〇・九	三〇・九	八四・一
一九五一—五五	二四八・六	一七四・七	三三・一	三二・九	三二・九	三二・九	九〇・一
一九五〇—五四	二六三・七	一八五・七	三三・一	三四・九	三四・九	三四・九	九六・一
一九五五—五九	二七九・九	一九六・七	三三・一	三六・九	三六・九	三六・九	一〇二・一
一九六〇—六四	二九六・一	二〇七・七	三三・一	三八・九	三八・九	三八・九	一〇八・一
一九六五—六九	三一三・二	二一八・七	三三・一	四〇・九	四〇・九	四〇・九	一一四・一
一九七〇—七四	三三〇・三	二二九・七	三三・一	四二・九	四二・九	四二・九	一二〇・一
一九七五—七九	三四七・四	二四〇・七	三三・一	四四・九	四四・九	四四・九	一二六・一
一九八〇—八四	三六四・五	二五一・七	三三・一	四六・九	四六・九	四六・九	一三二・一
一九八五—八九	三八一・六	二六二・七	三三・一	四八・九	四八・九	四八・九	一三八・一
一九九〇—九四	三九八・七	二七三・七	三三・一	五〇・九	五〇・九	五〇・九	一四四・一
一九九五—九九	四一五・八	二八四・七	三三・一	五二・九	五二・九	五二・九	一五〇・一
一九〇〇—〇四	四三二・九	二九五・七	三三・一	五四・九	五四・九	五四・九	一五六・一
一九〇五—〇九	四四九・〇	二六六・七	三三・一	五六・九	五六・九	五六・九	一六二・一
一九一〇—一四	四六六・一	二七七・七	三三・一	五八・九	五八・九	五八・九	一六八・一
一九一五—一九	四八三・二	二八八・七	三三・一	六〇・九	六〇・九	六〇・九	一七四・一
一九二〇—二四	五〇〇・三	二九九・七	三三・一	六二・九	六二・九	六二・九	一八〇・一
一九二五—二九	五一七・四	三〇九・七	三三・一	六四・九	六四・九	六四・九	一八六・一
一九三〇—三四	五三四・五	三二〇・七	三三・一	六六・九	六六・九	六六・九	一九二・一
一九三五—三九	五五一・六	三三一・七	三三・一	六八・九	六八・九	六八・九	一九八・一
一九四〇—四四	五六八・七	三二二・七	三三・一	七〇・九	七〇・九	七〇・九	二〇四・一
一九四五—四九	五八五・八	三三三・七	三三・一	七二・九	七二・九	七二・九	二一〇・一
一九五〇—五四	六〇二・九	三四四・七	三三・一	七四・九	七四・九	七四・九	二一六・一
一九五五—五九	六一〇・〇	三五五・七	三三・一	七六・九	七六・九	七六・九	二二二・一
一九六〇—六四	六二七・一	三六六・七	三三・一	七八・九	七八・九	七八・九	二二八・一
一九六五—六九	六四四・二	三七七・七	三三・一	八〇・九	八〇・九	八〇・九	二三四・一
一九七〇—七四	六六一・三	三八八・七	三三・一	八二・九	八二・九	八二・九	二四〇・一
一九七五—七九	六二八・四	三九九・七	三三・一	八四・九	八四・九	八四・九	二四六・一
一九八〇—八四	六四五・五	四一〇・七	三三・一	八六・九	八六・九	八六・九	二五二・一
一九八五—八九	六六二・六	四二一・七	三三・一	八八・九	八八・九	八八・九	二五八・一
一九九〇—九四	六七九・七	四三二・七	三三・一	九〇・九	九〇・九	九〇・九	二六四・一
一九九五—九九	六九六・八	四四三・七	三三・一	九二・九	九二・九	九二・九	二七〇・一
一九〇〇—〇四	七一三・九	四五四・七	三三・一	九四・九	九四・九	九四・九	二七六・一
一九〇五—〇九	七三〇・〇	四六五・七	三三・一	九六・九	九六・九	九六・九	二八二・一
一九一〇—一四	七四七・一	四七六・七	三三・一	九八・九	九八・九	九八・九	二八八・一
一九一五—一九	七六四・二	四八七・七	三三・一	一〇〇・九	一〇〇・九	一〇〇・九	二九四・一
一九二〇—二四	七八一・三	四九八・七	三三・一	一〇二・九	一〇二・九	一〇二・九	三〇〇・一
一九二五—二九	七九八・四	五〇九・七	三三・一	一〇四・九	一〇四・九	一〇四・九	三〇六・一
一九三〇—三四	八一五・五	五二〇・七	三三・一	一〇六・九	一〇六・九	一〇六・九	三一二・一
一九三五—三九	八三二・六	五三一・七	三三・一	一〇八・九	一〇八・九	一〇八・九	三一八・一
一九四〇—四四	八四九・七	五四二・七	三三・一	一一〇・九	一一〇・九	一一〇・九	三二四・一
一九四五—四九	八六六・八	五五三・七	三三・一	一一二・九	一一二・九	一一二・九	三三〇・一
一九五〇—五四	八八三・九	五六四・七	三三・一	一一四・九	一一四・九	一一四・九	三三六・一
一九五五—五九	九〇〇・〇	五七五・七	三三・一	一一六・九	一一六・九	一一六・九	三四二・一
一九六〇—六四	九一七・一	五八六・七	三三・一	一一八・九	一一八・九	一一八・九	三四八・一
一九六五—六九	九三四・二	五九七・七	三三・一	一二〇・九	一二〇・九	一二〇・九	三五四・一
一九七〇—七四	九五一・三	六〇八・七	三三・一	一二二・九	一二二・九	一二二・九	三六〇・一
一九七五—七九	九六八・四	六一九・七	三三・一	一二四・九	一二四・九	一二四・九	三六六・一
一九八〇—八四	九八五・五	六三〇・七	三三・一	一二六・九	一二六・九	一二六・九	三七二・一
一九八五—八九	一〇〇二・六	六四一・七	三三・一	一二八・九	一二八・九	一二八・九	三七八・一
一九九〇—九四	一〇一九・七	六五二・七	三三・一	一三〇・九	一三〇・九	一三〇・九	三八四・一
一九九五—九九	一一一六・八	六六三・七	三三・一	一三二・九	一三二・九	一三二・九	三九〇・一
一九〇〇—〇四	一一三三・九	六七四・七	三三・一	一三四・九	一三四・九	一三四・九	三九六・一
一九〇五—〇九	一一五〇・〇	六八五・七	三三・一	一三六・九	一三六・九	一三六・九	四〇二・一
一九一〇—一四	一一六七・一	六九六・七	三三・一	一三八・九	一三八・九	一三八・九	四〇八・一
一九一五—一九	一二〇四・二	七〇七・七	三三・一	一四〇・九	一四〇・九	一四〇・九	四一四・一
一九二〇—二四	一二二一・三	七一八・七	三三・一	一四二・九	一四二・九	一四二・九	四二〇・一
一九二五—二九	一二三八・四	七二九・七	三三・一	一四四・九	一四四・九	一四四・九	四二六・一
一九三〇—三四	一二五五・五	七四〇・七	三三・一	一四六・九	一四六・九	一四六・九	四三二・一
一九三五—三九	一二七二・六	七五一・七	三三・一	一四八・九	一四八・九	一四八・九	四三八・一
一九四〇—四四	一二八九・七	七六二・七	三三・一	一五〇・九	一五〇・九	一五〇・九	四四四・一
一九四五—四九	一二九六・八	七七三・七	三三・一	一五二・九	一五二・九	一五二・九	四五〇・一
一九五〇—五四	一三一三・九	七八四・七	三三・一	一五四・九	一五四・九	一五四・九	四五六・一
一九五五—五九	一三三〇・〇	七九五・七	三三・一	一五六・九	一五六・九	一五六・九	四六二・一
一九六〇—六四	一三四七・一	七八五・七	三三・一	一五八・九	一五八・九	一五八・九	四六八・一
一九六五—六九	一三六四・二	七九六・七	三三・一	一六〇・九	一六〇・九	一六〇・九	四七四・一
一九七〇—七四	一三八一・三	八〇七・七	三三・一	一六二・九	一六二・九	一六二・九	四八〇・一
一九七五—七九	一三九八・四	八一八・七	三三・一	一六四・九	一六四・九	一六四・九	四八六・一
一九八〇—八四	一四一五・五	八二九・七	三三・一	一六六・九	一六六・九	一六六・九	四九二・一
一九八五—八九	一四三二・六	八四〇・七	三三・一	一六八・九	一六八・九	一六八・九	四九八・一
一九九〇—九四	一四四九・七	八五一・七	三三・一	一七〇・九	一七〇・九	一七〇・九	五〇四・一
一九九五—九九	一四六六・八	八六二・七	三三・一	一七二・九	一七二・九	一七二・九	五一〇・一
一九〇〇—〇四	一四八三・九	八七三・七	三三・一	一七四・九	一七四・九	一七四・九	五一六・一
一九〇五—〇九	一五〇〇・〇	八八四・七	三三・一	一七六・九	一七六・九	一七六・九	五二二・一
一九一〇—一四	一五一七・一	八九五・七	三三・一	一七八・九	一七八・九	一七八・九	五二八・一
一九一五—一九	一五三四・二	九〇六・七	三三・一	一八〇・九	一八〇・九	一八〇・九	五三四・一
一九二〇—二四	一五五一・三	九一七・七	三三・一	一八二・九	一八二・九	一八二・九	五四〇・一
一九二五—二九	一五六八・四	九二八・七	三三・一	一八四・九	一八四・九	一八四・九	五四六・一
一九三〇—三四	一五八五・五	九三九・七	三三・一	一八六・九	一八六・九	一八六・九	五五二・一
一九三五—三九	一六〇二・六	九五〇・七	三三・一	一八八・九	一八八・九	一八八・九	五五八・一
一九四〇—四四	一六一九・七	九六一・七	三三・一	一九〇・九	一九〇・九	一九〇・九	五六四・一
一九四五—四九	一六三六・八	九七二・七	三三・一	一九二・九	一九二・九	一九二・九	五六〇・一
一九五〇—五四	一六五三・九	九八三・七	三三・一	一九四・九	一九四・九	一九四・九	五六六・一
一九五五—五九	一六七〇・〇	九九四・七	三三・一	一九六・九	一九六・九	一九六・九	五七二・一
一九六〇—六四	一六八七・一	一〇〇五・七	三三・一	一九八・九	一九八・九	一九八・九	五七八・一
一九六五—六九	一七〇四・二	一〇一六・七	三三・一	二〇〇・九	二〇〇・九	二〇〇・九	五八四・一
一九七〇—七四	一七二一・三	一〇二七・七	三三・一	二〇二・九	二〇二・九	二〇二・九	五九〇・一
一九七五—七九	一七三八・四	一〇三八・七	三三・一	二〇四・九	二〇四・九	二〇四・九	五九六・一
一九八〇—八四	一七五五・五	一〇四九・七	三三・一	二〇六・九	二〇六・九	二〇六・九	六〇二・一
一九八五—八九	一七七二・六	一〇六〇・七	三三・一	二〇八・九	二〇八・九	二〇八・九	六〇八・一
一九九〇—九四	一七八九・七	一〇七一・七	三三・一	二一〇・九	二一〇・九	二一〇・九	六一四・一
一九九五—九九	一八〇六・八	一〇八二・七	三三・一	二一二・九	二一二・九	二一二・九	六二〇・一
一九〇〇—〇四	一八二三・九	一〇九三・七	三三・一	二一四・九	二一四・九	二一四・九	六二六・一
一九〇五—〇九	一八四〇・〇	一〇一〇・七	三三・一	二一六・九	二一六・九	二一六・九	六三二・一
一九一〇—一四	一八五七・一	一〇二一・七	三三・一	二一八・九	二一八・九	二一八・九	六三八・一
一九一五—一九	一八七四・二	一〇三二・七	三三・一	二二〇・九			

瀋洲……人口・住民

1908
1909
1910
1911
1912
1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920

Table of population and residents for various regions (e.g., 南オーストラリア, 西オーストラリア, タスマニア, 北方直轄, 聯邦直轄, 全瀋洲) from 1908 to 1920.

3、年齢別人口

年齢別状態及増加数表

Table showing age distribution and population changes for 1921 (National Survey) and 1933 (National Survey). Columns include age groups (1-99), sex (男/女), and population counts.

4、動態人口

出生分娩数表

Table of birth and delivery statistics, categorized by region (e.g., ニューサウスウェールズ, トリア, クイーンズランド, 南オーストラリア, 西オーストラリア, タスマニア, 北方直轄, 聯邦直轄, 全瀋洲) and type of birth (普通出生, 双生, 計).

瀋洲……人口・住民

出生数連年対照表

1909

Table of birth statistics for 1909, including counts for various regions and categories like 正式結婚の母の分娩 and 非正式結婚の母の分娩.

濠洲……人口・住民

オランダ	不明	不明	不明
エストニア	不明	不明	不明
フィンランド	五七	三七	五五
フランス	一三二	八六	二一〇
ドイツ	一三三	一〇七	二四〇
ギリシャ	一四〇	三九	一七九
イタリア	三九八	九一	四八九
日本	一四八	一五〇	二九八
ポルトガル	三五	六五	一〇〇
スペイン	一六五	一四九	三一四
スウェーデン	四〇	一四〇	一八〇
スイス	一三九	八〇	二一九
アメリカ	一五〇	七三	二二三
イギリス	一六八	一〇七	二七五
不明	一六五	五八	二二三
計	二七六二八七〇	二六七二六六四	五四三五七三三

在留民産業別従業員數表

産業別	一九二二(國勢調査)		一九三三(國勢調査)		同上比較
	男	女	男	女	
漁業	一〇六七一	八一	一五七〇	四一	五〇三九
農業(牧畜・酪農共)	四七二、四六〇	九八九五	五二八、五四四	一九六三三	六六、七八七
山林業	三〇、九一	八九	三〇、二〇〇	一五	一、四一七
山採掘業	六六、五二四	二四二	六六、三三七	一九三	一、五五〇
鑛業	三三六、八四七	一八七、七二七	三三三、四三三	一六〇、七二七	六六、九三三
建築業	九四、八七八	三九	一〇七、七二九	四〇	一、二四七
計	一、〇六三、一	一、〇七三、一	一、一五七、〇	一、一六六、三	一〇、七二七

道路・土木工事
其他
總産業従業員計
(産業従業員大別)

交通・運輸業者	一〇〇、三三三	七、一三四	二〇七、七三七	一一、七三二	二、六二五
商業・金融業者	三三八、五九五	七、一〇三	三三〇、六七八	三三、八八三	一、〇四九
官吏・教員	一三三、三三四	八、三九五	一三三、三三三	一〇、一七〇	一、一三三
料理屋・演藝場員	一五、一七	一、三三三	一七、八三〇	一、四〇三	一、一三三
家事被服員	四九、九三四	一、五八八	七〇、九八四	一、五五五	一、一三三
不明のもの	五〇、一五	一、二九九	六、一四四	一、一〇三	一、一三三
恩給生活者	不明	不明	不明	不明	不明
全生計者	一八八、二六二	四、六八〇	二二四、九六二	九、九三三	三、五五五
家族計者	八八〇、一八	二、一〇五、八七五	三〇八、六〇三	九、九三三	三、五五五
計	二七六、二八七〇	二六、七二六六四	五四三、五七三三	三三、六三二	一、一三三

第二節 住民習俗

既述の如く、五萬五千人と推算せられる濠洲の原住民は種族としては最古のもので、裸體民族であり、鼻に針を刺し、ブイメラン踊をなす。知識が極めて低く、家屋は全く粗造である。之に反して、白人・濠洲人は白濠主義が徹底し生活程度の高い農牧の民であり、その天産物は常に豊富であつて、資本家は元より労働者に至るまで全く恵まれた経済状態に在る國である。

一般の趣味は舊イギリス流からして現時ではアメリカカニズムの影響に動かされてゐる。思想的傾向は殆どなく完全に植民地気分である。

スポーツは國人の最も愛好するところである。總ての有色人種を排撃して白人濠洲を固執し排日新聞も多く、労働記事とスポーツ記事が新聞紙の中心問題となつてゐる。殊にこの國の風俗を明白に反映してゐる。

濠洲……人口・住民

又奇とするに足るのは平民主義の徹底してゐることからして、外國の貴顯紳士がこの國を訪れても大した名譽とも思はず、有難しともせず大した歓迎もしない。先年英國皇太子が訪問せられたときでさへ、一般は何等の感激もせず大した印象をも残してゐない有様であつた。

濠洲のスポーツ熱は全国的に非常に旺盛である。労働時間の厳格なる制限の爲に、運動に對する時間が十分あり、總ての階級が何等の差別もなく、クリケット・蹴球・競馬等に打興じ熱狂するのである。

日曜日に男女は相手を求めて、又は一家擧つて郊外にドライブする。スポーツに打興じる。濠洲人の生活にスポーツは仲々大きな部分を占めてゐる。

ゴルフ・水泳・乗馬・クリケット・ラグビー等々、中でもテニスは大出でてゐる。デビス杯を獲得してゐる。シドニーの附近であれば、ヨット、プリズペンであれば「大浪乗り」、ウイクトリア州ホーサム山ではスキーが流行する。月曜日の新聞は日曜日のスポーツの記事と、其週の

「催し物」の記事で大半を埋めてゐる。戸外のスポーツには斯くまで熱狂するが、屋内での遊戯は餘りやらない。「頭腦の遊戯は面白くない」とするのが一般の考へ方の様である。氣候が快適で、資源が豊かで、生活に悩まされる煩勞が少いので、濠洲人が樂天的に、又享樂的になつたことは首肯が出来る。

氣候が佳くて自然の風光も秀水、資源に悩みもなく、従て精神的苦悶が無いから宗教も表向きで内實は無用視されてゐる。この様な環境に育成されてゐる社會一般の風尚はどんな状態であるかと云へば、次のやうな觀察が下され得る。

第一には、完全なるデモクラシーの國である。經濟的な關係から上下の區別はあるものゝ夫等は階級別を付けるべき程の差別感でなく、他の國にあるやうな舊歴史の史實からする傳統・因襲・門閥・傳來の財産といふものがない。只英國皇帝に對して共通の忠順を盡すといふことで結合してゐるのであり、政治は軍事・外交を除いては自らが行ふ自治領である。この政治的温床に育成し來つた社會であるから自らデモクラシーとなり、労働組合が發達し、最低賃金が定められ、失業保険・養老年金が實施され、労働調停裁判所が常置される等々社會立法は十二分に發達してゐる。

第二に、人間の氣質が一般に「大まか」「鷹揚」で凡ゆるものについて、平凡で中庸……中等度……のものを用ひとしてゐる。之は英國民族の血の特色であつて、道徳でも行儀作法でも知識學問でも、將又藝術にしても、唯中庸を尊び、激情を避けるのである。身分相應に父祖の業を守り、學校に入學するにしても、大學等は特別の人の行く所であつて、一般は中等程度の實業學校又は専門學校で十分だとする。その代りに圖書館・美術館・水族館・動植物園といった社會教育施設は非常に發達してゐる。例へばシドニーのタロンガ動物園やメルボルンの植物園は世界的に有名であり、シドニーの博物館に至つては、太平洋民族研究の唯一最高の研究室と言はれる迄に資料が充實してゐる。一般の起居は朝目醒めて先づコーヒー、十一時に朝茶として二片れの大ビスケット、十二時から二時までが晝休み、夕方四時にお茶、七時に晚餐、夫から夜の外宴や映畫館行となり、十二時に夜食をして臥床、概

して非常に大食の風がある。之も鷹揚な一面と見られ得る。

第三に快樂を追求することに相當なものがある。自然の物資が豊かで夫に社會立法の完備で、生活必需品は比較的安く、氣候は温和で疾病が少い。是等は自然に人間を現世的にならせ、快樂を追求するに餘念なきものたらしめる。労働は一日に八時間、時には一週四十時間で工場は午後五時に門を閉じ、役所や學校は土曜日・日曜日を休む。小賣商も藥屋・八百屋以外の營業は午後六時に閉店、金曜日又は九時迄の開店、夫で、土曜日・日曜日は凡ゆる家庭が一家揃つて野へ山へ海へと自動車で行例をつくる。シドニーの郊外だけでゴルフ場が七十餘箇所あるに見てもその盛況振りが察せられる。

併し宛ら天國の様に見える此の濠洲の社會生活にも反面には厭ふべき弊害が不知不識の裡に醸成されてゐる。先づ道徳の頹廢がある。生活の峻厳さが無い。出産奨励金を出すに拘らず、人口の増加率は極めて低い。讀物が一體に低級で、社會的噂話に終始して崇高な精神的苦悶がない。中等程度の知識に甘んじて他の世界の偉大さを知らない。斯る生活も經濟的に樂な間は缺陷を感じないが、第一次歐洲大戦中に興つた第二次産業を保護する爲に高度の保護關稅をかけて、國內の物價を高く維持することに努めた。又労働組合と社會立法の力とによつて農業労働者でさえ一週平均六十六志(一志は約五十錢)といふ高賃金を維持したが、戦後の不況と、一九二八年以後の世界恐慌によつて失業は俄然増加し、社會的出費は加速度に増した。是等の國民的支出を賄ふところの羊毛・小麥・その他の農牧業は價格の低下によつて益々困難となる。金の輸出による均衡策も効果がなく、英本國での借款も徒に赤字濠洲を調はれて調達の不能となつては、國民生活の程度を低めて緊縮を勵行し、均衡を計る外に途はない。而も労働組合はかゝる方策には絶対に反對する。賃金切下げか、生産力の増加か、労働力の増加の爲には技術を進歩させ機械を利用する合理化によるか、労働力を増加させねばならない。合理化には資金が要り、労働力の増加の爲には、勤勉なアジア人労働者を入國せしめねばならない。然し夫は白人濠洲主義と相容れないこととなる。この進退兩難の窮況に退はれつゝあるのが、最近までの濠洲の苦悶の姿である。

第四章 宗教・教育・文化・社會及衛生

宗教—教育(概説)—統計—文化(新聞—學術其他)—社會(民族關係—階級關係—民族運動—労働階級—社會政策—友愛團體の活動)—衛生

第一節 宗教

濠洲の七百萬に上る住民の内、殆ど總てが英人によつて占められてゐる。従て、その宗教は完全にキリスト教であつて、就中最も勢力あるのは新教のイギリス監督教會であつて、又天主教も相當の勢力を持つてゐる。その理由はイギリスから濠洲への移住者の中にはアイルランド人が多いことに依るのである。然し概觀的に言つて今日の濠洲の國民は概して宗教的でない。一體、從來多少共宗教趣味の濃化から日曜日毎の教會

禮拜其他が殷盛を極めてゐる様に見えるが、この教會の繁盛振りは眞の宗教の法悦を求めると云ふのではなく、單なる社交場の一つとして教會が役立つてゐることが證せられてゐる。夫は自動車普及から郊外にドライブすることが出来る様になり、いつとはなしに教會禮拜は肅然たる淋しさに返つて仕舞つたことが、此の間の消息を雄辯に物語つてゐる。所謂濠洲人に取つては、現世界の現象そのまゝが安穩の樂土であり、強いて未來の世界に何等かの憧憬を求めねばならないのである。實際に現時の教會の勢力は極めて衰へてゐる有様である。

各宗派別信徒數表

(原住種族を除く)

宗派別	一九二二(國勢調査)		一九三三(國勢調査)		計	同上比較
	男	女	男	女		
バプテスマン教會	49,194	56,599	58,110	108,628	108,628	100
プロテスタント教會	5,433	6,531	10,031	10,031	10,031	100
ギリシア正教	3,988	1,434	5,422	5,422	5,422	100
ローマ正教	56,510	58,893	113,403	113,403	113,403	100
其他カトリック	110,011	18,577	128,588	128,588	128,588	100
キリスト教	110,011	18,577	128,588	128,588	128,588	100
英國教會	1,111,741	1,140,711	1,140,711	1,140,711	1,140,711	100
組合教會	39,911	39,911	79,822	79,822	79,822	100
メソジスト教會	31,077	22,892	53,969	53,969	53,969	100
その他	30,675	35,844	66,519	66,519	66,519	100
計	1,922,000	1,922,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	100

3 其他社會教育施設及經費

王立協會事業內容表 (特殊機關) (一九三八年)

主要事項 (年號)	シドニー	メルボルン	ブリスベーン	アデレード	パース	ホバート
創立年	一八六六	一八五四	一八八四	一八五三	一九一三	一八四三
職員數	二七五	二〇三	二〇三	一四五	一七一	二二五
出版物數	七一	七九	七九	六一	七一	七一
圖書館の藏書數	三六、〇〇〇	一八、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	四、八〇〇	一九、二六七
圖書交換團體名簿記載の團體數	三六一	三三七	三三〇	三三〇	二六九	二七五
圖書交換團體名簿記載の團體數	一三、四二二	七、八九	一、五八	五、四五	二、六七	二、七五
支入 (磅)	八、九八	七、四六	一、九五	七、四二	三、四九	二、六〇
支出 (磅)						

州(首都)公立圖書館藏書數表

市名	備付圖書		定期貸出圖書		地方貸出圖書		計
	數	單位	數	單位	數	單位	
メルボルン	116,400	冊	10,000	冊	全濠圖書館の求めに應じ貸出中	冊	126,400
シドニー	101,100	冊	79,500	冊	86,600	冊	180,600
ブリスベーン	80,400	冊	8,000	冊	7,500	冊	87,900
アデレード	18,300	冊	1,000	冊	1,000	冊	19,300
パース	15,100	冊	1,000	冊	1,000	冊	16,100
ホバート	36,000	冊	8,000	冊	26,000	冊	44,000
内、兒童圖書			20,000	冊	20,000	冊	20,000

州別教育・科學・藝術經費額表 (一九三七—三八年)

州別	經費 (豫算)		計	収入	經費實額
	受入額	公債			
メルボルン	5,111,333	5,072,333	10,183,666	11,189,7	5,111,333
シドニー	5,111,333	5,072,333	10,183,666	11,189,7	5,111,333
ブリスベーン	5,111,333	5,072,333	10,183,666	11,189,7	5,111,333
アデレード	5,111,333	5,072,333	10,183,666	11,189,7	5,111,333
パース	5,111,333	5,072,333	10,183,666	11,189,7	5,111,333
ホバート	5,111,333	5,072,333	10,183,666	11,189,7	5,111,333
全濠洲	11,111,333	11,111,333	22,222,666	22,222,666	11,111,333

第三節 文化

一新聞

初めて濠洲に新聞が發行されたのは一八〇三年で、シドニー・ガゼット紙 (Sydney Gazette) である。この發行者はジョージ・ホーなる放免された囚人であつた。當時第一流の文筆者は皆ジャーナリズムに關係し、官憲の檢閲を免かれて自由なる新聞を作つた。新聞人は皆激しい闘争を敢行せねばならなかつた。オーストラリア紙の創始者ウィリアム・チャールズ・ウェントワース (William Charles Wentworth) 及びリチャード・ウォードル (Richard Wardell) の兩人は新聞道に大いなる貢獻をなした。彼等は思想及評論の自由の爲、總督ダーリング (Darling) と闘つて勝つたのである。一八三一年にシドニー・ヘラルドが現はれた。この新聞は政治的及官僚的制約を受けることなく全く開拓者の利害の爲に苦闘した。一八三八年、このヘラルド紙は現在のシドニー・モーニング・ヘラルド紙であつて、依然として榮えてゐる。

濠洲の初期の編輯者の中には多くの牧師が居り、その學識と勤勉とは幼稚な新聞を育て上げるのに非常な貢獻を爲した。

一八三三年バー・ガゼット・アンド・ウェスターン・オーストラリアン・ジャーナル紙が現はれ、五〇年續刊して現在もウェスト・オーストラリアン紙として聲價を維持してゐる。

ジョン・バットマン (John. Batman) と共にメルボルンの共同創始者

濠洲……宗教・教育・文化・社會及衛生

とされてゐる。ジョン・パスコ・フォークナー (John Pascoe Fawcett) は一八四〇年デーロング・アドバタイザー紙 (Geelong Advertiser) を發行した。

數年後にはウイクトリアの大新聞アークス (Argus) が現はれた。西オーストラリアはトーマス家が新聞界に乗り出し、サウス・オーストラリア・ガゼット・アンド・コロニア・レジスター紙を發行した。この新聞は後に今日の西オーストラリア第一の新聞アドバタイザー紙に合併された。一般に濠洲の新聞は活動的で進取の氣象に富んでゐる。

濠洲の首府で發行されてゐる日刊新聞の數は各二十種以上あり、全濠洲聯邦を通じて二百以上も發行されてゐる。

濠洲の新聞の中著名なもの約三〇を數へるが、労働黨系のもものは數種に過ぎない。概して國民黨系のものが多い。労働黨政権時代には労働黨機關紙以外の各新聞は總て政府に反對するが、他の政権の場合には一般の新聞は彼等の態度を、その金融的・産業的・財政的見解によつて決定する。即ち労働黨右派、味方するエイジ紙 (Age) 及急進自由主義を唱導するビュレット紙 (Bulletin) は保護貿易主義の色彩が極めて濃厚である。之に反し國民黨系の保守的なシドニー・モーニング・ヘラルド紙 (Sydney Morning Herald) は自由貿易主義に賛成してゐる。其他の問題に於ては各新聞は各々の見解に従つて政府を支持し又は反對してゐる。

今主なる新聞を挙げると次の如くである。

新聞名	發行地	特	徴
Advertiser	アデレード	國民黨系、保守的、西オーストラリア最高の發行高なり	
Age	メルボルン	獨立	
Argus	同	國民黨系、保守的	
Herald	同	國民黨系、自由主義的	
Sun News	同	保守的、濠洲最古のもの	
Sydney Morning Herald	シドニー	保守的、週刊紙	
Australasian	メルボルン	保守的、週刊紙	
Weekly Times	同	繪入週刊紙、發行部數多し	
Bulletin	シドニー	急進自由主義的週刊紙、全濠洲に普及	

二 學術其他

一 學術

一國が傳統を打破し、又は新しい独自の開拓を爲して藝術の世界に一派を生み出すには相當な時日が必要である。濠洲は植民の日が淺いで古い傳統を有する舊世界の藝術の型から脱却するのは仲々に困難である。しかし漸く國民文學・國民藝術は萌え出て來た。濠洲の最初の五十年、地方文學活動はジャーナリズムの世界に限られて居り、重厚なる文學は絶えず英國から齎されてゐた。一世紀を越えた頃から初めて、南十字星下の新天地について書かれ始めた。

詩人チャールス・ハーバー(Charles Harpur)は一八一三年に生れ、一八六八年に歿したのであるが、其の著「入江の四つの墓」なる作によつて濠洲叢林の美を文字で描いた。同時代にリチャード・ハンリー・ホーン(Richard Henry Horne)は當時の黄金熱に捲き込まれて大陸に渡來したのであるが、物語詩「オリオン」を濠洲文學に寄與した。尚ハンリー・ケンダル(Henry Kendall)がある。濠洲の生活と風景との描寫に見るべきものがある。

初期の濠洲文學に於て最も著名なのはアダム・リンゼイ・ゴルドン

(Adam Lindsay Gordon)である。彼は一八六七年詩集「浪の花と漂ぶ煙」を出し、續いて「藪小唄と奔馬の詩」を出した。ゴルドンの後繼者の中では、ブレット・ロビンソンと呼ばれるジェームス・フランプトン・ステファニス(James Brunton Stephens)とハンリー・ロビンソン(Henry Lawson)が挙げられる。ロビンソンは一九二二年に歿したが、その愛國詩は濠洲國民詩人と稱揚されてゐる。

ジョン・ファレル(John Farrell)ビクター・デーリー(Victor Daley)クリストファー・ブレナン(Christopher Brennan)バーナード・オドワード(Bernard O'Dowd)等の濠洲詩人達も亦文學的名譽を得てゐる。

2 歴史傳記

詩に次で濠洲文學の特色をなすものは歴史と傳記との述作である。ウィリアム・チャールス・ウエントワース及南オーストラリア建設に深く關係のあつたエドワード・ギボン・ウエークフィールド(Edward Gibbon Wakefield)の二人は移民・植民・開拓等の著書を出し、この方面の研究の代表的なものとなつてゐる。一八三四年にジョン・ダンモア・ラング(John Danmore Lang)はニューサウスウエールズ史を出し、一八八三年には、ジョージ・ウィリアム・ラスデン(George William Rusten)の「オーストラリア及ニュージーランド史」が現はれた。

3 小説

濠洲にはさしたる小説はないが、マークス・クラーク(Marcus Clark)の「自然生活の限界」(For the Term of His Natural Life)は傑作である。

濠洲の移民小説の白眉はジョツフレイ・ハムリン(Geoffrey Hamlyn)で筆者はハンリー・キングスレーである。

ロルフ・ボールドウッド(Rolf Boldrewood)一別名トーマス・アレキサンダー・ブラウンの手になる武装強盜(Robbery Under Arms)は最も有名な叢林地匪賊物語である。他に「牧人の夢」「坑夫の權利」の著もある。短篇小説は濠洲文學者の得意の形式で詩人ハンリー・ロビンソンは牧夫

で、農夫で、坑夫であつたが、この叢林物語によつて、多くの崇拜者を作つた。ジョージ・ルイス・ベック(George Lewis Becke)は「南太平洋物語」で有名となつた。彼の「暗礁と棕櫚の側に」も偉れた作品である。

最近の作家にはバーバラ・ベイントン(Barbara Baynton)があり、「叢林研究」で知られ、ヘニス・ガン(Aeneas Gunn)夫人は北オーストラリアの僻遠地の生活を巧に描き、シー・ヘー・ペーン(G. A. Pain)は「ダーリング河上の戦艦」に於て、理想主義的作品を作つた。

文藝批評界に於ても卓越してゐるのに、ギルバート・マレイが居る。彼はシドニー生れで、十一歳で濠洲を去つたものである。

戯曲に於ては、軽い喜劇は相當出て居るが、傑作といふべきものはない。

濠洲文學の進歩のためには、各州政府は凡ゆる獎勵を行つてゐる。傑出した教育制度のこの政府の獎勵とで、大抵の濠洲人は讀み書きが出来る程度に達してゐるし、公立圖書館は完備充實してゐて、作家たる機会に恵まれてゐる。

4 美術

植民の早期時代は美術はヨーロッパの傳統に固く結びつけられてゐるが、新しい天地、清新な風光、新しい生活環境は人々の心を打つて新しい美術を生んだ。

濠洲美術史は濠洲開發史の第一頁から始まつてゐる。最初の遠征軍艦ウィルファスター號乗組のウィリアム・ブラッドレイ(William Bradley)少佐はボタニー灣上陸の光景を描いて後代に傳へた。又ジョージ・ラッパも同じく其の時の艦隊の有様を描いた。

黄金熱で社會が富裕になつた時美術史の中期に顯はれた畫家はルイ・ブペロー(Louis Buvalot)で風景畫を残してゐる。

一八八七年のトム・ロビンソン、次でアーサー・ストリートン(Arthur Streeton)は印象派的畫風で一派を興した。ストリートンは現在尙雄渾な筆を振つてゐる。

此の外、ユーカリ樹の畫で、名高い南オーストラリアのハンス・ヘインソン(Hans Heyson)や、ハロルド・ハーバードの名も挙げられる。肖像畫ではロングスタッフ、マックス・メルドラム、ラムベルト、クエン、コージェイ等がある。

尚ノーマン・リンゼイ(Norman Lindsay)のエッチングは英國で人氣を博した。

5 彫刻

彫刻界に於る第一人者はバートラム・マツケンネルである。彼は今では世界的名聲を獲得した。又レイナー・ホーフ、ダブリュー・ギルバート、ボル・モントフォード等も有能な人々である。濠洲政府當局は美術獎勵に全力を盡してゐる。シドニーには立派な國民美術館があり、各派の作品を網羅してゐる。メルボルン及シドニーの二箇所には常に展覽會が開かれ、應募者が多い。テート美術館(Tate Gallery)は英國・印度・南アフリカの諸陳列品を多く所蔵してゐる。

6 音樂

濠洲は音樂も相當の水準に達してゐる。

ヴィクトリア生れのメルバ夫人(Madam Melba)の名は高い。パーシ・グレインジャー(Percy Grainger)及ジョージ・ボイル(George Boyle)も濠洲人の音樂に才あることを證してゐる。

7 科學

科學界に於ては多くの研究團體があり、研究と實驗に當り、獨創的な研究が濠洲人によつて爲されてゐる。特に地質學・人種學・生理學・發生學に於て顯著である。天文學・醫學・地理學・動物學・氣象學を初め、礦業・農業・林業等々を含む諸科學も極めて有望なる將來を持ち、優秀な業績を擧げてゐる。

第四節 社會

社會構造を概説すると、有職人口の職業別は一九三一年の國勢調査に

よれば、最大なのは工業人口であつて全職業人口の三一・二%を占める。之に次ぐものは二二・九%の農牧業及漁業である。濠洲の國民經濟に就て見れば、大體により多く農牧業に依存してゐるのであるが、工業人口の農牧人口より多いのは濠洲の農牧業が割合に人力を要しない、牧畜を主としてゐるからである。

前二者に次ぐものは商業人口の一五・三%であつて、其の他家庭従業者の九%、食糧運輸業の同じく九%を主要なるものとする。

又濠洲に於て女子の職業戦線に於る活躍は自覺ましく總有職人口の約二割を占めてゐる。

職業別人口 (一九二二年國勢調査)

職業別	男	女	計	百分比
農 業	五三・八	一〇・一	五三・九	三三・九
牧 業	六六・五	〇・二	六六・七	二二・九
漁 業	六〇・七	一・八	六二・五	三二・二
工 業	二七・三	七・七	三五・〇	二一・三
商 業	四七・六	〇・八	四八・四	二一・一
海 運	一五・二	六・四	二一・六	一・一
其他運輸業	九・九	〇・三	一〇・二	〇・四
軍 隊	三三・〇	四・六	三九・六	一・七
官 廳	七六・六	七・九	八四・五	六・五
自由職業	五〇・〇	一・〇	五一・〇	九・〇
被 雇 人	二二・五	三・三	二五・八	一・一
其 他	一八・六	四・九	二三・五	一・一
計	一八六・一	四九・九	二三六・〇	一〇〇・〇

因に當時の人口は五、四三五、七三〇人であつた。

一 民族關係

全人口の九九%迄は歐人で、就中英系住民が大部分で九割以上を占めてゐる。原住民族たる濠洲原住民は白人の移住以來、非常な迫害を受け

る自然主義者であり、生活に必要な凡ゆる種類の獲物を求めるのに極めて原始的な武器を以て巧に用を便する。彼等の有つ氣性や自然に對する知識は近代の天文学も冷笑する事は出来ないと思はれてゐる。その社會組織は非常に錯雜したものであるが、彼等同種族間の道徳的標準はよく維持されてゐる。

この種族に對し「保護の必要無く、自然の衰滅に委すべし」とする政界大勢の意圖に對し濠洲在住の一部の宣教師はその保護・輔導を唱へて居る。即ち「近來の原住種族は肉體的にも健康的にも敗退しつつある、此の傾向は彼等が歐洲系移住民との接觸を始めるようになってからである。眞に文明國たりと言ふには先住民の幸福を考へねばならぬ。文明人士の再考を望むや切である」云々。

元來原住種族は放浪民族であつて同じ場所に定住しない。この習性を取り上げて保護・施設をすることに反對する人々が多いのであるが、教へて保全奨励する必要があるとするのは短見である。今この民族の残されてゐる生存の唯一の方法は真地へと移ることの外はないので、一部宣教師や人類學者等はこの方法でこの衰滅人種の絶對保護を聯邦政府に要望してゐる。先年米國のロッグフェラー財團からの視察者も「若し吾々が原住種族の有する道義により判斷するならば彼等の智能程度は吾々より左程に劣るとは思はれない。吾々の教育標準から判斷しても吾々よりほんの一步だけ背後に在るに過ぎない」と稱した。事實、原住種族は自分達の放浪する地方に關して持つ自然知識は頗る豊富なもので、彼等は優れた食糧蒐集人種であり、誠に非凡な漁師であることは既に立證されてゐる。而も彼等は先天的に鋭い視力を以て獲物の有無を即座に觀察する事は歐洲移民の到底及ぶ所でない。

最近に至り聯邦政府は主として北部地方に散在する本種族の保護策に關し努力を拂ふと言明してゐるが、實際に積極的の保護に乗り出したのは宣教師で、先づ駱駝によつて交通網を確立し、井戸を掘り清水を興へ、病院を創設し施薬を徹底するといふ様な計畫を選んでゐる。

現在では非常に減少して正確な數は不明なるも約六萬位に過ぎない様である。

其の他に日本人及支那人も多少は居住してゐるが、所謂白濠主義の下に移住禁止となつてゐるから新入國は不可能である。濠洲の人口約七百萬の殆ど總てが白人であり、その白人の九割以上が英系住民であるため民族問題に就ての困難は先づないと言つてよいのであるが、先住民族である原住民に對しては、その絶滅に瀕する迄に至つた過去に就て反省を求めざるが上つてゐる。原住民に對する一般濠洲人の態度は人間味のある人が動物に對する位の冷酷さであると評されてゐる位である。この原住民は普通アボリジニス族即ち原住種族と稱せられてゐるが、之は現存人種と同じ世界最大の人間と見做され、その始祖發生起源も或は三萬年と數へられてゐる。精神的・物質的に殆ど昔の儘で新西蘭諸島に於るマオリ族のやうな進歩的原住民とは比較にならない。今日の濠洲白人は年約七、八圓納税して地方政廳の許可を得て置けば、多少の報酬を與へることによつて原住民を幾人でも使用出来るやうになつてゐる。勞働賃金はイギリス本土よりも遙に高率であると言はれる。濠洲内で居て一日約五十錢位、又最小限度の粗末な食糧を給與さへすれば勞銀は必要でない。一七七〇年英領土となつて歐洲移民の來住し始めるまでは原住民は總數約百萬人であつた。夫が歐洲濠洲人七百萬人の現在では殆ど滅亡に近い六萬位に減つた。此の原住民達は未だ棲む家さへ持たず食物も大體に虫類・爬虫類が多い。夜は柴で簡單な風よけを作り傍に焚火をしながら裸體のまま寝入る。

例へば昔の喰人性は十分に矯められたとはいへ、この焚火就寝の習性は改められてゐない。老ひたる者は政府の手で小屋に收容され保護される。之は文明國に於る養老院に擬せられるものである。この原住種族が家畜類を盜食する場合は可なりに重い處刑が規定せられ、笞打は官許の私刑と稱せられる。然し乍らこの原住種族は或る點よりみれば世界に冠た

グリツフィス・テラーの「人種學」の原理から觀ると、是等濠洲原住種族(アボリジニス族)は人種進化の中心地を最も遠く離れて移動したものである。工藝學の見地からすれば原住種族の生活様式は舊石器時代相を帯びてゐるから、ハットン博士は人種學的に濠洲原住民を考察して次の如く云つてゐる。

「この系の人種は多くの原始的特質を帯びてゐる。その頭骨は特に注意に値するのであるが、夫の低い型は人種的衰頹に基いてゐると見られる」と。

原住種族の頭骨がネアンデルタル化石に似てゐるのは第二次的のものである。クインズランド州で發見したタルガイ頭骨は原濠洲人と呼ばれるが著しい人種的特徴をもつてゐる。その犬齒が既知の人類の夫に比べて最大である。この頭骨の出た化石層からは現在種の有袋類の化石も出て共に絶種のものとしてされてゐる。ジャワのワジャツタに於ても、之と似た頭骨が發見せられてゐるから、是等の極めて古いものであることが判明する。この型の人種は多分タスマニア原住種族から來たもので、この先住者は當時濠洲に住んでゐたが、渡來者のために一部は驅逐せられ、一部は同化した。然るに其の後バス海峡が出來た爲に濠洲民はタスマニアに入る事が出来ず、兩型に各々が孤立し、固着して變化した。

濠洲原住種族には通じて體型に一般的類似があり、同時に若干の差異もある。移住人種との混血の證據は見出されないが、太古に羊狀毛種の影響を受けたことは明かである。それ故に濠洲原住民が濠洲に到着して以來、人種移動といふものはなかつた。勿論外部から文化の波は押し寄せて來たが、夫を齎したものは濠洲原住種族の體質を變化せしめる程の力をもつてゐなかつた。

濠洲原住種族の體質的特徴は肌色が濃いチロレット色で、身長は平均一・六七米、毛髪は縮毛或は波狀毛で、頭形は狭長で、示數は生髮に於て七四・五、頭骨に於て七一・二を示し、鼻は扁廣で、鼻梁は凹み、鼻根は深くて薄く、唇は厚く凸出してゐる。

濠洲大陸と一衣帯水のタスマニア島に住んでゐる原住種族は濠洲原住種族と並記されるのが常であるが、體質や文化から云ふと、寧ろメラネシア人に近い。その言語は漆着語であり、接頭語と接尾語をもつてゐるが、之はメラネシア語や濠洲語とは縁が遠いのである。その身長は一、六六米で、顔は斜頸であり、頭形示数は七六乃至七七を示し、鼻は扁廣である。毛髪は縮れて居り、この種族は絶滅してゐる。

二 階級關係

濠洲に於る階級關係は封建的色彩を有して居らず、資本家對労働者の對立に於て労働者の勢力は極めて大であり、夫がために、面積の廣大、天然資源の豐饒、人口の過少と相俟て、労働階級は概して富裕であり、所謂「労働貴族」を構成し、労働者階級の勢力が強大で、資産階級と尖銳な對立を爲してゐる。

三 民族運動

濠洲聯邦は専ら白人獨占の白濠主義を民族運動の中心とする。平方料に付人口密度〇・八人に過ぎないに拘らず、原住種族並に他の有色人種の労働・移住を徹底的に排斥するのである。一九〇一年の移民法制定以來、他よりの有色人の入國は殆ど絶對的に禁止し、之と同時に労働者以外の者に對しても市民權・職業權・其他の權利取得の上に人種的差別待遇を有つてゐる。この理由は一に國防、二に白人種の血統の純粹を保つこと、三に労働者賃金の低少なる爲の壓迫から脱れるためである。かくて有色人種は殆ど入國することを得ず、日本人に對しても一八九五年迄は差別待遇圏外にあつたのが、一九〇一年の移民法制定以來はこの適用を受けてゐる。この白濠主義は濠洲精神ともなつてゐるが、最近の階級的労働運動の一部はこの白濠主義に反し、汎太平洋同盟の運動の展開を見んとしてゐる。現在では未だ容易に白濠主義を破ることが出来ず、白濠

洲人は之を國內事情に基く國家的信念であるとして、民族的偏見より來るものでないと辯明を試みつゝ益々同主義の強化に努めてゐる。労働者階級の生活狀態は概して良好で、同時にその結束も極めて鞏固である。一九三〇年に於る労働者百五十萬人の内約五〇%以上も労働組合に加入し、政治上にも強力なる勢力を有し、労働立法が大いに發達してゐるが、階級對立意識は極めて僅少である。一九二〇年初「濠洲労働者同盟」が組織され、一九二一年に「産業労働者同盟」が組織された。一九二七年メルボルン大會に「全濠洲労働組合評議會」が設立され、四十萬以上の労働者をもつて組織された。然し何れも國際的組合運動とは別個の立場にある。尙濠洲共產黨は一九二〇年に創立されたが勢力は甚だ微弱である。

四 労働階級

濠洲の労働組合は一九二七年濠洲労働組合評議會(A.U.T.C.)が結成され、始めて全國的統一組合が組織された。その政策は依然として各州中心であつて、唯白濠主義に於て全國的統一を見てゐる状態であつたが、最近聯邦政府の中央集權的傾向が著しくなつて來た爲、労働運動の集中的組織が非常に必要となるに至つた。茲に於て、從來結束の弱かつた聯合團體組織を改善し同時に今まで加盟して來なかつた濠洲労働者組合(A.W.U.)をも参加せしめ、同組合をして眞の鞏固な全國的統一労働組合たらしめんとする氣勢が濃厚となつて來た。

濠洲は労働者の組織的勢力の非常に強い國である。一九四〇年に早くも労働黨の内閣が成立してゐる所を見ても、夫は明かである。從て社會立法の如きも非常に進歩してゐて、一般下級生活者にして、その恩恵に浴するものは非常に大である。又労働法規の如きも極めて完備してゐて早くから最低賃金制が確立し、労働時間も法規によつて一日八時間、一週四十四時間乃至四十八時間制の如きも各國に率先して實施せられて來た。

五 社會政策

濠洲は元來極めて進歩的な國である。而も一般労働者階級が早くから團結して政治に強力な組織を有してゐた爲、州及聯邦に於て各種の社會立法が行はれ、或は貧窮者保護に或は労働者保護に或は老衰者及疾病者保護に、或は産婦保護に努力が拂はれて來た。例へば現在聯邦政府が老衰及疾病者保護のために支出してゐる金額は年千萬磅を突破し、全歳出の六分の一以上を占めてゐるのである。

疾病者・老衰者の保護―その規定によると、扶助料を加へて年收が八四磅一〇志(邦價約千圓)を超えない疾病者及老衰者に年額五二磅を超えざる額に於て政府より扶助料を交付せられる。又一九二〇年の特別法によつて盲目者は扶助料を加へて、その年收二二一磅になるまで年額五二磅を超えざる限度で扶助料が交付される。又老衰者扶助料を受ける資格を有するものは少くとも六五歳以上の老人であつて、二〇年以上、濠洲領内に居住することを要する。但し女子又は特に能力の缺陷ある男子は六〇歳から扶助料を受けることが出来る。疾病者扶助料は少くとも五年間、濠洲領内に居住し、且他に適當なる生活の道を持たないものに限られる。

一九三一年の財政緊急法(Financial Emergency Act)は老衰者及疾病扶助料を一週二志二片に引下げ、又一箇年全收入七八磅以下の者に限ると規定した。又盲目者に對する扶助料は四五磅一〇志を超えない限度に引下げられた。但し一箇年の全收入の點に就ては何等の變更を見ない。斯して節約せらるべき金額は年々約百八十二萬五千磅に達すると算定されてゐた。然しその結果一九三一―三二年度に於る同支出は扶助料支給額の著しい削減にも拘らず、受給者増加の爲僅に五七萬磅餘を減少したに過ぎない。

一九二六年六月末に於て、老衰扶助者二〇六、七四八名、疾病扶助者八〇、四八七名であつて、一九三五―三六年度に於る、夫等に支給した扶助

労働立法が如何に他の先進諸國から擬して施爲せられてゐるかは、次の二、三の事項を指摘してみても、その全貌を測り得るのである。即ち聯邦、西オーストラリア、クインズランド州の法制では「労働組合に登録申請を爲した産業的團體の役員、又は其の一員たる理由のみにて被備者を解雇し、その地位を傷け、地位を變更するが如き雇主の行爲に對しては刑罰を科す」と云ふのであり、之と共に被備者の側に於て、その雇主が「或る團體の役員、又はその一員たる故を以て、労働を中止したる場合に就ても、前同様の刑罰を科す」と規定せられてゐる。又クインズランド州に於ても産業團體の一員たるの故を以て或る人を雇主することを拒絶することも違法としてゐる。

尙權利侵害の法的效果は當事者の手より離れて官憲の告發によらしめる事となつてゐる。クインズランド州に於ては労働組合の役員は組合の執行委員會の許可を経て、企業内に於てその組合員の備役されてゐる現場に出入し、彼等と會談し協議することが出来るし、役員が斯くすることを妨害したる者は處罰せられる。他方に於て、組合役員は故意に作業を中断するを得ない、其の他各種の労働者保護施設は至り盡せりて、その生活狀態は極めて良好である。

労働争議―一九二八年から一九三三年迄減少の傾向であつた争議は一九三四年頃から又も増加の傾向を示してゐる。尙一九三八年九月には西オーストラリアを除く全濠洲に約二萬五千の炭坑労働者ストライキが發生した。濠洲はストライキが名物と云はれ、餘り頻繁で數が多いので、小さなもの等は人の注意も惹かないし土地の新聞にも登載しないと云はれてゐる。

失業問題―世界經濟恐慌の影響により一九三〇年以後三三年まで失業率激増の有様であつたが、その後經濟恢復と共に一九三四年からは漸次失業者數の減少を示しつつあるのであるが、未だ恐慌前の程度までには回復してゐない。

料は總額一二、六三四、七〇六磅に上つた。
 産婦保護一九二二年一〇月の産婦扶助法 (Maternity Act) によつて總ての生誕せる小兒(生・死の區別なく)に對して五磅の補助料が交付せられるのである。但し産婦は濠洲聯邦生れで、永久に同國に居住する意思を持つものたることを要する。又原住種族及アジア人の場合には補助料は與へられない。一九三一年の財政緊急法によつて産婦補助料は産婦及其その夫の出産に當る當時の十二箇月分の全収入が二六〇磅を超えない場合にのみ支給され、而も四磅に削減された。斯て二九三萬磅の節約が可能であると算定された。然し一九三一—三二年に於る實際の節約額は二五萬磅餘になつてゐる。
 一九三六—三七年の同支出は三七〇、五〇〇磅である。

友愛團體關係表

一、救濟施設及救濟人員

州名	友愛團體數	救濟施設數	被救濟人員(年末)	平均一年の施設取扱者數	藥餌の施與を受けたる人	救週間に互り藥餌を受けた人員	同上の平均一人當り日數	恩恵を受けた人員	死亡人口千人當り
ニューサウスウェールズ州	三三	一一四〇	三三、三三六	三三〇、五五七	四七、二四五	四九、五九三	一〇、五〇	二、六八三	一一、七四
クイーンズランド州	七六	一、四三八	一八、九〇四	一八三、三三三	四一、八八三	四七、六三五	一一、四二	一、九八五	一〇、八五
南オーストラリア	三三	七〇〇	七、二八八	七、一五八	一、五三四	一、四〇、六四〇	九、二九	七、三三	一〇、一一
西オーストラリア	一八	八八五	七、四七〇	一、七三九	一、七〇八	二、〇八七	一一、三三	七、七一	一〇、四三
タスマニア	一四	三六二	二、六六七	二、六〇九	五、八八〇	五、五五二	九、六二	二、六三	一〇、〇九
全濠洲	一八二	五、四四五	五九、九七三	五九〇、三六八	一、三〇、四五四	一、四三、〇九八	一〇、八四	六、七六一	一一、四五

二、收支一覽

州名	入會金・寄付金・課徴金	利子配當料金	其他の收入	全收入	病氣手當	看護費用	死に費用	執務費用	雜費	計
ニューサウスウェールズ州	七、九一〇〇	三、〇一〇、三六六	二、四八四七	九、九五九、〇五三	二、〇八、八一五	三、〇七、四七七	八、七九、九八	一、六三、七四四	三、八五、〇一〇	八、五八、四二六
クイーンズランド州	六、三九五〇	二、七二、六六五	六、九八二	一〇、一八六、〇六八	二、七、四六一	二、八六、〇四	四、九三、五二	一、五三、八二二	九、二〇〇、八	八、三三、八〇七
南オーストラリア	一、四八四三	八、八六四	不明	三、三八、二六六	九、三〇、九	一〇、一、四三九	三、七、七七一	五、八、三三三	不明	二、九、四七四
西オーストラリア	二、四八〇九	一、三三、五八	五、二八七六	四、三、四三三	一〇、一、八八	九、八、九一	三、八、五五五	四、七、七七一	三、八、四四五	三、六、三三六
タスマニア	一〇、一、六五六	二、九、三四五	七、四、一〇	一、八、四、一三	三、三、七二〇	三、八、五九	一、四、七、四六	二、九、九三三	五、一一、一一	一、一、一、三三
全濠洲	二二、一、九一五	七、四、〇、三九一	一、五、六、六六	三〇、二、〇、一〇	七、八、八七一	八、四、四、三三	二、〇、九、五五	四、七、一、七四	一、一、九、三〇	二、二、二、一、一〇

第五節 衛生

濠洲は世界中稀に見る健康地である。之は自然的條件にもよるけれども、又他方衛生設備の負ふ處も多大である。北部熱帯地方にはマラリアやデング熱も存するが、南部温帯地方には全然なく、南部には傳染病は全く無いと稱してもよい程である。チフスもコレラも赤痢も無く、幼兒の命取り疫病も無い。全く子供に取つては天國と申しても宜しい。種痘も強制的では無く、種痘をやる人は殆ど無い状態である。蓋し是等の病氣は印度・支那或は東印度から齎されるものであるが、濠洲は是等の地方と地続きで無いから、入港する船に是等の患者が有りや否やを調べればよい譯である。之は英國人の美點であるが、船中には是等の患者又は疑のある者が發生した場合、船醫は隠匿すること無く検査所に届出する。検査所は乗船者の全部を一定期間隔離し、保菌者無き事確實となつて初めて上陸を許可すると言ふ徹底した取締りを爲してゐる。子供の傳染病と言へば百日咳、チフテリア、小兒麻痺位のものであらう。チフテリアには豫防注射があるが、小兒麻痺は最も恐れられ、毎年ある譯では無いが、之が一州に發生すると、他州は同州からの子供の旅行を禁ずる程である。

各都市は下水設備が完備して居り、便所は一般家庭も皆水槽便所である。

り、人糞を肥料に使ふことも無いので、傳染病が傳播されることが無い。
 大體衛生事務は州政府の所管になつてゐるが、各州に衛生省 (Dept. of Health) があつて、公立病院の經營(患者の收入により入院料を異にする) X光線による青年肺結核の早期発見(非常に安價である)、或は幼兒相談所 (Baby Health Center) 又は Push Nursing Association と稱し、田舎を巡廻する組織になつてゐる。之が全國に八〇〇餘あり、無料で幼兒の榮養等に就て中々親切に教へて呉れる(の經營、或は學生生徒の健康診断等を行つて居り中々行届いてゐる)。

第五章 政治

總説—統治機構(行政・司法・地方行政)政黨—
—外交—政局と動向—國防

第一節 總説

濠洲聯邦の政治上の全權は英國皇帝にあり、その任命にかゝる總督が之を施行するものであるが、實際の行政上一切の權限は責任内閣によつて行はれる。聯邦成立後も中央に關係しない事項に就いては各地方で獨自の行動をとつてゐる。

一八八七年、ロンドンで植民會議が開かれたとき代表者を送つたのが抑々國際政局に加入する最初であつて、爾來大洋洲海軍防備軍の設定期に努めるやうになり、一九〇七年ロンドンの帝國會議、一九〇九年の帝國國防會議に参加した。之は當時に於る國際政局に善處する方法を講じたのであるが、之より濠洲の國家意識は著しく發達した。之が海軍の建設となつたが、キッチナー元帥の來訪は陸軍をも設置せしめるに至つた。斯して英國國を組成する一單位として國防完備の歩を進めた。一九〇四年には初めて労働黨内閣がワットソンを首相として成立し、内政の改善及社會施設の改良に力を盡し、次で老廢年金制度、新保護關稅政策等を實施することに努めた。又憲法に基いてモーション・グロエ河の河岸ヤス、カンペラに首府を建設し、一九二七年メルボルンから此の地に聯邦政府を移した。一九一八年には時の首相ヒューズはパリ平和會議に於て全權として活躍し、濠洲も國際聯盟の一員として英本國と同列の位置を與へられ、前獨領ニューギニア及ナウル島の委任統治受任國となつた。

一九二六年聯邦首相ブルースは濠洲を本國並に各自治領間と均等の地位を承認させ、イギリスとの間に何等の從屬的關係なき旨の建議を許容せしめて、茲に濠洲は準國家的地位を獲得するに至つた。

今日濠洲は其の進歩發達の點に於て英國の自治領としてカナダに次ぐものであり、英本國と異り全く植民地固有の社會關係を發達せしめてゐる。其の居住民は本質から云ふも思想上よりするも全くアングロサクソン民族で他民族を混濁せしめず、從て一人の貴族もない。その政治的・經濟的關係の如きも單純であつて、純然たる濠洲型とも云ふべき一種獨特のものを發生せしめてゐる。從て此の國には他の植民地に見る如き複雑した社會關係、激烈な人種的競争、從て切迫した生存競争の問題はない。唯餘りにも移民の入植を制限した爲に、人口が極度に稀薄になり人的資源の上に悩みを存してゐる丈である。

第二節 統治機構

濠洲聯邦 (Commonwealth of Australia) は六州よりなり、イギリスの自治領植民地である。政治上の全權は英國皇帝にあり、その任命にかゝる總督 (Governor-General) が之を施行するものであるが、實際は行政上の一切の權限は責任内閣によつて代行され、又三法上の作用は議會によつて施行されてゐる。總督は皇帝の代理として最高行政權を有し、濠洲陸海軍の總司令官を兼ね、濠洲憲法の定むる所によつて聯邦議會を開會・延長又は解散を命ずる。

現 總 督 英國皇弟 ケント公
府 府 坎ペラ (聯邦直轄州)

一 行政

1 概要

英國皇帝は行政權を有し、總督が之を施行する。内閣は一四名の大員より成り、總督を輔佐して一切の行政を掌る。内閣は下院に於る多數黨の首領がその首班となつて組織する。各大臣は總て聯邦議會に議席を有するか、又は三箇月以内に議席を有するに限り、議會に對して責任を行ふ。聯邦政府は關稅・通商・貿易・國防・外交・移民・郵政・仲

裁裁判等各州に共通する事項を掌る。

現内閣

一九四一年一月六日任命され労働黨を主軸とする聯立内閣で、各關係の顔觸れは次の如くである。

首相 カーチン
外相 チフレ
海相 エヴァット
陸相 メーキン
國防調整相 フォード

濠洲各州内閣閣員數表 (一九四〇年九月現在)

大臣所屬籍	聯邦政府	ニューサウス	ヴィクト	クイーン	南オース	西オース	タスマニ	計
上院	四	二	四	一〇	二	一	一	一五
下院	一四	一三	一八	一〇	六	七	八	六
計	一八	一五	二二	二〇	八	八	九	七六

議會所要經費及人口一人當り割合表

年次	聯邦政府	ニューサウス	ヴィクト	クイーン	南オース	西オース	タスマニ	計
一九三五	四四三八四四	一八九九〇三	一〇八四四八	九八四〇七	七八三九四	一三三〇八三	四〇三三六	一、〇三三、四三七
一九三六	五五三三三七	一九八、九六一	一三九、一六二	一〇八、八〇八	八六、七五六	一〇二、八一七	四九、七〇九	一、三三九、七五〇
一九三七	五六四〇九六	二二〇、〇八三	一三三、八七九	一三〇、四一七	一〇九、九三七	一〇六、八〇八	四八、九〇九	一、五五四、九一八
一九三八	五、一六四、五五	三三、七〇九	一、一四、四九七	一〇、六、四四一	九、七、三三三	一、一三、七九三	四九、二七〇	一、三三三、〇四九
人當り割合	一、四	一、五	一、二	二、〇	二、八	五、一	三、六	三、二
一九三五	一、九三、五	一、八	一、六	二、三	三、一	四、〇	三、八	三、一
一九三六	一、九三、七	一、八	一、五	二、二	三、〇	四、〇	三、八	三、一
一九三七	一、九三、七	一、八	一、五	二、二	三、〇	四、〇	三、八	三、一
一九三八	一、九三、八	一、八	一、五	二、二	三、〇	四、〇	三、八	三、一

二 所管領域

現在、濠洲聯邦の管理する領土・屬地に三種類ある。一は直接濠洲聯邦の一部として直轄する北方州で、二は濠洲憲法に基き屬領となつてゐるバプア(ニューギニアの東半部を南北に折半した南部)及ノーフォーク島で、三は國際聯盟によつて濠洲聯邦が受任した所謂東北ニューギニア(ニューギニアの東半部を南北に折半した北部)及ナウル島である。

三〇〇人、原住民四二萬人と推定され、多くはコブラ、ゴムの栽培に従つて居る。礦物の埋藏も多いのであるが未だ開發に至つてはゐない。此處の首都はラバウルで行政廳が置かれてゐる。この委任領域には聯邦政府の統治に懐らぬ者もあり、又原住民に對しての強制労働及土地制度について、正義を疑はれる執政振りもあり相當に困難な問題を派生して居り、批難の聲も擧げられてゐる。

(1) 北方直轄州 南オーストラリアの北に位し、面積一、三五六、一七五平方料、人口は原住民二萬、白人三千人に過ぎない。産業は熱帯及亞熱帯性生産物並に畜産業が相當有望であるが、未だ開發に至らない。北部海岸には多少採貝事業が行はれてゐて、その中心地はポートダーウィンである。此處には聯邦政府の出張所もある。

即ち(赤道の南約三五料の地點)にある。五、四〇〇エーカーに過ぎぬ小島であるが、一九一九年英國の委任統治地域となり、其の後英國・濠洲及新西蘭の三政府の共同管理となつたが、現在では濠洲政府の任命する行政長官が統治してゐる。人口は二、〇〇〇人で、全島の五分の四は礫礦から成立つて居り、右三國政府の任命する礫礦委員會が管理してゐる。

(2) ノーフォーク島(Norfolk I.) 濠洲大陸の東方にある小島で、人口は一九三九年六月末日現在九八三名(内男子五一三名、女子四七〇名)に過ぎない。現在(一九二九年以降)は行政官を通じて濠洲總理大臣官房屬領部(Territories Branch of the Prime Ministers Dept.)に管理されてゐる。而して一九三五年ノーフォーク島法の修正により同島關係の問題に關し、行政官の顧問として議員八名より成る參事會の設立が規定されてゐる。

三立 法 立法權は聯邦議會(Federal Parliament)に屬し、聯邦議會は英國皇帝(皇帝は總督により代表される)、上院(Senate)及下院(House of Representatives)より成る。議會は少くとも一回召集するを要する。(1) 上院 三十六名の議員より成り各州より六名づつが選出せられ、その任期は六箇年である、通常三箇年毎に半数を改選するが、下院との衝突が長期に亘る時は之を解散して全く新しい上院議員を選び得る。(2) 下院 上院の約二倍の議員より成り、各州の人口數(原住種族を除く)に比例して選出されるが、各州共少くとも五名を選出し得る。議員の任期は三箇年であり、現在の議員數は七五名である。而して、聯邦上院は財政案に就ては之を發議又は修正する權限なく、其他の事項に就ても、下院と議が整はぬときは共同協議會の議に付し、決定を見ぬときは解散を命ぜられる。

(3) ニューギニア島 バプアは一九〇六年以來、濠洲の管理するところとなつた。人口は面積の割合に少く歐人一、五〇〇人、原住民約三〇萬人と推定せられてゐる(既述濠洲本土の原住種族は六萬餘に過ぎない)。濠洲聯邦はその首都ポートモレスビーに副總督を置き、官選評議會を諮問機關として統治してゐる。

聯邦議會議員は生粋の英國國民又は英國法律・濠洲法律で歸化を認められた英人であり、歸化した後五箇年を経過したものでなければならぬ。又選舉權者及被選舉權者は何れも成年者で、聯邦内に三箇年居住すること調査・統計・度量衡・鐵道・労働爭議に關する事項を審議する權限を有してゐる。最近數次に亘り聯邦政府選舉が行はれたが、各回に於る有權者・投票者數及率を表示すれば左の如くである。

聯邦政府選舉有權者・投票者數及率表

Table with columns for election dates, voter counts (male/female/total), and voting rates (male/female/average). It lists data for various years from 1914 to 1937.

四 司法

聯邦の最高裁判權は濠洲高等法院(High Court of Australia)に屬して居る。同法院の職員は總督の任命にかゝる裁判長及五名の判事より成り、聯邦各州の間に起る總ての事件、他の諸國の代表に關する事項及議會によつて權限を賦與された他の事項に就て第一審を行ひ、又同法院の

各判事の第一審に於る判決、他の聯邦裁判所の判決及各州の最高法院の判決に對する控訴裁判を取扱ふ。同法院よりの上告は英國の樞密院に提起される。又聯邦仲裁調停裁判所(Commonwealth Court of Conciliation and Arbitration)があり、判事長及他の二名の判事より構成される。その他、聯邦破産裁判所(Federal Court of Bankruptcy)があり、一名の判事によつて破産に關する裁判が行はれてゐる。

警察關係統計表

Table showing police statistics including the number of police officers and judicial cases across different states and territories.

濠洲……政治

州別
 ヴィクトリア
 クイーンズランド
 南オーストラリア
 西オーストラリア
 タスマニア
 北方直轄
 聯邦直轄
 全濠洲

二、人口對警察勢力比較及刑務所囚人

州別	一九三三年人口調査による一平方哩當り人口密度	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八
ヴィクトリア	八七、八四四	二二、四七	二二、八九	二二、八〇	二二、八〇
クイーンズランド	六七、〇五〇	一三、五	一三、六三	一三、九〇	一三、九〇
南オーストラリア	三八、〇七〇	八、七	八、七	八、八二	八、八二
西オーストラリア	九七、五九〇	五、八二	五、八二	五、八二	五、八二
タスマニア	二六、二二五	二、八四	二、八二	二、八三	二、八三
北方直轄	五二、三六〇	四、一	四、一	四、三	四、三
聯邦直轄	九四、〇	一、四	一、五	一、五	一、五
全濠洲	二九、七四五八	八、九二二	九、二二六	九、二九一	九、二九一

刑務所及在監者數

警察官一人當り人口數

州別	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八
ヴィクトリア	七四、〇	七二、〇	七二、〇	七二、〇
クイーンズランド	八二、〇	八〇、九	八二、六	八二、六
南オーストラリア	七四、〇	七二、八	七二、三	七二、三
西オーストラリア	七二、八	七三、〇	七三、〇	七三、〇
タスマニア	七五、六	七三、七	七三、七	七三、七
北方直轄	八〇、九	八二、五	八二、七	八二、七
聯邦直轄	一三〇、一	一三三、一	一三三、一	一三三、一
平均(計)	九二、二	九二、二	九二、二	九二、二

刑務所數

獨居房 普通房

年度末現在在監者數

州別	獨居房	普通房	在監者數
ヴィクトリア	三三	三三	六五、九七三
クイーンズランド	三三	三三	三三、〇九
南オーストラリア	三三	三三	一七、二九九
西オーストラリア	三三	三三	一九、二五五
タスマニア	三三	三三	八、三四五
北方直轄	三三	三三	三、〇六
聯邦直轄	三三	三三	一、三五
平均(計)	三三	三三	二七、八二四

五 地方行政

聯邦は六州二直轄州より成る。各州には英國政府任命の知事 (Governor) が置かれる。地方行政を統轄する州政府の権限は非常に大であつて各州は従来の植民地たるの地位を保有し、夫々州議會及責任内閣制度を有してゐる。州政府は産業・労働・保健及その他特殊な州内事項に關する行政権を有す。各州議會は聯邦と類似の上院・下院から成る二院制で

あるが、クイーンズランド州では一九二二年上院を廢止した。之は同州は從來労働運動の盛んなところで、社會主義の實施を主張した結果によるのである。政黨は、各州とも名稱の差はあつても聯邦政府の何れかの系統に屬する政黨であるので、多數黨が州の内閣を組織することとなる。上述の如く、聯邦は六州二直轄州より成り、州には英國政府任命の知事 (Governor) が置かれ、州政府を監督することになつてゐる。州政府

は上述の通り産業・労働保健、その他特殊な州内事項に關する行政権を有してゐる。市町村は道路・橋梁の維持・衛生・教育事項に就て自治行政を行ひ、之が必要な費用支出の爲に租稅賦課の権限を有してゐるが、そ

の徵稅方法は英本國の夫と異つてゐて、家屋賃借料を標準とせず、土地の價格の自然騰貴を標準としてゐる。今各州に於る大臣數及俸給額を上・下院別に示せば次の通りとなる。

各州大臣數及俸給額表

一、各州大臣數 (一九三九年)	所屬	聯邦政府	州政府	州議會	計
上院	聯邦政府	三六	三六	三六	三六
下院	聯邦政府	七五	九〇	九〇	一六〇
小計	聯邦政府	一一一	一二六	一二六	二三八

二、大臣俸給額 (磅)

上院選出	下院選出	計
1,000	1,000	2,000
1,000	875	1,875

政府職員數表 (一九三九年六月三〇日現在)

聯邦政府	常備		臨時		計
	定時	不定時	定時	不定時	
聯邦政府	五七、七九	一一八	二六、一五七	一〇、四二四	九四、四七〇
ニューサウスウェールズ	七五、五八	四一五	三〇、五六八	八、八八六	一一四、〇九〇
クイーンズランド	五九、三三	七六六	二〇、四六一	一、九三三	八二、一〇三
南オーストラリア	三三、一一	二八一	三、六八六	四、八	三八、五二六
西オーストラリア	一五、八三	七八一	五、九九五	四、〇〇四	二一、六三二
タスマニア	一五、三七	一、二九	一、二九	一、二九	一七、九五
全濠洲	二二五、八四	一、二九	九四、一四四	二七、七三三	三二八、八一一

第三節 政黨

濠洲の政黨は離會・集散又幾度かその黨名を變更したが、大體に於て労働黨對反労働黨である。第一黨たる聯邦労働黨は労働者の利害を代表し大土地所有の打破、銀行の國營化、保護關係による國內産業助成等を政策とし、外交政策としては集團保障の觀念に反對し、ヨーロッパの紛争に對しては濠洲は孤立すべしとの主張を掲げ來つた。この労働黨の主張するところは種和なる改良主義的色彩のものである。労働黨は名は労働であつても、政權獲得の必要から國民主義的氣分に訴へて大衆を獲得することに努め、「所謂濠洲人のための濠洲」を理想に掲げてゐる。

共産黨は黨員五千名と云はれ微力であるが、鐵道従業員組合・労働組合の内部に相當の勢力を有してゐる。労働黨はローマカトリック教徒と關係が深く、此の教派は渡來の初から英本國に忠誠ではなく、濠洲の労働運動はこの教徒たるアイルランド人に訴へて大成したのであり、労働黨もこの教徒によつて勢大となるに至つた。

統一濠洲黨は自由主義的であつて、之を支持する團體は商業會議所、製造工業會議所 (Chambers of Manufactures)、備主聯合組合 (Employers Federation)、牧畜業者協會 (Pastoralists Association)、小有産者及多くの實業家によつて支持されてゐる。

統一地方黨は牧畜業者・農民・酪農業者の利益を代表してゐる。濠洲に於る政黨は聯邦労働黨・統一濠洲黨・統一地方黨の三黨に分れてゐるが、政綱として共通してゐるのは白濠主義である。關稅問題に就ては聯邦成立の當初保護貿易論と自由貿易論との對立があつたが、其の後自由貿易論は影を消し、國內工業を保護して濠洲を高き生活程度に維持するためには保護關稅が必要なりとし、唯保護の範圍及程度に付意見の相違あるに過ぎない。一九三四年以來の各政黨の聲明した政綱を掲げると次の通りである。

統一濠洲黨の政綱

一 財政産業政策

- イ 種健政策の維持
 - ロ 第一次産業の補助救済
 - ハ 第二次産業の保護
 - ニ 製産及輸出制限の排除、個人企業の振興
- #### 二 關稅政策
- イ 從來の關稅政策を踏襲し、産業助長に重きを置き關稅の改變は關稅調査會の進言に基き之を行ふ
 - ロ 諸外國との通商協定による海外市場の開發
 - ハ 英帝國內通商の相互發展
- 三 失業救済殊に公共事業企畫に依る失業者救済
 - 四 各州協調の促進
 - 五 財政と均衡を保する國防の整備
 - 六 國民の保護

統一地方黨の政綱

一 財政産業政策

- イ 銀行・爲替・通貨・信用の改善又は擴充等に關し専門の委員會を創設し財政政策を確立すること
 - ロ 投資の安全と個人企業振興
 - ハ 農牧業の保護救済
 - ニ 通商經濟の國家主義化を排除し國際主義的相互繁榮を計ること
 - ホ 英本國及濠洲産業代表者商議に依る彼我通商の相互進展
 - ヘ 濠洲運輸會議召集に依る道路・鐵道・航空・海運等濠洲運輸關係事項の協調促進
- #### 二 關稅及租稅政策
- イ 農牧業保護助長の關稅政策遂行
 - ロ 保護關稅の合理化

聯邦労働黨の政綱

一 財政經濟政策

- イ 聯邦銀行の國營化及金融政策を通じての生活程度引上
 - ロ 私設銀行業を含む凡ゆる金融問題の徹底的調査と改善
- #### 二 産業及關稅政策
- イ 農牧業の救済
 - ロ 保護關稅による國內産業助成
- #### 三 公企業及資源開發に依る失業者救済
- 四 恩給・年金・官吏俸給の減俸回復

第四節 外交

濠洲の外交は、夫が英國の一部である以上、本國の外交政策によつて大なる制約を受けてゐることは勿論であるが、本國と遠く離れてゐる外、政治上相當な廣範圍に亘る權限を有してゐるため、濠洲獨自の外交方針が存在してゐる。即ちその外交上の基礎をなすものは所謂白濠主義である。

濠洲は土地廣大にして人口少く、その人口密度の如きは一平方軒に付〇・九人に過ぎない。その上英本國から相距ること遠き爲、一朝事ある場合には非常に危険な位置に曝されることとなる。特に近時の太平洋上に於る日本の勃興はその最も恐れるところである。従て外交上は勿論産業政策に於ても極端な鎖國主義を採るので、移民の如きも一九〇一年以來は絶對に東洋人に入國を許さず、廣大な土地を放棄して顧みない所以は、この恐外病にある。従て濠洲は今日に至るまで本國及その植民地を除く外は絶對に通商條約或は關稅協定を締結しない。又自國の安全を確保するために隣接諸島を、その勢力圏内に置かうとする。例へば第一次歐洲大戰の結果太平洋に於る獨逸領の處分に關して赤道以北を日本、赤道以南を濠洲の委任統治と決定した際には日本の南洋進出を極度に恐れ、最も反對したのは濠洲聯邦のヒューズであつた。この日本勢力の南

進は濠洲をして極度の恐日病に陥れた。之は人種平等案と關聯して濠洲の排日氣勢に油を注いだ。その後表面的には排日の氣勢を見せなかつたが、國民の恐日病は甚だ根強いものがある。滿洲事變もかなり彼等の神經を刺戟したことは事實であつた。

一九三四年五月、レーサム外相の日本訪問、更に日濠通商條約締結の交渉は日濠關係を著しく改善したかの感があつた。然し今次の支那事變が起つてからの日英の根本的對立と日本勢力の異常なる南進とは濠洲の朝野を擧げて恐日病の患者たらしめ、英國と結んで日本の南進阻止に狂奔してゐた。要するに濠洲の外交の基調を爲すものは白濠主義であり、日本に對する國防上の安全をその唯一の目標とするものであつた。今日となつては五萬十萬の嫌ひはあるが、一九三七年五月の英帝國會議に於ては、時のライオンズ首相は濠洲は太平洋の平和維持に死活的關係を有してゐるのであり、夫が爲には太平洋沿岸諸國家間には不侵略條約が締結されることを歓迎するものである旨を述べてゐる。

一九三九年、メンデス首相は對外政策を明かにし、政府は英本國と協力するも英國にのみ依存するものではない。濠洲は太平洋の一強國として太平洋問題に重大な發言權を有する。而して米國・支那・日本・蘭印と親善を増すであらう」と太平洋諸國との親善を協調し、其の後に於て又「日本に敵對的態度を持して居たのでは太平洋に平和を招來することは出來ない」と日本との友好關係樹立に努めたのである。一九四一年新内閣が成立するや、外相エヴァット博士は濠洲政府の目的は根本原則を犠牲にせざるに及國家の安全を脅かされざること、民主主義國家群の團結を危殆に瀕せしめぬことの三つの範圍内で、可能ならば太平洋の平和を保持せむとするものであると述べてゐる。

第五節 政局と動向

世界第二次大戰の勃發以來、濠洲聯合黨と地方黨との聯立内閣から再三入閣の慾望を受けながら拒絶を續けてゐた労働黨は、政府が機密費を

労働組合の切崩しに流用したといふ批難を利用して、一〇月三日政府提出豫算案を三六票對三三票で否決し去り、不信任動議を成立させることとなつた。斯て一九三四年以來續いてゐた聯合黨と地方黨との聯立内閣は瓦解し、労働黨がカーチンを首班として同黨單獨の内閣を出現せしめた。

濠洲の聯邦政局は、今次世界大戦勃發の以前から久しく不安定な情勢裡にあり、この状態は新内閣が成立することになつても依然として解消され相もないのである。

その原因は濠洲聯邦議會下院に於る勢力の分野が、労働黨・聯合黨・地方黨の三派鼎立であり、各黨は單獨で過半を制することが出来ず、而も黨派内にあつても黨員が本部の希望通りには動かさず、時としては反對側に合流することもあり、一方聯合黨と地方黨とは提携して政權を維持してゐたのであつたが、夫とても唯一名の中立派議員に決定權を左右されたのである。

故に労働黨が與黨となり、聯合黨と地方黨とが野黨となつて、立場を反對にしたとは云へ、労働黨新内閣も前記一名の中立派議員の向背を考慮せねばならず、且つ自黨内にも黨内の異分子の存在に意を拂はねばならぬし、政機は微妙な震動を續けてゐたのである。

因に濠洲聯邦下院に於る各派現勢力は次の通りである(一九四一年一〇月現在)。

- 労働黨 三二名
- 労働黨非共産主義派 四名
- 濠洲聯合黨 二三名
- 地方黨 一三名
- 中立派 一名

問題の中立議員は元來地方黨系であるが、濠洲聯邦全體よりもウイクトリア州第一の見解を固執し、爲に地方黨、濠洲黨の支持には一貫せず、時々問題によつて労働黨と行を共にし屢々危機招來の因を爲すのであ

九三二年以來、労働黨副黨首として今日に及んで居り、標榜は首相の上にある長老である。

外相エヴァットは四八歳、一九三〇年以來聯邦大審院判事をつとめ、文學・法學の兩博士の肩書があり、一九二五―二九年の間を二州議員として過ぎ、其の間ロンドンの世界植民會議に濠洲労働運動の代表として出席したものである。ピースリー軍需相は労働黨内の異分子たる非共産主義の勢力を代表して入閣したもので、彼の地位は行政上のみならず政治的にも可なり重要性を帯びてゐる。

前大戦の勃發當時の濠洲は労働黨内閣の施政下にあつたが、徴兵制問題で閣内が一致せず、英本土の危機増大につれ濠洲輿論は急速に戦争完遂を是とするに至り、労働黨内閣は崩壊し一時は收拾し難いまでに凋落し、今後の戦時濠洲では労働黨内閣の登場は絶対にあり得ないとされてゐた。然し乍ら、この過去の經驗を慎重に考慮した現労働黨の指導者達は今次大戦勃發以來萬全の考慮を拂ひつゝ、濠洲政府には反抗するが、英本國とは常に何かの關係を保つやうにし、輿論の離反をふせぎつゝ遂に組閣の機を握つたのである。

濠洲労働黨は元來、既往濠洲人労働者の生活程度を高水準に維持擁護することを以て任としてゐる立場から、獨善的な移民制限と極端な高率關稅とを主張し、この點で地方の農牧有産階級を背景とする地方黨と全く相容れず、且又生産・分配・交換手段の社會化や公共事業の國有又は國家統制或は銀行の國有等を主張し、この點で都會地有産階級を背景とする濠洲聯合黨と對峙してゐる。

而して労働者の生活状態の改善向上につとめ、國民保險や母性・疾病者・老齡者に對する國家的保護の制度化に努力して來たのであるが、而も時には逆行の訪りも受けた。

一九四〇年一〇月の總選挙に際して労働黨は兵士の俸給増加を初めとして小麦最低價格の保證や養老寡婦諸年金の増額等を公約したのであるが、是等はいざその局に當つて實施するといふことになると一箇年約三

る。一方労働黨自身も、聯邦を第一とする本派とニューサウスウェールズ州に勢力を張る非共産主義派とがあり、後者は僅少であるが、議場の分野が一名の議員によつて決せられる現情に即する時大いに重視するの要がある。

政局は極めて微妙不安定ではあるが、今日の労働黨としては政權は掌握したものの直ちに總選挙を斷行して絶対に勝算ありとの自信も立たず、又戦時下に總選挙を行うて民心の歸趨の點も測られず一〇月七日カーチン首相は「新内閣は前内閣の政策を踏襲し、本大戦について飽くまでも完全なる勝利を目標に邁進する意向である」と聲明してゐるが、前内閣を弾劾し去つて、而も前内閣の政策を踏襲するといふことは奇異の感を抱かしめる。

労働黨新内閣は黨首カーチンを首相とし、それに濠洲労働總同盟の政治機關によつて指名された一七名の閣僚から成り、兼任も加算すれば全部で二二名の大員を含んでゐる。

然し乍ら、閣員の中で重視されるのは首相兼國防統相のジョン・カーチン、陸相フランシス・フォード、検事總長兼外相のハーバート・エヴァット博士、軍需及開發相のジョン・ピースリーの四人である。

カーチン首相は本年五七歳、西オーストラリアの産で普通教育を了へ、二七歳の時からウイクトリア州の労働組合書記を振り出しに労働運動界に關係し、「西濠洲労働者誌」の主筆、一九二四年には國際労働會議に濠洲労働代表として出席、一九二八年四四歳で政界に打つて出で、一九三五年以來労働黨院内首領に推されて今日に及ぶ。性格は無産階級の指導者であるに拘らず物事を處するに極めて注意深く、石橋を叩いて渡る主義を執つてゐる。

陸相フォードはクイーンズランド州出身で、教師を振り出しに電氣技師となり、一九二二年中央政界乗り出し聯邦議員たること二〇年、其の間貿易關稅代理二年、市場運輸相代理一年、貿易關稅相二年を勤め、一千萬磅の巨額の新貸出となるので、直接戦費が飛躍的に激増しつゝある折柄であり、遂行には相當な困難が伴ふものと思はれる。

労働黨の國防政策は廣大な領土を稀少な人口で占めるといふ立場から大空軍主義であるが、現在の濠洲海軍も前労働黨内閣時代に主として育成されたものである。而して前大戦以後エチオピア紛争の勃發當初までは、彼等は事毎に英帝國主義に反抗し、努めて南太平洋にある濠洲として獨自の立場を強調し、「濠洲人の濠洲」を稱へてゐたが、其の後國際政局の不安激化につれ、持説の濠洲獨往主義を徐々に捨て去つて、事實上英帝國主義容認の立場に轉じ、殊に東亞新秩序の建設工作が進展するや、全く年來の主張を放棄して、公然と英帝國主義昂揚を示すに至つた。彼等労働者側をして言はしむると、夫は單に國際不安に處する便法なりとなすのである。尙ほ労働黨内閣の對日動向としては、既に前内閣當時、閣内の對日強硬派が労働黨を閣内に引入れることによつて自派の立場を強化せんとした點より見ても自ら明かである。即ち彼等労働黨一派は濠洲聯合黨一派の夫よりも更に甚だしく、平時に於ては通商上對日強硬策を主張し、現時に於ては寧ろ自己の武者影繪に脅かされて感情的に對日強硬方針を固めつゝあるのである。

第六節 國防

濠洲の國防は國防省の管下であり、夫は海軍局(Naval Board)、陸軍局(Military Board)、空軍局(Air Board)、軍需供給局(Munitions Supply Board)、民間航空局(Civil Aviation Branch)、それに官房局(Secretariat)に分れ國防省が是等を統轄するものである。

一九三八―三九年度の軍事費總算は一七、〇〇五、八五六磅に上り、その内の主なるものは陸軍四、三八八、五九七磅、海軍四、四九七、六三八磅、空軍二、八一六、〇六七磅、民間航空二四七、一七〇磅(但しこの分は一九三七―三八年度民間航空隊は一九三八―三九年度に於て別個の航空部

第六章 財政・金融及經濟

財政—金融—經濟

第一節 財政

一 概 要

濠洲聯邦の財政は世界大戰後急激に悪化した。その破局に達するまでの状態は年々の入超と年々數百萬磅の收入不足、國債の累増のみならず、又之に對する減債基金制度の不完備とで完全に行詰つて仕舞つた。その上勞働争議は頻發し國內經濟界は不安を極め、從て濠洲の對外信用は全く無くなつた。この財政上の未曾有の危機は、一九三一年に至つて世界經濟大恐慌の餘波を受けて果敢爆發し、時の勞働黨内閣は鋭意財政改革に努力したが及ばず、國民の信任を失つて瓦解した。この勞働黨内閣の後を襲つた統一濠洲黨政府は、之を契機として積極的に財政改革に乗出したため、濠洲の財政は破局状態を脱し歳出入の均衡を恢復し、剩餘金すら生ずるに至つたのである。これは羊毛・小麥及其他の重要輸出品が實質的な價格上向線を辿るに至つたことが基礎的な要因をなしてゐるのである。

近來の聯邦は公債・地方債共で元利合計約三億三千餘萬圓（但し邦貨換算を示す、以下之と同然）の對外支拂を年々必要として居り、之に對し一九三五—三六年度は出超額で辛うじて相殺し得たのであり、一九三六—三七年にはその所要支拂を濟せて尙一億七千餘萬圓を出超殘金となし得たほどに好轉し得たのである。その爲にロンドン財界に於て赤字濠洲といふ今迄の定評は著しく改善され得るに至つた。

歳出入決算表

年 度	歳 入	歳 出	計
一九二九—三〇	七七一,四三三,七	八三九,五九二,五	一,六一〇,四九三,三

單位：濠洲磅

項目別	豫 算	項目別	豫 算
一九三〇—三二	六九五,六九二,〇	一九三三—三五	八二二,三三三,九
一九三一—三二	七二五,三三三,九	一九三四—三五	七〇二,二八二,〇
一九三二—三三	七三三,二二八,〇	一九三五—三六	六九九,六六一,〇
一九三三—三四	七三九,九一五,九	一九三六—三七	七三二,一六二,五
一九三四—三五	七三三,九一〇,五	一九三七—三八	七三九,九一五,九
一九三五—三六	七三三,九一〇,五	一九三八—三九	七三三,九一〇,五
一九三六—三七	八二二,三三三,九		
一九三七—三八	八二二,三三三,九		
一九三八—三九	八二二,三三三,九		

二 歳 入

一九三六—三九年度の歳入總額九五、〇六四、七九〇磅の内關稅收入は三四%、消費稅は一七%にして、双方をもつて歳入の優に半分を占める。其他主要なものとして郵政が一八%、賣上及所得が各九%にして、土地・遺産は各一%に過ぎない。

聯邦政府經常歳入内譯表 (一九三六—三九年)

項目別	豫 算	項目別	豫 算
關稅	三二,六〇四,六	計	七四〇,三六八,九
消費稅	一六,四七一,〇	直接領收入	三五,四四〇,一
販賣稅	九,三〇八,三	利子其他雜收入	二,九六〇,八
小麥粉稅	一,八〇八,九	公企業收入	一七,五〇四,九
地 所 得 稅	一,四八九,三	鐵 道	一五,五九一,〇
住 宅 稅	一,二八二,四	總 計	九五〇,六四七,〇
	一九,二五三,二		

三 歳 出

一九三六—三七年の歳出總計八五、五一八、九四〇磅の内、軍事費二一%、老衰疾病扶助一五%、郵政費一七%、各州給付一二%、其他二四%であつて、產婦扶助は〇・四三%、農業者補助は〇・六八%、道路扶助

が三%となつてゐる。軍事費の内國國防費は八、〇六七、〇〇〇磅、他は本國へ送付する軍事關係費である。又後の公債の部に於て見られる如く、濠洲財政の痛は第一次大戰當時の戰費にあると云つても過言でない。その他社會政策的支出が多額を占めてゐるのも濠洲歳出の特色である。

聯邦歳入剩餘金・比率及一人當り負擔額表

項 目	一九二七—二八	一九二八—二九	一九二九—三〇
一、歳入剩餘金	一,二七六,五五八	三,四九四,七三三	三,四九四,七三三
收 入 積 算	三,五七五,七〇〇	三,四九四,七三三	三,四九四,七三三
餘 剩 金	一,二七六,五五八	三,四九四,七三三	三,四九四,七三三
計	四,八四二,二五八	四,七七〇,二九一	四,一三三,〇四一
餘剩金支出—州政府	五〇〇,〇〇〇	—	—
(交付)	五〇〇,〇〇〇	—	—
不足 補填 準備	二,〇〇〇,〇〇〇	—	—
郵 政 補 助	—	一,〇〇〇,〇〇〇	—
不足 額 補 填 計	一,〇六七,七三〇	二,七六五,五五八	—
殘 額	三,五七五,七〇〇	三,四九四,七三三	三,四九四,七三三
二、税金・事業資金及地方費比率及一人當り負擔額	一,二七六,五五八	六二七,三〇九	—
金	六二七,三〇九	—	—
全體に對する比	七・七二	七・七九	—

聯邦政府歳入歳出表

年 度	歳 入	歳 出
一九二二—二三	六三六,三四三,六	六三六,三四三,六
一九二二—二三	七七一,四三三,九	七八一,四三三,九
一九二二—二三	八二八,〇七九,七	八一三,一四一,九
一九二二—二三	八九四,五六一,五	八五九,六三三,二

濠洲... 財政・金融及經濟

四 公 債

濠洲の財政は公債に於て破局を示してゐる。次表に見られる如く第一次大戰前は聯邦政府及州政府合して公債は總計三億磅に過ぎなかつたが、戰後には一躍倍加して七億磅となり、その後逐年激増して一九三七年に於ては一二億六萬磅を突破するに至つてゐる。以上の如く一二億磅に上る膨大な公債總額の約三〇%が聯邦債であり、残りの約七〇%が各州債である。又公債總額の約五億八千餘萬磅は外債であり、六億七千餘萬磅は内國債である。それで人口一人當りの公債負擔額は一八五磅強に當るのである。

五 統 計

1 聯邦政府關係

普通經費	積算額	餘剩金支出
餘 剩 不 足	餘 剩 不 足	餘 剩 金 支 出
一九二二—二三	一,〇〇,一四〇	七四二,八五七,四
一九二二—二三	六,四四七,七三三	一,一七六,五五八
一九二二—二三	一,二七六,五五八	一,五九三,五五八
一九二二—二三	三,四九四,七三三	一,五九三,五五八
		一,二七六,五五八
		一〇四五

單位：濠洲磅

一九三八年三月
一九三九年四月〇

各種税金額及比率表 (但し数字の申右側は計左側は比率を示す)

Table with columns for tax types (e.g., 關稅, 內國消費稅, 物品賣上稅) and their respective amounts and ratios for 1938 and 1939.

Table with columns for various goods (e.g., 砂糖, 織物, 金類) and their respective tax amounts and ratios.

二、地方別關稅收入

單位目磅

Table showing domestic consumption taxes (一、內國消費稅) for various items like alcohol, tobacco, and oil.

其他の稅收入表

Table showing other taxes (其他の稅收入) including land tax, building tax, and war profits tax.

單位目磅

Table showing land tax revenue (土地稅收入表) for various regions like 中州, 中央, and 薩洲.

土地稅收入表

單位目磅

Table showing building tax revenue (建築物稅收入) for various regions.

建築物稅收入

單位目磅

Table showing war profits tax revenue (戰時利得稅收入) for various regions.

戰時利得稅收入

單位目磅

單位目磅

單位目磅

單位目磅

一九三三 八一三九
一九三九 九一四〇

九三〇四七九〇

九四三三七一八一

六二七三三〇六

六二七三三〇六

一五〇六五八五八八

三三〇九七七三三

各種税金額及比率表 (但し数字の中右側は計左側は比率を示す)

Table with columns for tax types (e.g., 關稅, 內國消費稅, 物品賣上稅) and their respective amounts and ratios for the years 1933 and 1939.

Table listing various goods and services (e.g., 紗, 織物, 陶器) and their corresponding tax amounts.

內國消費稅收入表

單位：磅

Table showing domestic consumption tax revenue (內國消費稅) for various categories like 啤酒, 葡萄酒, 烟草, etc., for 1933 and 1939.

其他の稅收入表

Table showing other tax revenue (其他の稅收入) for 1933 and 1939, including 土地稅 and 建物稅.

土地稅收入表

Table showing land tax revenue (土地稅收入) for various regions like 中州, 南州, etc., for 1933 and 1939.

濠洲 財政・金融及經濟

Table showing tax revenue for various regions (e.g., 中州, 南州, 西州) for 1933 and 1939.

所得稅 戰時利得稅

Table showing income tax and war-time profit tax (所得稅, 戰時利得稅) for 1933 and 1939.

興業稅 賣上稅 小麥稅

Table showing industry tax, sales tax, and wheat tax (興業稅, 賣上稅, 小麥稅) for 1933 and 1939.

一〇四七

が行はれて、仲裁裁判は經濟一般の調停に努力し、原始生産物は生産の統制、輸出の統制、關稅の保護等を含む市場統制の適用を受ける。

一體、濠洲の之までの經濟發展の經過を見ると、その繁榮は羊毛・小麦・バター其他の輸出原始生産物に依存して來たのであるし、今後それは濠洲の第一産業である。鐵業も、今後の探鑛に相當の期待がかけられてはゐるが、地下資源の漸減は免れ難い數である。牧畜業は國內市場の増大と海外市場の擴張につれて生産量を増し、製造工業も戰時經濟の動きにつれて益々活潑な活動を爲しつゝある。數多の新濠洲工業は關稅障壁の下に相繼いで興り、一九〇一年聯邦政府が成立するや關稅は固守され強化された。第一次世界大戰までは、農業生産物が工場生産物の二倍を占めてゐた。大戰中に機械類・織物・諸産業は大發展を遂げ、從來輸入に俟つ物資を總て自國で生産することを努めることとなつた。この自給自足の政策は世界各國が大恐慌に遭つて困難を極めたときに在つても辛うじて破綻を免れることを得た。當時、原始生産物たる羊毛と小麦其他が非常な價格の値下りに遭つて輸入品を購入し難くなつたときに、自國工場に依存することによつて國家存亡の問題をすらすら解決したのである。然し乍ら、濠洲製造業者がその商品を廣く他の市場に擲出することは極めて困難である。それは濠洲労働者の賃率が米國以外の何れの國々よりも崙然高い生活水準と労働條件の上に定められてゐるからである。

現存の經濟機構のどれだけが自然の發達の結果であり、どれだけが國家理想を經濟政策によつて實現せんとした施策の所産であるかは劃然たる區別は出來ぬが、濠洲が高度産業國の域に達してゐることは顯かである。一九三三年の國勢調査によれば労働者の三二・一%は工業(工場其他)に従事し、二〇・三%が農業・牧畜・酪農に従事してゐる。之は又純生産額の四六・四%が工場生産であり、五三・六%が總ての原始産業の生産であることを示してゐる。製造工業は比較的早く植民された入口の稠密なニューサウスウェールズが、州内に豊富なる石炭資源のある關係

から重工業の中心的發達を爲した。又ウイクトリア州は労働力の豊富なることが必要とされる工業又は地方市場に輸出を必要とする纖維工業等の中心となつた。一言にして西オーストラリア州、タスマニア州、南オーストラリア州、及クインズランド州は原始産業國であり、ニューサウスウェールズ州とウイクトリア州とは工業國といふことが出来る。

各州・産業別純生産額比率表

産業別	ニュージーランド	ウイクトリア	クインズランド	南オーストラリア	西オーストラリア	タスマニア
農業	九六	一一九	二〇二	二五八	一八一	一七三
牧畜業	三三六	一七七	二四一	一〇二	二〇八	一三三
酪農	六六	九五	二二	四七	一八	三一
家禽・養蜂	一六	二五	〇六	一〇	一〇	三二
其他原始産業	八七	三五	一〇六	一六	二九五	一七三
工業	四九	五九	三三	四〇	二八	四一

主要物産生産額及主要畜頭數表

年 度	生産額			頭數(百萬)			
	小麦	羊毛	バター	羊	牛	馬	豚
一九一一年	九、九	七、九	二、二	九、八	一一、八	三、三	一一
一九二一年	二二、九	一〇、二	三、二	一一、八	一七、七	一、七	一三
一九三一年	一五、〇	九、七	三、七	一〇、九	一七、七	一、七	一三

三 統制經濟

濠洲の統制市場制度は餘りに完備し過ぎて居り、その過ぎたる點からしてその經濟機構の一部に何等かの不安定なる脆弱點を包藏するのではないかと疑懼せしめる程である。

濠洲の砂糖・バター・乾果等の諸産業は之を自由なる競争關係に委ば消滅か激減かを免れないのが眞實の様相といへるやうである。濠洲は統制經濟の發祥地である。その代表的なものとして市場統制制度がある。市場統制制度はクインズランド州に創設されたものであつて、一九二〇年の小麦プール法(Wheat Pool Act)がその先驅をなす。この法律によつて州小麦局が生れた。小麦局は生産者の代表と大臣が適當と認める人々から成り、委員長が任命される。小麦局は小麦を販賣し、小麦販賣に必要な一切の處置をなす權限を與へられ、クインズランドに生産される總ての小麦がこの小麦局に引渡されるのである。

市場統制の立法は、このクインズランドからニューサウスウェールズに波及し原始産物販賣法(Marketing of Primary Products Act)と進歩して、同法が一九二七年に通過した。之は一九二六年九月、バサースト(Bathurst)に開催された生産者及消費者會議の結果に基いたもので、この法律はクインズランド州の立法の原則を採り入れたものであるが、ニューサウスウェールズ州の場合には小麦局は生産者で構成されてゐる點が特色をなしてゐる。右法律によつて(State Marketing Bureau)州政府市場統制局なる調査機關が生れた。又この法律に基いてニューサウスウェールズ州には米・卵・蜂蜜・葡萄・バナナの販賣局が設けらるゝに至つた。

一九三五年にはクインズランド州、ニューサウスウェールズ州に次いでウイクトリア州に原始産物販賣法が制定された。之は實質的にはニューサウスウェールズ法(一九二七―三四年)の複製である。

二 土地開發問題

濠洲の經濟に觸れる場合には、土地開發問題が先づ擧げられねばならぬ。ニューサウスウェールズ州の如く早く拓けた州に於ては經濟價值のある土地の大部分は既に分譲され盡してゐるが、濠洲大陸全體として一九三五年末までに僅に九・七%が分譲されてゐるに過ぎない。而して全體の五〇・六%は借地であるし、残りの四〇%は所謂沙漠地であつて、雨量極めて少く自然條件が悪いために直ちに人が之を利用出来ない土地である。

この稀少雨量地帯の利用は此の後の大きな問題である。降雨が利用價值を決定する重要な因子となつてゐる。この濠洲大陸では、降雨の比較的に少ない地方の大部分は各種の牧畜に用ひられるのである。クインズランド州、ニューサウスウェールズ州、南オーストラリア州等て州内の僻遠の所では大部分の土地が羊の放牧に利用され、北オーストラリア州に於ては牛の放牧に用ゐられてゐる。全牧場の八〇%以上は一九三三―三四年に於ては、四ヘクター以下であり、二三萬五千の牧場の中僅か三七〇が各二萬ヘクター内外で、五萬ヘクターを超えるのは七〇を數へるに過ぎない。羊の牧場としては一、〇〇〇ヘクター乃至五、〇〇〇ヘクターのものが多い。牧羊の頭數も二〇乃至五〇頭が普通である。羊は一般には牧場に放牧されるのであるが、羊の約三分の一は小麦を生産する農場で生育される。單一の作物を耕作する農場は寧ろ例外となつてゐる。一九三五―三六年にはニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州、南オーストラリア州及西オーストラリア州に於る小麦の農場數、五一、五二九の中三九、〇一七農場には羊を飼ひ、二九、八四二農場は乳牛を、二二、〇二六農場には豚を飼育してゐる。

四 第二次大戰下の濠洲經濟

濠洲は一九三九年九月、英本國の一翼として對獨宣戰に参加したのであるが、爾來濠洲は着々經濟戰爭の準備を整へ、一方に於ては英國に對し兵站部たる役目を果すべく、空軍の充實、軍需品の供給を計り、他方に於ては自國の國防を整備するに寧日なき有様である。これより先、ライオンズ内閣の當時より濠洲の國防建設は着々として行はれつゝあつたのであるが、大戰勃發によりその計畫を擴充強化し、次いでメンヂス内閣に及び、近時はカーチン首相の獨裁下に國防國家建設に邁進してゐる。

かくして濠洲も戰時經濟の必要に迫られ、統制經濟を強化することとなり、これが進展に伴ひ、相次いで多數の統制法規を發布した。是等の統制を總覽すると大體次の五種に分ち得る。即ち(一)物資の統制 (二)資金及貿易の統制 (三)物價の統制 (四)交通・通信の統制 (五)外人の統制である。而して是等諸法規の基本を爲すものは國家安全保障法で聯邦政府に對し、國防上極めて廣汎なる權限を賦與したものである。

物資統制は一面に於て原始生産物(羊毛・小麥・酪農・肉類・銅・鉛・鉛等)の對英賣却に關し、是等の重要物資輸出禁止、國家による徵發又は買上げ等を行ひ、他面に於ては軍需品の供給を計るため軍需大臣に廣汎な權限を賦與して生産の指揮・指導をなさしめ、軍需注文の優先制度を確立した。

かくて羊毛は輸出禁止・取引禁止となり、その取扱・貯藏等の事務執行機關として中央羊毛委員會の設置を見、戰時中戦後一箇年間の全收穫を擧げて英國に賣却し、其中より濠洲地元消費を差引き、更に英國の指定によつて第三國へも分讓することとなつた。

その他、バター・チーズ・卵・肉類・砂糖・鉛・銅等に對しても、夫々一括して對英賣却が成立した。小麥に關して小麥局を設け、全濠洲の小麥を徵發し、英國との間に同様の賣却取極が行はれた。その他、大麥・林檎・梨等にも統制が加へられた。

資金統制に就ても輸入爲替・送金爲替・有價證券に關する管理法規が發布され、この法規には必要により海外資産の管理までもなし得る機構が備へられてゐる。この法規による資金統制は最初主として海外への資金逃避を防止するのが目的であつたが、其の後爲替許可金額を制限し特にドル資金獲得のために、爲替許可制の運用が漸次強化せられた。

貿易統制は敵國との通商に關する統制と、一般貿易に關するものとに分ち得る。對敵通商法により敵の定義を行ひ、苟も敵國を利用するもの一切の通商行為に禁止を加へたが、其の後更に敵商社の範圍を擴大しその商社名を發表した。

一般貿易の統制は最初爲替統制により行つてゐたが、其の後一九三九年一月より磅貨以外の地域よりの輸入品に對しA・B・C・Dの四順位を設け、不要品の輸入を禁止し、其の他を許可制度とした。而して輸入許可證は關稅省で發給し、爲替取組上絕對の條件となり、一九三九年一月より一九四〇年一月迄の二箇月間を第一期とし、一九三九年六月にて既往一箇年間の輸入実績價額の六分の一を、各個人に許可する事とした。尙濠洲政府は發行によつては磅貨地域の或る部分に對しても許可制を執行し得る立場にある。

第七章 農業

總説：耕地面積：主要農作物(小麥・甘蔗・棉・燕麥・大麥・玉米・黍・米・苧草・苧草・青刈飼料・馬鈴薯・豆類・煙草・コーヒ―・ホップ・麻・果實)

第一節 總説

濠洲は天然資源の豊かな國であるが、然し決して人工的工夫によつ

各産業別生産額表

年次	農業	畜産業	酪農・家畜・養蜂
一九二七	八四三六	一一一五	REPTIKI
一九二八	七〇七二	九五六三	BOYOK
一九二九	六八五七	七四三六	四七三三
一九三〇	七五三六	九一八六	四七三三
一九三一	九一四三	一〇一四九	四九八六
一九三二	七一一三	一〇〇七四	五七六四
一九三三	八一三九		

きて濠洲の地理的位置が農業に及ぼしてゐる影響の大きなものが二つある。一は濠洲大陸が南緯一〇度四七分から四三度三九分(タスマニアを除くと三九度一分)に位置し、熱帯から温帯に亘る廣大な地域に跨つてゐること、爲に農産物の種類が極めて多様であつて、北部では甘蔗・棉花・バナナ・ココナ等の如き熱帯果實が得られるのに、南部では小麥其の他の穀物・林檎・ホップ等の温帯作物が栽培されてゐる。今一つは北半球と全く對蹠的配列にある結果、その季節的配置が北半球とは全く逆であることである。即ち春は九・一〇・一一月、夏は一二・一・二月、秋は三・四・五月、冬は六・七・八月となつてゐる。

て、十分に經濟が運行されてゐる國とはいへない。従つてその産業も殆ど農業・畜産業・鑛業の如き原始的産業であり、多くは原料生産を目的とする。

最近工業も相當に發達し、所謂第二産業として異常な進展振りを示しつつあるものゝ、而も極端なる保護貿易主義を採つてゐて、未だ列國の工業とは競争し得る迄には至つてゐない。

單位：千磅

森林業	漁業	鑛山業	工場製産	計
LOGGING	FISHING	MINING	MANUFACTURING	TOTAL
七九四	一六〇	一七六八	一三三三五	一五八五二
九二二	一六五	一九九四	一三七六三	一五八五二
九七七	一六八	二二二四	一五五八九	一八〇七〇
九七〇	一七〇	二七三二	一七〇八一	二〇四一三
一一〇一	一九四	三三三四	一八〇六一	二〇四一三

この北半球と逆であるといふことは農作物を季節的に輸出することに有利に働くのである。

濠洲の雨量は大陸の中央部を東西に横斷する中緯度高壓帯が可なりな面積を占めてゐる事が根本原因になつて、六月より八月(冬)の間は大陸の南部は温帯低氣壓の爲雨を齎す。之に對し、夫以後は中緯度高壓帯が南に移つて大陸の南端迄來る爲、北部は熱帯低氣壓に入り多量の降雨を見るのである。

風も亦降雨の主要なる原因を爲すもので、海からの濕氣を含んだ南東貿易風は東部海岸に沿つて連なる一連の山脈に突き當り、此處にて上昇

する際の気温の低下により東部及東北部に多量の雨を齎らす爲、此の地方が濠洲に於て年雨量の最大なる地方となる。一方偏西風は冬期に於て大陸の南端に移る爲に、タスマニア島の西側斜面に多量の雨を齎すのである。

濠洲の雨量がかくの如き原因によつて生ずる爲に、雨量の季節的分布には著しい相異があり、即ち南部は冬雨地帯、北部は夏雨地帯に屬し、共に夫以外の季節には雨が少く、之に對し東部及東南部は一年中比較的に多量の降雨を見るのである。そして中央部はこの何れの原因も作用しない爲に殆ど降雨が無く、廣漠たる沙漠地を形成し、無居住地域を現出して土地利用の如何なる形態も行はれてゐない。

斯の如き自然的現象が濠洲に於る農業の分布を決定してゐるのであつて、即ち小麥其の他の作物は主として成長期である冬期に、多量の雨を必要とする爲、その分布が殆ど大陸の南部及東南部の海岸地方に限られるに對し、北部地方は一箇年の降雨量の點では南部地帯と同じ條件を備へてゐても、夫の季節的分布の關係上農業には全く不適當となるのである。従て濠洲の農業は気温及雨量の關係から大陸の北東部海岸に沿つて棉花・甘蔗・熱帯果實等が栽培されるのを除けば、他は殆ど全部が東部及東南部の海岸地方に限られると云ひ得る。

濠洲では、降雨の確實性が重要な要素であるが、之は一般的には内陸に進むにつれて低くなる傾向にある。雨量に恵まれた地方は降雨の「確實性」が比較的の高いのを通例とするのであるが、時には一八九九年、一九〇二年の如き全般的の甚だしい旱魃を見るのである。

一 土 壤

土壌は次の如き十地帯の如き型に分類されてゐる。

イ 高位濕原地帯
之は全く農業に不適な地帯である。

ロ ボドゾール化土壌

ボドゾール化進行の程度は其の母岩の如何によつて異なり、それが砂質である場合は、概してボドゾール化が進み耕耘も容易であるが、礫物質に缺ける爲施肥を必要とし、熟練した農耕技術を要するので、農業の眞の適地とは稱し難い。ボドゾール化のあまり進行してゐない地方は、火山灰土壌及沖積土壌に多く、是等は肥沃で農業に適する。

ハ 赤褐色土壌

冬季に適當の雨量を有する地方に見られ、古くからの小麥地帯がこゝにある。此の地帯の中よりも乾燥せる地方では休閑地農法又は輪作農法を採用してゐる。

ニ 赤色ローム地帯

ボドゾール化土壌の間に見られ施肥を必要とするが、現在は馬鈴薯・玉蜀黍等の栽培に利用されてゐる。

ホ 灰色及褐色土壌

水の供給を確保せる場合、牧場地として用ひられ、農耕用には利用されて居らない。

ヘ 黒土地帯

深部まで精重なる土壌は印度の棉花黒土に似て居るが、濠洲に於ては棉作は夏季六箇月内に年雨量五〇―八〇%を見る地方に限られる爲、此の地帯の多くは羊の放牧に利用されてゐる。従て棉作・小麥栽培は此の地帯の一部に行はれるに過ぎない。

ト マリー土壌

半乾燥地であり小麥栽培に好適であつて、之はマレー河の灌溉によつて園藝用にも利用されるに至つた。

チ 荒草原

リ 荒砂丘

(イ)及(ロ)の二は大陸の半以上を占め、之は全く農業に不適である。
× 砂平原

肥沃で無い爲多くは未開墾のまま捨てられてゐる。西オーストラリア州等では小麥栽培に開發された地方でも農場の規模は五、〇〇〇エーカーを一區域とするような大きなものである。

土壌の化學的成分を見ると、大陸の南半分は土壌の燐質含有量が一般に低い爲、燐酸肥料を必要とする。窒素含有量は明瞭で無いが一般に餘り高くはなく、耕作の結果潤滑せしめる事態が屢々生じて居る。

二 土地所有の形態

濠洲に於る土地所有の形態は、その開國の初期より大土地所有が開始され、而も其の巨大農場の殆ど大部分が牧場化された爲に、土地が廣大で人口が少いにも拘らず、土地の飢饉が生じた程に大土地所有者と農耕者との争ひは熾烈であつた。

そこで近時に至り、政府は土地が牧場として粗放的に經營されるのを防ぎ、健全なる農家を建設せんとする土地政策を採り、この目的を達する爲に次の方策を樹てた。

イ 大土地を政府の手に買戻し、之を小農地に分割し植民せしめる事
ロ 土地の拂下を爲す場合には慎重なる注意を以てする事
ハ 土地の課税によつて土地を有効に使用せしめるか、又は之を適當に賣却せしめる事
この政府の目的が達成されつゝありや否やは、現在濠洲に於る土地所有形態を見るとき、夫が次の六過程を経て生じた事が判明する。

イ 無償下附・保留地及獻納地

濠洲に於る土地の無償下附は一八三一年以來禁止されたが、現在特殊のものに限り、即ち保留地(軍用地・公園・保安林・水源地・原住民居住地・鐵道沿線)及獻納地(學田・寺院田・福田)等に無償下附が行はれてゐる。

ロ 競賣法による賣却

この賣却方法は嘗て行はれたもので、今では一般的方法ではない

濠洲の農業

イがケインズランド州以外では尙發存してゐる。此の場合、最低賣價及賣却條件が官報に告示され、現金又は賦拂で賣却されるのである。

ハ 條件付購入

之は政府より一定の條件を以て土地を借受け、一定の條件を實行した後初めて拂下を許可され其の條件は州によつて異なるが最初の積立金、一定期間の居住、改良の附加、殘金の賦拂(三〇年以上)等が夫である。

ニ 借地及特許

之による場合は土地を一定期間占有し得るのみで所有権は得られない。現在借地及特許は牧畜用及鑛業用のみ許可される。其の面積は土地によつて異なるが往々にして數百平方哩にも及び、其の期間は二―四一年といふような長期に亘るものもある。

ホ 稠密植民

之は未開地を開墾し又は既墾地を買収し、之を細分して移住せしめるものを云ひ、次の場合に行はれた。

① 大所有地を買収して細分するといふ普通の場合

② 灌溉事業を起してその地方に植民せしめる場合

③ 第一次世界大戦によつて生じた歸還兵士の爲の植民

三 灌 溉

濠洲の降雨は主として海岸に沿つた地方に限られ、内陸へ進むに従て乾燥する爲に、マレー河沿岸の農業に好適な沖積土壌に灌溉する事の必要は早くから認められてゐた。然し乍ら、濠洲アルプス地方に源を發するマレー河ですら此の山脈が四時雪を頂く程には高くない爲に、灌溉を行ふには乾燥期に使用すべき氾濫水の貯藏の爲の貯水堰堤の構築が必要であつた。そこで此の目的の下に早くから測量が行はれたが、河岸

の土地所有者の障害にあつて進行せず遅れてゐた。然るに一八八五年北米のやり方に倣つてヴィクトリア州が灌漑法を制定し、夫によつてヴィクトリア州のミルジュラ及南オーストラリア州のレンマータに堰堤が設けられたが、之が濠洲灌漑事業の嚆矢である。

第二節 栽培面積

農業は濠洲の最大の産業である。而もその農耕面積は二、〇〇〇萬エーカーで、その全國土の僅か一%に過ぎない。産物の主要なるものは小麦を最大とし、燕麥・大麥・玉蜀黍之に次ぎ、その他、馬鈴薯・甘蔗・甜菜・葡萄・果實等が多い。又家畜の飼料たる牧草の産出も多い。

一九三八―三九年度に於る農耕地は二三、四九七、七八〇エーカーであり、同年度の主要農産物價額は七六、八五一千磅に上つた。一九三八―三九年度に於る各農作物の栽培面積・生産高及エーカー當り收量を擧げる

地方別栽培面積表

Table with columns for crop types (e.g., Wheat, Barley, Oats) and regions (e.g., New South Wales, Victoria, Queensland, Western Australia, Tasmania, Northern Territory, Federal Territory, Total Australia). It lists cultivation area in acres for each category.

各種主要農作物及果樹類栽培面積及比率表 (一九三七年)

Table showing cultivation area for various crop types across different regions. It includes categories like Wheat, Barley, Oats, Beans, etc., and lists the area in acres for each.

種別 一、栽培面積 單位：エーカー

Main table listing crop types (e.g., Wheat, Barley, Oats, Beans, etc.) and their cultivation areas in acres across various regions and the total for Australia. It includes sub-sections for 'Cultivation Area' and 'Total Australia'.

第三節 主要農作物

一 小 麥

1 概 要

濠洲の農産輸出品中で目下世界の市場に雄飛しつゝあるものは小麥粉であつて、小麥は濠洲農産物の大宗である。雨量・気温その他の關係上、ニューサウスウェールズ、ヴィクトリア、南オーストラリアの三州及西オーストラリア州温帯部の一角に限られてゐる。濠洲全土の住民が食料として消費するものは五、〇〇〇萬ブツシエル、種子その他三、五〇〇萬ブツシエルであつて、夫を全産額たる一、八〇〇〇萬ブツシエル(一ブツシエルは約二斗一合に當る)から扣除した残りの分約一億ブツシエルが世界の市場に搬出される。

この巨額の世界市場供給は、パンを常食とする國民にとつて相當に重要であつて、濠洲は此の點で重視されてゐる。

其の生産高に於てはソ聯、支那、アメリカ、印度、フランス、アルゼンチン、カナダの下位にあり乍ら、世界から重視されるのは、上記の國々が、その生産の大部分を自國の消費に充當しなければならぬのに反し、濠洲では人口が少く自國消費が僅少である爲に、輸出はカナダ、アルゼンチンに次いで世界の第三位を占めてゐるからである。

濠洲で小麥が生育するのは四月から一〇月に至る期間で、十分な收穫を得るためには、この數箇月間の降雨量が順調でなければならぬ。特に收穫期に近づいての降雨が最も大切であり、一年を通じて降雨量が比較的に多い西南部地方に小麥がよく成育するのは穂が實る頃に十分な降雨量二五〇乃至五〇〇ミリの地域が多いからである。小麥の生育にクインズランド州方面にも降雨量のある土地はあるが、そこに小麥が成育しないのは雨の降るのが夏季に限られてゐるからである。

2 品種及品質

播種時期から見ると濠洲小麥は冬蒔小麥に屬し、晩秋に播種し初夏に收穫する。濠洲に於ては冬季氣候が比較的溫暖で降霜が少いから播種に適してゐる。色からすると濠洲小麥は白小麥であり、黄小麥に比して鉄素量は少いが製粉歩合は高い。赤小麥も少量産するが、その量は生産總量の僅々一%内外で問題とするに足りない。種子の性質からすると濠洲小麥は軟質小麥に屬する。

3 取引制度

濠洲に於る小麥の取引はすべてF・A・Q・標準(Fair Average Quality Standard)に從つてゐる。このF・A・Q・といふのはブツシエル當りの重量を云ひ、各州毎に毎シーズン決定されるのである。

普通濠洲の小麥は次の四つのF・A・Q・によつて取引されるのである。最近二箇年のF・A・Q・は次の如くである。

Table with 2 columns: 銘柄 (Brand) and 数量 (Quantity). Lists various wheat brands like F.A.Q. and their corresponding quantities.

此の制度の下では、實際に取引された小麥のブツシエル當り重量がF・A・Q・のそれよりも低い時は割引が行はれる。

農業者は其の小麥をブール、商人又は製粉業者と收穫前に契約する事も、又一部を賣却し他を貯蔵する事も、或は又全然賣却せず貯蔵する事もある。何れの場合にしても其の小麥はブール又は商人の手によつて貯蔵され、農業者は何時でも其の買取方を請求する事が出来る。農業者は其の小麥を貯蔵者以外のものへも賣る事が可能であるが、其の場合には其の貯蔵者に貯蔵料及保険料を支拂はねばならぬのである。然し乍ら濠洲の小麥の大部分が輸出される現狀に於て、貿易業者は夙に外國と賣買契約を締結し、夫だけの數量の小麥の調達に迫られる爲に、相當高値を出しても小麥を獲得するのが普通となつてゐる。從て引渡しは主として十二月から二月半頃迄に行はれる。

最近數年間に於る小麥の植付面積及産額は次の如くである。

小麥栽培面積・生産量及一エーカー當り收量表

Large table showing wheat cultivation area, production, and yield per acre for various regions in Australia from 1913 to 1920. Columns include Year, Area, Production, and Yield.

年次	ニューサウスウェールズ	クイーンズランド	タスマニア	西オーストラリア	南オーストラリア	西オーストラリア	聯邦直轄	全濠洲
一九三六	1,259	722	1,005	935	1,374	1,297	2,478	1,239
一九三七	1,259	722	1,005	935	1,374	1,297	2,478	1,239
一九三八年	1,259	722	1,005	935	1,374	1,297	2,478	1,239
一九三九年	1,259	722	1,005	935	1,374	1,297	2,478	1,239
十年間平均	1,259	722	1,005	935	1,374	1,297	2,478	1,239

二 甘蔗

濠洲で生産する砂糖は悉く甘蔗糖である。ニューサウスウェールズ及びクイーンズランドで嘗て甜菜の栽培を試みたが、その成績は思はしくなかつた。甘蔗が勢よく成育してゐるのはニューサウスウェールズ州のクラーレンス河以北、クイーンズランド州のクックタウンに至る地域であり、その中心地はクイーンズランドのバンドヘルグマツキー及ケアンズ附近である。甘蔗の成育状態が良好なのは、夫等の地方の河底に沿ふ地味肥沃な地域であるが、地下水その他の灌漑が適宜に行はれてゐる熱帯地帯でも成育状態は良好である。

濠洲に於ては甘蔗の栽培は製糖工場の有する直營農場若干を除き、その他は殆ど總て蔗作農によつて行はれるが、その經營者は自作農が大部分でその殆ど總てが英國人である。

一戸當りの平均はクイーンズランド州の最北部地方に於ては四七・〇エーカー、ニューサウスウェールズ州に於ては九・〇エーカーである。

労働は普通は家族労働によつてゐるが、繁忙期には臨時に労働者を雇ふしてゐる。此の臨時雇傭労働者は收穫期に於て各農場を次から次へと移動する労働者の團體であり、農場との契約により甘蔗の收穫に従事する。その賃金が極めて高率で甘蔗生産のコストが高價となる。爲に政府は巨額の補助金を支出を敢てしてゐるのである。

單位トツシエル

甘蔗栽培面積・甘蔗及砂糖生産量表

一、栽培面積

年次	ニューサウスウェールズ	クイーンズランド	全濠洲
一九三六	101,111	115,111	216,222
一九三七	101,111	115,111	216,222
一九三八年	101,111	115,111	216,222
一九三九年	101,111	115,111	216,222
十年間平均	101,111	115,111	216,222

二、甘蔗及砂糖生産高

年次	甘蔗	砂糖
一九三六	1,751,111	2,151,111
一九三七	1,751,111	2,151,111
一九三八年	1,751,111	2,151,111
一九三九年	1,751,111	2,151,111
十年間平均	1,751,111	2,151,111

一エーカー當り壓搾甘蔗及砂糖收量表

年次	一エーカー當り壓搾甘蔗	一エーカー當り砂糖
一九三六	3,290	3,721
一九三七	3,290	3,721
一九三八年	3,290	3,721
一九三九年	3,290	3,721
十年間平均	3,290	3,721

全濠洲

年次	生産的	非生産的	計
一九三六	1,751,111	1,151,111	2,902,222
一九三七	1,751,111	1,151,111	2,902,222
一九三八年	1,751,111	1,151,111	2,902,222
一九三九年	1,751,111	1,151,111	2,902,222
十年間平均	1,751,111	1,151,111	2,902,222

クイーンズランド

年次	甘蔗	砂糖
一九三六	1,751,111	2,151,111
一九三七	1,751,111	2,151,111
一九三八年	1,751,111	2,151,111
一九三九年	1,751,111	2,151,111
十年間平均	1,751,111	2,151,111

ニューサウスウェールズ

年次	一エーカー當り壓搾甘蔗	一エーカー當り砂糖
一九三六	3,290	3,721
一九三七	3,290	3,721
一九三八年	3,290	3,721
一九三九年	3,290	3,721
十年間平均	3,290	3,721

試に他國との賃金率を表示して見ると次のようであり、不熟練労働者の日給額が如何に高いものになつてゐるかが判るのである。

印度	五・七片	ナタール	二志六片
ジャバ	一〇片	モリスシアス	三志六片
フィリッピン	一志四片	キューバ	五志
ペルー	一志六片	濠洲	一七志

生産された甘蔗は總て製糖工場が買取るのであるが、其の價格は糖分含有率によつて決定されてゐる。

製糖工場が蔗作農から買上げた甘蔗を以て生産された粗糖は徵發法によつてクイーンズランド州政府の所有に移される。次いで州政府は聯邦政府との協定價格を以て之を聯邦政府に賣却するのである。一方生産量の約五〇―五五%は英本國に輸出されるのであるが、この價格は協定價格よりは遙に低い價格となるのを例としてゐる。それでその差損をカバーする爲にブールが組織され、國內販賣及輸出の兩者がこゝで結合され、その平均が生産者への粗糖支拂價格となる。一九三七―三八年の如きも粗糖の協定價格が噸當り二四磅の時、生産者が粗糖に對し實際に受取つた金額は一五磅七志であつた。

甜菜栽培面積及生産高表 (ワイタトリア州)

摘要	單位	一九三六—三七年
收穫面積	エーカー	三三、七五
平均收穫量	噸	三、〇七九
砂糖生産高	噸	八、九四
計		四、二八〇

三 棉花

1 概要

クインズランド州は獨占的に良質の棉花を産し有名であるが、氣候・地味及雨量の關係が棉花の栽培に好適してゐる地域は、幅三二〇軒、長さ二四、〇〇〇軒を占めてゐて、鐵道の連絡も良く港灣を控へた條件の下に置かれてゐる。世界に於る棉花の産地として有名な所謂南部諸州は北緯二五度乃至三七度の間に在るが、クインズランドの棉作耕地は、南緯一七度乃至一九度に亘り前者よりは更に赤道に近いので、早春又は初秋の頃霜害に罹る恐れが絶對にない。其の上に夏期の氣温は理想的であり、地味は肥沃で降雨量も多いので、棉花の産地としては米國に優る好條件にある。その昔米國の南北戦争は同國の棉花栽培熱を煽り立てたが、その影響は遠く濠洲にまで波及して、當時早くもクインズランド州に棉花を栽培するものが顯はれたのである。而して一八五四年に初めて、英國リパブルに送られた濠洲産棉花は纖維が細くて質が均整であつたので、専門商人間に一等品として取扱つたが、その後この事業は何故か一時絶滅に傾したが、一九二〇年政府が保護獎勵の手段を執るに及んで再びこの事業は復活し、當時棉作地僅に一六六エーカーから五年後の一九二四年には一躍五〇、一八六エーカーに激増し、ロックハンプトンには紡績工場が設立せられて斯業の隆盛を來した。ロックハンプトンより濠洲

一九三六—三七年 十年間平均

一九三六—三七年	四、二八〇	一九三六—三七年	四、二八〇
一九三七—三八年	四、〇四六	一九三七—三八年	四、〇四六
一九三八—三九年	三、〇九	一九三八—三九年	三、〇九
一九三九—四〇年	三、六八七	一九三九—四〇年	三、六八七
一九四〇—四一年	二、一九〇	一九四〇—四一年	二、一九〇
一九四一—四二年	四、七〇二	一九四一—四二年	四、七〇二

北部を廻つて西オーストラリアのダービーに達する海岸地帯の雨量その他の狀況は、印度に於る棉花の栽培地と殆ど同一條件の下にあるので、若し適當な労働者を招致し得れば、是等の地方も亦棉花の産地として進出し得るのである。

濠洲の棉花は棉作開始の初期に於ては收穫量の全部を輸出せざるを得なかつた程、濠洲國內に於る棉花の需要は少なかつたのであるが、最近は今迄となり、國內の紡績業の發展は國內産棉花のみでは足らず、夫と同量の原料棉花の輸入を見るようにさへなつた。

2 品質

現在濠洲で廣く栽培されてゐる品種はドラランゴ(Duranggo)で、其の品位は、長さ1/16—1/8吋、直徑・光澤及強度は米棉の夫と略同様で、色合はクリーム色が少く米棉よりも白が強い。その性質としては撚絲に適し細さはよく均一であり、夾雜物も世界標準に比して少い。含水量は平均約八%である。

濠洲棉花の格付は總て指導官廳たる農牧省によつて嚴重に取行はれる所にその特徴がある。仕譯・看負等も直接その監督下に置かれ、殊に綿操作は各棉花種別に同一品等・同一纖維長のものに嚴重に區別して實施されるのである。格付方法も農牧省所屬の棉花格付官に依り嚴密にされてゐるが、その格付の分類は大體米棉のそれになつてゐる。今一九三七—三八年年度の收穫高九、六五四依り分類の結果を見ると次

の如くになつてゐる。

品等	數量	比率
Strict Good Middling	1,441	1.4%
Good Middling	11,712	11.7%
Strict Middling	11,474	11.4%
Middling	1,142	1.1%
Strict Low Middling	1,241	1.2%
Low Middling	1,241	1.2%
Strict Good Ordinary	101	1.0%
Good Ordinary	1	—
計	9,654	100.0

纖維長並に汚染度の點から分類すると次のようになる。

纖維長	依數	比率
15/16吋	1,111	11.3%
1/16吋	1,133	11.7%
其他	820	8.5%
計	9,654	100.0

汚染度	依數	比率
白色のもの	2,659	27.5%
汚點少きもの	5,598	58.0%
汚點多きもの	1,511	15.5%
白色のもの、層	84	0.8%
赤のもの	1,122	11.6%
計	9,654	100.0

元來クインズランド州棉花栽培地帯の自然的條件から云ふと、纖維長

の長いものよりは短かいものの方が適して居り、之は成熟期間も短かいと線上歩合も高い。

一方濠洲の紡績業は主として纖維長の長いものより中位乃至短かいものを要求する所からして、近年同州に栽培されるものは従來の纖維長の長いものから漸次中位乃至短かいものへと轉換してゐる。

四 燕 麥

濠洲に於る燕麥の地位は栽培面積では小麦に亞ぐが、濠洲の經濟から云ふと小麦に比して遙に低い。其の分布狀況を見ると一九三六—三九年度の栽培面積に於てワイタトリア州が栽培全面積の三七%、西オーストラリア州が二三%、ニューサウスウェールズ州が二二%、南オーストラリア州が一五%を占め、小麦の栽培面積とほぼ同一比率を示してゐる。之は燕麥が小麦の輪作々物として小麦栽培に主として栽培されてゐるからである。夫と合せて考へられることは上記の各州は濠洲に於る畜産業の中心地であるから、飼料に當てる爲に栽培してゐることである。即ち燕麥はその生産量の一〇%が輸出され、一%がオートミールの製造に當てられる丈で、その残りは全部飼料となつてゐる實情である。

最近五年間の栽培面積は漸減傾向を示してゐるが、夫は最近燕麥の相場が低位に停滞してゐる爲であつて、生産量も兎角伸びない現在迄で一番よく收穫された記録は一九二四—二五年の一九、三九四、〇〇〇ブツシエルであつた。

濠洲の燕麥の輸出入を見ると、輸入は極めて少く、その殆どが全部新西蘭からであり、輸出は生産總量の一〇%前後で、英國が主でマライ、セイロン、印度に出荷されてゐたのである。

燕麥栽培面積及生産高表

年次・州名	栽培面積			生産高		
	ウエーリス	トリア	クイン	南オース	西オース	タスマニア
一九三六	二五、八七	三八、〇六	七、九三	四、四七	四、三二	二、九三
一九三七	二五、五二	三九、四三	七、七〇	三、三三	三、八六	三、三三
一九三八年平均	二五、二八	四〇、四九	七、五五	三、七六	三、五八	三、〇七
一九三九	二五、九四	四〇、七九	八、六五	二、六八	四、二一	二、四八
一九三六—三七年平均	二五、七六	三九、八五	七、八三	三、四三	三、七二	三、一三
一九三七—三八年平均	二五、七三	四〇、九二	七、九三	三、四四	三、七三	三、一三
一九三八年平均	二五、七三	四〇、九二	七、九三	三、四四	三、七三	三、一三
一九三九	二五、九四	四〇、七九	八、六五	二、六八	四、二一	二、四八
一九三六—三九年平均	二五、七三	四〇、九二	七、九三	三、四四	三、七三	三、一三

五大麥

濠洲に於る大麥栽培の分布を見ると、一九三六—三九年度にはその六%が南オーストラリア州、二四%がウイクトリア州となつてゐる。收穫された大麥は一九三六—三九年度に於てはその二四・二%が輸出せられ、三四・四%が麥芽製造に振向けられ、三九・四%が飼料として消費されてゐる。故に濠洲に於る大麥の生産はその輸出の如何によつて影響される所が多い譯であるが、最近はその生産高も漸次増加しつつありその栽培面積は七四四、七三四エーカーとなり、生産高は一二、五三、四千ブッシェルとなつてゐる。

大麥栽培面積及生産高表

年次・州名	栽培面積			生産高		
	ウエーリス	トリア	クイン	南オース	西オース	タスマニア
一九三六	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三七	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三八年平均	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三九	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三六—三九年平均	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇

(備考) 次表中、全濠洲には聯邦直轄の分として夫々一九三六—三八年七エーカー、四二〇ブッシェル、一九三九—三九年二エーカー、五二ブッシェル、一九三〇—三九年の十年間平均は五〇エーカー、九四四ブッシェルを含む

年次	栽培面積(エーカー)			生産高(ブッシェル)		
	麥芽用	其他計	計	麥芽用	其他計	計
一九三六	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三七	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三八年平均	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三九	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三六—三九年平均	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇

麥芽用大麥其他栽培面積・生産高及エーカー當り收量表

年次	栽培面積(エーカー)			生産高(ブッシェル)		
	麥芽用	其他計	計	麥芽用	其他計	計
一九三六	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三七	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三八年平均	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三九	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
一九三六—三九年平均	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇

地方別麥芽用其他栽培面積及生産高表 (一九三六—三八年)

事項	栽培面積			生産高		
	ウエーリス	トリア	クイン	南オース	西オース	タスマニア
麥芽用	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
其他	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇	一、一〇〇	一、一五〇	九、五二〇
計	二、二〇〇	二、三〇〇	一九、〇四〇	二、二〇〇	二、三〇〇	一九、〇四〇

其 他

7,988,000 5,668,800
1,668,600 2,788,100

3,588,300 8,798,200 1,542,100 1,078,400 1,733,100
1,111,000 8,687,000 5,840,500 2,041,600 1,258,000

六 玉蜀黍

濠洲では玉蜀黍は殆ど各州で栽培されてゐるが、その中でもニューサウスウェールズ州は全面積の三七%、クインスランド州は五五%を占めてゐる。玉蜀黍が主として東部地方に分布してゐるのは夏期に雨量が多いからである。

濠洲に於ける玉蜀黍の栽培は、植民の初期には小麦よりも大規模に行はれてゐたのであつたが、夫が飼料として當てられてゐた豚の飼育が、いつか羊肉に壓倒されるようになって、養豚業が後退したこと及海外に於

る相場が兎角低位にあつた事等からして、玉蜀黍栽培は漸次酪農業と地位を換へるに至つた。故に一時は生産量も一、三〇〇萬ブツシエルにも及んだのが、現在では七〇五萬六千ブツシエルに過ぎない。

玉蜀黍の輸出入を見ると、濠洲への玉蜀黍輸入量は年により變動が甚しいが、その年度に於ける天候の如何、即ち降雨量の多寡によつて影響されるので、降雨少く牧草に不足する時は飼料としての玉蜀黍の需要が増える爲に輸入量が増加するわけである。最近の輸入先は南アフリカ聯邦であつた。海外への輸出は云ふに足りない。

玉蜀黍栽培面積及生産高表

年次・州名	一、栽培面積		二、生産高		聯邦直轄	全濠洲
	ニューサウスウェールズ	クインスランド	トリア	南オーストラリア		
一九三六—三七年	1,213,600	2,012,500	1,812,600	—	3,825,100	3,825,100
一九三七—三八年	1,150,000	2,087,900	1,704,300	—	3,788,200	3,788,200
一九三九—四〇年	1,111,000	1,812,500	1,622,500	—	3,435,000	3,435,000
十年間平均	1,111,000	1,812,500	1,622,500	—	3,435,000	3,435,000
一九三八—三九年	1,111,000	1,812,500	1,622,500	—	3,435,000	3,435,000
一九三六—三七年	3,101,200	7,945,000	3,248,600	—	11,093,600	11,093,600
一九三七—三八年	3,801,200	7,838,300	3,248,600	—	11,093,600	11,093,600
一九三九—四〇年	3,601,200	6,575,800	3,655,100	—	10,226,100	10,226,100
十年間平均	3,501,200	7,453,000	3,384,100	—	10,778,300	10,778,300
一九三八—三九年	3,501,200	7,453,000	3,384,100	—	10,778,300	10,778,300

七 米

濠洲に於ける米作はニューサウスウェールズ州のマラムビツヂー灌漑地域のみに行はれてゐるのであるが、之は給水と排水の便を得てゐるからで、他では未だ行はれてゐない。

このマラムビツヂー灌漑地域で米作が企業されるようになったのは一九二四—二五年度からで、その歴史は極めて浅く、其の後漸次發展して一九三八—三九年度に於ては收穫面積二三、五三三エーカーに達する。その栽培されてゐる品種はカロラ(Calora)及コルサ(Colusa)である。

米栽培面積・生産・輸出入高及價格表

(但し栽培者数はニューサウスウェールズ州)

年次	栽培者数	栽培面積	粗生産高	平均生産高	輸入高		輸出高		平均小賣價格
					玄米	精米	玄米	精米	
一九三一—三二年	2,270	51,000	68,900	68,900	—	—	—	—	—
一九三六—三七年	3,300	113,300	127,600	112,600	15,000	—	—	—	—
一九三九—四〇年	3,300	113,300	127,600	112,600	15,000	—	—	—	—
十年間平均	3,300	113,300	127,600	112,600	15,000	—	—	—	—
一九三八—三九年	3,300	113,300	127,600	112,600	15,000	—	—	—	—

八 乾草

濠洲に於ては乾草に適する種類の植物が廣汎に栽培されてゐるが、之は同國の牧畜業が世界的發達を爲してゐる實際から見て當然である。而してその栽培面積は濠洲に於ける作物栽培總面積から云つて小麦に並んで第二位にある。

栽培面積の分布を見ると、一九三八—三九年度に於てはウイクトリア州が全面積の三四%を、ニューサウスウェールズ州が三三%、残りは南オーストラリア州其他の諸州である。

濠洲の乾草は其他の諸國が主として牧草によつてゐるのに對し、濠洲

濠洲に於ては米産が國內需要を超過することを制する策をとり、夫に多産となつて低價格で輸出を餘儀なくされることを避ける爲極力生産制限の態度に出で、米の生産者に對する灌漑用の給水は八〇エーカーと限定した。

米産量は一九三八—三九年度に於て二、七七四、九八七ブツシエルで、一エーカー當り八〇—一〇〇ブツシエルである。その消費量は粗にして二〇萬—二二萬五千噸であり、その餘剰の輸出は極めて少い。

では大部分が小麦・燕麥・ルーサンからなつてゐるのを特徴としてゐるが、之は濠洲では天候不順のことが多く、小麦・燕麥等の作物が悪いとき即ち穀粒として收穫し難いときに、之を直に乾草とする慣習になつてゐたからである。

濠洲に於ける乾草の種類は之を栽培面積別に見ると、燕麥が五一・七%、小麦が三七・五%、残り一〇・八%の中五・七%がルーサンである。又州別で見るとニューサウスウェールズ州に於ては小麦面積が全體の半以上を占め、ウイクトリア州、南オーストラリア州及タスマニア州に於ては燕麥の率が高く、之に反しクインスランド州に於てはルーサンが全體の七五・八%を占めてゐる。

濠洲では氣候條件の如何によつて穀物用植物が乾草に流用せられる結果、乾草の生産量は年によつて變動が著しい。一九三三—三九年度に於ける栽培面積は前年度より増加してゐたが、早魃の爲その生産量は稍減少してゐる。

乾草の輸出入量は極めて小額で、一九三三—三九年度に新西蘭から一五三噸が輸入され、輸出量は一、二〇八噸で、その四五%はマライへ、二六%が比律賓へ、その他二・九%の割合となつてゐる。

九 青刈飼料

濠洲に於る青刈飼料は、乾草と同じく玉蜀黍、サトウモロコシ、油菜、ルーサン、甘蔗等で、是等は天候の如何によつて穀粒としても乾草としても利用不可能となつた場合に、青刈飼料とされる爲に、その生産量は毎年著しい變動を受ける。

濠洲に於る最近五箇年間の推移を見ると、一九三三—三九年度の二、七八、八〇〇エーカーが最大で、ニューサウスウェールズ州がその三四%、クインズランド州が二七%を占めてゐる。

馬鈴薯栽培面積及生産高表

Table with columns for year, region, and potato cultivation area/production. Includes sub-sections for '栽培面積' and '生産高'.

一〇 馬鈴薯

濠洲に於る馬鈴薯栽培面積の分布を見るとウイクトリア州が最大で、一九三三—三九年度に於て全栽培面積の三七%を占め、タスマニア州の二八%、ニューサウスウェールズ州の一八%が之に次いでゐる。

栽培面積の最高であつたのは一九三三—三九年度の二七〇、二三三エーカーであつて、之と比べると最近は非常に低位となつてゐるが、之は馬鈴薯が相場の変動が甚だしくて、生産そのものが多分に投機的となつてゐるからである。

濠洲に於る馬鈴薯の消費量は、一九三三—三九年度に於て五箇年平均均で種子をも含めて千人當り約五一噸、即ち一人當り一一・五封度、これから種子を除いて一人當り一〇〇封度と推定される。

一九三三—三九年度の生産量は千人當り五二噸であつたから、それから消費を控除した輸出余力は極めて僅少で、一九三三—三九年度の輸力量は一、二五五噸に過ぎず、主として太平洋諸島及バブアへ積出されてゐる。輸入は僅少であるが、國內供給不足のときには新西蘭から輸入されてゐた。

一一 豆類

一九三三—三九年度の豆類の栽培面積は四三、八九八エーカーで、蠶豆二、三三七エーカー、豌豆四〇、九一四エーカーである。而して蠶豆の栽培面積の四二%はタスマニア州、豌豆はその四〇%が南オーストラリア州、三七%がタスマニア州であるが、栽培面積の變動は甚しく一九三三—三九年度の七〇、五九七エーカーが最高で、一九三三—三九年度は夫に比べて四〇%の激減である。生産量も一九三三—三九年度の一、〇五六、八五七ブツシエルが今迄の最高であり、早魃といはれた一九三三—三九年度に於る生産量は僅に六四六、八六七ブツシエルに過ぎなかつた。

濠洲からの豌豆の輸出は可なり多く、一九三三—三九年度に於て六、六〇七、二〇〇封度を輸出してゐるが、その七七%が英國向輸出であつた。蠶豆の輸出は之より遙に少く、同年度に於て僅に七、七〇〇封度であつた。他方は等兩者の輸入量は可なり大きく、同年度に於る豌豆の輸入は一三、三五三、〇〇〇封度、蠶豆は四、三三七、八〇〇封度であつたから、之を合すると著しい輸入超過となつてゐる。その輸入は豌豆を主として新西蘭から、蠶豆は主としてビルマから入つてゐた。

一二 煙草

濠洲に於る煙草の栽培面積は一九三三—三九年度に於て八、〇〇六エーカーであつたが、其の中クインズランド州に於る栽培は三、七四〇エーカー、ウイクトリア州は二、五五九エーカー、西オーストラリア州は九〇八エーカー、ニューサウスウェールズ州は六二九エーカーとなつてゐる。濠洲に於る煙草の栽培は早くから行はれ、一八八八年に既に六、六四一

エーカーにも及んでおり、一九三二—三三年度には二、三、〇、七エーカー(濠洲首都領一四エーカーを含むも同地よりの産出なし)にまでも達してゐたのであるが、栽培其の他に關する科學的研究を等閑にしてゐた爲に品質が劣悪化し、國內の煙草製造業者が原料を海外から求めるようになった爲、煙草栽培は愈々衰へることとなつた。現在煙草製造工場で使用されてゐる原料の中、國內産のものは僅かに二%に過ぎず、大部分は輸入によつてゐる。一九三三—三九年度に於る乾葉煙草の生産量は四、〇四五、八七四封度であつたが、一九三一—三二年度の收穫高は現在迄の最高記録である。

煙草栽培面積及生産高表

Table with columns for year, cultivation area, and tobacco production. Includes sub-sections for '栽培面積' and '乾葉煙草生産高'.

一三 コーヒー

濠洲に於るコーヒー栽培はクインズランド州の海岸地方のみに行はれるが、低相場と勞働力獲得難の爲著しい發展をしない。一九三三—三九年度に於る栽培面積は僅に一九エーカーでその生産量は九、九八〇封度に止つた。今までの最高栽培面積は一九〇一—〇二年に於る五四七エーカーである。一方濠洲に輸入されるコーヒーは可なり巨額で、一九三三—三八年は數量にして四、五〇六、三二五封度、金額にして九〇、三三八英鎊であつた。

一四 ホツブ

濠洲に於るホツブは主としてタスマニア州及ヴィクトリア州の寒冷な地方に栽培され、一九三八―三九年度に於る栽培面積は一、一〇五エーカーで、其中タスマニア州は九五エーカー、ヴィクトリア州一三エーカー、西オーストラリア州一九エーカーを占めてゐた。

一五 亞 麻 (Flax)

第一次世界大戦により、夫まで世界に於る亞麻の大供給國たりし聯邦の亞麻の供給が杜絶すると、英國は濠洲産亞麻を高價に買上げ、又聯邦政府自身も國內の亞麻栽培に補助金を交付して、その生産を奨励した爲に濠洲に於る亞麻の生産は大いに刺激せられて、一九一九―二〇年度にその栽培面積は一、六一エーカーに迄擴張せられた。然し乍ら戦争終結後、需要の一段落と共に一九二二―二四年度以降は補助金の交付を廢止した爲、その生産は漸次縮少し、一九二八―二九年度には僅に一七九エーカーに激減した。併し一九三〇年以降は再び補助金が交付される

地方別果樹園栽培面積表

Table with columns for Year (年次), State (州名), and Cultivation Area (栽培面積). Rows include New South Wales, Victoria, Queensland, South Australia, Western Australia, Tasmania, and the Federation total.

各種果樹栽培面積及生産高表 (一九三七―三八年)

Main table showing cultivation area and production for various fruits (Apple, Pear, Peach, etc.) across different regions (New South Wales, Victoria, Queensland, etc.) and the total for the Federation.

事となつた結果、一九三〇―三一年度には一、二一六エーカーへと恢復したが、其の後には著しい發展をみてゐない。

一六 果 實

近時、濠洲南部の温帯地方は林檎・桃・葡萄その他各種果實の産地として大いにその名を謳はれることとなり、多量の林檎や柑橘の類が冷蔵設備を利用して盛に歐洲へ輸出せられる。果實の産地として有名なのはタスマニア州で、特にその首府ホバートの附近は立派な果實と野菜とを多産し、西オーストラリア州の西南隅のスワンランドも又林檎その他の果實の産地として有名である。

南オーストラリア州首府アデレード附近も亦果樹園に富み、林檎・梨・オレンジ・レモン・桃・巴旦杏・莓等温帯に産する果實は總て生産する。この附近に於る一九三八―三九年度果樹栽培面積は二八、九四三エーカー、果實の總産額は七八四、四五四磅以上である。目下各地とも罐詰その他製造事業が勃興して來たので、好氣候に恵まれて多産する濠洲の果實は、將來世界市場に雄飛し得る前途を有してゐる。

(備考) 全濠洲には北方直轄の分として一九三七―三八年 一九三八―三九年各五〇エーカーを含む 單位#エーカー

濠洲...農業

Table of agricultural products including 桃(封度), バイナップル(打), 梨, 西洋李, 小果, etc. with columns for quantity and unit.

葡萄栽培面積及葡萄酒生産高表

Table showing grape cultivation area and wine production for various regions like ニューサウス, ヴィクトリア, クイーンズランド, etc.

食卓用葡萄生産高表

Table showing table wine production for various regions like ニューサウス, ヴィクトリア, etc.

一九三六...一九三九

乾葡萄生産高表 (レーズンサルタナ種及レクシア種を含む)

Table of dried grape production (raisins and currants) for various regions and the total for the continent.

一七 其他統計

豚頭数・屠殺数及輸出入高表

Table of pig head counts, slaughter numbers, and trade volumes for various regions.

主要家禽數表 (一九三七-三八年)

Table of major poultry numbers (chickens, ducks, geese, turkeys) for various regions.

濠洲...農業

蜜蜂集箱數・蜂蜜及蜜蠟生産高表 (一九三七—三八年)

州名	集箱數		蜂蜜生産高		蜜蠟生産高	
	産出中のもの	生産に至らざるもの	數量	價額	數量	價額
ニューサウスウェールズ	七四三〇一	二〇三四五	九四六四六	三三五六六〇九	四九九四五	三三三六
クイーンズランド	六七三〇	二四九一六	九二二二六	五三二八六	四九一八四	三六二二
南オーストラリア	一〇三三六	六四一八	一六七六六	七〇九九一	五八一四	五七九
西オーストラリア	五〇九六四	一九五七四	七〇五三八	二四〇八〇四三	二二五七五	一八三三
タスマニア	一五四三五	二四三三	一七八五八	一五四一六九一	一七四二三	一四二七
聯邦直轄	六七四八	一八五三	八六〇一	二九七三一一	五二六五	三〇六九
全濠洲	二二五二六八	七三〇七〇	三〇〇七三九	一三三六二一九	一七五四三	一三〇八一

地方別蜂蜜及蜜蠟産出量表

年次・州名	一、蜂		二、蜜		單位封度
	數量	價額	數量	價額	
一九三六—三七年	二九三五二二	三三三三三三	五〇〇〇〇	三三三三三三	一一九〇六四七
一九三七—三八	三三五六〇九	四三三三三三	四三三三三三	三三三三三三	一一五〇三三九
一九三八—三九	二七三三七九	一三三三三三	一三三三三三	一三三三三三	九〇七三三八五
一九三六—三七年	五二四六一	四〇六三三	八〇〇〇	二六四三三	一七三三五六
一九三七—三八	四九九四五	五四一八四	七三二六	三〇九九	一七三九九二
一九三八—三九	四三七八〇	二二二八五	一七三三三	一五〇五〇	一四〇六七五

第八章 畜産(酪農)業

總説—羊—牛—馬

第一節 總説

濠洲の生命は牧畜にある。之は輸出品に關する統計に見るも明かである。その主要なるものは羊で、之に次ぐのは牛である。以下濠洲に於る主要畜産中取分け羊・牛・馬及豚に關する飼育頭數、人口との比率、一平方哩當り家畜の分布及畜産物の純輸出高表を列記すれば左の如し。

馬・牛・羊・豚飼育頭數表

年次	馬	牛	羊	豚
一九三六	四三二五五	三九三九五	二〇一三三三	三五一〇九九
一九三〇	一六〇九六	八六四〇三	七〇六〇三	九五〇三九九
一九二五	一七九二七	一〇七〇九	一〇五八八	一〇七二七九
一九二〇	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四
一九一五	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四
一九一〇	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四
一九〇五	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四
一九〇〇	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四
一九九三	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四
一九八八	一七六四三	一三九一六	一〇八七五	一三三九九四

人口一人當り家畜數表

年次	馬	牛	羊	豚
一九三六	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九三〇	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九二五	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九二〇	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九一五	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九一〇	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九〇五	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九〇〇	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九九三	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二
一九八八	〇・三六	〇・三九	〇・三六	〇・二二

一平方哩當り家畜數分布表 (一九三八年)

地方別	馬	牛	羊	豚
ニューサウスウェールズ	一七七	九〇九	一五七九六	一三三
クイーンズランド	三九一	一九三二	一三三三二	二八七
南オーストラリア	〇六六	九〇九	三三三三	〇四九
西オーストラリア	〇五二	〇八四	二六二四	〇一八
タスマニア	〇一五	〇七八	九四〇	〇〇一
聯邦直轄	一・一六	一〇・一	一〇〇・一	一・七三
全濠洲	〇・五九	七・五二	二六・二二	〇・六二

畜産物純輸出高表

生産物	單位數量	數量		價額	
		數量	價額	數量	價額
生牛	頭	一九三六—三七	一九三六—三七	一九三六—三七	一九三六—三七
同馬	頭	六六五	一八四	六六五	一八四
同羊	頭	四九八九六	三五四九	四九八九六	三五四九
骨同	頭	一六六〇三	一七八九五	一六六〇三	一七八九五
濠洲...畜産(酪農)業					一〇七九

羊は主として羊毛を得るために飼育されるのであるが、全頭数の約一割は食用に供せられる。即ち冷凍肉となつて歐洲市場に送り出される。

二 綿羊の種類

1 濠洲種

濠洲種に属するものは次の五種である。

- 濠洲メリノ種 (Australian Merino)
- ボルワース種 (Polwarth)
- アイデアル種 (Ideal)
- カースデール種 (Carsdale)
- コリデール種 (Corriedale)

(1) メリノ種
濠洲の綿羊の中、頭数といひ産毛の量・質共に代表的なものはこのメリノ種である。

之はスペイン古語の「放浪者」に當り、スペイン政府は此の種を珍重して國外移出を禁じてゐたのであるが、一度之が濠洲に入ると非常に良く、而して特殊な發達を遂げ、所謂濠洲メリノ種なる一種を作るに至り、現在では純粹なる濠洲種として公認せられ、その産する羊毛はボタニ・ウールの名で紡績用原料として、最優等のものとなつてゐる。

その産毛は次の三種に分けて處理されてゐる。

- イ 紡績番手の六〇番手を中心とするストロング・メリノ型
- ロ 六四番手を中心とするミディアム・メリノ型
- ハ 七〇番手以上の極細番手であるファイン・メリノ型

(2) ボルワース種

之は純然たる濠洲種であつて、ウイクトリア州の特産で、良質の羊毛と良質の羊肉とを同時に多量に得られる。之はメリノ種とリンカーン種と交配させ、之にメリノ種を交配させて雜種を得、その中から優良なものだけを選んで近親交配で固定させたもので、體形はメリノ種に似て稍

三吋以上も生長するのである。

(3) レスター種 (Leicester)

(a) ボーダー・レスター種 (Border Leicester)

このレスター、ボーダー・レスターは共にリンカーン種に次いで大きな體軀を有し、産毛は前者が四〇―四四番手に、後者が四四―四六番手に適し一〇吋近くの毛脚を有してゐる。

(b) ロムニー・マーシュ種 (Romney Marsh)

本種は元來が英國のケント地方の沼地に棲息したもので濕地に對し抵抗力が強く、頑丈な體軀を有してゐる。一名をケント種とも云はれ、その産毛は紡績番手四六―五〇番手に適してゐる。この種の綿羊は羊毛よりも寧ろ肉用並に雜種交配用として重用せられてゐる。

(c) コットワルド種 (Cotswald)

紡績毛として四六―四四番手の羊毛を産する。之は成育の早いのがその特徴である。

(d) チェビオット種 (Cheviot)

紡績毛として四六番手内外に適してゐる。寒氣厳しい土地に於ても繁殖が良いのを特徴とする。

(2) 英國短毛種

(a) サウス・ダウン種 (South Down)

肉用種として最高と稱せられ、その肉は締り、美味で、芳香を有する理想的なる羊肉を産する。

その體軀は左して大ならず、産毛は五八―六〇番手に適するが、毛としては餘り重要視されてゐない。

(b) シュロップシャー種 (Shropshire)

外見はサウス・ダウン種に似て居るが、頭部に特に多量の羊毛を生じ時に之が爲に盲目となることさへある。その産毛は五八番手前後で、サウス・ダウン種に劣るが、肉は優良で成育も早い。

(c) ハンプシャー種 (Hampshire)

濠洲…畜産(酪農)業

大きく、羊毛はメリノ種よりは幾分太目であるが長目で、紡績番手にして五八―六〇番手となり得るのである。

(3) アイデアル種

之もウイクトリア州で創始された純粹の濠洲種で、ボルワース種と同様に、リンカーン種とメリノ種の交配によつて生れたもの、産毛はボルワース種に比べて稍太目で多量で、一頭當り一〇封度内外の毛が取れるが、之は主目的を羊肉に置かれてゐる。

(4) カースデール種

之も同じくリンカーン種とメリノ種とを交配し、混血種を固定したものである。

(5) コリデール種

紡績番手にして五〇―四六番手となり得るのであるが、現今ではボルワース種ほど珍重されてゐない。

之は同じくメリノ種とリンカーン種との交配であるが、新西蘭に於て創始せられ、後に濠洲に輸入し來つたものである。

2 英國種

英國種綿羊は元來肉用種といはれ、前のメリノ種綿羊が主として羊毛産出を目的としてゐるのに對し、主として肉用目的の爲に飼育せられるのである。

濠洲國內で現在飼育されてゐる英國種綿羊は次の如き種類に分れてゐる。

(1) 英國長毛種

(a) リンカーン種 (Lincoln)

綿羊中で體軀が最大であり被毛最も多く、一年間に一五―二〇封度の收毛量があり、紡績番手三二番手―四〇番手に適し、毛脚は一箇年に一

肉が優良で、その仔羊は成育が非常に早い。生後六箇月で體重六〇封度を越えるものもある。羊毛は割合に貧弱であり、紡績としては五六―五八番手に適してゐる。

(b) オックスフォード種 (Oxford)

ハンプシャー種と長毛種たるコットワルド種、レスター種等の雜種で肉用種として飼育せられる。

産毛は五六―五八番手のもので、英國短毛種の中では比較的優良なる羊毛を産する。

(c) サツフォーク種 (Suffolk)

肉用種として重用せられるもので、優良な仔羊肉の生産は特に珍重されてゐる。その産毛は五六番手前後のものであるが、特に取り上げる程の品質ではない。

(d) ドーセット・ホーン種 (Dorset Horn)

この種は角が長く、牡・牝共に胴が長く、脚が長いのが特徴となつてゐる。

双生兒分娩率の大になると、仔羊の成育の早いのと、又肉用種としての優良な點で重視される。

(e) ライランド種 (Ryeland)

最近に濠洲に輸入せられ、漸次その有利性を認められつゝある綿羊で、その産毛は五〇―五六番手に適し、英國短毛種中、最良の羊毛を産するといはれてゐる。外見はサウス・ダウン種に似て稍大きく、その羊肉は優良であり、その仔羊の成育も早い。

3 雜種

異なる品種の綿羊を交配して得る仔羊は双方の親の特徴を半々に享け、繼ぐといふ事實は、遺傳學上に證せられてゐる所であるが、濠洲に於ても之が行はれ、羊毛に優れたメリノ種と體軀最大で肉質の優良なリンカーン種、レスター種等とを交配して、兩用の優良種を得た。更に經驗は、

單なる一回雜種のみよりも諸種の重複交配が勝ることが確められて、リ...

三 羊毛取引組織

濠洲の羊毛取引組織は理想的に發達してゐるが、夫がその羊毛産業を...

1 生産者

濠洲に於る牧羊業者数は約九萬人といはれ、地域毎に牧羊業者組合乃...

2 購入者

濠洲羊毛は世界各國の關心を集めてゐるので、その買付の爲には各國...

3 仲介者

羊毛生産者たる牧羊業者と買手たる羊毛買付人との中間に在つて、羊...

四 統計

主要國別羊及羊毛生産高表 (一九三三—一九三九年)

Table with columns for Country (主要國別), Sheep Count (羊數), and Wool Production Value (羊毛生産額). Rows include Australia, New Zealand, etc.

地方別羊毛産出高表

Table showing wool production by region (地方別) for various years, including columns for region names and production values.

地方別羊頭數及屠殺數表 (各年二月末日現在)

Large table showing sheep head counts and slaughter numbers by region (地方別) for various years, including columns for region names, head counts, and slaughter numbers.

國內加工羊毛消費量表 (附付に換算)

Table showing domestic processed wool consumption (國內加工羊毛消費量表) for various years, including columns for year and quantity.

第三節 牛

一 概要

牛は濠洲にとつて羊ほどには重要でないが、羊に取つては寒過ぎる地...

濠洲...畜産(酪農)業

方や濕潤な地方にでも満足に成育するので、自ら分布の地域を異にし、...

濠洲畜産業の根幹をなしてゐるのである。一年の降雨量平均五〇〇ミリ内外の地域が牛には最も適し、乾燥した...

次北方直轄州から西に延びて、雨量の多い西オーストラリア州北部に進出しつゝある。クインズランド州の多くの牧場では乳離れした牝牛は直に牝のみの柵内に移して十分に肥大する迄を配せず、種牛以外の牝牛は悉く去勢して牝のみの柵内で肥大させ、三歳に達すると、初めて屠場に送るといふやうに牧畜業者は細心の注意を拂つて、良き屠肉を得ることに腐心してゐる。かくして育はられた最良の牝牛は體重三四二斤乃至三六〇斤に達するのを待つのである。

濠洲に於ける牛の用途として重要な事業は冷凍肉に關する工業と、乳製品に關する事業である。ラクトーゲン、バター並にチーズ等は世界の市場にその名を知られてゐる。バターは年産約四億四千萬封度を超える。各種の乳製品を得るために利用せらるる牛は、肉用のものに較べて氣候温和な地域に成育したものでなければならぬので、この種の事業を遂行する爲の牧場は主として海岸地方に在る。

昔は皮革を製した後の牛肉は、之を煮沸して牛脂の原料とするより外に用途がなかつた。一八四〇年前後には、濠洲に於ける牛一頭の相場は二磅乃至四磅を算するに過ぎなかつたのである。その價を釣上げる策として、肉の罐詰が考へられ、冷凍肉の案出となつた。

一八八〇年に至り初めて濠洲冷凍肉はロンドンへ輸出された。この肉は非常な高値で賣買され、牛肉一磅四片半乃至五片替、羊肉一磅五片半乃至六片替であつた。

その後此の事業は漸次進展し、濠洲に並んで新西蘭は元より南米及南アフリカ方面からも濠洲に向つて、盛に冷凍肉が輸入されることになつた。濠洲の重大事業の一つであるため、その價を落さぬことに重大なる關心が拂はれてゐる。

シドニー市の郊外ホープ、ブッシュベリーには日々羊一萬六千頭、牛千五百頭、豚二千五百頭、仔牛千五百頭を屠殺する大屠殺場と、夫に附屬する大規模の冷凍庫とがあり、地方から牛・羊の類が搬入されると、先づ數日間附屬の大牧場に放つて十分休養させ、肉質に變化ならしめられた

ことにも、その發達の基とある。政府は酪農業に對してはその製品に嚴重な検査を施行して品質の向上を計つたのであるが、其の上には畜牛の改良、飼育管理の合理化、製造技術の科學化等に關し、政府の指導助成が大きかつたことが、非常に酪農業の盛大を促進する事となり、その歴史の短いのに拘らず、急速な進歩を見せ現在では世界屈指の酪農國となるに至つた。

1 乳牛飼育の形態

濠洲に於ては乳牛飼育の形態が比較的の小規模なものが多い爲、乳牛飼育者がその産乳を自宅に於て自ら酪農製品化する場合は少く、毎朝各牧場にて搾られたる産乳は、亜鉛板製の容器に詰められて酪農工場に集中せられ、容器毎にそのクリーム含有率を試験の上代金を拂はれ、斯くして集められた牛乳はバター・チーズ・粉乳・乳糖・カゼインに至る迄、同一工場で一貫的に作業せられるのである。

濠洲に於る酪農工場には獨立資本の會社組織によるものと、地方の百姓達が資本を醸出して共同經營する組合組織のものとの二種類があり、組合組織のものが會社組織のものより多い。

2 酪農品

(1) バター

濠洲に於て生産されるバターは次の等級によつて總て嚴格なる政府の検査を受け、その最上等品のみが海外輸出向けとして許可されることになつてゐる爲、業者は常に品質の向上に努めた結果、現在に於ては濠洲産バターは歐洲市場に於て噴々たる名聲を轟はれてゐる。

- 種 類
 - イ チョイセスト級 (カンガルー印) (特製品)
 - ロ フアースト級 (一等品)
 - ハ セカンド級 (二等品)
 - ニ ベーストリー級 (三等品)
- 濠洲バターの輸出量は生産總量の約五割を占め、その仕向國として英

濠洲…畜産(酪農)業

後徐々に屠殺場に送り込む。羊は皮を剥ぎ内臓を除いて全形のまゝ冷凍するが、牛は先づ同じく皮を去り内臓を除いてから中央線から左右に縦斷し、更に二分して冷凍するのである。

二 種 類

濠洲には土産の牛は無く飼育される畜牛の殆ど全部が輸入によるのである。夫に畜牛飼育に當つたものが總て英人であつた爲に、自然に畜牛の全部は英國から輸入されたものであつた。

今濠洲に飼育されてゐる畜牛の主なる品種を挙げると、次の二區別八種類となる。

1 乳 用 種

- (1) ジャージー種 (Jersey)
- (2) ガーンジー種 (Guernsey)
- (3) エアーシャー種 (Ayrshire)
- 2 肉 用 種
- (1) ショートホーン種 (Shorthorn)
- (2) ヘアード種 (Hereford)
- (3) アバデイン・アングス (Aberdeen Angus)
- (4) デヴオン種 (Devon)
- (5) レッド・ポル種 (Red Polls)

三 酪 農 業

濠洲に於ては氣候・温度の激變が少いので、乳牛は一年を通じて戶外に放牧することが出来る爲その健康並に成育がよく、繁殖率も極めて良好である。其の上に飼糧の點でも、この酪農業が大陸東南岸の降雨量の多い土地に發達してゐる爲、牧草は極めて豊富であり、泌乳量も一頭當り年平均三六〇ガロンといふ可なり高率となつてゐる。

濠洲の酪農業は地理上に恵まれて發達した外に、政府の保護を受けた

本國が第一位であつて輸出總量の九割三分を占めてゐる。

(2) チーズ

- イ チェダー・チーズ
- ロ スティルトン・チーズ
- ハ エダム・チーズ
- ニ ゴダ・チーズ
- ホ ゴーゴンゾラ
- ヘ モーサアラ
- ト クラフト・チーズ

(3) カゼイン

カゼインとは全乳からバターを分離抽出した残りの脱脂乳に酸を作用させて、その内に含む蛋白質を凝固させ、乾燥後に之を碎き、後に篩に掛けて粒を揃へたもので、この處理の方法によりラクテック・カゼイン及レンネット・カゼインの二種類に分けられる。

この中で、ラクテック・カゼインは其の用途が廣汎で、濠洲に産するカゼインは大半が之に當てられてゐる。

カゼインの用途はその動物性蛋白質をアルカリ性溶劑(無水アンモニウム・石灰及硼砂)で溶解させ、その粘着力と耐水性及蛋白質を利用して、ベニヤ板用糊、アト紙水性塗料等に使用するものである。又細菌媒養劑(ペプトン)はその蛋白質を直接に利用したものである。

レンネット・カゼインは、カゼインの角質を利用したもので、之で人造釘・裝飾品・文具等の製造を爲すのである。右の様に其の用途は益々廣まり、特に軍需品としての重要性は益々増大しつゝあり、特にベニヤ板用糊としての利用では、濠洲物は南米品に比べて遙に優秀なりとせられてゐる。

(4) 煉乳及粉乳

一九三七―三八年間に於る全濠洲の生産高は七七、五五五、五〇八ガロンであるが、その大部分即ち七割五分はウイクトリア州の生産であつた。

3 牛皮

(1) 製産
牛肉と同様に生皮は冷凍肉會社・公立屠殺場等に於て産出を見るのであるが、會社は剥した生皮を自家工場に於て處理鹽漬をなし、内地製革業者又は輸出商に賣買するものと、生皮の儘で競市にて賣却するものとあり、公立屠殺場は生牛の屠殺を依頼した市中の牛肉商の手から競市で賣却されてゐる。

他方、鹽漬・生皮の専門商があつて、冷凍肉會社・競市及田舎の屠殺場から買付けた生皮を自家工場で、洗滌・處理・鹽漬・乾燥等をするものがある。是等専門商は品質の揃つたものを大量に集めることが出来る點に特徴があり、牛皮界では抜くことの出来ぬ位置を占めてゐる。

(2) 品質より見たる濠洲牛皮の特徴

イ 薄手なる事

濠洲産牛皮の特徴は、畜牛が比較的溫暖な地に飼育される關係上その生産皮が薄手なことである。一頭分の雄牛皮で平均四五封度(約二〇疋)程度で七〇封度(約三二疋)を超えるものは極めて尠ない。

ロ 頭及四肢の部分を取除きたるものなる事

北米産牛皮は頭、四肢付仕立であるが、濠洲産は總てショート・トリム(頭・四肢を取除いたもの)である。

ハ 乾皮の多い事

牛皮が薄手なものと、晴天が多くて空気が乾燥してゐるのとで自然に乾皮が多い。近時はシドニー市場で生皮を集め熱風乾燥法で、天然乾燥の缺點である乾燥の不均整、雨天乾燥の阻害等を補つてゐる。

ニ ダニ害のある事

クインズランド州及西オーストラリア州北部産の牛皮には、ダニ害で疵跡の癒えぬものが多い。之はその部分が靴の底革に當てられることゝなる。

ホ ブランド跡のある事

に最適である。

乾皮は往々にして航海中に鹽分が分解して、牛皮の中の脂肪分に作用し、皮を柔軟にして組織を痛めることがあり、特に肉面に脂肪塊の多く附着したものが水濡れした時は此の害が著しい。鹽漬生皮の場合には殆どこんな問題は起らない。

ロ等 級

いー屠殺場による區別

(一) ミートワークス級 (Meatwork's quality)
冷凍會社で屠殺された牛から剥いだもので、設備完全、熟練工によつて處理されたものとして損傷少なく最上級品なりと看做される。

(二) アバトアー級 (Abattoirs quality)

公立屠殺場で剥いだものでミートワークス級に次ぐものとされる。

(三) カントリー級 (Country Hide)

下級品で地方の牛肉商・牧場で剥いだものを買集めたもので、損傷も多く處理も悪い。

ろー大都市の牛皮商の自家處理

シドニー、メルボルン、ブリスベーン等の大都市の牛皮商は、冷凍會社・屠殺場及地方の牛肉商から生皮を仕入れ自家にて處理するのであるが、之は次の五種に分類されてゐる。

(一) ミートワークス級

最上品であつて冷凍會社で産出した皮を利用したもの、切傷なく皮質も亦上等なものであつて、表面の毛は引張つても抜けぬものである。

(二) アバトアー級

公立屠殺場で産出した皮を利用したものでミートワークス級に次ぐ。

濠洲...畜産(酪農)業

濠洲では牧場で目印の爲、牛の臀部に直径五、六寸の焼印を押す爲その跡が残るのである。

(3) 種類並に等級

イ種 類

いー性別及年齢

(一) オックス・ハイド (Ox Hide)
選抜の牡牛の皮にて滿二四箇月以上のものを云ふ。一枚の目方は大體五〇―七〇封度、平均五五―六〇封度である。柔軟で用途が廣く腹部の皮は牝牛程に薄くない。

(二) ブル・ハイド (Bull Hide)

宰付の牡牛の皮で、頭・首・腹の部分が厚い。目方は平均七〇封度程度である。

(三) カウ・ハイド (Cow Hide)

牝牛の皮で一體に薄手であるが、腹部が特に薄い。目方は二〇―四〇封度である。

(四) イヤリング・スキン (Yearling Skin)

牡・牝を問はず滿十二箇月以上二十四箇月の牛の皮で、米國でキツプス(Kips)と云ふものと同様で、目方は二五封度以下一五封度迄が普通である。

(五) カーフ・スキン (Calf Skin)

生後十二箇月迄の牡、又は牝牛の皮で目方は三―八封度迄である。ろー處理の方法による區別

ろー處理の方法による區別

處理の方法によつて鹽漬生皮と鹽漬乾皮とに區別される。目方に於て兩者の差は二五―三〇%と稱せられる之は言ひ換へると生皮の状態で五〇封度の皮は乾燥したときには三五―三七封度半位に留まるといふ譯である。乾皮の製造は天日・炭火及熱風を以てなすが、熱風法は乾燥が早く且つ平均に行はれる爲に雨天多き時季又は大量を短期に製造する場合

整理良好なるも切傷が多少あり、肉面の色が稍悪い。

(四) 第二級

傷及斑點があり、肉面の色悪く輸出向にせられるもの

(五) 第三級

損傷甚だしく不合格にて特殊の場合の外取引の對象とならない。

四 統 計

乳牛頭數・バタシ生産高・所要機械類及従業者數表

Table with columns for Year, Cows, Production, and Labor. Rows for 1911-1917.

牛及乳牛頭數表

Table with columns for State, Cows, and Milk. Rows for New South Wales, Victoria, Queensland, etc.

一〇八九

濠洲...畜産(酪農)業

Table showing total milk production for various regions including 北方直轄, 聯邦直轄, and 計. Columns include 乳牛總數 and 乳牛總數.

地方別牛乳及搾乳高表

Table of regional milk and milk yield statistics for 1936-1938, listing regions like ニューサウス, ヴィクト, and 南オース.

地方別牛屠殺數表 (牛牛を含む)

Table of regional cattle slaughter statistics for 1936-1938, listing regions like ニューサウス, ヴィクト, and 南オース.

バター・チーズ生産高表

Table of butter and cheese production statistics for 1936-1938, listing regions like ニューサウス, ヴィクト, and 南オース.

體性別酪農業者數表

Table of dairy farmer statistics by gender and age group for 1936-1938, listing categories like 年次性別 and 區別.

用途・企業別酪農品生産高表 (一九三七年一三八年)

Table of dairy product production statistics by use and enterprise for 1937-1938, listing categories like 事項 and 用途.

濠洲...畜産(酪農)業

濠洲……畜産(酪農)業

一〇九二

州名	主要市場に於る生産額	販賣費	農場總生産額		農場經營費		純生産額	銷却費(推定)
			畜用	其他	畜用	其他		
チノズ	八〇一九二五	一六八六三〇五	不明	不明	八三三三七	三六七五九〇	—	五五七三二七一
煉乳	九一五〇七四七	二六七八八一九	不明	不明	—	—	—	三六九三九三六
其他	六三三〇二五六	五三三一九四三	九九四六一五	一〇三三三三六	—	—	—	三六〇〇一九
計	三、八〇〇七六一九	一、〇八二七、四三三	六九〇六六七一	四四七三九七六	—	—	—	一、二五九、七三三
酪農場其他農場	一、五九三〇、三九二	一、三七〇、一六四	一、八九三、四三六	一、三七〇、三三七	九、一〇、六七三	—	—	四、九七一、五三三
計	四、九五二、四四〇	四、三〇五、〇六一	三、五〇五、八〇一	一、六七一、〇一七	二、七九〇、三九〇	—	—	一、〇五五、四〇九
酪農場其他農場	一、一〇八、二七三	一、一八一、一四四	三、三三三、三三六	一、五三七、三三三	一、一九七、三三三	—	—	一、四二一、六
計	二、二一六、五四六	二、一八六、二八八	三、三三三、三三六	一、五三七、三三三	一、一九七、三三三	—	—	一、四二一、六
酪農場其他農場	七、七〇、一四一	一、六〇、三三六	一、五五、一六八	八、八三、一六	三、五五、四七〇	—	—	五、五三、三三〇
計	三、〇三、四三二	四、三六、七三	二、三三、三三〇	一、七九、九	二、三三、三三〇	—	—	九、七五、三三
酪農場其他農場	八、〇〇、八七三	一、六四、六〇三	一、五五、一六八	八、八三、一六	三、五五、四七〇	—	—	五、五三、三三〇
計	一、六四、六〇三	二、一九、六三四	一、五五、一六八	八、八三、一六	三、五五、四七〇	—	—	五、五三、三三〇
酪農場其他農場	二、〇七、五五八〇	一、六〇、六四九	一、九四、六三五	五、八一、二五〇	三、八五、〇四四	—	—	六、八〇、三三六
計	五、七九、一一一	六、八九、九九五	二、〇八、八七三	三、八五、〇四四	一、六〇、〇〇一	—	—	五、〇〇、三三三
酪農場其他農場	二、二七、四六九	一、六九、六四〇	一、九四、七三三	六、一、九六三	四、〇〇、四四六	—	—	二、四四、五二八
計	一、九三、七三三	一、〇四、一〇四	二、二四、四三三	三、八五、〇四四	二、四四、五二八	—	—	七、〇〇、一三〇
酪農場其他農場	一、九三、六三三	一、〇四、一〇四	二、二四、四三三	三、八五、〇四四	二、四四、五二八	—	—	七、〇〇、一三〇
計	三、六〇、九七	二、二四、四三三	三、八五、〇四四	二、四四、五二八	五、〇一、	—	—	一、〇七、

地方別酪農品總生産額・農場價額及純價額表 (一九三七—三八年)

第四節 馬

1 概要

濠洲に於る氣候及土地が耕馬・乗馬・馬車馬等の馬に適するの周知の事實であつて、我國でも種馬として濠洲より、其の逸品を輸入したのは日露戦役前後より近時まで數百頭を入れてゐる。而して濠洲は各州共に馬に適してゐるのであるが、その最も多いのは、ニューサウスウェールズ及クインズランドの二州とする。

この馬の各州に多きことと國人のスポーツ好みとは、各地に競馬熱を盛ならしめ従て良馬を多からしめ、乗馬の普及・耕馬利用を盛んならしめてゐる。

濠洲に於る馬匹の歴史は他の家畜と同じく、一七八八年フィリップが赴任の際持ち來つた七頭の馬に始まる。

やがて氣候・風土が凡ゆる種類の馬匹の飼育に適する事が判り、英本國から優秀馬を輸入し、繁殖・改良に努めた結果、現在では頭數は世界の第一四位に過ぎないが、馬質の優秀なことに就ては世界的に名聲がある。

2 種類

(1) クライデスデール (Claydesdale) 濠洲への輸入は一八五〇年頃である。ワイク

スコットランド原産で、濠洲……畜産(酪農)業

トリア州に繁殖し、農耕用・重載馬として今では全濠洲に廣く用ひられるようになった。

本品種の牝馬にサラブレッド種の牡馬を交配して、農場使役用及輕載馬種を作り之を利用されることが多い。

普通體高は一六—一六半ハンド(六四吋—六六吋)、體重は牝馬で一、九〇—二、二〇〇封度、牝馬で二、五〇〇—一、八〇〇封度程度で、毛色は青鹿毛が最も多く、栗毛及青が之に強い。前後四肢は膝迄白い。

(2) シャイヤ (Shire)

英國に於る最古の重血種であるが、濠洲でも之が可なり利用されてゐる。強力頑健な體格を有つこと、クライデスデール種に優るが其の行動が不活潑なので利用は之に劣る。

體高は牡馬一七ハンド(六八吋)、牝馬一六—一六半ハンド、體重は牡馬二、二四〇封度、牝馬一、六〇〇—一、七〇〇封度以上で、毛色は青・鹿毛・栗毛などであるが、特に青・鹿毛のものに對する需要が多い。

(3) サツフォーク (Suffolk)

比較的短い四肢の上に頑丈な體軀を持つ本品種は、別名サツフォーク・パンチの名を以て呼ばれ、クライデスデール種及シャイヤ種と共に重載馬として可なり利用せられてゐる。

殊に最近はその體高も漸次クライデスデール種に近づき、體高一五半—一六ハンド(六〇吋—六六吋)と云はれ、目方は二、八〇〇—二、〇〇〇封度であり、色は總て栗毛である。

濠洲……畜産(酪農)業

1094

(4) ペルシネロン (Perdron) 此れは佛蘭西の原産で、元來が重乗馬であるが、濠洲では重挽馬として重車を挽き、或は重い藜を曳かせるのに利用せられてゐる。
 (1) サラブレッド (Thoroughbred) 英本國から優秀なる種馬を輸入し、主としてニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、クインスランド州の三州に於て飼育生産されるに至つたのであるが、濠洲の氣候・風土の關係から、現在では濠洲系サラブレッドとも謂ふべき一系統を生むに至つた。その優良馬はA・J・C. (Australian Jockey Club) に登録されることになつてゐる。
 (6) アラブ (Arab) 本品種は一部の馬匹改良家が少数所有してゐる丈で一般には利用されてゐない。
 (7) トロツター (Trotter) 速歩競争用の品種で、その體形は不統一でサラブレッド種に似たものが多い。
 (8) ハンター (Hunter) 乗用馬として可成り利用せられてゐる。

地方別馬・牛飼養頭數並輸出高表

年 (各年二月末)	頭數				計
	ニュースウスウェールズ	ヴィクトリア	南オーストラリア	西オーストラリア	
一九三六	五四五、八二九	三五七、一五八	二〇〇、八七〇	一五五、一七七	一、一三一
一九三七	五四八、六二五	三五九、一〇六	一九七、三三四	一五七、〇六七	一、一三五
一九三八	五四八、三三五	三四三、〇八八	一九五、八三四	一四三、六七四	一、一四五
					一、七四一、〇五八

(9) ハクニー (Hackney) 英國に於て改良せられた品種で本來は乗用馬であつたが、濠洲に於ては主として輕挽用として廣く使役せられる。
 (10) クリーブランド・ペイ (Cleveland-Bay) 往時、英本國にて大型馬車牽引用として使役せられた本品種は、濠洲に於ては極く少数で、農耕用又はハンター及騎兵用馬の繁殖用馬として使用せられてゐる。
 (11) ヨークシャー (Yorkshire) 英國にて皇帝乗用馬車及祝賀馬車の牽引用として使用せられる本品種は、嘗ては可成りの頭數を算したが、現在その飼育頭數は尠い。
 (12) ポニー (Pony) 濠洲に於るポニーは主として (一) シェットランド (二) ハクニー・ポニー (三) ボロ・ポニーの三種である。
 (13) アングロ・ノルマン系 アングロ・ノルマン系の馬は濠洲では取立て、記す程飼育されてゐない。

年 (各年二月末)	輸入		輸出		純輸出	
	頭數	價額	頭數	價額	頭數	價額
一九三六	三三、八二九	二、〇〇四、九九九	七、八二〇	二、一八七、九七九	二六、〇〇九	九、八二〇、〇二〇
一九三七	三〇、九五一	一、八八〇、四二九	七、〇二一	二、三四九、一三三	二三、八九〇	八、四七〇、八八六
一九三八	二八、一八四	一、六九七、二五五	七、七六〇	二、六二七、〇七	二〇、四二四	八、八四三、七一一
						一、二八六、一七八

年 (各年二月末)	一、馬		二、牛	
	頭數	價額	頭數	價額
一九三六	三三、三	一、八〇、六八六	九四六	三、三二七、七
一九三七	三三、七	一、五四、九二二	一、六四	一、六九、一三
一九三八	三三、八	一、三三、一九一	二	七、五三〇
				七、五三、五

(備考) (一)は純輸入額を示す。

濠洲……畜産(酪農)業

1095

第九章 林業

第一節 總説

濠洲ではその面積の大なる割合に森林地帯が極めて尠く、森林總面積は全土の四%即ち英本國と同様な面積に過ぎない。
木材産出地として有名なのは、西オーストラリア州とニューサウスウェールズ州とであり、森林地帯の狭小の割に良材を産する。西オーストラリア州の木材輸出額は常にニューサウスウェールズ州の二倍に當つてゐる。

この兩州から産出せられる木材はユーカリプタス科のものが多く、ヤラー、カリが西オーストラリア州の特産木材であるのに反し、ニューサウスウェールズ州からはアイアンバーク、タロウウッド、グレイガムが有名である。之は芳香があるので蜜蜂が愛好するから俗名をガムといふ。樹皮の色合でブルー・ガム、レッド・ガムとその種別を分つ。是等は成長が速かで外觀が見事である上に、材質も優れてゐる。それで現在カナダ、新西蘭、アフリカ、伊太利等に盛んに移植せられるやうになつた。この種の樹木は元來温帯性のもので、その成育には相當の降雨量を要するのであるが、南オーストラリア州の乾燥地帯等にも灌木となつて命脈を保持してゐる。

西オーストラリア州の森林の分布状態は氣候に左右せられ、その所在地は西南の一角で、降雨量三七五耗線以内、北は南緯三〇度の地點にまで達してゐる。此の地域は美林をもつて覆はれ、その産出せられる木材の中で最も重要なのはヤラーとカリとである。

ヤラーはバースからオルバニーに至る線の西に成育して八、〇〇〇、〇〇〇エーカーに亘る森林を形成し、年六〇、〇〇〇エーカーづゝ伐木して優に三〇年は支へ得るといはれる。材質は頗る見事で、鐵道枕木及道

路鋪装用としての用途が中々大きい。
カリは同州の最南端フラックウッド河とオルバニーとの中間地帯に密生するが、高さ九〇米、直径五米にも達する巨木が尠くない。材質は頗る堅實で、橋梁や枕木等に賞用されてゐる。右の他、海岸地帯には高さ五二米内外に達するチトアイト樹を産し、ダーリング山脈の東腹には鐵山に使用せられる堅木ワズズー及ヨークガム等が産出する。

ニューサウスウェールズ州に於る森林の分布状態も亦降雨量と密接な關係があつて、西は降雨量二五〇耗の線で界せられ、降雨量の多い海岸地帯には樹木が鬱蒼と茂つてゐる。西オーストラリア州では之と異り各樹木とも獨特な分布地帯があるのではなく、アイアンバークは北にも東にも成育し、グレイボックスも亦廣く分布するといふ有様で、色々の樹種が混生してゐる。只フルーリガム、ターベントイン及マホガニー等は海岸地帯に成育し、白蟻に侵されぬことで有名なサイプレットバインは、森林が点在してゐる西部平原地帯に繁茂してゐる。

ニューサウスウェールズ州の北部は土地肥沃で降雨量も多く、山地は一體に美林をもつて覆はれてゐるが、アイアンバークが橋梁材として新西蘭や英國へ輸出せられ、タロウウッド、ターベントイン及フラックバットが鋪裝材又は枕木として新西蘭及獨逸に仕向けられる以外、木材の外國輸出額は極めて尠量である。
クインズランド州の森林地帯は降雨量六二五耗以上の海岸地帯に限られてゐる。

クックタウンからタウンズビルに至る地域にはアガテス及アラウカリヤの如き松の類やセダー、シルキー、オーク等の如き軟木が成育し、堅木は東部の高地に繁茂してゐる。

ヴィクトリア州の東部高地を覆ふものはストリンギバークとメツスマイトと呼ぶユーカリ樹である。斜面にはアイアンバーク、グレイ・ボックス、ブルーガムが成育してゐるが、海岸山脈の走つてゐる濕潤な地帯にはアカシヤ屬のフラックウッドが繁茂してゐる。

タスマニア島の東部にはブリユーガム及ストリンギバークの美林があるが、降雨量一二五耗を超える西部地帯には松や樺の類が繁茂してゐる。

第二節 樹木の種類

濠洲に生育する樹木の種類は、その大部分は所謂硬木類で、その九割以上はユーカリプタス科に屬するガム樹である。

このガム樹はユーカリプトルといふ精油に富み、柳に似た葉を持つ樹であるが、巨大なものは數十米にも達するものから、灌木類の如きに至る迄その種類は約四百種と稱せられ、その中には有用なる木材をも産してゐる。

大陸北部のクインズランド州及ニューサウスウェールズ州の北海岸地帯にはブラックピーン、クインズランド・ワルナット、クインズランド・メープル、シルクウッド等が生育する。

尙降雨量の多い海岸線から大陸内部へ入るに隨て降雨量は漸減するが、之につれて巨木材も漸減し、所謂サバンナ地帯に入るのであるが、此の地帯に於ては木材を産する樹木は尠くサンダルウッド(白檀)やタンバークの如き種類の樹木が繁茂する。

一 ユーカリプタスの種類

- 1 **ブラッドウッド類 (Bloodwoods)**
 - (1) *Eucalyptus tessellaris*, F. v. M. 俗稱—カーピーン (Curbeen)
木材—暗褐色で硬質な爲、建築用として最適、分布—ニューサウスウェールズ州、南オーストラリア州、クインズランド州、西オーストラリア州
 - (2) *E. calophylla*, R. Br. 俗稱—レッド・ガム (Red Gum)
木材—極めて堅牢、ハンドル・輪止・シヤフト其他に利用され

濠洲……林業

- 2 **マホガニー類 (Mahoganies)**
 - (3) *E. corymbosa*, Sm. 俗稱—ブラッドウッド (Bloodwood)
木材—薄紫色で水に強い爲埠頭・鐵道枕木・電柱或は造船用として利用度が多い。分布—濠洲全土
 - (4) *E. internertia*, R. Br. 俗稱—ブラッドウッド
木材—堅材であるが細工し易いのでキャビネット・丸太壁・建築・構用等に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州のカンパワラ地方
 - (5) *E. trachyphloia*, F. v. M. 俗稱—ブラッドウッド
木材—青白色の硬木、分布—ニューサウスウェールズ州の北部、クインズランド州
 - (6) *E. terminalis*, F. v. M. 俗稱—ペール・ブラッドウッド (Pale Bloodwood)
木材—薄紫色で硬質であり、電柱・柵・各種建築用材として利用が多い。分布—ニューサウスウェールズ州、西オーストラリア州、南オーストラリア州、クインズランド州
 - (7) *E. eximia*, Sch. 俗稱—イエロー・ブラッドウッド (Yellow Bloodwood)
木材—白色又は淡黄色の硬木で、車體・電柱・家具・キャビネット・其他一般用材として利用されてゐる。分布—ニューサウスウェールズ州のブルーマウンテン及ゴスフォード地方
 - (8) *E. aberghiana*, F. v. M. 俗稱—クインズランド・ブラッドウッド (Queensland Bloodwood)
木材—(3)と略同じ材質で赤色である。用途は廣い。分布—クインズランド州、ロッキンガム灣地方

- (1) *E. amneiooides*, Sch. 俗稱—ホワイト・マホガニー (White Mahogany)
木材—淡青色で建築・橋梁材・造船・舗装用に利用せられてゐる。鐵道枕木用として大量は輸出される。分布—ニューサウスウェールズ州及ヴィクトリア州の海岸近くの山脈地帯
- (2) *E. umbra*, R. T. B. 俗稱—ホワイト・マホガニー
木材—淡黄色で乾燥が早い。鐵道枕木・舗装用には不適で、建築・橋梁・大工器具・貨車用に適する。分布—ニューサウスウェールズ州シドニー市北方及クインズランド州
- (3) *E. horvayoides*, Sm. 俗稱—ベンガレー (Bangalay)
木材—硬質で赤褐色を呈する。貨車・建築・鐵道枕木・小形船舶用に利用される。分布—クインズランド州よりヴィクトリア州に至る海岸地帯
- (4) *E. diversicolor*, F. v. M. 俗稱—カリ (Kari)
木材—西オーストラリア州特産の巨木で成育が頗る早い、色は赤褐色で概観ジャララに酷似し兩者の鑑別は極めて困難である。橋梁・シャフト・床柱・貨車・舗装・建築用等その用途は極めて多い。分布—西オーストラリア州の南西部地方の特産
- (5) *E. robusta*, Sm. 俗稱—スマンパ・マホガニー (Swamp Mahogany)
木材—赤褐色で硬質である、主として河川に近く、或は濕潤地に成育する爲湿度高く、乾燥し難い。建築・キャビネツト・貨車・舗装・港灣・橋梁・造船用等に利用せらる、分布—クインズランド州、ニューサウスウェールズ州及ヴィクトリア州東海岸地帯
- (6) *E. marginata*, Sm. 俗稱—ジャララ (Jarrah)

- 木材—濠洲産の硬木の中で最も優良なもの一つである。赤褐色を呈し、橋板・舗装・枕・貨車・建築・柵・鐵道枕木・電柱・室内調度品用等用途が頗る多い、白蟻に侵されないと云はれる。分布—西オーストラリア州の南西部地方の特産
- (7) *E. patentervis*, R. T. B. 俗稱—マホガニー (Mahogany)
木材—淡赤褐色を爲し、建築・貨車・舗装・キャビネツト・船舶等に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州海岸地帯
- (8) *E. tenuipora*, F. v. M. 俗稱—マホガニー
木材—淡赤褐色で硬く、建築・舗装・貨車・船舶等に利用される。分布—ニューサウスウェールズ州のみ
- (9) *E. pellita*, F. v. M.
木材—淡赤褐色で建築・橋梁・貨車等に利用される。分布—クインズランド州の沿岸地帯
- (10) *E. longifolia*, Ik. et Ote. 俗稱—ウーリー・バット (Woolly-Batt) 或はペッパーミント (Peppermint)
木材—淡い赤褐色で材は硬質であるから貨車・鐵道枕木用等に利用されてゐる。分布—ニューサウスウェールズ州の沿岸地帯及ヴィクトリア州のギップズランド地方
- (11) *E. resinifera*, Sm. 俗稱—レッドマホガニー (Red Mahogany)
木材—濠洲に於て最も早くから利用せられ且つ輸出せられてゐる。一ツで赤褐色を呈し建築材・小形船舶の建造用に利用されてゐる。分布—ニューサウスウェールズ州よりクインズランドに至る海岸地帯

3 ホツクス類 (Boxes)

- (1) *E. hemiphoria*, F. v. M. 俗稱—ホツクス 或はグレー・ホツクス (Box, Grey Box)
木材—濠洲で最も利用度の高い種類の一つで淡黄褐色を呈してゐる。港灣・鐵道枕木・橋梁用等に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州、南オーストラリア州及ヴィクトリア州
- (2) *E. bridgesiana*, R. T. B. 俗稱—アップル又はウーリーバット、スミア・オブ・ギップズランド (Apple, Woolly-Batt, Batt of Gippsland)
木材—主として室内調度品製作用に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州アルブミー及バサーストを中心とした地方及ヴィクトリア州ギップズランド地方
- (3) *E. angophoroides*, R. T. B. 俗稱—アップルトツプ・ホツクス (Apple-top Box)
木材—成育が早く橙褐色を呈する。室内調度品用に適する。分布—ニューサウスウェールズ州の南西部地方
- (4) *E. hoornmani*, H. D. et J. H. M. 俗稱—ブラック・ホツクス (Black Box) 木材—淡赤褐色で硬質である。分布—ニューサウスウェールズ州
- (5) *E. Alckerii*, R. T. B. 俗稱—リバー・ホツクス (River Box)
木材—ユーカリ樹の中で最も堅牢で、橋梁・鐵道枕木・電柱・港灣材・貨車用等その用途極めて多い。分布—ニューサウスウェールズ州シドニー市よりヴィクトリア州東部地方一帯
- (6) *E. conica*, H. D. et J. H. M. 俗稱—フジジー・ホツクス (Fuzzy Box) 又はクーラバー・ホツクス (Coolah Box)
木材—淡褐色で硬質橋梁・貨車・電柱・鐵道枕木・舗装用其の他に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州
- (7) *E. gomphocephala*, DC. 俗稱—アート (Thart)
木材—材質極めて堅牢、貨車・緩衝機・内龍骨・橋梁・シャフト用等に利用される。分布—西オーストラリア州のバースよりバツセルトンに至る地帯

- (8) *E. hemiphoria*, F. v. M. 俗稱—ホツクス 或はグレー・ホツクス (Box, Grey Box)
木材—濠洲で最も利用度の高い種類の一つで淡黄褐色を呈してゐる。港灣・鐵道枕木・橋梁用等に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州、南オーストラリア州及ヴィクトリア州
- (9) *E. quadrangula*, H. D. et J. H. M. 俗稱—グレー・ホツクス (Grey Box) 木材—重くて硬質、分布—ニューサウスウェールズ州のヒル・トツプ、ミルトン及ミッタゴン地方
- (10) *E. ravenianus*, F. v. M. 俗稱—ソゼット・ホツクス、又はアイアンガム・トリー (Thozet's Box, Iron Gum tree)
木材—建築・調度品製作用に利用せられる。分布—クインズランド州のロツクハンプトン、ドーン、ナークール河及デニンソン港の附近
- (11) *E. melhiolora*, A. Gunn. 俗稱—イエロー・ホツクス (Yellow Box) 木材—淡黄色なる爲に此の名がある。橋板・枕・造船・鐵道枕木・電柱等に利用せられる。分布—クインズランド州よりヴィクトリア州に至る高地一帯
- (12) *E. bicolor*, A. Gunn. 俗稱—フラツデッド・ホツクス (Flooded Box) 木材—淡黄色で、橋板・貨車・鐵道枕木・柵用等に用ひられる。分布—ニューサウスウェールズ州
- (13) *E. stoneana*, B. L. 俗稱—ガム葉・ホツクス (Gum-leaved Box)
木材—淡黄色の堅質材である。分布—クインズランド州
- (14) *E. wollisiana*, R. T. B. 俗稱—マリー・ホツクス (Mallee Box)
木材—巨大なる成育を示し、硬質であるから、橋梁・電柱・港灣・鐵道枕木・貨車・装用等に利用されてゐる。分布—ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州及南オーストラリア州

- (15) *E. odorata*, Belar. 俗稱—ボックス (Box)
木材—淡黄色、電柱・柵・燃料用とする。分布—南オーストラリア州、ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州
- (16) *E. bosioana*, F. v. M. 俗稱—レッド・ボックス (Red Box)
木材—淡いピンク色を呈し、貨車・橋梁・鐵道枕木・電柱或は柵用等に利用せられてゐる。分布—ニューサウスウェールズ州及ウイクトリア州
- (17) *E. margiflorens*, F. v. M. 俗稱—レッド・ボックス (Red Box)
木材—淡黄色を呈し、橋梁・鐵道枕木・鋪裝・電柱・柵・其他建築用に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州、南オーストラリア州、ウイクトリア州、クインズランド州及北部直轄地方
- (18) *E. nilrothea*, F. v. M. 俗稱—ターラバー (Coolabah)
木材—赤褐色の硬木で、橋梁・鐵道枕木用・其他に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州 南オーストラリア州、クインズランド州
- (19) *E. polyanthemis*, Sch. 俗稱—レッド・ボックス (Red Box)
木材—赤褐色で、建築用・橋梁用・貨車用・鐵道枕木用・鋪裝用等に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州及ウイクトリア州
- (20) *E. rudderi*, J. H. M. 俗稱—ロースト・レッド・ボックス (Coast Red Box)
木材—赤褐色を呈し、建築・橋梁・造船用として利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州
- (21) *E. populifolia*, Hook. f. 俗稱—コムベル、又はポプラ葉ボックス (Birch), Poplar-leaved Box)
木材—赤褐色、建築・車體・鐵道枕木・電柱用として利用せられる、分布—ニューサウスウェールズ州、クインズランド州

- (3) *E. capitellata*, Sm. 俗稱—ブラウン・ストリンギバーク (Brown Stringybark)
木材—淡褐色で、建築・柵用に利用せられる。分布—クインズランド州、ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州 及南オーストラリア州
- (4) *E. carnea*, R. T. B. 俗稱—ストリンギバーク (Stringybark)
木材—淡黄色、建築用其他に利用が廣い。分布—ニューサウスウェールズ州の北部及クインズランド州
- (5) *E. dextropinea*, R. T. B. 俗稱—ストリンギバーク
木材—淡黄色、建築用に適する。分布—ニューサウスウェールズ州
- (6) *E. eugeniooides*, Sieb. 俗稱—ホワイト・ストリンギバーク (White Stringybark)
木材—淡黄色、建築・貨車・鋪裝・造船・鐵道枕木及電柱用等に利用されてゐる。分布—ウイクトリア州、ニューサウスウェールズ州及クインズランド州
- (7) *E. gulgoylei*, J. H. M. 俗稱—ストリンギバーク
木材—鐵道枕木・建築用等に利用される。分布—西オーストラリア州
- (8) *E. fastigata*, H. D. et J. H. M. 俗稱—ストリンギバーク
木材—淡黄色で廣く利用される。分布—ニューサウスウェールズ州及ウイクトリア州
- (9) *E. leavopinea*, R. T. B. 俗稱—シルバートップ・ストリンギバーク (Silver-top Stringybark)
木材—淡黄色、橋板・鋪裝・電柱・建築用等に利用される。分布—ニューサウスウェールズ州
- (10) *E. macrophylla*, F. v. M. 俗稱—レッド・ストリンギバーク (Red Stringybark)

- (22) *E. hybrida*, J. H. M.
下州及北オーストラリア州
木材—淡黄色、堅質で利用が多い。分布—ニューサウスウェールズ州
- (23) *E. affinis*, H. D. et J. H. M.
木材—赤褐色、鐵道枕木・鋪裝・港灣木材として利用される。分布—ニューサウスウェールズ州
- (24) *E. brownii*, L. H. M. et R. H. G. 俗稱—ボックス・トリリー (Box tree)
木材—赤褐色を呈してゐる。分布—クインズランド州タウンスビル附近
- 4 タローウツド類 (Tallow Woods)
(1) *E. nigroerys*, F. v. M. 俗稱—タロー・ウツド (Tallow Wood)
木材—灰黄色を呈し、床板・鋪裝・橋梁・鐵道枕木・車體用其他に利用の途が多い。分布—ニューサウスウェールズ州よりクインズランド州に亘る沿岸地帯
- (2) *E. planchoniana*, F. v. M. 俗稱—タローウツド (Tallow Wood)
木材—淡黄色、造船・鋪裝・車體用に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州及クインズランド州
- 5 ストリンギバーク類 (Stringybark)
(1) *E. baileyana*, F. v. M. 俗稱—ラツフ・ストリンギバーク (Rough Stringybark)
木材—淡灰色で、建築・電柱・柵・車體・其他用途に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州北東部及クインズランド州南東岸
- (2) *E. campanulata*, R. T. B. et H. G. S. 俗稱—ストリンギバーク (Stringybark)
木材—淡灰色で車體・建築材・電柱・鐵道枕木用に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州よりクインズランド州に至る沿岸地帯

- (11) *E. cannoni*, Sp. nov. 俗稱—レッド・ストリンギバーク
木材—淡褐色で、貨車調度品用其他に利用される。分布—ニューサウスウェールズ州
- (12) *E. muelleriana*, A. W. Howitt. 俗稱—イエロー・ストリンギバーク (Yellow Stringybark)
木材—淡黄色、建築・橋梁・鋪裝・車體・鐵道・枕木造船用其他に利用される、分布—ウイクトリア州ギップスランド地方
- (13) *E. obliqua*, L'Her. 俗稱—ストリンギバーク
木材—淡褐色、廣く建築用に利用され、又調度用にも用ひられ、分布—クインズランド州、ニューサウスウェールズ州、南オーストラリア州及タスマニア州
- (14) *E. stuartiana*, F. v. M. 俗稱—ウイクトリア林檎 (Apple of Victoria)
木材—淡黄色、主として燃料に利用される。分布—ウイクトリア州
- (15) *E. jacksoni*, J. H. M. 俗稱—ストリンギバーク
木材—淡褐色を呈する。分布—ニューサウスウェールズ州
- (16) *E. wilkinsoniana*, R. T. B. 俗稱—小葉ストリンギバーク
木材—淡黄色で利用の用途が廣い。分布—ニューサウスウェールズ州
- 6 ウーリー・バツト類 (Woolly-Batts)
1 *E. macarthuri*, H. D. et J. H. M. 俗稱—カムデン・ウーリーバツト (Camden Woolly-Batts)
木材—淡黄色で、橋梁或は柵用等に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州
- 7 ブラックバツト類 (Blackbatts)

- (1) *E. pilularis*, Sm. 俗稱—ブラックバット
木材—淡黄色、建築・舗装・車體・造船用其の他に利用される。
分布—ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州及ク
インズランド州
 - (2) *E. cambagana*, J. H. M. 俗稱—ブラックバット
木材—チョコレート色、用途廣い、分布—クインズランド州
 - (3) *E. elandii*, J. H. M. 俗稱—ブラックバット
木材—黄褐色を呈する。分布—西オーストラリア州
 - (4) *E. patens*, Benth. 俗稱—ブラックバット
木材—樹木は五〇米にも達する巨木で、木材は淡黄色、建築・
車體・鐵道枕木用其の他に利用される。分布—西オース
トラリア州
 - (5) *E. dundasii*, G. H. M. 俗稱—ブラックバット
木材—用途廣い、分布—西オーストラリア州
- 8 **ガム類 (Gums)**
- (1) *E. aceryla*, Hook. f. 俗稱—タスマニア紅樹 (Red Gum of
Tasmania) 木材—淡黄色、建築・壁板・床板・車體用其の他に
利用される。分布—タスマニア州の特産
 - (2) *E. banksii*, J. H. M. 俗稱—ガム (Gum)
木材—淡黄色を呈する。分布—ニューサウスウェールズ州及ク
インズランド州
 - (3) *E. citriodora*, Hook. f. 俗稱—レモン香ガム (Lemon-Scented
Gum) 木材—淡灰色又は淡いチョコレート色、各種の用途が廣
い、分布—クインズランド州
 - (4) *E. corymbosa*, F. v. M. 俗稱—砂糖ガム (Sugar Gum)
木材—黄色を呈し、櫛・鐵道枕木・枕用其の他に利用される。
分布—南オーストラリア州の特産
 - (5) *E. dimittii*, J. H. M. 俗稱—ホワイト・ガム (White Gum)

- (6) 木材—白色、建築用材として利用される。分布—ニューサウス
ウェールズ州よりクインズランド州に亘る地域
E. griffithii, J. H. M. 俗稱—ホワイト・ガム (White Gum)
木材—白色、鐵山用材として利用される。分布—西オーストラ
リア州
- (7) *E. globulus*, Labill. 俗稱—ブルー・ガム (Blue Gum)
木材—淡黄色にて鐵山用材として利用されてゐる。港灣・車體
用としても利用される、分布—タスマニア州、ニューサ
ウスウェールズ州及ヴィクトリア州
- (8) *E. St. Johni*, Sp. nov.
分布—ヴィクトリア州
- (9) *E. Nieuens*, J. H. M.
木材—白色を呈してゐる、分布—ヴィクトリア州及ニューサウ
スウェールズ州
- (10) *E. goniolepis*, F. v. M. 俗稱—山ガム (Mountain Gum)
木材—淡黄色、橋梁・建築・車體・埠頭用材等に利用される。
分布—ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州及南
オーストラリア州の山岳地帯
- (11) *E. maculata*, Hook. f. 俗稱—有斑ガム (Spotted Gum)
木材—各種方面に用途が廣い、分布—クインズランド州及ニュ
ーサウスウェールズ州
- (12) *E. maidenii*, F. v. M. 俗稱—ホワイト・ガム、又はブルー・ガ
ム (White Gum, Blue Gum)
木材—淡黄色、橋梁・車體・其の他建築用等に利用される。分
布—ニューサウスウェールズ州
- (13) *E. mundijogensis*, J. H. M. 俗稱—チアート (Thart)
木材—淡黄色を呈す、分布—西オーストラリア州
- (14) *E. oenophloia*, F. v. M. 俗稱—ヤパンガ (Yapangh)

- 木材—淡褐色を呈す。分布—ニューサウスウェールズ州及クイ
ンズランド州
- (15) *E. regnans*, F. v. M. 俗稱—巨人ユム (Giant Gum)
木材—淡黄色、建築・車體・或は室内調度品用に利用されてゐ
る。分布—ヴィクトリア州及タスマニア州
- (16) *E. urnigera*, Hook. f. 俗稱—レッド・ガム (Red Gum)
木材—淡黄色、建築・床板・簾筒・造船用其の他に利用せられ
る。分布—タスマニア州の山岳地帯
- (17) *E. viminalis*, Labill. 俗稱—マンナ・ガム、又はリボニー・ガム
(Manna Gum, Ribbon Gum)
木材—建築・車體用等に利用される。分布—ニューサウスウェ
ールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州及タスマ
ニア州
- (18) *E. vitrea*, R. T. B. 俗稱—ホワイト・トップ・メスメート
(White Top Mesmate)
木材—淡褐色、車體・櫛用等に利用されてゐる。分布—ニュー
サウスウェールズ州
- (19) *E. cleanei*, J. H. M. 俗稱—廣葉ソリニー・ガム (Broad-Lea-
ved Blue Gum)
木材—赤色、用途は廣い。分布—ニューサウスウェールズ州及
クインズランド州
- (20) *E. dealbata*, A. Gunn. 俗稱—内陸レッド・ガム (Inland Red
Gum) 木材—赤色、主として室内調度品用に利用されてゐる。
分布—ニューサウスウェールズ州及クインズランド州
- (21) *E. parramattensis*, C. Hall. 俗稱—ホワイト・ガム (White
Gum) 木材—淡黄色、分布—ニューサウスウェールズ州
- (22) *E. dawsoni*, R. T. B. 俗稱—スラティ・ガム (Slaty Gum)
木材—赤褐色、建築・鐵道枕木・橋梁・港灣用其の他に利用が

- (23) *E. behrmannii*, F. v. M. 俗稱—レッド・ガム
木材—赤褐色、分布—ニューサウスウェールズ州、南オースト
ラリア州及ヴィクトリア州
- (24) *E. cornuta*, Labill. 俗稱—チート・ガム (Yate Gum)
木材—赤褐色、用途極めて廣い。分布—西オーストラリア州
- (25) *E. thozetiana*, F. v. M.
木材—赤褐色、頗る硬質である。分布—クインズランド州及ニ
ューサウスウェールズ州
- (26) *E. leucocylonus*, F. v. M. 俗稱—ブルー・ガム (Blue Gum)
木材—ピンク色、鐵道枕木・橋梁・電柱用其の他に用途が廣い
- (27) *E. logicornis*, F. v. M. 俗稱—モーレル (Morrell)
木材—赤褐色、舗装・シャント用其他に利用される。分布—西
オーストラリア州
- (28) *E. intertexta*, R. T. B. 俗稱—クーラバー (Coolahab)
木材—赤褐色、鐵道枕木・橋梁用其の他に利用せらる。分布—
ニューサウスウェールズ州
- (29) *E. loxophleba*, Benth. 俗稱—ヨーク・ガム (York Gum)
木材—赤褐色、建築・造船・車體用其の他に利用せらる。
- (30) *E. occidentalis*, Endl. 俗稱—The Flat-Topped Yate.
木材—車體用其の他に利用せられる。分布—西オーストラリア
州
- (31) *E. propinqua*, H. D. et J. H. M. 俗稱—グレー・ガム (Grey
Gum) 木材—赤褐色、建築・車體用其の他に利用される。分布
—ニューサウスウェールズ州及クインズランド州
- (32) *E. punctata*, DC. 俗稱—グレー・ガム (Grey Gum)
木材—赤褐色、建築・電柱用其の他に利用の途が多いが、特に

- 鐵道枕木用に適してゐる、分布—ニューサウスウェールズ州及クインズランド州の沿岸地方
- (33) *E. redunca*, Selan. 俗稱—ワンドウー (Wandoo)
木材—赤褐色、橋梁・港灣・鐵山用其の他に利用される、分布—西オーストラリア州
- (34) *E. rubida*, H. D. et J. H. M. 俗稱—キヤンダル・パーク (Candle Park) 木材—ピンク色、建築用に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州及南オーストラリア州
- (35) *E. eearna*, J. H. M.
木材—赤褐色、柵・橋梁・埠頭・建築用其の他に利用せられる。分布—ニューサウスウェールズ州
- (36) *E. salmonophloia*, F. v. M. 俗稱—サーモン・ガム (Salmon Gum)
木材—赤褐色、建築・杭・橋板・車體用其の他に利用せられる。分布—西オーストラリア州
- (37) *E. torrelliana*, F. v. M.
木材—主として室内調度品製作用に用ひられる、分布—クインズランド州
- (38) *E. rostrata*, Sahl. 俗稱—ローレー・レッド・ガム (Murray Red Gum)
木材—赤色、硬く、橋梁・建築・鋪裝・鐵道枕木・車體用等に利用される、分布—クインズランド州、ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州
- (39) *E. salubris*, F. v. M.
木材—キヤビネット用に利用されてゐる、分布—西オーストラリア州
- (40) *E. saligna*, Sm. 俗稱—シドニー・ブルー・ガム (Sydney Blue Gum)
木材—赤褐色、車體・建築・鋪裝・鐵道枕木・造船用に利用せられる、分布—ニューサウスウェールズ州の海岸地帯及

- クインズランド州
- (41) *E. saligna* Sm. var. *Pallidivalis*, R. F. B. 俗稱—フラッデツド・ガム (Flooded Gum) 木材—淡黄色、板壁・建築・キヤビネット・造船等に利用せられる、分布—ニューサウスウェールズ州
- (42) *E. tereticornis*, Sm. 俗稱—フォレスト・レッド・ガム (Forest Red Gum)
木材—赤色、建築・橋梁・埠頭・車體・造船・鋪裝等に利用せられる、分布—ニューサウスウェールズ州、クインズランド州、ウイクトリア州
- (43) *E. squamosa*, H. D. et J. H. M. 俗稱—アイアンウッド、又はマケロー・スーク・レッド・ガム (Ironwood, Scaly-Barked Red Gum) 木材—赤褐色、鐵道枕木・桁・埠頭・鋪裝用に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州
- (44) *E. maculosa*, R. F. B. 俗稱—山地有斑ガム (Mountain Spotted Gum) 木材—ピンク色、其の用途は極めて廣い。特に柵用として利用される、分布—ニューサウスウェールズ州及ウイクトリア州
- (45) *E. ovalifolia*, R. F. B. var. *lanolata*, R. F. B. et H. G. S. 俗稱—レッドガム 木材—赤褐色、裝飾品製作・キヤビネット用、分布—ニューサウスウェールズ州
- (46) *E. ovalifolia*, R. F. B. var. *lanolata*, R. F. B. et H. G. S. 俗稱—レッドガム 木材—赤褐色、裝飾品製作・キヤビネット用、分布—ニューサウスウェールズ州
- (47) *E. fasciculosa*, F. v. M. 俗稱—ピンク・ガム (Pink Gum)
木材—赤褐色、車體用として廣く利用されてゐる、分布—南オーストラリア州
- (48) *E. Le Sonellii*, J. H. M.
木材—赤褐色、分布—西オーストラリア州

- (49) *E. tenellamii*, J. H. M. et R. H. G. 俗稱—フラッデツド・ガム (Flooded Gum) 木材—ピンク色、分布—ニューサウスウェールズ州
- 9 **ペーパーミント類 (Peppermints)**
- (1) *E. amygdalina* Labill. 俗稱—ブラック・ペーパーミント (Black Peppermint)
木材—淡黄色、キヤビネット・器具・車體・柵用其他建築用に利用される、分布—タスマニア島
- (2) *E. australiana*, R. F. B. et H. G. S. 俗稱—細葉ペーパーミント (Narrow-Leaved Peppermint)
木材—淡黄色で乾燥が良い、キヤビネット・建築・車體・農器具用に利用される、シドニー市場ではアメリカ・ピッコリーの代用品として使用せられる、濠洲ビッコリーの名がある、分布—ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州及クインズランド州
- (3) *E. piperita*, Sm. 俗稱—シドニー・ペーパーミント (Sydney Peppermint)
木材—黄色、建築・車體・甲板・室内調度品・キヤビネット用に利用せられてゐる、分布—ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州、クインズランド州
- (4) *E. linearis*, A. Gunn. 俗稱—ホワイト・ペーパーミント (White Peppermint) 木材—淡黄色、建築材に適する、分布—タスマニア島
- (5) *E. andrewsii*, J. H. M. 俗稱—ニューイングランド・ペーパーミント (New England Peppermint)
木材—淡黄色、一般建築材として利用が廣い、分布—ニューサウスウェールズ州、ニューイングランド地方
- (6) *E. pennihensis*, J. H. M. 俗稱—パーミンント
木材—赤褐色、分布—ニューサウスウェールズ州
- 10 **アッシュ類 (Ashes)**

- (1) *E. delegatensis*, R. F. B. 俗稱—南部山地アッシュ、又はタスマニア桧 (Southern Mountain Ash, Tasmanian Oak)
木材—一般家具類・裝飾品・建築・ゴルフクラブのシャフト・櫛櫛・農器具・鐵山用具・車體用等、その用途は頗る廣い。分布—ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州及タスマニア州の山岳地帯
- (2) *E. consideriana*, J. H. M. 俗稱—ホワイト・アッシュ (White Ash) 木材—白色、一般建築・車體・柵・造船等に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州
- (3) *E. fraxinoides*, H. D. et J. H. M. 俗稱—ホワイト・アッシュ 木材—白色、造船・甲板・車體用に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州
- (4) *E. virgata*, Sieb. 俗稱—タスマニアのアイアンオーク (Tasmanian Ironbark)
木材—淡黄色、建築・車體・橋梁等に利用せられる、分布—ニューサウスウェールズ州、ウイクトリア州、南オーストラリア州及タスマニア州
- (5) *E. oreades*, R. F. B. 俗稱—スマース・マウンテンアッシュ (Smooth Bark Mountain Ash)
木材—白色、一般建築・車體・キヤビネット・細工用其他に利用せられる、分布—ニューサウスウェールズ州、ブルーマウンテン
- (6) *E. smithii*, R. F. B. 俗稱—ホワイト・トップ、又はガリー・アッシュ (White Top or Gully Ash)
木材—白色、建築・車體・橋梁等に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州の南部海岸地帯
- (7) *E. sieberiana*, F. v. M. 俗稱—山地アッシュ (Mountain Ash)
木材—紫がかつた淡赤色、建築・橋梁・埠頭・車體用に利用さ

れる、分布—ニューサウスウェールズ州ブルーマウンテン
ン及ウイクトリア州、南オーストラリア州

11 アイアンバーク類 (Ironbarks)

(1) *E. fergusonii*, R. T. B. 俗稱—ブラッマウッド・アイアンバーク (Bloodwood Ironbark)

木材—赤褐色乃至チョコレート色、用途は廣い、分布—ニュー
サウスウェールズ州

(2) *E. crebra*, F. v. M. 俗稱—細葉アイアンバーク

木材—赤褐色、硬質、鐵道枕木・橋梁・埠頭・桁用その他に利
用される、分布—ニューサウスウェールズ州、クインズ
ランド州

(3) *E. siderophloia*, Benth. 俗稱—廣葉アイアンバーク (Broad-
leaved Ironbark)

木材—チョコレート色、硬質、埠頭・柱・桁・橋梁・鐵道枕木・
車體用等に利用されてゐる、分布—ニューサウスウェー
ルス州、クインズランド州

(4) *E. sideroxyton*, A. Gunn. 俗稱—ムツガ又はレッド・アイアン
バーク (Mugga, Red Ironbark)

木材—赤褐色、硬質、鐵道枕木・建築・車體・橋梁・埠頭其の
他に利用される、分布—ニューサウスウェールズ州及ウ
イクトリア州

(5) *E. caleyi*, J. H. M. 俗稱—廣葉アイアンバーク (Broad-Lea-
ved Ironbark)

木材—赤褐色、用途が廣い、分布—ニューサウスウェールズ州
及クインズランド州

(6) *E. milanophloia*, F. v. M. 俗稱—銀葉アイアンバーク (Silver-
leaved Ironbark)

木材—チョコレート色、硬質、橋梁・車體・埠頭用其他の建築

用材に適する、分布—ニューサウスウェールズ州及クイ
ンズランド州

(7) *E. staigeriana*, F. v. M. 俗稱—レモン香アイアンバーク
(Lemon-Scented Ironbark)

木材—赤色、硬質、分布—クインズランド州

(8) *E. nanglei*, R. T. B. 俗稱—ピンク・アイアンバーク (Pink
Ironbark) 木材—ピンク色、硬質、利用度廣い、分布—ニュー
サウスウェールズ州

(9) *E. paniculata*, Sm. 俗稱—ホワイト・アイアンバーク (White
Ironbark)

木材—淡灰色乃至チョコレート色、建築・車體用等に利用せら
れる、分布—ニューサウスウェールズ州及クインズラン
ド州

(10) *E. beyeri*, R. T. B. 俗稱—細葉アイアンバーク (Narrow-
leaved Ironbark)

木材—濃いチョコレート色、橋梁・埠頭・柱・車體用等に利用
せられる、分布—ニューサウスウェールズ州

(11) *E. drepanophylla*, F. v. M.
分布—クインズランド州

第十章 水産業

總説—統計—魚類

第一節 總説

濠洲は肉類の極めて豊富で價格の低廉な所であるから住民は殆ど魚肉
を必要としてゐない。その爲、水産業は全く振はない。只木曜島と西オ
ーストラリア州のブルームとの眞珠業は世界的に有名である。殊に木曜
島には日本人漁夫が多く數百名を数へてゐる。

「眞珠の母」と呼ばれる濠洲近海の眞珠貝は直徑二〇釐位の貝介で、内
面は眞珠色の光澤を帯びる。ナイフの柄やボタンを造る原料として貴重
品とされる。之は學名をピンクタゲ・マルガリテイフェラといひ、南海
産の小形の眞珠貝である黒蝶貝に對して和名を白蝶貝といふ。濠洲領内
の白蝶貝の分布區域は可なりに廣く、南は南緯八度邊から北は赤道以北
に及び、西はブルームを中心とする地域から東はニューギニアに及んで
ある。

ニューギニアと濠洲大陸とを隔てるトレス海峡の周圍は名高い白蝶
貝の産地である。此處で初めて眞珠貝を發見したのは、シドニーを出帆
して西オーストラリア州に向つた帆船の船長であつて、一八六九年ウ
オツバ礁で白蝶貝五噸を採取し、夫をシドニーで一噸五百圓で賣渡した。
翌年には七五噸を獲得することに成功した。之が濠洲で白蝶貝が取引さ
れるに至つた濫觴である。その後専門の採取業者が續々と出動し始め、
當初は裸もぐりで淺所にのみ活躍してゐたが、潜水作業で採取するに至
りました。トレス海峡一帯は、今では採集船蟻集する水域となつた。

採取船は通例五乃至七噸で二本マストに三角帆と横帆とを張つて帆走
する。現今では石油發動機を備へた一五噸内外の大きなものも現はれる
に至つたのである。炭水・食糧その他の必需品を十分に用意した採取船

は根據地から遠くに出て海面で作業するのであるから病者を生ずるか、
何か特別の事故を生じた場合以外、長く海に浮んで歸らない。潜水夫は
普通一二米乃至四〇米の海底で作業をするが、深海作業と呼ばれるのは
その深さ六〇米内外に及ぶのであるから餘程の熟練を要する。最初採取
された眞珠貝は一〇〇個に付價格幾許と定めてゐたが、現在では清洗し
たものを賣買することとし、價格は一噸八百圓から三千圓の間を時の市
況によつて上下してゐる。

木曜島を根據地として白蝶貝の採取に従事してゐた潜水夫には、種々な
人種がゐたのであつたが、採取區域が深海に移るに連れて、熟練な邦人
潜水夫の獨占的のものとなり、近來ではこの事業の實權は邦人が握つて
ゐる。

一九〇三年に發せられた移民法の原則によれば邦人は絶対に入國を拒
まれたのであるが西オーストラリア州のブルームと木曜島に限つて、陸
上に居を占めざる海上生活者といふ意味で該事業に従事することを許さ
れてゐる。

ここには白濠主義が徹底することが出来ぬので、若し入漁を絶対に許
さぬこととすると濠洲の眞珠業は覆滅して仕舞ふのである。
此の木曜島の附近では原始漁業が殘されてゐる。海岸から珊瑚礁の内
側に向つて數條の低い石造の壁が走つてゐる、之が原住民のセイと呼ぶ
漁柵である。その中の淺い所には海藻が一面に繁茂し、ジュゴンが之を
喰ひに来る。この海獣は身長八、九呎あり、全く無害で海底に座し頭部
だけを水上に出してゐる習性がある所から、一般に人魚に關する傳説が
生れてゐる。その肉は食用として頗る賞美され、貴重な脂肪を多量に持
つてゐる。又鳥影の波濤かな所には、季節によつて鰯に似た小魚が大群
を爲して集つて来る。漁獲方法は極めて原始的であつたが、近時は投網
の使用を試みるやうになつた。

第二節 統計

地方別一般漁船・水産従業員及漁獲高表

州名	漁船数	漁船其他の價額	従業員	伊勢蝦貝類	伊勢蝦貝類
ニューサウスウェールズ	一六八四	110,641	二六四八	三三,八八九	五,〇四九
クイーンズランド	八六七	101,848	一四二八	11,701	1,544
南オーストラリア	1,100	78,155	一七九七	九,八四〇	九,〇五三
西オーストラリア	三二六	150,000	六六二	七五,000	11,000
タスマニア	三一九	五三,二一八	三〇五	四六,四四九	四六,一八〇
全濠洲	五,〇〇二	五四〇,〇〇〇	八,三三二	二〇七,八七七	七,一七六

(註) (1)一九三七年十二月終了年度 (2)漁夫許可證發行數 (3)車輦八、八八八輛、蟹五、五七六打を含む (4)車輦を含む (5)蟹 (6)海龜二五、價格三六磅を含む (7)車輦一、七一二磅、蟹一、一五五磅を含む (8)牡蠣業を含む (9)設備のみ

眞珠採取漁船・同従業員及漁獲高表 (一九三七—三八年)

州名	漁船数	漁船其他の價額	従業員	眞珠貝獲得量	眞珠貝獲得金額	眞珠獲得金額	海鼠獲得金額	鼈甲獲得金額
ニューサウスウェールズ	三五七	九,五八五	三六	一〇,八五	11,311	1,231	1,231	—
クイーンズランド	八三	五,九八〇	六三	九一	11,810	二二	—	—
南オーストラリア	二四	11,000	三三	九一	11,810	二二	—	—
西オーストラリア	二四	11,000	三三	九一	11,810	二二	—	—
全濠洲	一〇四	1,010	一三三	二八五	36,741	111	111	111

地方別・事項別歳入額表 (一九三七—三八年) 單位：磅

州名	官許收入	貨賃料	沒收罰金	其他收入	計
ニューサウスウェールズ	1,191	1,577	1,111	1,111	5,390
クイーンズランド	1,191	1,577	1,111	1,111	5,390
南オーストラリア	1,191	1,577	1,111	1,111	5,390
西オーストラリア	1,191	1,577	1,111	1,111	5,390
全濠洲	4,764	6,332	4,444	4,444	21,930

事項別 一九三六—三七年 一九三七—三八年 一九三八—三九年 官許收入 1,191 1,191 1,191

第三節 魚類

一 鹹水魚

濠洲に於る鹹水魚の代表的なるもの、種類並にその分布を列挙してみると次の如くである。

(1) 鯖類

Scomber Colias Gmel

俗稱 ロンモン・マツケレル (Common Mackerel) 分布 東部、南部及西部沿岸及タスマニア近海に分布し食用に供せられる

(2) 鮭類

イ、Thunnus Gernoi

俗稱 Albacore (びんなが)

分布 ニューサウスウェールズ州よりタスマニア州へかけて濠洲の南東部の海邊に、一〇月より翌年六月頃迄が漁期なるもの

ロ、Neolithinus Macropterus

俗稱 Yellowfin Tuna (おにだ)

分布 北部濠洲に多く、チモール海やアラフラ海に多く捕獲される

ハ、Thunnus Maccoyii

俗稱 Southern Bluefin, Southern Tunny (くるまぐろ)

分布 ニューサウスウェールズ州よりタスマニア州に亘り又南オーストラリア州及西オーストラリア州の沿海に分布する

濠洲……水産業

ニ、Kishinoueella Iava

俗稱 Northern Bluefin, Northern Tunny (こしなが)

分布 濠洲の熱帯及亞熱帯海域、クイーンズランド州の北部海域及西オーストラリア州のフリーマントル附近に分布する

(3) 鰹類

イ、Katsuwonus Vagans

俗稱 Striped Tuna (鰹)

分布 クイーンズランド州の南部からタスマニア州に分布しクイクトリア州沖合を中心とする

ロ、Pulynus Alletteratus

俗稱 Mackerel Tuna (タイワンヤイト)

分布 ニューサウスウェールズ州の北部沿岸及西オーストラリアの沖合に分布する

ハ、Auxis Tharsard

俗稱 Frigate Mackerel, Leathell (さうだがつを)

分布 ニューサウスウェールズ州南部沖合並に西オーストラリアの沖合に分布する

ニ、Sarda Australis

俗稱 Ponito, Horse Mackerel (はがつを)

分布 ニューサウスウェールズ州、クイクトリア州の沖合に分布する

(4) 鰯類

イ、Sardinops Neohickardus

俗稱 Pilchard

分布 濠洲全水域に分布し、罐詰・鹽藏・燻製に利用される

ロ、Harengula Castellani

俗稱 Southern Herring

分布 ニューサウスウェールズ州及クイーンズランド州の沿岸に産する

一一〇九

イ、Clupea Bassensis

俗稱 Sprat

分布 タスマニア近海に多く八月—十一月に大群をなして廻遊すると云はれてゐる

ロ、Hyperlophus Vittatus

俗稱 Sandy Sprat

分布 ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州及西オーストラリア州に分布する

ハ、Stolephorus Robustus

俗稱 Blue Sprat

分布 ニューサウスウェールズ州、クインズランド州、タスマニア州、南オーストラリア州及西オーストラリア州と濠洲全水域に亘つて分布する

ニ、Etrumeus Jacksonensis

俗稱 Murray

分布 濠洲全水域に亘つてゐるが、特にクインズランド州南部とニューサウスウェールズ州北部とが主たる漁場である

ホ、Engraulis Australis

俗稱 Anchovy

分布 濠洲全水域に分布す

(5) 鰯類

イ、Zeus Faber

俗稱 John Dory

分布 ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、タスマニア州、南オーストラリア州及西オーストラリア州の南部沿岸に分布する

ロ、Trachichthodes Affinis

俗稱 Nannygai

分布 濠洲全水域に分布する

ク、Lobotes Surinamensis

俗稱 Dusky Perch

分布 クインズランド州沿岸及ニューサウスウェールズ州の部沿岸に分布する

ニ、Glaucosoma Scapulare

俗稱 Pearl Perch

分布 クインズランド沿岸及ニューサウスウェールズ州の北部沿岸に分布する

ホ、Pagrosomus Auratus

俗稱 Snapper

分布 濠洲全水域に亘つて分布し濠洲に於る食用魚として広く知られてゐる

ク、Sparus Australis

俗稱 Black Bream

分布 濠洲全水域に分布するが、特にニューサウスウェールズ州及ヴィクトリア州に多く漁獲せられる

ニ、Sparus Sarta

俗稱 Tarwhine

分布 ニューサウスウェールズ州の沿岸水域を主とし大陸の東岸、北岸及西岸に分布す

ロ、Lutjanus Superbus

俗稱 Red Bass

分布 クインズランド州及北部ニューサウスウェールズ州の沿岸に分布する

6 鱈類

イ、Silago Ciliata

俗稱 Whiting Sand Whiting

分布 濠洲全水域に分布するが、特にニューサウスウェールズ州及ヴィクトリア州に多い
之は美味なために濠洲人の好んで食するものゝ一つである

(7) 細魚類

イ、Henirhamphus Intermedius

俗稱 Sea Garfish

分布 全濠洲沿岸、タスマニア州沿岸に分布し、美味な爲に好んで食用に供せられる

ロ、Henirhamphus Regularis

俗稱 River Garfish

分布 ニューサウスウェールズ州及南部クインズランド、濠洲東海岸の内灣・瀉・河口等に分布する

二 淡水魚

濠洲に於る淡水魚の代表的なものはマーレー・コッドである。日本の鱒に似たもので濠洲人は之を甚だしく好む。

マーレー・コッドに亜ぐものはゴードンバーチでマーレー・コッドと同じくマーレー河に棲み、その大支流マラムピッチー河及ダーリング河並にクインズランド州のマリー河に棲息し廣く食用に供せられる。

ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州及タスマニア州の河川には鱒の稚魚放流による人工増殖も計られてゐる。

三 貝類其他

- (1) 牡蠣 自然繁殖であつたが近時は養殖が盛になつて来た。
- (2) 眞珠貝 ヨーク半島よりシャーク灣に至る約二千哩の沿岸水域に豊富に棲息してゐる。

濠洲……水産業

(3) 高瀬貝

クインズランド州及北方直轄州に於て採集され、卸原料として海外に輸出されてゐる。

(4) 海參・鼈甲

クインズランド及北方直轄地帯に於て採取されて居り、海參は主として支那向け輸出である。

第十一章 鑛業

總説—第一章—石炭—石油—諸統計

第一節 總説

濠洲の鑛業は金を主とする。この金埋藏量の豊富なのが濠洲をして今日の如く開發せしめた主要原因である。即ち一八五七年、初めてヴィクトリア州に於て砂金鑛床が發見され、當時濠洲全體で住民は僅に五〇萬に過ぎなかつたのが、忽ち夥しい人口を吸収し、今日の繁華の基礎を作つたのである。

濠洲は現在に於ても金の産出が多く、南アフリカ聯邦・アメリカに次いで世界第三位の金産地である。其の他石炭の産出も多く、現在産出額の多い炭田はニュー・サウスウヰールズ州に最も多く、クインズランド州等にも産出する。其の他には、銀・鉛・銅・錫・鐵等が主要なる鑛産である。

主要鑛物の一九三六—三八年の生産額は次の如くである。

種別	一九三六	一九三七	一九三八
金	10,511,194	11,945,004	16,032,655
銀	4,950,018	5,800,440	4,740,000
銅	7,967,777	11,233,367	8,950,000
錫	6,588,077	8,557,668	7,150,000
鉛	6,588,077	7,326,222	7,150,000
石炭	6,588,077	7,326,222	7,150,000
其他	6,588,077	7,326,222	7,150,000
計	22,260,253	25,440,253	26,886,680

鑛産物生産額表

單位：噸

濠洲開發の當初多くの人の心を唆り立てたものは續々と各地に發見せ

る。この鑛脈は置換沈澱作用で生じたもので、鑛石を含んでゐる溶液が斷層又は地層内の隙間に沿うて上昇し、以て片麻岩の層と入れ代つたものである。

一體多くの鑛業者は地下深きに達する程良質の鑛石を得られるのであるが、ブロークンヒルは表面に最も良質の鑛石を有することを特色とする鑛區である。

一八八三年、初めてその採掘に取掛つた際には表面の錫を目的としてゐたが、上層の鑛石中には、主として炭酸鉛とカオリン・硫酸質の物質となり、一噸中に五乃至八四九五の銀を含むことが確められた。この層のものは空中に於る酸化作用と含有物中の無價値な物質を水で洗ひ落すことにより、所要の物質を益々多く集積せしめ得るので、下層のものよりもその抽出が極めて容易である。かゝる表層を越えて更に深く掘進すると、そこには鉛と亜鉛との硫化物又は柘榴石を含んでゐる硫酸鹽に富める鑛脈が現はれる。銀の含有量が多くて利益の最も多かつた部分は殆ど掘り盡し、現在では下層に潜む鑛脈から鉛と亜鉛とを取出すことが主要なる事業となつてゐる。近時附近から發見された新鑛區は將來七百萬噸の採掘が可能なりと言はれてゐる。

貴重な銀鉛鑛の發見が不毛の沙漠地にブロークンヒル市街を現出せしめたと同じく、コパールに於る豊富な銅鑛の發見はニュー・サウスウヰールズ州の中央部を開發させ、地味が劣悪で年の降雨量が僅に三七五ミリといふ人間の生活にとつて極めて條件悪く、一面に一點の生色もない荒野に突如としてコパールの町を出現させた。

この銅鑛が發見されたのは一八六九年で、爾來銅の産額は驚くべき巨額に達し、第一次世界戦争の頃には非常に景氣がよかつたが、その後産額が激減して秋風落莫今や銅山は廢坑に歸せんとしてゐる。

第二節 金

一八九二年、フオードといふ男が、クルガーデーで偶然にも一個半

濠洲……鑛業

られた金鑛であつた。今でこそ島大陸の國是は農業立國を主張してゐるが、鑛業は濠洲開發の先驅をなしたものであり、鑛産物は現今でも濠洲の資源として重要な部分を占めてゐる。

西オーストラリア州東南部の一角は化石の姿も殆ど認め難い太古代の極めて古い岩石から成立つてゐるが、その多くは花崗岩と片麻岩とである。此の地塊を取りまいた所即ち西及南の地層は同じく太古代のものであるが、夫よりは稍新しく包擁されてゐる化石も、稍明かに形を認めることが出来る。この古い岩石を貫いて、處々西から南東に走る明瞭な鑛脈がある。角閃石片や變質した石板岩の類等がその一部分を構成してゐるが、其の東方にあるものはクルガーデー鑛山を形成し、幅約三二、二軒に亘つて西方に走り、サザンクロスから北の方キユー・及びミカタツラに達してゐる。是等の鑛床の中に相當量の金鑛が含まれてゐるが、その母岩となつてゐるのは、俗にグリーンストーンと呼ばれてゐる暗色の岩石である。是等の地方の金は純金として現はれるか、或は又銀と混成した状態で生産され、時には砒素と硫酸とに酷似したテルリウムと結合して現はれる。然し此の地方から最初に發見された金は砂金の姿であつた。

鑛山として世界に著聞する所のブロークンヒル鑛山はニュー・サウスウヰールズ州の西南隅に横はつてゐるが、首都シドニーに達するには、無住の沙漠八〇軒を越えねばならないのに反し、南オーストラリアの州首都アデレードには鐵路僅々三二二軒で到達し得るので、總ての交通は南オーストラリアとの間に行はれてゐる。此の鑛業地帯が初めて開かれたのは一八八三年のことであるが、當時一〇〇磅で賣買された一つの鑛區が六年後には二五〇萬磅の價を生じたといふ一事に見ても、この鑛山が如何に重要なものであるかが想像される。この地方の岩石は、フリンダー山脈の山骨を形成する前カムプリアン紀の非常に變質した片麻岩であるが、鑛脈夫れ自身はマンガンを含んで聳立してゐる岩石であつて、縱の隙隙を充し、露頭は長さ二四軒にも達する鑛脈の最頂部を形成して

オンスの金を拾ひ上げたの始まり、一日にして五〇〇オンスの金を掘出せる大鑛脈を發見したのである。かくしてカルグーリリー鑛は一八九三年に、又メンジース鑛は一八九四年に夫々發見せられた。

金山發見の報が世界に傳はると、世界の視聽を大いに欲て一八九五年には早くも二、五〇〇人の人々がこの地方に入込んで、思ひ／＼に砂金を採取するやうになつた。

現今、西オーストラリアの金山として活動を續けてゐるのは、東クルガーデー、東マーチソン、マウントマーガット、マーチソン等であるが、一九〇三年の金産額が八、七七〇、七一九磅であつたのが、一九二一年には早くも二、九三五、六九三磅と殆ど三分の一近くに減り、その後年を追ふて減りつゝある事實を見ても、この地方の金山が漸次衰退しつゝあることが看取される。

ヴィクトリア州の西南隅に位する小都市バララット並にペンディゴを繞つて、また有名な金山がある。金を求める濠洲移民が先を争ふて殺到したのはこの地域であるから、歴史的には頗る面白い場所であるが、附近はシルリヤ紀の石板岩より成る樹木の妙な丘陵が起伏してゐる。この石板岩は褶皺や斷層を形成してゐるが、谷間では風化して生じた沖積層の粘土で覆はれてゐる。かゝる石板岩の層中に石英の脈が突入してゐるが、この中に時として金が包含されてゐる。その一部は母岩中から洗出されて岩石の表面のポケットに溜つてゐるが、この地方にはかくの如くに淺所に堆積したもの、石英の間に包含されたものと、金は二つの状態で産出される。現在では前者は殆どその影を潜め、六一〇米に近いシヤフトを立て、深部の金鑛を採掘する丈が残つてゐる。この金鑛は近年まで金の産出甚だ多く、年採掘高七千萬磅を越ゆる状態であつたが漸次衰へつゝある。

第三節 石炭

北半球の各地に産する石炭は總て石炭紀の頃の生成物であるが、南半

球のものはグロツンブアテリスといふ羊齒類を交へてゐるので、その生成時期は稍新しくベルモ・カーボニフェラス時代といはれてゐる。濠洲や南アフリカの石炭は凡てこの系統のものだが、その炭質は北半球のものに比すれば著しく劣悪である。濠洲で最も多量に石炭を産するのはニューサウスウェールズ州でウイクトリア、クイーンズランドとタスマニアの三州は之に次ぐが、主要な炭田は悉く東海岸に沿つて存在する。最も炭業の盛なのはシドニーの北方にあるニューカッスル附近で、こゝでは炭田の面積一八、一三〇平方マイルに達し、石炭の年産額三五〇萬磅である。西オーストラリア州の西南隅にあるコツリーも亦石炭の産地として有名であるが、産出される石炭は濕潤で樹脂状である。タスマニア州の東部フインガルに産出される石炭は中世代のものであるが、その産額は豊富で同州で消費される總量の九割までを供給する。尚ニューカッスルの製鋼所ではタスマニア州で産出される鐵礦から鋼鐵を造つてゐる。

第四節 石油

濠洲は國內に石油の産出が皆無であつて、全部を輸入に俟つてゐる。一體濠洲は自動車の利用普及が人口七百萬に對し總臺數七〇餘萬に及び、石油の需要も年約三億五千萬乃至四億ガロンに上つてゐるが、其の大部分は海外の輸入により、國內の供給は約二割に過ぎない。爲に濠洲政府は一方國內資源開發・代用工業等に精進してゐるが、其の見込は必ずしも十分であるとは言ひ難い。又輸入を抑壓することも徹底を期し難いので、平時には輸入の増進を圖り、戦時には極力民需抑制と代用工業奨励及其の貯藏に努めてゐる。今國內資源開發狀況に關して概略を述べると次の如くである。地質學上、鐵油脈は東印度よりニューギニアを通り、新西蘭に及びクイーンズランドにも埋藏のあるものと推定されてゐるが、之と別に現在ク

イクトリア州ギツプスランド地方には現に産油があり、之は更に開發の餘地あるものとせられてゐる。聯邦政府は一九三六年に濠洲及屬領に關する探油法を發布して國內石油資源開發に乗出した。右によつて内務省内に石油諮問委員會が設けられ、國內資源の探査に當り且つ其の開發を助長する目的を與へられた。夫に對しては年約二五萬磅の經費が支出されてゐる。然るに本探油法は其の趣旨とする所が消極的で、單に有望資源に對し試掘の補助を行ふに止り、油田の經營は總て民間の責任に委せてゐた。右は生産コストの關係もあり、事業家にとつて企業上十分の刺戟とはならぬと批評されてゐる。

一九三九年九月開戦後は戦時需要に鑑みて、聯邦政府は更に油田經營其のものに對しても積極的措置を執り、其の年の初にはウイクトリア州ギツプスランド地方の開發を考究されてゐたのであるが、一九四〇年一月には、豫算殘額五萬磅を右ギツプスランド油田開發及西オーストラリア、パプア等に既設せる油田開發會社に對して支給した。元來油田開發等の鐵業は州政府の管轄であつて、聯邦政府は單に勸奨・忠言等補助的立場にあつたのである。右のギツプスランド地方は、當大陸では目下の最も有望なる資源と認められ、レークス・エントランス約八平方哩處の地を既に濠洲油田掘鑿シンジケートの手で試掘中であるが、前記石油諮問委員會の調査によれば大體一億五千萬ガロンの可採埋藏量と推定されて居り、其の油質はデイトセルに適するものと見られてゐる。但し其の石油は砂中に含まれて居り、低壓であるから壓力を加へて油井に集中すべき必要がある。右の爲の所要の經費は約五五、九〇〇磅と見積られてゐる。

其の試掘に對する結果相當の油兆を認めたのであるが、其の後の成績は遅々として進捗しなかつたので、一九四一年六月中、聯邦政府は米國人技師を招聘して、州政府と協力し、新に其の調査を進めることとし、七月末調査が完了し、成績報告のあることとなつてゐた。其の他には西 Kamilaroi Oil. 一七、〇九四 (Kahmurac(オーストリア附近) Gas Driller Ltd. 二、八二一 Mulgoa) クイーンズランド州 Driller Ltd. 一七、〇七四 Arcadia(パプア) Roma Block Oil Co. 九、六四二 Mr. Bassett(パプア) 西オーストラリア州 Lake Wellington Oil Co. 四、一三三 Lakes Entrance 西オーストラリア州 Freney Kimberley Oil Co. 五、〇六一 Kimberley District

第五節 諸統計

全鐵產物生産高表

年次	一、生産高				南オーストラリア	西オーストラリア	タスマニア	北方直轄	全濠洲
	ニューサウスウェールズ	ウイクトリア	クイーンズランド	トリア					
一九三三	六九、四八八	一〇、六〇四	二、五七三	一、〇七六	五、二九一	八、四五六	一、八一五	一七、〇七九	
一九三四	七六、六五〇	一〇、九一〇	二、七三三	一、一七三	五、八四三	七、〇三九	二、八八〇	一八、九四一	
一九三五	九一、〇七〇	一三、九四一	三、八七三	一、四九〇	六、一〇九	一〇、三二〇	七、六〇〇	二二、九四一	
一九三六	一〇一、三六六	一六、三〇三	五、一三三	一、五三三	七、七七一	一六、四〇六	九、八〇一	二七、〇七三	
一九三七	一一九、八八一	一八、三三三	四、三三三	一、五三三	九、三三三	一八、三三三	一〇、九〇一	三〇、〇〇〇	
一九三八	一〇、三三三	一八、三三三	三、九六六	一、八八八	一〇、八四四	一八、九六六	二、四七三	三三、〇〇〇	
二、種別生産高 (一八五一—一九三七年累計)									
鐵	六、三三三	三、八八八	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	
鋼	一、三三三	二、六六六	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	
銅	一、三三三	二、六六六	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	
銀	一、三三三	二、六六六	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	
金	一、三三三	二、六六六	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	
及鉛	一、三三三	二、六六六	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	
錫	一、三三三	二、六六六	九、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	

濠洲... 鑛業

Table of mineral production in the Netherlands East Indies, listing various metals and their quantities in tons.

金生産高表

Table of gold production in the Netherlands East Indies, showing annual production figures and cumulative totals.

銀及鉛生産高表

Table of silver and lead production in the Netherlands East Indies, detailing annual and cumulative output.

濠洲鑛業

濠洲 鑛業

石炭輸出高表

年次	数量	價額
一九一三	二〇八五五五	一、三二五、〇五五
一九一二	一、〇八七、七六七	一、〇九八、八九九
一九一一	三、四四〇、一五五	三、四一八、〇〇〇
一九一〇	二、五二四、一六六	二、六九二、二九六
一九〇九	三、〇五二、三三九	二、七三三、〇五五
一九〇八	三、〇七五、四四〇	二、七六五、五三三
一九〇七	三、四〇三、六八八	三、〇〇四、五七七
一九〇六	三、五八、九三三	三、四七五、五五五
一九〇五	三、五八、九三三	三、四七五、五五五
一九〇四	三、五八、九三三	三、四七五、五五五
一九〇三	三、五八、九三三	三、四七五、五五五
一九〇二	三、五八、九三三	三、四七五、五五五
一九〇一	三、五八、九三三	三、四七五、五五五
一九〇〇	三、五八、九三三	三、四七五、五五五

石炭生産及用途別數量及率表

事項別	一九三二—三三	一九三七—三八
販賣用石炭の産出	九〇九、八八三	一、〇五三、九八九
輸入	一八六、八七二	一、五二〇、七
需要高計	九、二七、八七〇	一、〇五三、九八九
海外輸出	三三、二九八	三三、七六七
燃料炭として海外に輸出	五、六四、九九九	五、八七、二八三
計	八、九六、二八七	九、一四、八五四

石炭鑛業従業員事故數表 (一九三七年)

州名	炭坑従業員數	事故數		一人當り採炭噸數
		死	傷	
ニューサウスウェールズ	一、八九、九八一	二六	六八	一、三二七
クイーンズランド	一、七、七二一	一	二	一、〇八一
タスマニア	一、〇、〇〇〇	一	一	一、〇〇〇
計	一、〇七、七〇二	二七	七〇	一、〇七、七〇二

石炭鑛業禍殃死亡者數表 (一九三三—一九三七年)

州名	炭坑従業員平均數	死亡事故平均數	従業員千人に對する比率	傷	
				死	傷
クイーンズランド	一、七、七二一	一	二	一、〇八一	一、〇八一
ニューサウスウェールズ	一、八九、九八一	二六	六八	一、三二七	一、三二七
計	一、〇七、七〇二	二七	七〇	一、〇七、七〇二	一、〇七、七〇二

鑛山事故數表 (一九三七年)

鑛山別	死	傷	害
ニューサウスウェールズ	二六	六八	一、〇八一
クイーンズランド	一	二	一、〇八一
タスマニア	一	一	一、〇〇〇
計	二七	七〇	一、〇七、七〇二

精鍊金屬製産高表

金屬名	單位	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八	一九三九
銀	噸	八、九八三、五五〇	八、九八三、五五〇	八、九八三、五五〇	八、九八三、五五〇	八、九八三、五五〇	八、九八三、五五〇
鉛	噸	一、〇七〇、〇一〇	一、〇七〇、〇一〇	一、〇七〇、〇一〇	一、〇七〇、〇一〇	一、〇七〇、〇一〇	一、〇七〇、〇一〇
銅	噸	五、四二九、六二九	五、四二九、六二九	五、四二九、六二九	五、四二九、六二九	五、四二九、六二九	五、四二九、六二九
錫	噸	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九
鉍	噸	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九
其他	噸	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九
計	噸	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九	一、七九七、九七九

濠洲 鑛業

石炭鑛業従業員數表

年次	ウイクトリア	クイーンズランド	タスマニア	全濠洲	電燈用動力用		諸會社用		鐵道用		其他消費		
					計	割合	計	割合	計	割合	計	割合	
一九三三	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九三二	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九三一	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九三〇	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二九	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二八	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二七	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二六	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二五	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二四	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二三	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二二	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二一	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九二〇	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一九	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一八	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一七	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一六	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一五	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一四	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八
一九一三	一、八八三	一、三二七	一、〇〇〇	三、二一〇	一、五二〇、〇〇〇	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八	一、六三三	一、六九九、四五八

第十二章 工業

總説—代用資源工業—諸統計

第一節 總説

濠洲の工業は第一次世界大戦を契機として急激に勃興した。大戦中海外からの工業製品の輸入が阻止され、物資の缺乏、物價の高騰に刺戟されて、毛織工業・硝子工業・陶器製造業・紡績業等の輕工業が行はれるに至つた。

然し是等の工業は戦後列國の工業界の立直ると同時に著しく壓迫され、潰滅の危機に當面したが、國內に於て徹底的な保護關稅を行つた結果、僅に餘命をつなぎ止めた。又濠洲に於て勞賃は列強に比較して頗る高率である。夫は同國に於ては勞働者が強力な組織的の力を持つてゐるからである。この點濠洲資本家の負擔は概して重い。例へば勞働法によつて規定されてゐる最低賃金の如きも生活費を基準とする所謂生活賃金である故、物價高になつて生活費が高ければ、直ちに最低賃金は引上げられる。其の他一週四四時間乃至四八時間制の如き、濠洲工場が組織及技術の劣れることと相俟つて十分に驥足を延し得ざる状態におかれてゐる。

然しながら一九二九年頃までは、唯機械的に他國から買入れてゐた機械類も、現在では一部のは既に濠洲でも製造されるのである。この進歩の度合は、當局が東印度當局から機械類の輸入を要望される程度に達して居り、機械工・熟練工について言へば、目下濠洲教育當局は技術専門教育施設の擴充整備を急いでゐる程であるが、今次の戦争が長引き愈々職權が擴大して來ると、深刻な勞働不足に見舞れるやうになるのは必至である。

濠洲の生産に係る軍需品は小兵器、各種型の銃砲、練習用飛行機から各種裝甲車に及び、機械化兵團を維持するに必要な整備を完了するに至る日も近い。

現に造船も行はれて居り、工費一千萬弗に及ぶ巨大な船渠がシドニーに構築されてゐる。

濠洲では製造工業を第二次産業と總稱して、羊毛・小麥等の原始産業と區別してゐる。此の第二次産業たる製造工業に付て見ると、計一九三八年七月—一九三九年六月の全生産額は二億三百萬濠洲磅である。今之を擧げると次の如くである。

工場生産額表 (一九三八年)

種目	生産額
機械・器具・運搬具	六二,四四九,九七三
食料品・飲料・煙草	四一,四〇一,一〇七
衣類	一六,一五二,〇〇一
紙・文房具等	一四,五九〇,〇七三
化學藥品・染料・燐・油	一〇,九七二,七五五
織維及織維製品	九,四〇七,〇四二
木製品及バスケット	一五,五七一,七五七
煉瓦・陶磁器・硝子	一五,四四一,一五一
非金屬鐵の及石材處理	四,一〇〇,〇三五
家具及寢臺	一八,一八八,一
皮革	七,六〇七,〇七五
貴金屬・寶石・器物	九,三二〇,〇八五
樂器	六,四〇三,二
熱・光・動力	二二〇,九七九,八
計	二〇三,四一六,六一〇

次に工場及職工數も逐年増加の一途を辿つてゐて、一九三八年—一九三九年に於ける工場數は全部で二六、九四一工場、聯邦各州特にニューサウスウヰールズ州が最も多く、之に對して同年の職工數は總數五六五、一〇六人で、各州中、ニューサウスウヰールズ州が最も多い。この州は人口の少ない割に製造工業は發達してゐる。

工場・職工數表 (一九三八年—一九三九年)

州別	工場數	職工數
ニューサウスウヰールズ	九,四七四	二二八,八八一
クイックトリア	九,二五〇	二〇一,八三三
南オーストラリア	三,〇八七	五四,一〇〇
クインズランド	二,〇六七	四三,三三一
西オーストラリア	二,一三九	二二,三一一
タスマニア	九四四	一三,八〇二
計	二六,九四一	五六五,一〇六
一九三七—三八計	二六,三九五	五五九,一六〇
一九三六—三七計	二五,六六八	五三三,九四八
一九三五—三六計	二四,八九四	四九七,七七二
一九三四—三五計	二四,三二一	四四九,五五六

白濠主義の名の下に東洋人勞働者の入國を拒否した上、最低賃金制度等各種の制度によつて白人勞働者を極度に保護した結果、被働者の立場は著しく強くなり、工場主側は弱い。中でもニューサウスウヰールズ州の勞働者の勢力は非常に強い。ストライキは濠洲の名物の一つであり、餘りに頻發するので、餘程の大規模でない限りはニューズ價値がないとされる。

勞働者を非常に保護し、否寧ろ押れしめて威令の乏しくなつた濠洲聯邦政府が近年は製造工業を擁護して、國內工業の發達を期して居り、彼等勞働者の生活水準を高く引上げんとする努力と、結局に於て多くの矛盾と撞着とに逢着してゐる。

其の工場統計を見ると次の通りである。

部門別工場・従業員數表

部門別	一九三七—三八	一九三八—三九
金屬・機械・器具・運搬具製作	七,一〇一	一七,〇一九
紡績工業	五九一	四三,三三三
毛皮革工業	五三六	一〇,四三三
被服類製造	四,三三三	八,五三七
食料品工業	四,九八二	八,一七五
木材工業	二,七七一	三,二一七
化學工業及製油脂工業	六五三	一,八八五
家具製造工業	一,二二三	一,五六二
製紙・印刷・文房具・製本工業	一,七九〇	三,九〇六
瓦斯電氣事業場數	四九三	九〇七
其他をも含め	二六,三九五	五五九,一六〇
計	二六,三九五	五五九,一六〇
自動車に關する統計 (一九三九年六月現在)		八九九,五三三
自動車々體製造數	七九,〇一七	一七,三三九
自動車々體輸入數	五三三 (一九三七)	六四六 (一九三八)
車臺輸入數	七五,六五二 (一九三六)	八九,六三二 (一九三八)
	六九,九一五 (一九三七)	七六,〇九四 (一九三九)

之を其の後の毎年の車臺輸入數から判断すれば、恐らく現在濠洲にある自動車數は七〇萬—八〇萬臺と推定され、之は米國に次ぐ普及振りである。夫等は車臺を輸入して、その車體は何れも濠洲で製作するので

あり、完成車の輸入は殆どない。フォード・ゼネラル・モーター社は大都市附近に組立工場を有つてゐるが、アデレードにある會社のものは南半球第一を誇つて居り、日産二〇〇臺の設備がある。自動車以外は需要の關係から小規模であるが、併し製鐵・金屬精錬には大規模のものがある。

鑛産資源として鐵・石炭・金・銀・鉛・亜鉛・銅・錫に恵まれてゐる爲、夫等に對しての製鑛所にも相當なものがある。製鐵所はシドニーの北、ニューギニアにあつて銑鐵月産約四萬五千餘噸、専ら建築用材・鐵板・レールの製造に當つてゐる。製鋼所の大きなものはシドニーの南方ポートケンブラにある。

金は西海岸に近いカルグリールに一大精鍊所があり、爲に沙漠の眞中に一大金鑛都市が出来てゐる。

亜鉛はタスマニア島の首府ホバートに精鍊所があり、年産七萬噸であつて、工場としては世界一といはれる。尙銅・鉛の製鑛所にも相當な設備のものがある。現に小規模の造船作業も行はれて居り、シドニーには工費一十萬弗に及ぶ巨大な船渠が構築されてゐる。

濠洲の産業を大観すると、從來此の國は農・牧を主とする所謂原始産業國とのみ考へられて來たのであるが、現在では單なる農・牧原始産業國ではなく、各種の製造工業も相當に發達し、現にその展開の段階に在る。

濠洲は人口僅に七百萬人に過ぎぬのに、廣大な土地と強い太陽の光に恵まれてゐる關係上、國全體として見るときは農・牧を主とする原始産業資源國たる色彩甚だ濃厚であるが、然し近年聯邦政府の實に手厚い關稅保護の下に各種の製造工業が勃興し來つて、既にある程度の發達を遂げ國內各方面の需要を相當に充し得る程度になつてゐる。

濠洲の各種生産額に付て見るのに、最近十箇年の統計によると、全生産額中、原始産業による生産額は六四%であり、製造工業による生産額は三六%である。又この原始産業による生産額六四%を分けると、畜産

二三・五六%、農産二〇・六五%、酪農産一二%、鑛産五%、林・水産三%である。

羊の頭数は、一九三八年に於ては實に一一四、二五萬頭を算し、世界第一である。其の中でメリノ種が大體八割四分を占め、雜種が一割六分であると稱せられる。従て羊毛の生産量も約九億九千萬封度約三三〇萬俵に當り、世界の約四分の一で之亦世界第一である。

バターの輸出總額は一億一千萬圓に上り相當に重要なものとなつてゐる。

石炭は、英本國の産炭地方を眞似てニューサウスウェールズと稱してゐる程で、是も亦相當なものであり、昭和十二年には一億三千萬圓（邦貨換算以下之に同じ）に垂とし、其の後は一進一退の有様である。

金は南アフリカ聯邦、カナダに次ぐ世界第三位の産出を誇つてゐて、昭和十二年には約一億四千萬圓であつたが、其の後は多少減産の模様である。

輸出の好況によつて國民の一般生活水準は向上し、ココア・絹製品・機械類・ゴム等の需要額は増し、昭和十二年の總輸入は昭和十一年に比して七分増加の十二億四千萬圓になつたが、輸出が好調で十七億五千萬圓を超えたので、差引出超五億圓で記録的の黒字を残した。

聯邦當局の公言する所によれば生産品價額は昭和七年當時は三十億圓であつたが、昭和十二年には五十億圓を超え、失業者數概算も昭和七年當時は可働人口の三割にも達してゐたのが、昭和十二年には一割以下となり、可働人口一十人に対し九十七人の失業者となつてゐる。

建築業は、其の地方の好況不況を如實に示す好個の指針たるものであるが、昭和六年の建築費想定額は一億一千萬圓であつたが、昭和十二年にはその六億に近い五億九千萬圓となつてゐた。

昭和五年以來十年までの六箇年間の聯邦政府の赤字は九億圓で、それと公債の増額となつて一般の負擔を増すこととなつたが、昭和十一年及十二年には出超の黒字で多少補填された。

左の生産目標を以て着手し、同年八月精製油を得るのに成功し、爾來漸次能力の擴張を計つてゐる。

- 1 品 種 オクタン價約八〇度の高度油
- 2 豫定數量 原油一、七〇〇バレル ナフタ二〇〇バレル

2 石炭液化

當國は石炭資源は豊富であつて、埋藏量は、黒炭一六四億噸、褐炭類四〇六億噸と稱せられ（年産出は一千萬噸内外）夙に其の液化には注意を向けられてゐた。一九三八年中、メルボルンに四五〇萬磅の資本で企業化の計畫があつたが成立に至らず、爾來石炭液化の技術的方面に付ては水素添加合法等に關する研究も加へられたが、結局現在問題となつて居るのはフイツシャー・トロップシエ合成法（獨逸特許權にして、開戦後は特許發明規則に依り權利獲得となり使用されて居るもの）にして、一九三九年七月軍需省液體燃料常設委員會のなしたる報告（同年一二月公刊）によれば、ヴィクトリア州の褐炭を原料として生産原價、ガロン當り一志四片で、メルボルンの最終市價は平均二志一志九片である（同種の輸入品は關稅七片半を支拂ひて尙一志九片である）。工場設備費は經濟單位年四千五百萬ガロン、能力にて約一千百萬磅に當る。尙同委員會はガス狀又はクレオソートの如き液體より水素添加の工程を行ふのを技術上得策とする事及採算より見て石炭液化工場設備の一生産組織に要する資金を以て、僅に八年分の生産に匹敵する石油を輸入し得ると述べてゐる。

第二節 代用資源工業

昭和十三年の歳出歳入を觀ると、約一、一七〇、〇〇〇圓中、軍備國防費及イギリス移民送還費がその内の三割を占めて居り、次いで國民醫療費及養老金が約二割に及び第二の大口である。昭和七年以來、ロンドン市場で低利借換に成功した公債、地方債は三、〇四〇、〇〇〇圓に及んでゐる。

Papua Apinahi Petroleum Co., Ltd. 一、七七六 Oigau
ニューギニアに於る調査は既に一九三九年末迄に英・濠兩政府資本合計約一八五萬磅を投じ、内七八萬磅は濠洲石油株式會社及島嶼探油株式會社に於て一九三六年より四年間に使用されたものである。

代用資源特頁岩油及石炭液化並に無水アルコール工業は夙に試みられて居り、聯邦政府は右に關し科學工業調査局 (Council for Scientific and Industrial Research) をして研究せしむると共に、一九三八年末液體燃料委員會を設け、調査を行はしめてゐたのであるが、同委員會は一九三九年四月、軍需省の新設に伴ひ同省に移管せられた。

タスマニア州にては一九三一年に數多の會社の合同によつてタスマニア・オイルシエール會社が設立され、一九三四年には頁岩から三萬八千ガロンの石油を得たのであるが採算引合はず、事業化に失敗して一九三五年に閉鎖した。次でニューサウスウェールズ州に於て、一九〇五年以來、同州ブルウマウンテン近傍に存在する頁岩の大埋藏脈を對象として Newnes に工場を設け、頁岩油採出工業の開始を見たのであるが之亦事業化に失敗した。一九三七年に至り聯邦政府はニューサウスウェールズ州政府と協力し、資本金五十萬磅（一九四〇年六月には百萬磅に増資す）の特殊會社 National Oil Proprietary (聯邦政府の持株三三四、〇〇〇株) を設け、州政府一六六、〇〇〇株、民間一六六、〇〇〇株を設け Glen Davis に一九四〇年一月中旬に原油を、五月中には精油生産の目的に工場を設

け左の生産目標を以て着手し、同年八月精製油を得るのに成功し、爾來漸次能力の擴張を計つてゐる。

- 1 品 種 オクタン價約八〇度の高度油
- 2 豫定數量 原油一、七〇〇バレル ナフタ二〇〇バレル

2 石炭液化

當國は石炭資源は豊富であつて、埋藏量は、黒炭一六四億噸、褐炭類四〇六億噸と稱せられ（年産出は一千萬噸内外）夙に其の液化には注意を向けられてゐた。一九三八年中、メルボルンに四五〇萬磅の資本で企業化の計畫があつたが成立に至らず、爾來石炭液化の技術的方面に付ては水素添加合法等に關する研究も加へられたが、結局現在問題となつて居るのはフイツシャー・トロップシエ合成法（獨逸特許權にして、開戦後は特許發明規則に依り權利獲得となり使用されて居るもの）にして、一九三九年七月軍需省液體燃料常設委員會のなしたる報告（同年一二月公刊）によれば、ヴィクトリア州の褐炭を原料として生産原價、ガロン當り一志四片で、メルボルンの最終市價は平均二志一志九片である（同種の輸入品は關稅七片半を支拂ひて尙一志九片である）。工場設備費は經濟單位年四千五百萬ガロン、能力にて約一千百萬磅に當る。尙同委員會はガス狀又はクレオソートの如き液體より水素添加の工程を行ふのを技術上得策とする事及採算より見て石炭液化工場設備の一生産組織に要する資金を以て、僅に八年分の生産に匹敵する石油を輸入し得ると述べてゐる。

3 無水アルコール

代用品として早くから糖蜜を原料とする動力用アルコールがとり上げられ、クインズランド州は一九三三年より、全濠洲は一九四一年初より強制混用を實施し、一年に一、二〇〇萬ガロン生産が目標となつてゐる。然し乍ら未だ幼年期であつて十分なるを得ない。現在の設備及新増設の計畫を見ると次の如くである。

- (イ) シュガー (Colonial Sugar Refining Co. のピマセント精糖工場に

於ては豫てメチルアルコール等を生産してゐたが、一九三九年七月より無水アルコール製造に着手し、現在の生産は年二〇〇萬ガロンの能力を有してゐる。

(c) メルボルン C.S.B. 會社は、メルボルン市に一〇萬磅を投じ分工場を設け、年一〇〇萬ガロン能力を目標にして既に稼働を開始した模様である。尙右能力を合計六〇〇萬ガロンに増大の計畫があり、無水アルコールは全豫州でも一五%程度混入の方法を執つてゐる。

尙ほ小麦を原料とする案もあるが、生産費が甚だ高いので實行案となる迄には未だ遠い。

以上を綜合して、當初の計畫は一九四一年初頭迄に、大約左の量を代用工業にて供給し得る豫定にしても実績は未詳であるが、各方面の意見を綜合すると一應大體に於て七割程度實現と見てよい様である。

頁	岩	油	計
百萬ガロン	一〇〇〇	無水アルコール	五〇〇
百萬ガロン	二〇〇		一七五

全需要を三億五千萬ガロンとし、右計畫數字にしても代用分は五%に過ぎず、聯邦液體燃料常設委員會は右を約八、〇〇〇萬ガロン、二〇%乃至二三%に引上げる計畫を立案して居るが、其の成果に付ては一般に相當の疑念を抱かれて居り、二、〇〇〇萬ガロン臺への進出が精々の進出量だらうとされてゐる。蓋し右八、〇〇〇萬ガロン計畫は第一にグレンデービス工場の能力を三倍化することが考へられてゐるが、財政上の關係もあり、資材の海外購入が容易でなく、右八一、〇〇〇萬ガロン計畫は更に前記無水アルコール六〇〇萬ガロン生産、ペンゾール千萬ガロン増産、頁岩油三、四〇〇萬ガロン増産等を計算しゐる。

其の後一九四一年中に於て軍需生産活動に依る製鐵業の擴充はペンゾール増産を伴ひ、右五百萬ガロン増産の實現を見たるのみならず、ガス事業より四〇〇萬ガロン(原料炭一萬噸、ペンゾールのコストはガロン當り約一志)を生産する事とし、合計八〇〇萬乃至九〇〇萬ガロンを

(3) 各州別砂糖及小麦原料よりの合計生産量

ニューサウスウェールズ州	四百萬
ヴィクトリア州	四百萬
クインズランド州	四百萬
南オーストラリア州	三百萬
西オーストラリア州	二百萬
タスマニア州	千七百萬
全 豫 州	

(4) 工場設置條件
農村の水利良き地方とし各州政府の決定による。

(5) 金融
聯邦政府にて行ふ

(6) 主要擔當事業會社
コロニアル砂糖會社(クインズランド州)、オーストラリア・ナショナル無水會社

(7) 立法

各州政府に於て石油供給業者に對し一定量の無水アルコール混用を強

第三節 諸 統 計

部門別工場數表 (一九三七—三八年)

部門別	ニューサウスウェールズ	ヴィクトリア	クインズランド	南オーストラリア	西オーストラリア	タスマニア	全豫州
非金屬鐵石・石材處理工業	一八六	一八八	五	四六	六二	一五	五四八
煉瓦・陶器・硝子工業	一一五	一一〇	八一	四三	三六	一四	四三六
化學藥品・染料・爆薬・塗料・油脂工業	一三三	一三三	一〇	四九	二六	二二	六五五
工業金屬・機械及用具・輸送具工業	二四四	二四四	一〇	五〇	一五	一八	七〇一
貴金屬・寶石・鐵金工業	八六	一三六	三三	一〇	九	六	二九〇
織物・織物製品工業	一三三	一三三	三三	三三	一三	九	五七七
豫州工業							一九三六
							一三七
							五二七
							四三六
							六五五
							七〇一
							二九〇
							五七七

引上の可能性を示すに至つた。又グレンデービス頁岩油工場の生産品は一九四一年度下半期から市販となつてゐる。

第二に無水アルコールは一九四〇年度に約二〇〇萬ガロンの實産があり、一九四一年度にはクインズランド州(Quinn)、ニューサウスウェールズ州(Pyramont)、ヴィクトリア州(Yaraville)の三州にて約四百萬ガロンの豫定であつた。

茲に、一九四一年末に於る三者の生産高を示すと次の如くである。

頁	岩	油	計
百萬ガロン	一〇〇	無水アルコール	二〇
百萬ガロン	九		四

メルボルンに於て軍需大臣の主宰により液體燃料に關し、聯邦及各州政府代表會議が開催されたが、其の席上に聯邦政府の増産五箇年計畫は左の如きものであつた。

(1) 現存糖蜜原料無水アルコール工場の能力増大
現在能力 年 二百萬ガロン 目標能力 年 七百萬ガロン
工場名 ヤラビル、サラナ、ピアモント、増産所要原料量

(2) 小麦原料による新工場設立
原糖 四萬四千噸
原糖 四萬四千噸

目標能力	年	一千萬ガロン
各州割當量		
ニューサウスウェールズ州	二百萬	
ヴィクトリア州	二百萬	
クインズランド州	三百萬	
南オーストラリア州	三百萬	
西オーストラリア州	二百萬	
タスマニア州	二百萬	

備する立法を行ひ、五箇年計畫の途中にて平和となりたる場合は事業の保護に資すること。

追て原糖は價格高く(噸當り工場渡し九磅一五志見當の由)、從て生産費は増嵩し、サラナ工場は目下全能力を運轉し得ないのである。

尙ほ代用燃料販賣業者の營業許可制度檢討中であるが、右三者の外木炭自動車(専用又は石油併用)による石油専用自動車の代替は、各州共に之を奨励の結果比較的好結果で進行してゐる。業者の觀測によれば豫州

一年の木炭自動車用の木炭所要量は結局五〇萬噸に上るのであるが、聯邦政府では此の需要急増に對應する爲取敢えず各州の木炭生産を統轄する聯邦木炭生産統轄官を設けた。

因に石油一ガロンは木炭一二封度半(原木換算約二〇封度)に該當する。從て木炭一噸は一八〇ガロン見當、右五〇萬噸は九〇〇萬ガロン見當の代替となる。

濠洲工業

皮革工業	216	216	51	27	28	8	537
衣服工業	1605	1860	298	281	236	54	4359
食料・飲料・煙草工業	1553	1438	775	533	429	54	4843
木細工・籠類製造工業	832	705	590	153	220	281	2777
家具・寝具工業	346	394	142	84	95	53	1093
製紙・文房具・印刷・製本工業	95	107	35	28	25	3	301
楽器工業	158	14	3	3	3	1	398
其他	671	670	178	121	131	38	390
計	8947	9221	2995	1995	1933	288	3902
熱・動力工業	150	110	68	45	103	7	493
一九三七—三八計	9097	9341	3063	1980	1940	295	4001
一九三六—三七年計	8726	9145	2823	1926	1831	266	3968

工場原動機馬力數表

州名	工場數		原動機馬力	
	動力	其他	通常	豫備遊休馬力
ニューサウスウエールズ	8605	385	64533	76560
クイーンズランド	2854	187	19635	12124
南オーストラリア	1797	119	11945	7495
西オーストラリア	1793	119	11945	7495
タスマニア	886	57	4933	2237
全濠洲	24455	1574	132451	124667

部門別工場使用原料價額表 (一九三七—三八年)

部門別	一九三七—三八年	
	一九三七—三八年計	一九三六—三七年計
非金屬礦石・石材處理工業	21101	14599
煉瓦・陶器・硝子工業	2975	1421
化學藥品・染料・燐酸・塗料・油脂工業	5977	4282
工業金屬・機械・器具・輸送具工業	29107	16082
貴金屬・寶石・鍍金工業	290	25
其他	1199	740
計	79897	49328

使用原料價額

部門別	南オーストラリア	西オーストラリア	タスマニア	全濠洲
非金屬礦石・石材處理工業	1100	219	310	1629
煉瓦・陶器・硝子工業	254	41	23	318
化學藥品・染料・燐酸・塗料・油脂工業	3100	459	483	4042
工業金屬・機械・器具・輸送具工業	4575	5946	2113	12634
貴金屬・寶石・鍍金工業	1	5	1	7
其他	111	9	9	219
計	10141	7829	2136	20106

單位：千磅 (但し千位以下四捨五入)

工業別	一九三七—三八年計		一九三六—三七年計	
	一九三七—三八年計	一九三六—三七年計	一九三七—三八年計	一九三六—三七年計
織物・織物製品工業	21101	14599	21101	14599
皮革工業	1115	1115	1115	1115
衣服工業	5890	5890	5890	5890
食料・飲料・煙草工業	1553	1438	1553	1438
木細工・籠類製造工業	3104	2666	3104	2666
家具・寝具製造工業	346	394	346	394
製紙・文房具・印刷・製本工業	637	705	637	705
楽器工業	158	14	158	14
其他	94	94	94	94
計	79897	49328	79897	49328

單位：千磅 (但し千位以下四捨五入)

工業別	一九三六—三七年計		一九三七—三八年計	
	一九三六—三七年計	一九三七—三八年計	一九三六—三七年計	一九三七—三八年計
非金屬礦石・石材處理工業	4299	21101	4299	21101
煉瓦・陶器・硝子工業	1385	1115	1385	1115
化學藥品・染料・燐酸・塗料・油脂工業	2881	5977	2881	5977
工業金屬・機械・器具・輸送具工業	7680	29107	7680	29107
貴金屬・寶石・鍍金工業	42	290	42	290
織物・織物製品工業	901	21101	901	21101
皮革工業	478	1115	478	1115
衣服工業	4789	5890	4789	5890
食料・飲料・煙草工業	1247	1553	1247	1553
木細工・籠類製造工業	814	3104	814	3104
家具・寝具製造工業	478	346	478	346
製紙・文房具・印刷・製本工業	1143	637	1143	637
其他	377	94	377	94
計	24455	79897	24455	79897

濠洲工業

濠洲工業

樂器工業	135	38	13	8	198	433	441
其他	2370	1591	104	80	71	4383	7798
計	2607	1750	214	160	182	5150	8578
熱・燈・動力工業	7581	3920	1224	344	73	12542	20070
一九三六—三七年計	21484	15705	5963	3674	1964	52870	9070
一九三六—三七年計	19361	14165	5303	3518	1835	47273	8591

工賃及製産原價表 (一九三七—三八年)

年次	從業員一人當り工賃				人口一人當り工賃			
	ニュージーランド	クイーンズランド	南オーストラリア	西オーストラリア	ニュージーランド	クイーンズランド	南オーストラリア	西オーストラリア
一九三六—三七年	378	356	301	350	284	270	174	207
一九三七—三八年	378	356	301	350	284	270	174	207
一九三六—三九年	378	356	301	350	284	270	174	207

二、總製産額及原價

州名	價額及原價其他				費用の全價額に對する比率			
	①使用原料代	②動力・燃料	③給料・賃金	④利子・利潤	①使用原料代	②動力・燃料	③給料・賃金	④利子・利潤
ニュージーランド	23591	7239	4330	4958	33.2	10.1	28.4	28.3
クイーンズランド	8812	4031	3496	3988	25.1	11.7	23.1	39.9
南オーストラリア	39595	10307	10170	8432	33.2	11.7	23.1	39.9
西オーストラリア	21469	9498	8043	5776	33.2	11.7	23.1	39.9
全濠洲	107715	31072	30682	27154	33.2	11.7	23.1	39.9

各種工場別内容・生産高表 (一九三七—三八年)

項目	一、製粉工場				二、ビール醸造			
	ニュージーランド	クイーンズランド	南オーストラリア	西オーストラリア	ニュージーランド	クイーンズランド	南オーストラリア	西オーストラリア
工場員數	1105	1101	10	38	97	1410	233	4
土地・建物價額	839,268	543,881	3,015,500	1,644,544	4,115,599	1,180,707	2,247,212	1,267,893
設備・機械價額	669,999	493,838	1,621,666	2,281,868	8,412,496	2,440,991	3,733,992	2,646,641
給料代	29,757	26,777	84,354	91,677	1,183,371	1,183,371	1,183,371	1,183,371
燃料代	7,185	6,094	15,160	26,593	277,495	277,495	277,495	277,495
生產品價	5,575,000	4,877,797	11,311,933	13,559,361	1,337,748	1,337,748	1,337,748	1,337,748
生産費	6,396,629	5,009,049	13,037,848	15,223,336	1,762,943	1,762,943	1,762,943	1,762,943
一九三三—三四	4,957,799	3,555,666	8,412,496	11,151,599	1,180,707	1,180,707	1,180,707	1,180,707
一九三四—三五	5,591,175	4,372,262	8,412,496	11,151,599	1,180,707	1,180,707	1,180,707	1,180,707
一九三五—三六	5,323,281	4,372,262	8,412,496	11,151,599	1,180,707	1,180,707	1,180,707	1,180,707
一九三六—三七年	4,644,498	4,372,262	8,412,496	11,151,599	1,180,707	1,180,707	1,180,707	1,180,707
一九三七—三八年	4,768,881	4,372,262	8,412,496	11,151,599	1,180,707	1,180,707	1,180,707	1,180,707

濠洲工業

生産品總額 (同)

三、煙草葉卷及紙卷煙草製造

工場・建設・機械・設備・土地・業員 數額 (同)

葉煙草使用量及煙草生産高

項 目 葉煙草 使用量 輸入 產 品 產 品 產 品

工場・建設・機械・設備・土地・業員 數額 (同)

四、ベーコン處理工場

生産品總額 (同)

生 産 高

頭 數

ベーコン、ハム 其他の生産

五、バター・チーズ・煉乳工場

工場・建設・機械・設備・土地・業員 數額 (同)

1 牛乳使用量

煉乳

生産品總額 (同)

(但し×印は不明)

單位目千封度

一九三三—三四 一九三四—三五 一九三五—三六 一九三六—三七 一九三七—三八 一九三八—三九

ニューサウス ウェールズ ヴィクトリア ラインズ 南オーストラリア 西オーストラリア タスマニア 全濠洲

生産品總額 (同)

單位目千封度

單位目磅

1 燻製豚頭數 2 數 量 3 價 額

工場・建設・機械・設備・土地・業員 數額 (同)

單位目千ガロン

煉乳

2 數量

1136

單位千封度

粉煉チバ

粉煉チバ

乳乳ズ1

乳乳ズ1

3 價額

價額

單位千磅

磅

六、獸肉・魚肉貯藏工場

工場 從業員數 113

土地・建物價額 (磅) 113

設備・機械價額 (磅) 113

給料代 (同) 113

燃料代 (同) 113

生産品總價費 (同) 113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

七、パン製造(菓子・饅頭を含む)工場

工場 從業員數 113

土地・建物價額 (磅) 113

設備・機械價額 (磅) 113

給料代 (同) 113

燃料代 (同) 113

生産品總價費 (同) 113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

八、ジャム・果實漬・漬物等工場

工場 從業員數 113

土地・建物價額 (磅) 113

設備・機械價額 (磅) 113

給料代 (同) 113

燃料代 (同) 113

生産品總價費 (同) 113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

113

ジャム及ジェリー (封度) 自家消費 (同) 113

果肉 自家消費 (同) 113

トマト果肉 自家消費 (同) 113

果物漬 (封度) 自家消費 (同) 113

果物漬 (同) 113

ソース (同) 113

2 數量

價額

單位千磅

磅

ジャム及ジェリー 113

果物漬 113

ソース 113

九、糖菓工場

工場 數

濠洲...工業

113

113

113

113

113

113

113

Table with columns for '項目' (Item), '工場員數' (Factory Staff Count), and '金額' (Amount). Rows include '土地・建物' (Land/Buildings), '設備・機械' (Equipment/Machinery), '燃料' (Fuel), '材料' (Materials), '生産品' (Production Goods).

一〇、製糖工場

Table for '製糖工場' (Sugarcane Refining Plant) with columns for '項目' (Item), '工場員數' (Factory Staff Count), and '金額' (Amount). Rows include '土地・建物' (Land/Buildings), '設備・機械' (Equipment/Machinery), '燃料' (Fuel), '材料' (Materials), '生産品' (Production Goods).

Table with columns for '項目' (Item), '工場員數' (Factory Staff Count), and '金額' (Amount). Rows include '甘蔗壓搾' (Cane Pressing), '製糖生産' (Sugarcane Production), '糖蜜生産' (Molasses Production).

Table with columns for '項目' (Item), '工場員數' (Factory Staff Count), and '金額' (Amount). Rows include '甘蔗壓搾' (Cane Pressing), '製糖生産' (Sugarcane Production), '糖蜜生産' (Molasses Production), '其他販賣消費' (Other Sales/Consumption).

第十三章 貿易

第一節 總說

總說—對佛國貿易—對獨貿易—對東印度貿易—對日貿易—對支貿易—對比島貿易—對米貿易—對主要國貿易

濠洲は原料生産國で、その豊富な天然資源の利用によつて産出される夥しい原料は、國內の工業が不振のため殆どその大部分を輸出してゐたが、一九二九年以後、世界經濟恐慌の對處策として輸入制限と國內資源利用が積極化され、最近は國內製造工業の發達と相俟て、輸入が未だ一九二九年の水準に回復しおらざるにも拘らず、輸出は當時を凌駕してゐる。又この輸出躍進には世界的準戰狀態が同國の主要金屬類を必要とするに至つた事情をも考慮に入れねばならぬ。

一八二六年以降最近迄の輸出入額を擧げると次の通りである。

對外國貿易總額表 (金を含む)

Table for '對外國貿易總額表' (Total Foreign Trade Table) with columns for '時期' (Period), '輸入' (Import), '輸出' (Export), and '輸入に對する輸出の比率(%)' (Export Ratio to Imports (%)).

Table with 3 columns: Year, Value, and Unit. Rows include 1936-1937, 1937-1938, 1938-1939, and 1939-1940.

(註) (1) 一八二六年より一九二五年に於ける年度間の数字は毎五年期の年平均を示す。又一九一四—一五年度以降詳細は財政年度による。(2) 一九〇六年以前は船舶用品は一船輸出に含まる。(3) 記録額にして輸入は英貨、輸出は港貨にて示す。(4) (5) 英貨換算額のみ。

輸出品の内容を見ると農・牧を主としてゐる關係上、輸出額の大部分を占めるものは羊毛・小麥・バター・羊肉及牛肉等である。最近三箇年間の輸出額に付て其の主要なるものを摘記すれば、即ち次の通りである。

主要品別輸出額表

Table of major export items: Wool, Wheat, Butter, Mutton, Beef, etc. with values and units.

相手國別貿易に付て見るのに、輸出に於ては、第一位は英國であり、濠洲の輸出額の約六割を占めてゐる。濠洲の羊毛・小麥の最も大なる買手は英國であり、バター・チーズ・卵・肉類・乾果實等の殆ど大部分は英國に輸出せられるので、濠洲はその點で全く英國の兵站部である。次でフランス・アメリカ・新西蘭・日本等の順序であるが、一九三七—三八年に於ては對米及對日輸出が前年度に比して激減してゐるのが目立つてゐる。過去二箇年間に於る國別輸出額を擧げると次の通りである。

國別輸出額表

Table of exports by country: UK, France, USA, New Zealand, Japan, etc.

次に輸入に就て見るに、之亦英國が第一位で輸入總額の四割一分五厘を占めて居り、織物機械及金屬製品等は夫々半額以上を英國より輸入して居る。次で米國・カナダ・東印度・日本等の順序であるが、一九三七—三八年に於て米國よりの輸入が前年に比して著しく増加して居るのは同年に於る對米輸出の激減してゐる事實と對比して注目し得る。過去二箇年間に於る國別輸入額を擧げると左の通り。

國別輸入額表

Table of imports by country: UK, USA, Canada, India, Japan, etc.

種類別機械輸入額表

Table of mechanical imports by category: Electrical machinery, Agricultural machinery, etc.

濠洲...貿易

Table of mechanical imports: Engines, pumps, etc.

機械類輸入額表

Table of machinery imports: Metal products, etc.

全輸入額表

Table of total imports: Total value and units.

對東亞共榮圈諸國輸出入額表

原産地	一九三四一三五	一九三五一三六	一九三六一三七	一九三七一三八	一九三八一三九	一九三九一四〇
支那	三六四、一七三	六五七、一七六	六八七、七四三	六〇一、八七〇	四六一、五五九	四六一、五五九
香港	一三、六七三	二六、七一三	四〇、一四三	三七、〇三三	三五、五七七	三五、五七七
印度・ビルマ・セイロン	三三三、六八四	三六九、八六九	三九八、六六六	三九八、八六九	三七三、六八八	三七三、六八八
日ラ	四、六四七、四〇〇	四、九六九、五七一	四、〇〇四、四六五	五、三三九、〇八七	四、〇九三、一九一	四、〇九三、一九一
滿洲	五、六、八四五	四、八、三五四	八、五、二八二	一〇、二、八八九	九、〇、二四一	九、〇、二四一
東印度	三、九〇六	八、一五六	二〇、八五三	一六、一〇六	一四、八八七	一四、八八七
比律賓	四、三三〇、三三七	四、九二八、〇三五	六、一七六、三九五	七、五三〇、五〇九	七、一九七、八七五	七、一九七、八七五
其他の東方諸國	七、九八八	九、二六九	一、〇、一三三	一、三、四六六	一、〇、七七四	一、〇、七七四
計	一、八七九	六、四〇三	二、六〇九	六、八七〇	三、〇、一〇	三、〇、一〇
支那	七、四四三	八、三九三	四、三、〇三九	一、四、七〇七	一、九、〇一九	一、九、〇一九
香港	一、三、四六〇	一、四、九三七	一、五、九一〇	一、八、一九四	一、六、七七一	一、六、七七一
印度・ビルマ・セイロン	三、四七三、三三三	三、八、九一〇	三、九、九一〇	三、九、九一〇	三、九、九一〇	三、九、九一〇
日ラ	一、二、二八二	一、二、二八二	一、二、二八二	一、二、二八二	一、二、二八二	一、二、二八二
滿洲	六、二、四六三	六、二、四六三	六、二、四六三	六、二、四六三	六、二、四六三	六、二、四六三
東印度	一、一〇、一〇六	一、一〇、一〇六	一、一〇、一〇六	一、一〇、一〇六	一、一〇、一〇六	一、一〇、一〇六
比律賓	一、七、六六一	一、七、六六一	一、七、六六一	一、七、六六一	一、七、六六一	一、七、六六一
其他の東方諸國	五、〇、三六一	五、〇、三六一	五、〇、三六一	五、〇、三六一	五、〇、三六一	五、〇、三六一
計	二、四、八、八三三	二、四、八、八三三	二、四、八、八三三	二、四、八、八三三	二、四、八、八三三	二、四、八、八三三

種類別商品輸出入額表

種類別	一九三四一三五	一九三五一三六	一九三六一三七	一九三七一三八	一九三八一三九	一九三九一四〇
動物性食料品	一、四、七、四四五	一、四、二、九六六	一、五、〇、九八一	一、五、六、七六五	一、五、九、八七二	一、五、九、八七二
植物性食料品	三、二、六、四〇〇	三、三、五、三六六	三、八、〇、一四四	三、七、六、六九一	三、九、五、七七〇	三、九、五、七七〇
アルコール性飲料	六、四、七、七〇〇	六、九、九、〇〇〇	六、三、一、三三三	七、七、七、三三〇	七、一、九、九六七	七、一、九、九六七
生動物	一、三、四、七、七六六	一、三、四、七、七六六	一、三、四、七、七六六	一、三、四、七、七六六	一、三、四、七、七六六	一、三、四、七、七六六
植物性	一、〇、六、九、八九三	一、〇、六、九、八九三	一、〇、六、九、八九三	一、〇、六、九、八九三	一、〇、六、九、八九三	一、〇、六、九、八九三
服飾	一、九、六、一、八〇七	一、九、六、一、八〇七	一、九、六、一、八〇七	一、九、六、一、八〇七	一、九、六、一、八〇七	一、九、六、一、八〇七
油脂	一、七、七、三、五八四	一、七、七、三、五八四	一、七、七、三、五八四	一、七、七、三、五八四	一、七、七、三、五八四	一、七、七、三、五八四
塗料	五、三、三、四七三	五、三、三、四七三	五、三、三、四七三	五、三、三、四七三	五、三、三、四七三	五、三、三、四七三
石材	四、四、四、四四四	四、四、四、四四四	四、四、四、四四四	四、四、四、四四四	四、四、四、四四四	四、四、四、四四四
金属材料	五、〇、七、七五五	五、〇、七、七五五	五、〇、七、七五五	五、〇、七、七五五	五、〇、七、七五五	五、〇、七、七五五
金製品	一、九、九、九九九	一、九、九、九九九	一、九、九、九九九	一、九、九、九九九	一、九、九、九九九	一、九、九、九九九
木製品	一、八、八、八八八	一、八、八、八八八	一、八、八、八八八	一、八、八、八八八	一、八、八、八八八	一、八、八、八八八
陶器	一、七、七、七七七	一、七、七、七七七	一、七、七、七七七	一、七、七、七七七	一、七、七、七七七	一、七、七、七七七
用紙	一、六、六、六六六	一、六、六、六六六	一、六、六、六六六	一、六、六、六六六	一、六、六、六六六	一、六、六、六六六
寶飾	一、五、五、五五五	一、五、五、五五五	一、五、五、五五五	一、五、五、五五五	一、五、五、五五五	一、五、五、五五五
光學	一、四、四、四四四	一、四、四、四四四	一、四、四、四四四	一、四、四、四四四	一、四、四、四四四	一、四、四、四四四
藥品	一、三、三、三三三	一、三、三、三三三	一、三、三、三三三	一、三、三、三三三	一、三、三、三三三	一、三、三、三三三
雜品	一、二、二、二二二	一、二、二、二二二	一、二、二、二二二	一、二、二、二二二	一、二、二、二二二	一、二、二、二二二
金銀	一、一、一、一一一	一、一、一、一一一	一、一、一、一一一	一、一、一、一一一	一、一、一、一一一	一、一、一、一一一
計	七、四、一、九四九	七、四、一、九四九	七、四、一、九四九	七、四、一、九四九	七、四、一、九四九	七、四、一、九四九
輸出	二、〇、七、一、五三八	二、〇、七、一、五三八	二、〇、七、一、五三八	二、〇、七、一、五三八	二、〇、七、一、五三八	二、〇、七、一、五三八
輸入	五、三、四、八一一	五、三、四、八一一	五、三、四、八一一	五、三、四、八一一	五、三、四、八一一	五、三、四、八一一
再輸出	一、五、六、七、五〇五	一、五、六、七、五〇五	一、五、六、七、五〇五	一、五、六、七、五〇五	一、五、六、七、五〇五	一、五、六、七、五〇五

煙草	117,075	156,600	193,911	106,528	153,084
生動物	1,815,640	1,790,155	1,373,533	1,970,811	1,861,118
植物性	4,333,666	5,850,575	5,374,714	4,719,219	6,261,131
動物性	3,011,811	2,601,433	3,676,077	2,988,644	3,833,111
織物	3,617,522	3,750,888	5,443,733	4,060,009	5,183,611
服飾	1,011,958	772,791	970,379	1,046,611	1,193,533
油脂	98,198	119,881	155,865	170,033	168,818
塗料	1,391,904	1,807,966	1,446,330	2,670,077	2,668,665
石材	475,582	681,170	894,355	950,801	1,100,810
金屬品	571,244	741,196	1,044,355	844,455	1,100,810
同製品	83,746	96,322	1,007,811	1,044,355	1,100,810
機械	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
木器	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
陶器	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
用紙	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
文房	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
實業	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
光學	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
外科	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
科學器具	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
藥品	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
化學製	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
藥品	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
金銀	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
青銅	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
貨品	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033	1,753,033
總計	1,044,355	1,100,810	1,156,265	1,212,720	1,269,175

第二節 對佛貿易

フランスとの通商協定は一九三六年に締結された。而して一九三六年一三七年の濠洲の對フランス輸出額が増加したのもこの協定の結果である。この協定によつて濠洲はフランスに對し最惠國待遇を支へ九六品目に對し中間税率を適用し、七二品目の最初通關稅を減じ、フランスは羊毛・皮革・小麥・大麥・林檎・肉・金屬等二〇品目に最低關稅率を與へ、價一割五分の附加稅を廢止し從來濠洲品に對し二分、四分、六分の三種の稅を一率に二分とした。フランスは他のヨーロッパ諸國に比し割に自給自足が出来、且つ廣大な植民地を有し農作物は近似し、從て將來

第三節 對獨貿易

對佛貿易の發展性は乏しい。フランスは濠洲から大麥と生果實とを大量に輸入し意匠織物及香水絹織物を輸出しバランスは濠洲の大出超となつてゐる。

第一次大戰前には濠洲と獨逸との貿易は相當額に達し獨逸といふ強敵手の出頭によつて英國の對濠貿易は大打撃を受けるのではないかと杞憂があつた。第一次大戰は獨逸濠洲貿易を破壊した。而して兩國の貿易が恢復せんとした矢先に恐慌が襲つて來た。一時濠洲品に對し輸入禁止を爲し南アフリカ、アルゼンチン、ウルガイ等の諸國と清算協定を結んだ。

之が濠洲羊毛の對獨輸出は激減を見た。一九三六年七月から一九三七年六月までの一箇年について見るに、獨逸からの輸入額は三六〇萬磅であつた。その主要輸入品目は通常手袋・その他衣類・織物及機械類である。輸出品は主として羊毛であるが、生果實・其の他各種の品目も輸出される。獨逸外務省は一九三七年一月ベルギー・濠洲間に取極められた通商協定と同じものを歡迎する旨發表した。而して獨逸は工作機械・化學製品等に對し濠洲の讓歩を求め、同時に其の賣上を以て濠洲の羊毛・皮革・バター等を買上げる豫定であつた。

第四節 對東印度貿易

對東印度・マライ・泰國・チモール貿易額表

東印度	1,274,155	6,276,355	1,395,822	7,502,509	1,444,355	7,197,919
マラヤ	4,811,550	1,233,556	8,511,211	1,777,926	1,000,000	9,014,919
泰國	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
チモール	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
計	8,585,705	10,010,911	12,407,033	11,704,435	13,944,355	18,712,838

年次	一九〇九—一三	一九一〇—一三	一九一〇—一三	一九一〇—一三	一九一〇—一三	一九一〇—一三
東印度への輸入	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
東印度への輸出	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
濠洲貿易額に對する比率	100	100	100	100	100	100

對東印度貿易額表

第五節 對日本貿易

英國の對濠洲貿易はやがて日本におしつけられるとの杞憂を抱くものが十九世紀末より以前にも少くなかつた。併し實際は第一次大戦後になつても濠洲と日本との貿易は極めて緩いテンポで發展した。

日濠兩國は氣候の點でも面積や資源の點でも自然に相補足し合ふ關係にある。日本は本土自體としては工業技術に熟達した大人口を有するがその自然資源は比較的貧弱である。日本本土は食料と原料を必要とする、之に反し濠洲は人口に比し廣大にして豊饒なる土地を有する。従て兩國が有無相通を生ずべき基礎は廣大である。

第一次大戦が終熄した時、對日貿易は濠洲總貿易額の約〇・五%であり、一九二九年までこの水準を保つた。一九三〇年に減少を見た後に新たな發展が始まつた。而して現在は對日貿易額は濠洲總貿易額の九乃至一〇%を往來してゐる。第一次大戦以前には濠洲の日本からの輸入品は

濠洲貿易に於る日本の地位

Table with columns: 年次 (Year), 輸入總額 (Total Imports), 對日輸入額 (Imports from Japan), 比率 (Ratio). Data for years 1919-1938.

傳統的な東方物産であつて、衣類及織物・家具・油及蠟燭等が主なる品目であつた。一九一八年には以上の品目のあるもの、特にカンバス・綿・麻及絹製の織物が非常に増加したが、其他の品目は殆ど姿を消した。硝子器・電線・電氣用具・マッチ・紙文房具等が重要な輸入品であつた。

對日本輸出入貿易表

Table with columns: 品別 (Category), 輸入 (Imports), 輸出 (Exports), 單位 (Unit). Categories include 品類 (Goods), 生絲 (Silk), 茶 (Tea), etc.

濠洲貿易中に占める日本貿易の地位は頗る低位にある。而も昭和十一年には一年以上に亘る通商戦を生み、爾後進展を見ることなく英帝國プロツクの紐帯は、愈々後退の線に迫られるの餘儀無きに至つてゐると

き、第二次世界大戦及大東亞戦争となつて全面的の停止となつた。又日濠經濟關係は單純なる貿易關係に過ぎない。即ち日本は濠洲に投資・利権の點に關しては何等見るべきものはない。

濠洲では一般に土地及鐵業の所有權の享有は法律上白人種に限られ、移民法は有色人種移民排斥の根本原則を樹て「白濠主義の目的に従てアジア人種又は有色人種の永久的移住を目的とする移民は禁止してゐる。但し印度・支那・日本との協定に基き夫等の國の誠實な商人・研究者・旅行者は入國し得、彼等の身分の存續する限り滞在し得る」と定めてゐる。

日本と濠洲との貿易關係は羊毛・小麥・纖維製品及雜品とを主要なるものとする單純な交換關係に過ぎないのである。英・濠其他の關係に比して經濟的諸關係の厚みを異にしてゐる。之を現象的に見ると、イ 羊毛・小麥・纖維製品及雜品との商品的交換關係であること

ロ 日本の對濠輸出力の滯滞性と、對濠輸入力の増進可能性 日本經濟と日濠貿易との關係を考察すると、イ 日本産業の内、消費財生産部門として、羊毛工業・製粉工業等の爲の原料供給地であること

ロ 纖維製品を主とする輸出市場としての濠洲の地位は日本にとりて極めて低位であること 又濠洲側から、濠洲經濟と日濠貿易との關係を考察すると、イ 消費財供給地としての日本の地位は低位であり、濠洲製造工業とは競争關係に立たないが、英濠關係に基き一般的競争關係の存在すること

ロ 羊毛・小麥の輸出市場としての日本の地位は比較的高く、殊に羊毛に於ては高位であること

對濠洲輸入貿易に付、少しく立入つて検討を試みる。
 對濠洲輸入貿易を一九二五—二九年平均數値によつて觀察すれば、對濠洲の八品目は、原料品一〇、五〇〇萬圓及食料品二、一〇〇萬圓で、孰れも粗生食料品であり、粗生原料品である。僅に牛脂が製造原料品であるが、その額は總額に比して低量である。更に朝鮮・臺灣・關東州に於ても、主として小麦・小麦粉の如き食料品・農産品である。
 更に輸入總額に對して、食料品は一六・二五%、原料品は七九・四二%、即ち輸入の八〇%は原料品である。小麦は食料品として類別されては居るが、日本内地の小麥消費は食料的消費ではなく、小麦粉製造の原料となるのである。商品別に見ると羊毛は七〇・七四%で極めて高位を占め、之に次で小麦・亜鉛・牛脂・鉛の順となつてゐるが、夫等は極めて低位であるから、對濠洲輸入商品は全く羊毛・小麦によつて占められてゐるとしても宜いのである。換言すれば、小麦と羊毛とで八六・六一%を占め、之に皮革・牛脂の三・八四%を加へ、九〇・四五%は濠洲の農・牧業生産品である。殘餘は鉛・亜鉛の鑛業生産品であつて、即ち全部が土地生産物である。

次に濠洲の輸出市場としての日本を見ると、總額に於ては佛國に次で第三位を占めてゐるものの、全輸出から見ると八%弱に過ぎない。
 更に濠洲の輸出市場を全般的に見ると、(イ)比較的市場を分散して居る商品群(羊毛・小麦・小麦粉・亜鉛・皮革・牛脂)、(ロ)市場を集中して居る商品群(バター・酒・乾果・砂糖)とに分けられ、(ハ)の商品群は輸出額も高く生産額も高いのに、(ニ)の商品群は輸出額も低位で生産額も僅かである。然しこの(ロ)商品群は保護産業であり、新しい「繁榮」たることを期せられてゐるものの、その市場は現在のところは英國に限られてゐる。
 斯くて、濠洲は原料品たる羊毛の七〇%、小麦の六五%を、小麦粉は六〇%を、英國以外の第三國に仕向けなければならぬのである。
 濠毛の主要輸入國たる英・佛・獨・日・伊・米のうち、英國は最大需要國で

あるが再輸出も多いのであり、且つ新西蘭・アルゼンチン・印度等の英ブロック或は所謂スターリング・ブロックと競争關係に立ち、佛國・獨逸・伊國等も濠毛を多く購入してゐたのであるが、此處でも夫々南アフリカ・アルゼンチン等と競争關係に立つて居り、米國は自國內産羊毛と、アルゼンチン羊毛とを以て殆ど賄つてゐる。之に反して日本のみが殆ど必要需要量の全部を濠洲に仰いでゐたのである。
 次に小麦の消費國は英・佛等であり、日本は第四位にあるが、八%強の市場であり且つカナダ・米國との競争關係に立つてゐた。小麦粉について、この日本の地位は更に低位であつた。之は濠洲小麦が割高であつたのもよるのである。
 其他、日本市場で、鉛は三・二〇%、牛肉は三・三六%、牛脂は三・〇四%、亜鉛は四〇・七四%を占めてゐたが、是等に對する輸出市場としての日本の地位は舉ぐべき程のものではなかつた。
 即ち市場として、この日本の地位を概括すると羊毛に關しては、次の様に云へる。濠洲牧業産業は濠洲經濟にとつては巨大産業ではあるが、土地・氣候其他の條件に規制されて、より以上の發展を期し得ない産業となつてゐた。併し輸出市場としては平均して一三・四%を保持し、而も獨占的に供給してゐたのであるから相當に重要な市場であつた。
 日本の濠洲産原料に依存した割合は羊毛・牛脂の如き畜産品は殆ど九〇%を輸入し、亜鉛は五〇%を輸入してゐた。
 對濠洲輸入貿易を觀察すると、總額の九一・二四%は二五品目の商品で占められてゐた。その類別は原料品五百萬圓、食料品五萬圓及全製品三、八〇〇萬圓であつた。原料品の中、製造原料品は三〇〇萬圓の内六〇%を占めてゐた。全製品といふのは織維品と雜品とが大部分であつた。又總額から見ると食料品は一・一九%、原料品は一〇・九一%を、全製品は八〇・〇四%を占め、全製品が絶對的に優位であつた。絹織物の六〇・〇七%が第一で、絹織物の一〇・六六%、陶磁器二・二一%、絲類四・一六%、木材四・二二%となつてゐた。

濠洲に於る日本商品の直接の競争關係に就ては濠洲製造工業と對濠洲出諸國との二方面から觀察せねばならない。
 日本商品と濠洲工業製品とを比較して見ると、對濠洲輸出の價額で減少しつゝあつたものはブラツシユ、カンバス・ズツクの類のみで、他はいづれも少額乍ら増加の傾向にあつた。之に對し濠洲生産品は、帽子・カンバス・ズツクを除いては増加の傾向がある。故に競争關係は未だ見られないとしても、その萌芽はある譯である。
 然し、是等は何れも額も低く商品としての重要性もなく、織維製品其他に關しては濠洲製造工業との競争關係はない。
 元來、濠洲輸入商品は多岐に亘り、總額に於ては英國の地位が最も高く、更に英ブロックと米國の二國(對濠洲投資國)を加算すれば七七%を占め、他の殘餘の部分に他の諸國が小さく入り込んでゐた。
 之を個別商品別に見れば、英國商品に優位した日本の對濠洲輸出商品は魚油・木材・生絲・絹織物・寒天・植物油・罐詰・剛毛等で、何れも英國には製造されざる商品であつた。

濠洲に於る日本商品の地位は總額に於て低位であり、濠洲製造工業とは現在のところは低價しては居ないが、對英競争によつて濠洲的傾向に進みつゝあつた。重要輸出商品たる絹織物に關しては、この商品の特質上、絶對優位を持してゐるのであるが、絹織物に關しては全く英國に及ばない。
 換言すれば、濠洲に輸入された日本の製造品の主要部分は英國工業品と對立してゐた。即ち日本の對濠洲輸出は代替性の多い商品を主とし、濠洲の國民經濟の特質より見て、英國商品を以て代替される必然的の傾向があつた。
 日本の販賣市場としての濠洲に於て、最大の障礙となるものは輸入關稅である。現在迄のところでは、顯著な影響を與へる程の高率關稅は行はれてゐない。
 更に、是等商品の日本の輸出總額中に占める割合を以て、輸出市場と

しての濠洲の地位を推定すれば、木材・絹織物—對英競争關係のない商品—を除いては何れも低位である。故に絹織物が、米國に次での重要市場であること以外には他は問題とするに足らない。たと輸入市場として、多少の價値ある即ち三%以上の商品を擧げて見ると、植物油・罐詰食料品・鉛・陶磁器・硝子及同製品・ブラツシユ・玩具・木材・綿タオルであり、其の内、木材・綿タオルを除いた商品は中小工業生産品であるので、この點で重要視されるべきものである。
 大工業生産品たる絹織物は僅に一二・九%であり、絲類は二・三七%、メリヤス製品は〇・九一%、紙類は〇・三七%、機械類は〇・五八%であつた。唯絹織物は我國の特産物であり、木材は、バター及チーズの製箱用として多く輸出されてゐたのに過ぎない。

第六節 對支貿易

濠洲と支那との貿易は兩國の何れにとつても未だ比較的重要でない。兩國の總貿易額は次の如くである。

年 度	對 支 那 貿 易 表	
	輸 出	輸 入
一九三一—三二	千圓 四九四六	千圓 三九五
一九三三—三四	千圓 九一五	千圓 三五四
一九三四—三五	千圓 二四七二	千圓 四三三
一九三五—三六	千圓 八〇一	千圓 一〇八

貿易總額に對する比率

年 度	濠 洲		支 那	
	輸出	輸入	輸出	輸入
一九三一—三二	五・一%	〇・七%	〇・一%	四・二%
一九三三—三四	〇・八%	〇・五%	〇・三%	二・一%
一九三四—三五	二・四%	〇・五%	〇・四%	四・三%
一九三五—三六	一・〇%	〇・八%	〇・九%	一・七%

濠洲の對支貿易は殆ど少數の重要品目に限られ、其の中小麥及小麦粉は價額に於て他の凡ての財貨を凌駕してゐる。支那に於る小麦の産額が増加して以來、對支貿易のこの方面に於る發展の望みは稀薄となつた。

濠洲産の硬材の枕木が支那に輸出される。この枕木は耐久力に富み米國から來る軟材と十分に競争出来る。然し濠洲は無制限に硬材を供給することは出来ない。そして白檀の輸出も會ては比較的重要であつたが供給が不十分だといふ杞憂を有する。バター、ミルク及皮革も亦特記する價值がある。支那に生絲を生産する近代的工場が設立されて以來、將來濠毛を支那に輸出することが有望となつた。支那産の羊毛は纖維が粗く品質が劣つてゐる。従て羊毛貿易は小麦及小麦粉に於る減少を償ふであらう。支那から輸入する商品の内で重要なものは、亞麻仁其他の植物性子實である。

對支輸入貿易中の比較的重要なる品目を擧げると次の如くである。

對支那主要品輸入額表

單位：千英磅

年 度	植物性子實及纖維	木材・木實	食用及絲	衣服及茶	生薑	ツシ
一九三一—三二	八八六	三〇八	三三三	一七七	一六八	一〇六
一九三三—三四	一三〇	一八五	三三六	三六〇	一六四	二〇一
一九三四—三五	二一〇	四〇七	一〇四	八六〇	三三三	三六〇
一九三五—三六	二四九	五九六	三三八	一一三	三三〇	五〇九
一九三六—三七						

第七節 對比律實貿易

對比律實貿易表

單位：英磅

濠洲への輸入(英磅)	一九三六—三九	一九四〇—四二	一九四三—四五	一九四六—四八
濠洲からの輸出(英磅)	六二九、五〇四	四九八、八九三	三三三、〇〇三	五五三、〇〇一

濠比貿易は非常な輸出超過であるが、輸入の品目が少く輸入の殆ど全

部がマニラ麻と木材とである。比律實の主要産物たる砂糖は濠洲には輸入されてゐない。

對比律實主要品輸出額表

單位：千英磅

商 品	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四	一九三五
バ タ	一三	一三	一三	一三	一三	一三
燻製肉及ハム	六	五	五	五	五	五
冷 凍 肉	二	二	二	二	二	二
其 他 の 肉	九	九	九	九	九	九
煉 乳	七	七	七	七	七	七
小 麥	七	七	七	七	七	七
石 炭	三〇	六	五	五	五	五

第八節 對米貿易

濠洲と米國との通商關係は濠洲植民の初期に遡る。當時印度洋及太平洋の通商はこれらの海洋の制海權を握つてゐた英國の東印度會社によつて獨占されてゐた。濠洲の對米貿易は時に顯著な變動を見ることもあるが概して數量は多く、現在では米國は英國に次で濠洲に多く商品を買つてゐる。

兩國の資源は米國の方が遙に豊かで恵まれてはゐるが、似た所もある。兩國の貿易の自然的基礎をなすものは一つは季節が異つてゐることであり、一つは經濟發達の段階が異つてゐることである。濠米貿易史を特徴づける變動の主要原因は二國何れかの景氣變動と關稅政策によるのである。

對 米 國 貿 易 表 (但し地金正貨及マットを除く)

第一次大戰前

摘要・年次	五箇年間	一九〇九	一九一〇	一九一三
米國よりの輸入(百萬英磅)	一八九九	一九〇四	一九〇九	
米國への輸出(百萬英磅)	一三〇	一〇八	一一三	

第一次大戰後

五箇年間	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八
米國よりの輸入(百萬英磅)	一九四一	一九四二	一九四三	一九四四
米國への輸出(百萬英磅)	九八二	一〇三二	一〇八二	一一三二

第一次大戰は米國の製造工業者に濠洲に市場を擴張する機會を與へた。米國の戰爭景氣は濠洲原料に對する米國の需要を増大ならしめた。戦後の最初の五箇年間に於て兩國景氣の絶頂は一九二六—二七年であつた。而も一九三〇年代の貿易の減退は不景氣の結果である。經濟發達段階の相違が大戦後漸次減じたといふ事實は貿易の數量の上に若干の影響を及ぼした。即ち濠洲の對米輸入貿易に於る一般的傾向は消費財から資本財へ、完成品から半製品へと變化した。衣類は一九一九—二〇年には總輸入額の約〇・六%を占めてゐたが、一九三五—三六年には約〇・二%に減じた。織物は〇・六%から〇・四%に、果實は〇・四%から〇・〇・八%以下に減じた。之に對し動力機械・工作機械・金屬作業機械其他の生産者財の輸入は相當の増加を見た。

第九節 對主要國貿易

自動車は從來は完成品で輸入されてゐたが、今日では車臺及部分品として輸入される。現在主要輸入品は自動車・石油及油・發動機・電氣機械・煙草・ワイルム・木村・ソーセイジ用袋等である。主要輸出品は羊皮・皮革・ソーセイジ・蠟及眞珠貝等である。

次に一九三七—三八年及一九三八—三九年中の主要國との濠洲商品(地金及正貨を除く)貿易總額の英貨による比較を示す。一九三九—四〇年の詳細は發表されない。

濠洲對主要國間貿易表

國 名	輸 入 (註)	輸 出	輸出超過
イギリス	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九
カナダ	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九
印度	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九
濠洲...貿易	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九	一九三〇—三二 一九三三—三五 一九三六—三九

一チ間の五、三、一五軒の間を走るものである。このオードナダツタは將來此處から北に中央沙漠地帯を貫通して、北部直轄州の北端ポートダーウイン市に出る基點である。又、ここから南下する鐵道はアデレード市や金山のあるバララットを経て、メルボルンに至り、州境でニューサウスウエールズの鐵道となつてニューカッスルを經、北西に延びワランガラ、ジエニングスでクインズランドの鐵道と接続する。夫よりブリスベーンに出で海岸をロツクハムプトンまで走り、西の方ロンググリーチに達する

國有・私設鐵道營業哩數表 (一九三八年・一九三九年)

Table with columns: 地方名, 鐵道哩數, 國有鐵道線, 聯邦政府經營, 私設鐵道線, 全哩數. Rows include New South Wales, Victoria, Queensland, Western Australia, Tasmania, Northern Territory, and Total.

二道 濠洲に於ては、道路は鐵道擴張時代には稍閉却されたが、自動車が輸入せられて以來急激に發達した。初めに道路の責任者は州政府であり、實際は地方當局者に委任されてゐたが、各州首都間の自動車用新國道が建設されることになつてから、再び州政府が直接に監督維持に當ることとなつた。

廣大な大陸である爲、道路用の資材は區々であるが、優秀な國道は砂利に砕いた岩石をタールで敷きつめてゐる。濠洲は一體に雨期が短いので、道路建設は容易である。濠洲の道路は、鐵道と同様觀光用に利用されることが多い。全濠洲の景色は熱帯クインズランドの山々から、山の多いタスマニア、ニューサウスウエールズの羊齒に包まれた谿谷美、南オーストラリアの湖水、西

部ジャラゴの林に至るまで、進歩した道路政策によつて觀光の對象となつてゐる。

自動車其他製造及輸入高表

Table showing vehicle production and import statistics for various categories like cars, trucks, and motorcycles across different years (1931-1937).

登録新自動車數表 (一九三八年・一九三九年)

Table comparing new vehicle registrations by state/territory, categorized by general use, commercial, and combined.

各國自動車比較統計表 (一九四〇年一月一日現在)

Table comparing the number of motor vehicles per 1,000 population in various countries like Australia, New Zealand, and others.

自動車交通事故死傷及年齢別死傷件數表 (一九三七年・一九三八年)

第四節 空 運

一 航空會社並に經營線路

濠洲に於る最初の航空は一九一九年一月一二月に行はれたスミス兄弟の第一回英濠飛行であり、夫に刺戟せられ一九二〇年航空業務の開始を見てより既に二〇箇年を経た。濠洲に於て先づ最初定期航空業務を開始したのはウエスト・オーストラリアン・エアウェイズ會社であるが、同社は一九二〇年創業以來西オーストラリア地方に於て好評あり、一九二七年に至りパース・アデレード線、パース・ウィンダム線等を経營し、其の後現在のオーストラリアン・ナショナル・エアウェイズ會社の買収する所となつた。ウエスト・オーストラリアン・エアウェイズ會社に次いで間もなく航空業務を開始したのはクワンタス會社であり、同社は創業以來二〇箇年、今日はクワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社として濠洲の代表的航空會社となつた。此の兩社の後にオーストラリアン・エアリアル・サービス會社、オーストラリアン・ナショナル・エアウェイズ會社(キングスフォード・スミス卿及シー・ウルム等の創設せるものにして現在の同名會社とは異なる)等は、前記のクワンタスを除き執れも比較的新しき航空會社であつて、是等は現在十數會社の多きに達してゐる。是等の航空會社は或は政府との航空郵便契約に基く補助線路か或は然らざる無補助線路か、濠洲の國內及國外の交通に寄與してゐる。今左にクワンタス會社を始めとして是等の各航空會社に付其の状況を簡單に述ぶることとする。

1 クワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社

本社は一九二〇年一月創設せられたるクワンタス會社より發展し來れるもので、クワンタス會社は最初クワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社として濠洲の代表的航空會社となつた。此の兩社の後にオーストラリアン・エアリアル・サービス會社、オーストラリアン・ナショナル・エアウェイズ會社(キングスフォード・スミス卿及シー・ウルム等の創設せるものにして現在の同名會社とは異なる)等は、前記のクワンタスを除き執れも比較的新しき航空會社であつて、是等は現在十數會社の多きに達してゐる。是等の航空會社は或は政府との航空郵便契約に基く補助線路か或は然らざる無補助線路か、濠洲の國內及國外の交通に寄與してゐる。今左にクワンタス會社を始めとして是等の各航空會社に付其の状況を簡單に述ぶることとする。

共に、英・濠全線に亘り四發動機シヨウ式ト・エンパイア飛行艇の就航を見ることとなつた。その爲クワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社も同型飛行艇六隻を使用し、従来のクワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社の陸上機空路線を濠洲海岸廻りに變更して、シンガポール―シドニー線(終點をブリスベンよりシドニーに變更)の運航を實施した。

更に其の後一九三九年秋の第二次歐洲動亂勃發は英・濠線に多大の影響を及ぼし、クワンタスはブライティッシュ・エアウエイズ會社(BOAC)(エンペリアル・エアウエイズ會社の前身)と協力し運航回数を毎週二往復に減じ克く之が維持に努めた。然るに一九四〇年六月の伊太利參戰により同線は地中海に於て切斷せられたるので、ブリティッシュ・エアウエイズ會社は已むなく南阿聯邦(ダーバン)―エジプト―印度―シンガポール間の運航に當り、クワンタスは従来の如くシンガポール―シドニー間に毎週一往復の業務を實施することとなつた。尙最近の情報によれば濠洲政府は日本の南領チモール向試験飛行に對抗すべく葡國政府との間に秘かに航空協定を結び、遂に一九四一年一月一日より同線従来の寄航地ダーバン(南領チモール)並に葡領チモールのデリーに夫々隔週一往復寄航させることにしてゐた。

クワンタス會社は又他方に於て一九四〇年四月濠洲―新西蘭間のタスマニア海横斷航空業務を開始したタスマン・エンパイア・エアウエイズ會社の姉妹會社として之に協力し(タスマン會社株の二三%を所有)シドニーに於て兩會社は緊密に連絡してゐる。

斯くて一九四一年現在に於る同社の經營線路は左の諸線で、總距離一〇、四一六軒に及び、使用機はシヨート・エンパイア飛行艇、デ・ハビランド八六型である。

- (a) シンガポール―クランバット・ベイ―ジャカルタ―スラバヤ―ピマ―ターバン(又はデリー)―ダーウィン―グロート・アイランド―カルンバー―タウンズビル―グランドストーション―ブリスベン―シドニー線(距離七、四三六軒、毎週一往復)

ールビルより東海岸のブリスベーンに延長して、總距離約二、四〇〇軒の航空路を經營するに至つた。

當時英國に於て本國と屬領及植民地との間に超速度連絡を圖る所謂英國航空路の開設の計畫があつて、英國―印度―濠洲線はエンペリアル・エアウェイズ會社の手に依り、一九三一年ロンドン―カラチ(印度)間の運航を實施し、更に之を濠洲に延長すべく一九三一年四月―五月二回の試験的英・濠間郵便飛行を遂行した時であり、其の際クワンタス會社(註)は之に多大の援助を與へ、その結果兩會社の提携となつた。

(註) 同社名稱即ち Qantas Empire Airways, Ltd. of QANTAS and Queensland and Northern Territory Air Services の各頭字を取らるる Q.A.S. 參考のたの附記し置く。

一方濠洲政府は英・濠線の開設に努力し、一九三二年委員會を設置して之を考究せしめ

イ インペリアル・エアウェイズ會社が現在經營しつゝある英國―印度線と連絡し英國に至る航空郵便線路を開設すること

ロ 右線路をポートダーウィンに於て國內の東西兩線に連絡せしめ、英國―濠洲間の郵便日数を短縮せしむること

等方針を決定した。かくて一九三四年インペリアル・エアウェイズ會社とクワンタス會社は共同出資(兩社共總株数の四九%宛を所有、殘餘の二%は公平なる調停者の所有)を以て現在のクワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社を設立し、同年四月前記英濠線のシンガポール―ダーウィン―ブリスベン間航空郵便運送契約を獲得した。よつて同社の四發動機式デ・ハビランド八六型陸上機は同年一月一〇日ブリスベーンを出發してシンガポールに向ひ、同月八日ロンドンを出發せるエンペリアル・エアウェイズ會社機とシンガポールにて連絡し、茲に英國年來の宿望たる英・濠間連絡定期航空は毎週一往復を以て開始せらるゝに至つた。同線は一九三六年五月毎週二往復に増回し、更に其の後一九三八年七月に至り英國航空郵便計畫の實施によつて毎週三往復に増回すると

- (a) ダリー・ウオターズ―クワンタス線(距離二、六三二軒、毎週二往復)
- (b) クロンカリーノーマントン線(距離三、四八軒、毎週一往復)

又同社の最近に於る輸送成績は極めて良好にして會社の發表する所によれば一九三九年度は戰爭中にも拘らず旅客八、四五四人、貨物二二二、七九噸、郵便物二七、九五噸を輸送した。

2 オーストラリアン・ナショナル・エアウェイズ會社

同會社は濠洲本土・タスマニア島間航空業務開設の目的の下に當時メルボルンを中心として數箇の航空路を經營しつゝあつた。

ホルマンズ・エアウエイズ會社(ホルマン汽船會社の子會社)とアデレードを中心として南オーストラリア州に航空業務を營みつゝあつたアデレード・エアウエイズ會社(アデレード汽船會社の子會社)との合併に依りて成立したるもので、其の成立に際しては前記兩親會社の他にオリエンツ汽船會社、ユニオン汽船會社及ハッダード・パーカー會社の資本參加をも見た。

同社は創立以來漸次良好なる成績を擧ぐると共に濠洲最古の航空會社たるウエスト・オーストラリアン・エアウエイズ會社を併せ、且つエアラインズ・オブ・オーストラリア會社株の大部分を買収して、目下メルボルン乃至アデレードを中心として濠洲東南部地方に就航してゐる。一九四〇年末現在に於る經營線路を擧ぐれば左の如くである。路線總距離は六、四八九軒に及んでゐる。尙同社の使用機は四發機デ・ハビランド八六、雙發機デ・ハビランド、ドラゴン・ラビッド機等の英國製機及ダグラス D.C.三、同 D.C.二の米國製機である。

- (a) メルボルン―シドニー線(七〇八軒、毎週一往復)
- (b) メルボルン―カンベラー―シドニー線(七〇八軒)
- (c) メルボルン―マウント・ガンビア―アデレード線(七三五軒、毎週一往復)
- (d) メルボルン―アデレード―オレスト―カルゲルリー―パース線(一一、九一一軒、毎週三往復)